熊本県文化財調査報告第 338 集

Nihongi Site(kasuga Area)(tasaki Area)8

二本木遺跡群 8

（春日地区）（田崎地区）

Makizaki Site

牧崎遺跡

－ＪＲ鹿児島本線・豊肥本線連続立体交差事業（本文編）－

２０２０

熊本県教育委員会

二本木遺跡群８

(春日地区)（田崎地区）

牧崎遺跡

－ＪＲ鹿児島本線・豊肥本線連続立体交差事業－

本文編

２０２０
熊本県教育委員会

序　文

平成２８年熊本地震の発生から４月をもって、４年を迎えようとしています。その間、熊本では蒲島知事が掲げる復興的創造のもと、被災者の痛みの最小化を図る事業を優先するとともに阿蘇地域のインフラの確保にも国と共同で進めているところです。

今回、調査報告書を作成しました二本木遺跡群発掘調査等は平成２１年から熊本県で取り組んできた鉄道高架化事業に伴う発掘調査成果をまとめたものです。発掘調査は熊本地震以前に終了していましたが整理業務の途中で平成２８年熊本地震が発生し、県では事業部局と協議のうえで被災文化財の対応を優先してきましたが、このたび刊行することができました。

熊本県での二本木遺跡群発掘調査は、熊本駅周辺土地区画整理事業に伴う県道拡幅工事に始まり、平成１７年に着手した九州新幹線新熊本駅建設事業に伴う発掘調査に続くものです。

当地は熊本市のこれまでの発掘調査成果で、飽田国府推定地とされこれまでも大型掘立柱建物群が検出されるなど熊本の国府変遷を考えるうえで重要な遺跡と注目されている遺跡です。

本報告書がこの地域の歴史を明らかにする一助として、長く活用されることを祈念してやみません。

最後になりましたが本調査に関しまして御協力いただきました、事業主体である熊本県関係者の皆様、発掘調査に助言等を頂きました熊本市の関係者の皆様及びJR九州の皆様に感謝申し上げお礼の言葉とさせていただきます。

令和２年（２０２０年）３月３１日

熊本県教育長　古 閑 陽 一

二本木遺跡群（春日地区）（田崎地区）8
牧崎遺跡

－JR 鹿児島本線・豊肥本線連続立体交差事業－

本文編目次

第１章　序言

１調査に至る経緯 …… 1

２埋蔵文化財保護に関する協議 …… 1

３調査組織・整理体制 …… 2

第２章　調査

1 調査地域 …… 7

(1) 遺跡の位置 …… 7

(2) 歴史的背景 …… 7

(3) 既往の調査 …… 7

(4) 測量 …… 7

(5) 地区割り …… 8

(6) その他 …… 8

２発掘作業の経過・調査日誌 …… 15

第３章　遺構

１遺跡の調査 …… 41

２遺構解説 …… 41

第４章　自然科学分析調査報告 …… 139

牧崎遺跡 …… 163

まとめ …… 169

図版編目次

遺物

写真

挿図目次 (Fig)

Fig. 1　熊本県における地形表記と調査遺跡
Fig. 2　二本木遺跡群ブロック設定図
Fig. 3　調査の位置図
Fig. 4　調査区配置図
Fig. 5　二本木遺跡群周辺遺跡地図
Fig. 6　周辺の既往調査区と当該の調査区
Fig. 7　13 次 5 区 -1・2・3・17 次 1 区遺構配置図
Fig. 8　掘立柱建物 SB01・柵列 SA01 実測図
Fig. 9　掘立柱建物 SB02・柵列 SA02 実測図
Fig. 10　井戸 SE01 実測図
Fig. 11　井戸 SE02 実測図
Fig. 12　土坑 SK01 実測図
Fig. 13　墓 ST01 実測図
Fig. 14　溝 SD01 ～ SD05 遺構配置図
Fig. 15　11 次 2 区・16 次 2 区遺構配置図
Fig. 16　道路状遺構 SF01 実測図
Fig. 17　掘立柱建物 SB03 実測図
Fig. 18　掘立柱建物 SB04 実測図
Fig. 19　掘立柱建物 SB05 実測図
Fig. 20　掘立柱建物 SB06 実測図
Fig. 21　掘立柱建物 SB07 実測図
Fig. 22　溝 SD06 実測図
Fig. 23　井戸 SE03 実測図
Fig. 24　井戸 SE04 実測図
Fig. 25　井戸 SE05 実測図
Fig. 26　井戸 SE06 実測図
Fig. 27　井戸 SE07 実測図
Fig. 28　井戸 SE08 実測図
Fig. 29　土坑 SK02 実測図
Fig. 30　土坑 SK03 実測図
Fig. 31　土坑 SK04 実測図
Fig. 32　土坑 SK05 実測図
Fig. 33　15 次 6 区・16 次 3 区遺構配置図
Fig. 34　方形区画 SX01・溝 SD07 遺構配置図
Fig. 35　方形区画 SX01 内遺構配置図
Fig. 36　掘立柱建物 SB08（上）・SB09・柵列 SA03（下）実測図
Fig. 37　掘立柱建物 SB10 実測図
Fig. 38　掘立柱建物 SB11・柵列 SA04 実測図
Fig. 39　井戸 SE09（左）・SE10（右）実測図
Fig. 40　井戸 SE11 実測図
Fig. 41　井戸 SE12 実測図
Fig. 42　竪穴建物 SI01 実測図
Fig. 43　竪穴建物 SI02・SI03（上）・土坑 SK06（下）実測図
Fig. 44　11・13 次 3 区・17 次 4 区遺構配置図
Fig. 45　掘立柱建物 SB12 実測図
Fig. 46　掘立柱建物 SB13 実測図
Fig. 47　方形区画溝 SD08・竪穴建物 SI04 実測図
Fig. 48　井戸 SE13 実測図
Fig. 49　井戸 SE14 実測図
Fig. 50　井戸 SE15 実測図
Fig. 51　井戸 SE16 実測図
Fig. 52　井戸 SE17 実測図
Fig. 53　井戸 SE18 実測図
Fig. 54　井戸 SE19 実測図
Fig. 55　井戸 SE20 実測図
Fig. 56　井戸 SE21 実測図
Fig. 57　井戸 SE22（左）・SE23（右）実測図
Fig. 58　竪穴建物 SI04 実測図
Fig. 59　竪穴建物 SI05・SI06 実測図
Fig. 60　竪穴建物 SI07 実測図
Fig. 61　土坑 SK07 実測図
Fig. 62　土坑 SK08（左）・SK09（右）実測図
Fig. 63　土坑 SK10 実測図
Fig. 64　墓 ST02 実測図
Fig. 65　13 次 4 区・16 次 5 区遺構配置図
Fig. 66　掘立柱建物 SB14（上）・SB15（下）実測図
Fig. 67　井戸 SE24 実測図
Fig. 68　井戸 SE25（左）・SE26（右）実測図
Fig. 69　井戸 SE27（上）・SE28（下）実測図
Fig. 70　竪穴建物 SI08 実測図
Fig. 71　竪穴建物 SI09・SI10 実測図
Fig. 72　竪穴建物 SI11 実測図

挿図目次 (Fig)

Fig. 73　竪穴建物 SI12 実測図
Fig. 74　竪穴建物 SI13 実測図
Fig. 75　竪穴建物 SI14 実測図
Fig. 76　竪穴建物 SI15 ～ SI23 実測図
Fig. 77　土坑 SK11 実測図
Fig. 78　墓 ST03 実測図
Fig. 79　墓 ST04 実測図
Fig. 80　11・15 次 1 区・16 次 6 区遺構配置図
Fig. 81　掘立柱建物 SB16（上）・SB17（下）実測図
Fig. 82　掘立柱建物 SB18（上）・SB19（下）実測図
Fig. 83　掘立柱建物 SB20 実測図
Fig. 84　溝 SD09 ～ SD34 遺構配置図・柵列 SA05 実測図
Fig. 85　井戸 SE29 実測図
Fig. 86　井戸 SE30 実測図
Fig. 87　井戸 SE31 ・SE32 実測図
Fig. 88　竪穴建物 SI24・SI25 実測図
Fig. 89　竪穴建物 SI26 実測図
Fig. 90　竪穴建物 SI27 ～ SI31 遺構配置図
Fig. 91　土坑 SK12 実測図
Fig. 92　土坑 SK13 実測図
Fig. 93　土坑 SK14 実測図
Fig. 94　土坑 SK15 実測図
Fig. 95　墓 ST05 実測図
Fig. 96　墓 ST06・ST07 実測図
Fig. 97　墓 ST08 実測図
Fig. 98　墓 ST09 実測図
Fig. 99　墓 ST10 実測図
Fig. 100　二本木遺跡群田崎地区遺構配置図（S＝1/1000）
Fig. 101　5 次 1 区遺構配置図
Fig. 102　竪穴建物 SI01・SI02 実測図
Fig. 103　5 次 2 区遺構配置図
Fig. 104　井戸 SE01 実測図
Fig. 105　竪穴建物 SI03 実測図
Fig. 106　土坑 SK01 実測図
Fig. 107　墓 ST01 実測図
Fig. 108　5 次 3 区遺構配置図
Fig. 109　6 次 1 区遺構配置図
Fig. 110　溝 SD02・竪穴建物 SI04・SI05 実測図
Fig. 111　6 次 2 区遺構配置図
Fig. 112　5 次 4 区 P300・6 次 P505・6 次 P506 遺構配置図
Fig. 113　P508・R510 P1 ～ 5・R512 P1 ～ 5・A514 遺構配置図
Fig. 114　牧崎遺跡調査区全体図
Fig. 115　1 区遺構配置図
Fig. 116　2 区・3 区遺構配置図
Fig. 117　二本木春日地区（①古代Ⅰ）
Fig. 118　二本木春日地区（②古代Ⅱ）
Fig. 119　二本木春日地区（③12 世紀～ 13 世紀）
Fig. 120　二本木春日地区（④近･現代 鉄道遺構群）
Fig. 121　二本木春日・田崎座標測地点
Fig, 122　牧崎遺跡座標測地点

表目次 (Tab)

Tab. 1 発掘調査の遺跡名と調査面積
Tab. 2 二本木遺跡群調査区内基準点測量成果
Tab. 3 遺跡名
Tab. 4 牧崎遺跡調査区内基準点測量成果

二本木遺跡群（春日地区）・（田崎地区）・牧崎遺跡
発掘調査報告

-JR 鹿児島本線・豊肥本線連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 -

第１章　序言

１　調査に至る経緯

熊本県では、平成 23 年３月に開業した九州新幹線整備に伴い平行する在来線を高架化し、それまで JR 鹿児島本線で市街地が東西に分断され道路も狭く市街地の一体的発展が阻害されていた状況を解消するため、「ＪＲ鹿児島本線･豊肥本線連続立体交差事業」(連立交) を実施し、周辺地域の交通の円滑化や東西の一体化、さらに熊本駅周辺地域の都市機能強化を図る目的で事業が計画された。

鉄道高架化事業とは、道路と鉄道が交差する一定区間の鉄道を高架化し、多くの踏切除去を行うもので具体的には、「北島踏切」（熊本市池田４丁目）－「坪井川橋梁」（同市田崎１丁目）間の鹿児島本線約６㎞と、熊本駅 (同市春日３丁目) －同橋梁間の豊肥本線約１㎞を高架化することとなった。事業は県が主体となり、平成 13 年（2001 年）に都市計画決定､平成 17 年（2005 年）に着工した。完成は平成 28 年度（2016 年)、総事業費は約６２６億円とされた。

なお､熊本駅一帯の高架化工事については､ＪＲ九州鉄道事業本部熊本事業所が主体となり工事を担当した。

２　埋蔵文化財保護に関する協議

熊本県では本事業の推進に伴い隣接する九州新幹線建設時の予備調査結果を参考に、在来線高架化事業で情報が不足する箇所に追加で予備調査を実施した。

予備調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地である二本木遺跡群及び牧崎遺跡では地下に良好な状態で埋蔵文化財が残されていることが確認され、設計変更等がなされない現状では、記録保存が必要と判断した。

熊本市中央区横手１丁目他における予備調査では熊本城に関係するとみられる石垣の一部が確認されるなど、情報を得ることができた。

これら一連の予備調査が進捗する中、埋蔵文化財保護の観点から県鉄道高架推進室、ＪＲ九州鉄道事業本部熊本事業所と保存に関する協議を実施したが、同事業の性格並びにコントロールポイントとなる熊本駅に近接していることから路線変更はできないことが判明したため、予備調査結果で把握した埋蔵文化財包蔵地における記録保存による発掘調査は止む無しと判断した。

熊本市中央区新町３丁目及び横手１丁目における発掘調査の結果、熊本城に関係する土塁・堀そして、門跡（高麗門）の遺構を調査により確認したことから、熊本城惣構の西側の一角を形成している状況をつかむことができた[1]。この結果を受け、検出した遺構の重要性について熊本城を管理する熊本市と協議のうえ、特別史跡熊本城跡の旧城域を将来的に追加指定し保護していくとの方向性を鑑み、県鉄道高架推進室と遺構保護に関する協議の場を設定し保存協議を申し入れた。

その後、断続的に保存協議を実施した結果、当該地域は高架化に係る工事内容が地中梁による高架化が予定されていたが、その施工によると全面的に遺構が破壊されるため一部橋脚に設計を変更し、橋脚間において保存することとなった。

保存された遺構はその後、文化庁との協議の結果、記念物課史跡部門の調査官の視察等を受け、平成 30 年（2018 年）には熊本市が追加指定に向け意見具申を提出し、同年６月に国の文化審議会から追加指定について答申が出された。その結果、高架化された路線下に 1,092㎡（JR 九州・県・市所有地）の遺構が保存されることとなった。

1　熊本県文化財調査報告　第 303 集「熊本城跡遺跡群 (新馬借遺跡・花岡山・万日山遺跡群)」平成 26 年 (2014 年)3 月 26 日

3　調査・整理体制

発掘調査は牧崎遺跡が平成 16 年（2004 年）に着手し、最後には平成 28 年度（2016 年）に二本木遺跡群春日地区 17 次 4 区を実施し終了した。整理報告業務は平成 28 年の調査終了後、着手したが担当職員の定期異動等で当初の予定通り進捗しない時期を経て、平成 30 年（2018 年）から改めて着手した。

【発掘調査】

○牧崎遺跡発掘調査

・調査期間　平成 16 年（2004 年）10 月 12 日～平成（2005 年）17 年 3 月 4 日
・所在地　熊本市西区花園 1 丁目 199 － 1 ほか 1 0 筆
・調査責任者　文化課長　島津義昭
・調査総括　文化財調査第 2 係長　西住欣一郎
・調査担当　文化財保護主事　高山直也
　非常勤職員　増田直人・河原京子

○二本木遺跡群（春日地区）11 次 3 区

・調査期間　平成21年（2009年）12月 7 日～平成22年（2010年） 3 月17日
　平成22年（2010年） 6 月16日～平成22年 6 月24日
・所在地　熊本市西区春日 3 丁目地内
・調査責任者　文化課長　米岡正治
・調査総括　主幹兼文化財調査第 2 係長　西住欣一郎
・調査担当　参事　岡本真也
　非常勤職員　波多野芳郎・多賀晴司・稲葉洋一・藤崎正人
　大森紘・上土井朋美

○二本木遺跡群（春日地区）11 次 1 区

・調査期間　平成 21 年（2009 年）6 月 12 日～平成 21 年 9 月 18 日
　平成 23 年（2011 年）4 月 26 日～平成 23 年 6 月 29 日
・所在地　熊本市西区春日 3 丁目地内
・調査責任者　文化課長　米岡正治
・調査総括　主幹兼文化財調査第 2 係長　西住欣一郎
・調査担当　参事　岡本真也
　非常勤職員　多賀晴司・大森 紘・藤崎正人

○二本木遺跡群（春日地区）11 次 2 区

・調査期間　平成 21 年（2009 年）8 月 3 日～平成 21 年 12 月 4 日
・所在地　熊本市西区春日 3 丁目地内
・調査責任者　文化課長　米岡正治
・調査総括　主幹兼文化財調査第 2 係長　西住欣一郎
・調査担当　参事　岡本真也
　非常勤職員　波多野芳郎・多賀晴司・稲葉洋一・藤崎正人
　大森 紘・上土井朋美

○二本木遺跡群（春日地区）15 次 6 区

・調査期間　平成 22 年 (2010 年)2 月 1 6 日～平成 22 年 2 月 25 日
　平成 23 年 (2011 年)4 月 13 日～平成 23 年 7 月 8 日
・所在地　熊本市西区春日 3 丁目地内
・調査責任者　文化課長　小田信也
・調査総括　主幹兼文化財調査第 2 係長　西住欣一郎

・調査担当　参事　岡本真也
　非常勤職員　多賀晴司・大森 紘

○二本木遺跡群（春日地区）13 次 4 区

・調査期間　平成 22 年 (2010 年)3 月 18 日～平成 23 年 (2011 年)2 月 25 日
・所在地　熊本市西区春日 3 丁目地内
・調査責任者　文化課長　小田信也
・調査総括　主幹兼文化財調査第 2 係長　西住欣一郎
・調査担当　参事　岡本真也
　非常勤職員　多賀晴司・大森 紘

○二本木遺跡群（春日地区）13 次 5 区

・調査期間　平成 22 年 (2010 年)12 月 10 日～平成 23 年 (2011 年)3 月 16 日
・所在地　熊本市西区春日 3 丁目地内
・調査責任者　文化課長　小田信也
・調査総括　主幹兼文化財調査第 2 係長　西住欣一郎
・調査担当　参事　岡本真也
　非常勤職員　多賀晴司・浦辻栄治

○二本木遺跡群（田崎地区）

・調査期間　5 次　平成 24 年 (2012 年)2 月 22 日～平成 24 年 5 月 9 日
　6 次　平成 25 年 (2013 年)10 月 7 日～平成 25 年 10 月 18 日
・所在地　熊本市西区田崎地内
・調査責任者　文化課長　小田信也
・調査総括　主幹兼文化財調査第 2 係長　岡本真也
・調査担当　参事　馬場正弘
　文化財保護主事　宮本　大

○二本木遺跡群（春日地区）16 次

・調査期間　（5 区）平成 27 年（2015 年）8 月 7 日～平成 27 年 10 月 31 日
　（3 区）平成 27 年（2015 年）11 月 10 日～平成 28 年（2016 年）1 月 21 日
　（2 区）平成 27 年（2015 年）9 月 7 日～平成 27 年 11 月 26 日
　（6 区）平成 27 年（2015 年）12 月 1 日～平成 28 年（2016 年）2 月 8 日
・調査責任者　文化課長　手島伸介
・調査総括　主幹兼文化財調査第 2 係長　岡本真也
・調査担当　参事　中村幸弘
　（3 区）（5 区）監理　参事　中村幸弘　調査補助　(株) イビソク
　（2 区）（6 区）監理　参事　中村幸弘　調査補助　(株) 島田組

○二本木遺跡群（春日地区）17 次

・調査期間　（4 区）平成 28 年（2016 年）11 月 29 日～平成 29 年（2017 年）2 月 28 日
　（1 区）平成 28 年（2016 年）7 月 4 日～平成 28 年 11 月 15 日
・調査責任者　文化課長　平井　貴
・調査総括　主幹兼文化財調査第 2 係長　岡本真也
・調査担当　文化財保護主事　水上正孝
　（4 区）監理　文化財保護主事　水上正孝　調査補助　(株) 有明測量開発社
　（1 区）監理　文化財保護主事　水上正孝　調査補助　(株) 有明測量開発社

【整理報告】

○平成３０年（２０１８年）４月１日～平成３１年（令和元年・２０１９年）３月３１日

・整理責任者　文化課長　岡村郷司
・整理総括　課長補佐　村﨑孝宏
・整理担当　学芸員　呑田哲也
　主幹兼文化調査班担当　長谷部善一
・整理補助　臨時職員　稲葉貴子・松永望宏

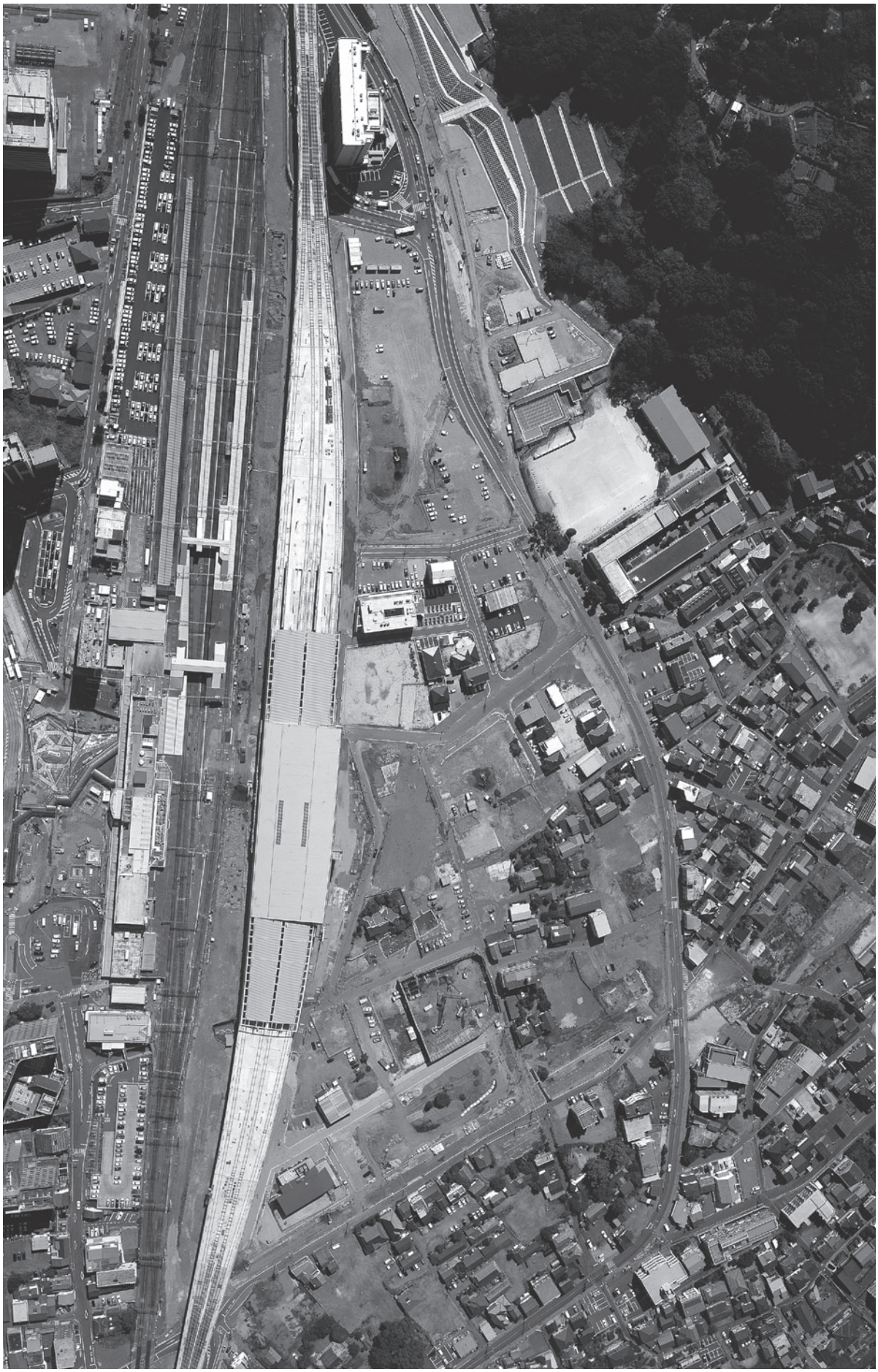
○令和元年（２０１９年）４月１日～令和２年（２０２０年）３月３１日

・整理責任者　文化課長　中村誠希
・整理総括　課長補佐　長谷部善一
・整理担当　学芸員　呑田哲也
　課長補佐　長谷部善一
・整理補助　臨時職員　稲葉貴子・松永望宏

遺跡名	調査期間	面積	調査士
二本木遺跡群春日地区 13次5区	平成22年12月10日 ～ 平成23年3月16日	793.97㎡	岡本真也 多賀晴司/浦辻栄治
二本木遺跡群春日地区 17次1区	平成28年7月4日 ～ 平成28年11月15日	240.72㎡	水上正孝 株式会社有明測量開発社
二本木遺跡群春日地区 11次2区	平成21年8月3日 ～ 平成21年12月4日	843.27㎡	岡本真也/藤崎正人 波多野芳朗/上土井朋美 大森紘/稲葉洋一/浦辻栄治
二本木遺跡群春日地区 16次2区	平成27年9月7日 ～ 平成27年11月26日	1269.5㎡	中村幸弘 株式会社島田組
二本木遺跡群春日地区 15次6区	平成22年2月16日 ～ 平成22年2月25日 平成23年4月13日 ～ 平成23年7月8日	876㎡	岡本真也 大森紘/多賀晴司
二本木遺跡群春日地区 16次3区	平成27年11月10日 ～ 平成28年1月21日	1251.73㎡	中村幸弘 株式会社イビソク
二本木遺跡群春日地区 11次3区	平成21年12月7日 ～ 平成22年3月17日 平成22年6月16日 ～ 平成22年6月24日	626.38㎡	岡本真也/藤崎正人 波多野芳朗/稲葉洋一 上土井朋美/浦辻栄治
二本木遺跡群春日地区 17次4区	平成28年11月29日 ～ 平成29年2月28日	430.83㎡	水上正孝 株式会社有明測量開発社
二本木遺跡群春日地区 13次4区	平成22年3月18日 ～ 平成23年2月25日	703.23	岡本真也 大森紘/多賀晴司
二本木遺跡群春日地区 16次5区	平成27年8月7日 ～ 平成27年10月31日	804.58㎡	中村幸弘 株式会社イビソク
二本木遺跡群春日地区 11次1区	平成21年6月12日 ～ 平成21年9月18日 平成23年4月26日 ～ 平成23年6月29日	633.32㎡	岡本真也/藤崎正人 大森紘/多賀晴司
二本木遺跡群春日地区 16次6区	平成27年12月1日 ～ 平成28年2月8日	480.25㎡	中村幸弘 株式会社島田組
二本木遺跡群田崎地区	平成24年2月22日 ～ 平成24年5月9日 平成25年10月7日 ～ 平成25年10月18日	1178㎡	馬場正弘/宮本大 士野雄貴/多賀晴司 北原美和子/浦辻栄治
牧崎遺跡	平成16年10月12日 ～ 平成17年3月4日	134.17㎡	高山直也 河原京子/増田直人

Tab.1　発掘調査の遺跡名と調査面積

Fig.1　熊本県域における地形表記と調査遺跡



二本木遺跡群上空より

第２章　調査

１　調査地域

（１）　遺跡の位置

二本木遺跡群は、現在の JR 熊本駅を中心として背後に位置する花岡山・万日山と坪井川とに挟まれた扇状地上に位置し標高８～ 10 mを測る。また、花岡山・万日山背後には熊本の地形を語る上で欠くことのできないメルクマールとなる金峰山が聳える。

（２）　歴史的背景

古代の熊本平野には大宰府を基点とした西海道（古代官道）が整備され、筑後に至る基幹官道を中心に宇土半島を経由し、三角（宇城市三角）に至るルート、阿蘇を経て豊後へとつながる車路と称されるルートが想定されている。

10 世紀初頭に記されている『延喜式』には肥後国の駅名の記載があり､「蚕養駅」→子飼（現 . 熊本市子飼）が想定されている。蚕養駅は近年の調査結果から熊本大学構内に想定されている。

2011 年には熊本県教育委員会により一般国道３号熊本北バイパス改築事業に伴い飛田遺跡群の発掘調査が実施され、蚕養駅から北に延伸した台地の縁辺部で両端に側溝を有する官道が確認されている。

この熊本市子飼を通るルート上には託麻台地一帯に広がる大江遺跡群内で大規模な道路状遺構が調査されており官道の一部と推定されている。

また、周辺には数多くの周知の埋蔵文化財包蔵地を含む文化財が所在し、熊本市域の中でも重要遺跡が集中する地域である。歴史的背景については、近年、熊本市教育委員会が発掘調査を実施し随時、発掘調査報告書が刊行されている。このなかで近隣の調査を含め詳細な記述が述べられるとともに、歴史的背景も最新の調査事例を含め考察されていることからそちらを参照されたい。

（３）　既往の調査

二本木遺跡群調査の初期段階には乙益重隆により調査が実施された「熊本県熊本駅前の遺跡」がある。その後、都市化が進むにつれ、熊本市教育委員会による数次にわたる民間開発に伴う調査を経て、新幹線開業に伴う熊本駅西土地区画整理事業で更なる発掘調査を実施した。

熊本県教育委員会では九州新幹線建設事業に伴い、2005 年～ 2006 年にかけ二本木遺跡第６次調査 として新熊本駅（新幹線駅）、2014 年に新幹線関連施設調査として第 14 次調査（６次調査報告書に掲載）として発掘調査を実施した。

（４）　測量

二本木遺跡群発掘調査を開始するにあたっては、事前に４級基準点測量と水準点測量を実施した。基準点は調査の契機となった九州新幹線建設事業に伴い鉄道・運輸機構が設置した世界測地系に基づく国土座標Ⅱ系により設置している。

2002 年（平成 14 年）４月１日から施行された改正測量法に伴い、世界測地系へ移行することとなったが、本事業における基準点がすべて日本測地系に基づいていることから、熊本県内における埋蔵文化財発掘で設置する基準点はすべて日本測地系に基づいている。なお、世界測地系との整合をとるために設置した基準としている杭の数値を日本測地系、世界測地系でそれぞれ示す。

調査区	座標点	日本測地系		世界測地系	
		X 座標	Y 座標	X 座標	Y 座標
二本木春日	13 次 5 区 -1	-23478	-28853	-23850.9099	-28632.0532
	13 次 5 区 -2	-23495	-28865	-23867.9099	-28644.0532
	13 次 5 区 -3	-23510	-28880	-23882.9096	-28659.0533
	17 次 1 区	-23520	-28870	-23892.9100	-28649.0534
	11 次 2 区	-23580	-28920	-23952.9104	-28699.0534
	16 次 2 区	-23590	-28910	-23962.9102	-28689.0536
	立会区	-23625	-28945	-23997.9104	-28724.0532
	15 次 6 区	-23650	-28960	-24022.9105	-28739.0535
	16 次 3 区	-23660	-28950	-24032.9106	-28729.0537
	11 次 3 区	-23730	-29005	-24102.9108	-28784.0538
	17 次 4 区	-23735	-28990	-24107.9112	-28769.0543
	13 次 4 区	-23790	-29040	-24162.9113	-28819.0540
	16 次 5 区	-23790	-29020	-24162.9113	-28799.0544
	11 次 1 区	-23840	-29070	-24212.9116	-28849.0542
	16 次 6 区	-23845	-29055	-24217.9115	-28834.0546
二本木田崎	5 次 1 区	-24183	-29219	-24555.9136	-28998.0563
	5 次 2 区	-24196	-29223	-24568.9136	-29002.0563
	5 次 3 区	-24212	-29228	-24584.9140	-29007.0566
	5 次 4 区	-24241	-29233	-24613.9141	-29012.0568
	6 次 1 区	-24190	-29210	-24562.9138	-28989.0564
	6 次 2 区	-24215	-29215	-24587.9139	-28994.0566
	R510	-24307	-29213	-24679.9156	-28992.0575
	R512	-24365	-29205	-24737.9169	-28984.0580

Tab. 2　二本木遺跡群調査区内基準点測量成果

（5）　地区割り

本遺跡群については、九州新幹線建設事業が開始される時点で駅周辺整備事業が本格化していたこと、並びに JR 在来線高架化事業が計画されていたことから事業が大規模になる事を想定し、発掘調査の整合[1]を図るため、X= － 23000、Y= － 29500 を基点とし遺跡全域を包括する東西 1.5 ｋｍ、南北 2.0 ｋｍの範囲を１辺 100 ｍの方形区画を区切り、これを１単位とするブロックとした。各ブロックに対しては算用数字による番号を付し、北西隅を基点として１～ 300 ブロックを配した。各ブロックは５ｍ× ５ｍのグリッド（Grid）として管理している。したがって、各ブロック内は北から南へ A － T、西から東へ 1 → 20 とした。これによりグリッドは 1 A － 1 ～ 300T － 20 で表記される。

二本木遺跡群（春日地区）は、67・81・82・96・110・111・125、二本木遺跡群（田崎地区）は、168・183・198・199 ブロックにかけ所在している。

（6）　その他

発掘調査は、遺構の種別を示す以下の記号と、一連の三桁の数字の組み合わせにより表記した。
二本木遺跡群 5[2]の遺構群と区別するため、記号の後にくる数字は二桁で表記している。（二本木遺跡群 5 では三桁で表記）

SA（塀・柵列）・SB（掘立柱建物）・SC（廊）・**SD（溝）・SE（井戸）・SF（道路）**・SG（池）・SH（広場）・**SI（竪穴建物）**・SJ（土器埋納遺構）・**SK（土坑）**・SL（炉・竈）・SN（水田・畑）・**SP（柱穴）**・SS（礎石・葺石・配石）・**ST（墓）**・SU（遺物集積）・SW（石垣・防護壁）・**SX（その他）**・NR（自然流路）

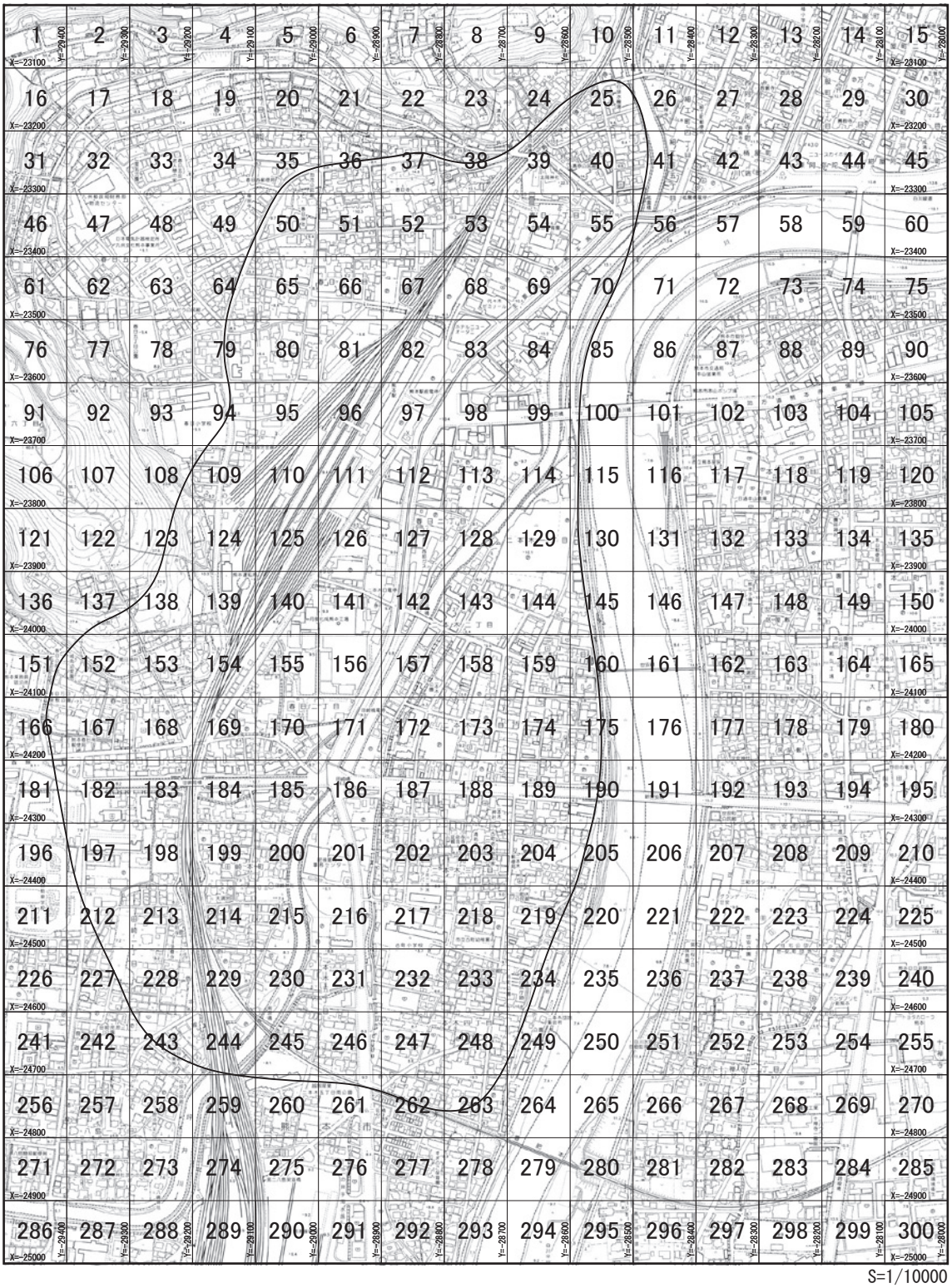
※上記には当遺跡で使用していない記号も含んでいる。

※太文字で表記している遺構は当報告書で使用している記号である。

遺物観察表に使用している色調については「新版標準土色帳」1999、DIC カラーガイド「中国の伝統色（２版）」、「標準色 230© 日本色研 1998」を使用している。

1 熊本市教育委員会「春日遺跡」『熊本市中央南地区文化財調査報告書』1978

2 熊本県教育委員会『二本木遺跡群（春日地区）５』熊本県文化財報告第 271 集 2012



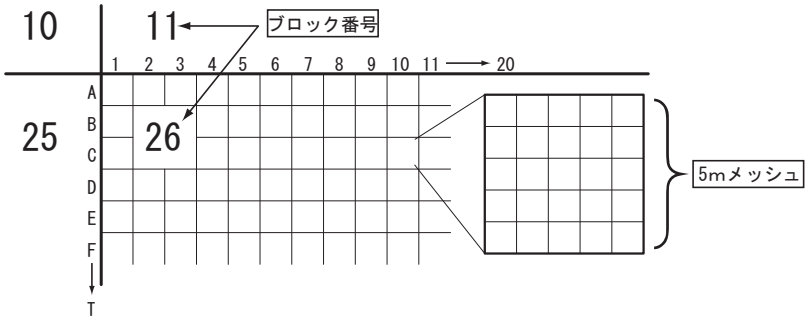


Fig. 2　二本木遺跡群ブロック設定図

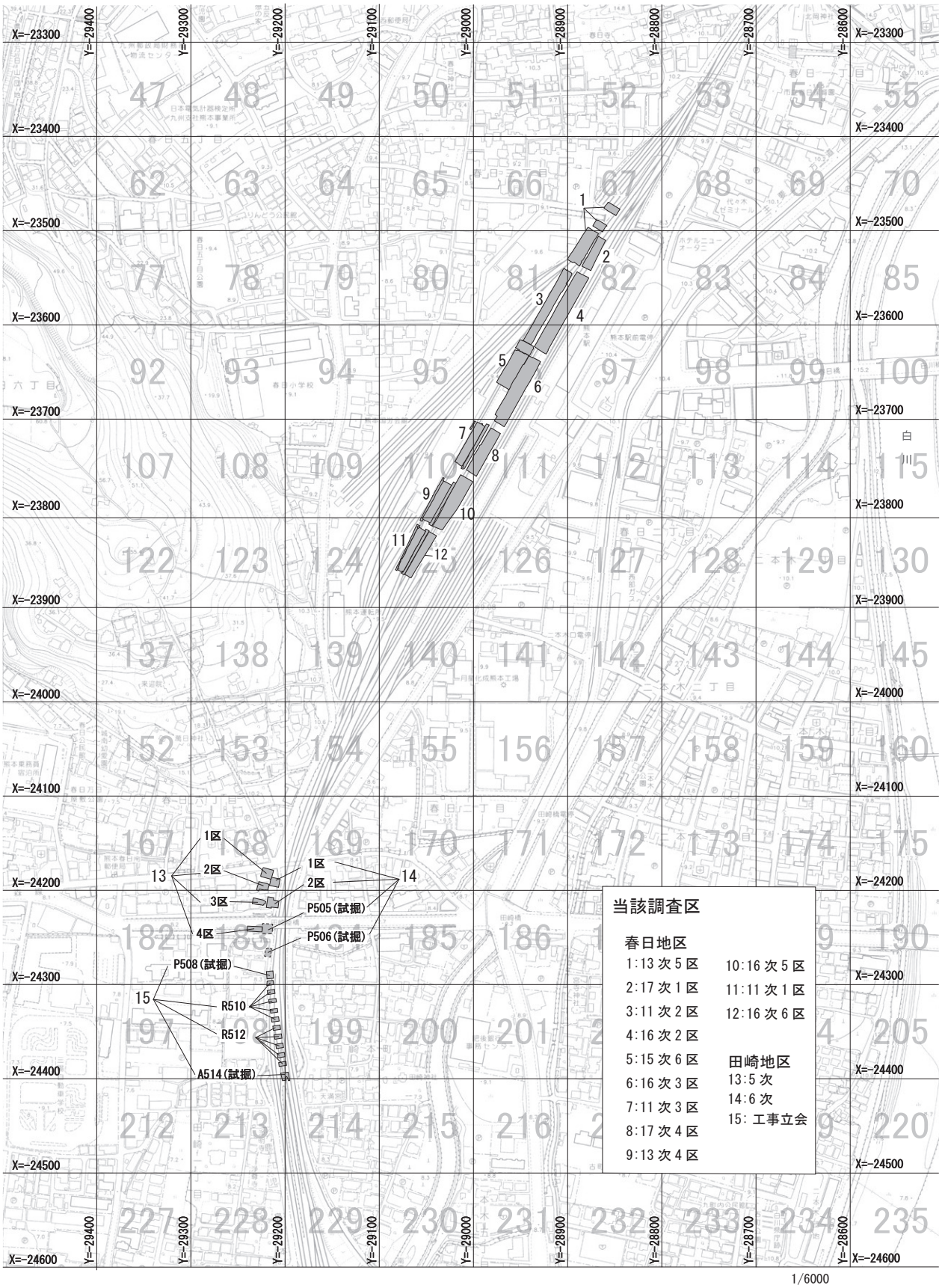

X=-23300
X=-23400
X=-23500
X=-23600
X=-23700
X=-23800
X=-23900
X=-24000
X=-24100
X=-24200
X=-24300
X=-24400
X=-24500
X=-24600
Y=-29400
Y=-29300
Y=-29200
Y=-29100
Y=-29000
Y=-28900
Y=-28800
Y=-28700
Y=-28600
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
1区
2区
3区
4区
P505(試掘)
P506(試掘)
P508(試掘)
R510
R512
A514(試掘)
当該調査区
春日地区
1:13 次 5 区
2:17 次 1 区
3:11 次 2 区
4:16 次 2 区
5:15 次 6 区
6:16 次 3 区
7:11 次 3 区
8:17 次 4 区
9:13 次 4 区
10:16 次 5 区
11:11 次 1 区
12:16 次 6 区
田崎地区
13:5 次
14:6 次
15: 工事立会
1/6000

Fig.3　調査の位置図

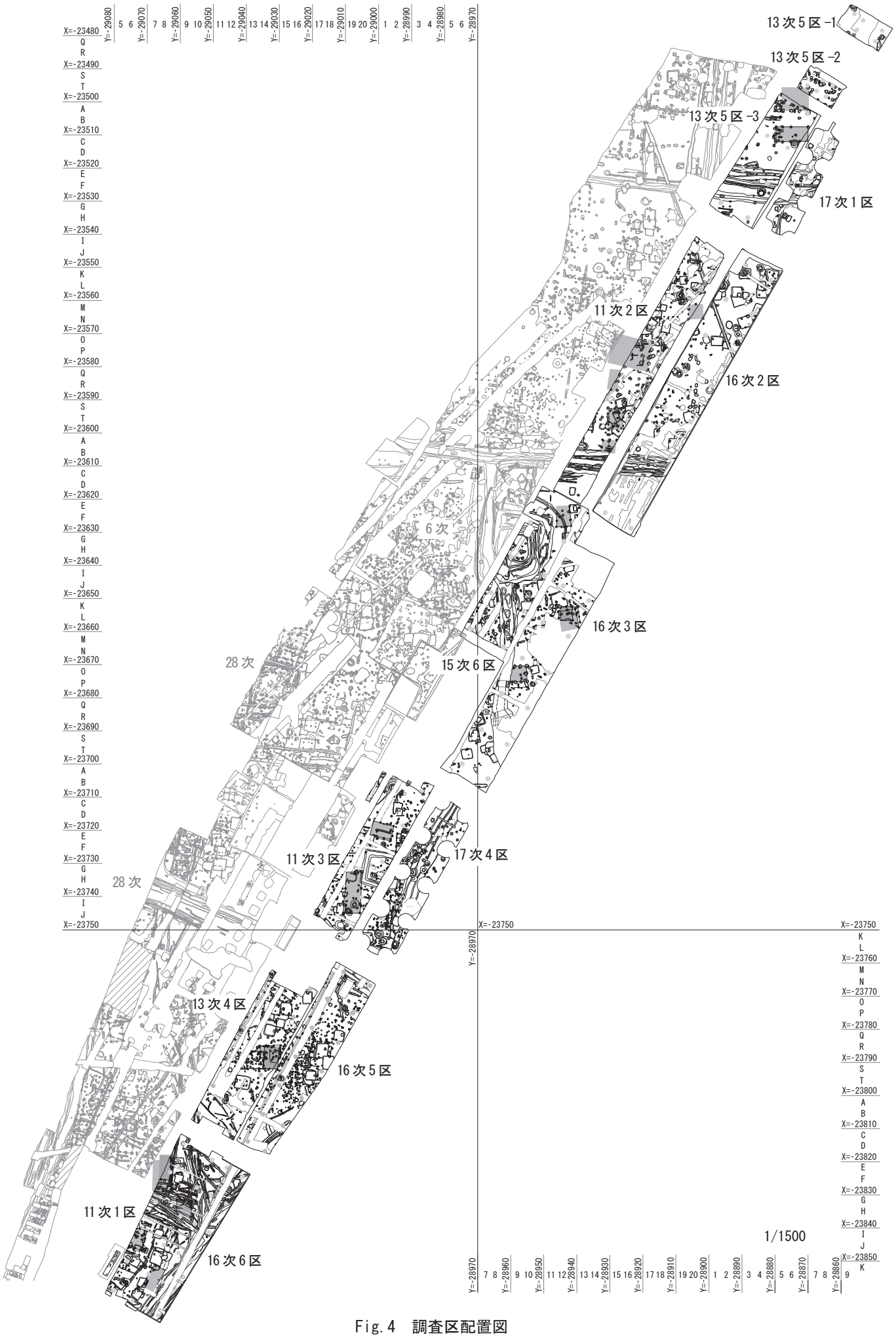

13次5区-1
13次5区-2
13次5区-3
17次1区
11次2区
16次2区
6次
16次3区
28次
15次6区
11次3区
17次4区
28次
13次4区
16次5区
11次1区
16次6区
1/1500

Fig. 4　調査区配置図

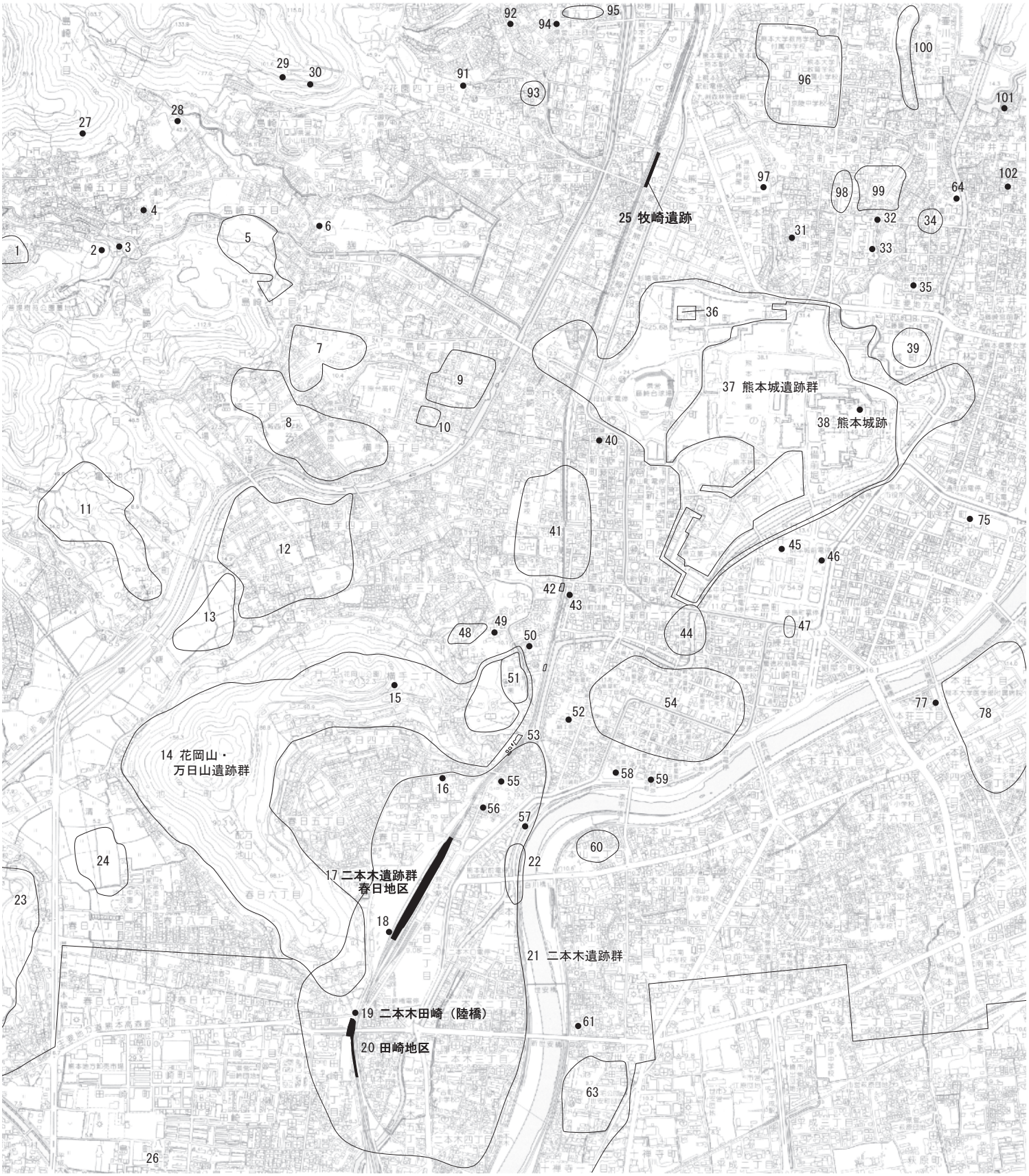


Fig.5　二本木遺跡群周辺遺跡地図

遺跡番号	遺跡名	遺跡の時代
1	荒尾南	縄文～中世
2	城親賢の墓	中世
3	岳林寺跡	中世
4	島崎	縄文
5	釣耕園	江戸
	叢桂園	江戸
	百梅園跡	江戸
6	鬼塚さん古墳	古墳
7	石神原	弥生～平安
8	千原台遺跡群	縄文～平安
9	迎田	縄文～平安
10	遠矢塚	中世
11	野添平	縄文～中世
12	戸坂	弥生～平安
13	戸坂御田尻	縄文～中世
14	花岡山・万日山遺跡群	古墳
15	花岡山陸軍埋葬地	明治
16	山由雲院(春日寺)	江戸
17	**二本木遺跡群 春日地区**	**古代～近世**
18	二本木遺跡群 春日地区第14次	古代～近世
19	二本木田崎(陸橋)	**弥生～近世**
20	**二本木田崎**	**古代～近世**
21	**二本木遺跡群**	弥生～中世
22	石塘（白川橋）	弥生～中世
23	独鈷山遺跡群	古墳～中世
24	清水原	縄文～中世
25	**牧崎**	**古代～近世**
26	熊本平野条里跡	古代・中世
27	霊樹園跡	中世
28	小山田	縄文～中世
29	本妙寺A箱式遺跡群	古墳
30	本妙寺B箱式遺跡群	古墳
31	円光寺跡	近世
32	金剛寺南乾山跡	中世
33	仙勝院跡	中世
34	内坪井	弥生
35	夏目漱石内坪井旧居	明治
36	旧細川刑部邸	近世
37	熊本城跡遺跡群	古墳～近世
38	熊本城跡	近世
39	藤園中学校校庭	弥生～平安
40	新町古寺跡・高麗門跡	近世
41	新馬借	古墳～平安
42	新馬借遺跡	
43	古往生院跡	近世
44	船場町	弥生
45	山崎古墳	古墳
46	花畑館跡	近世
47	辛島町	弥生・古墳
48	吉祥寺横穴群	古墳
49	横手町寺院群	近世
50	願行寺跡	近世
51	細川家菩提寺妙解寺跡	江戸
52	板屋町・細工町寺院群	近世
53	花岡山・万日山遺跡	
54	古町（旧唐人町）	弥生～明治

遺跡番号	遺跡名	遺跡の時代
55	北岡神社境内古墳	古墳
56	北岡横穴群	古墳
57	熊本駅前の石塘	近世
58	光明寺跡	近世
59	浄信寺跡	中世
60	本山城跡(本庄城跡)	弥生～中世
61	無漏寺跡	中世
62	熊本平野条里跡	古代・中世
63	世安池田	弥生～中世
64	浄国寺跡	中世
65	安元元年笠塔婆塔身	古代
	安元元年笠塔婆	古代
66	報恩禅寺境内石造物	中世
67	子飼	縄文～中世
68	黒髪町遺跡群	縄文～中世
69	上河原	縄文～古代
70	渡鹿遺跡群	縄文・弥生
71	大江白川	縄文～平安
72	新屋敷	弥生～中世
73	渡鹿板碑	中世
74	一夜唐	近世
75	小泉八雲熊本旧居	明治
76	大江義塾跡(旧徳富邸)	明治
77	代継神社の層塔	中世
78	本庄(熊大病院敷地)	古墳～平安
79	不動院跡の六地蔵塔	中世
80	北水前寺	奈良・平安
81	西水前寺町	縄文～中世
82	水前寺廃寺跡	奈良・平安
83	水前寺成趣園	江戸
84	水前寺廃寺塔心礎石	奈良
85	古今伝授の間	江戸
86	出水国府跡	弥生～中世
87	国分寺跡	縄文～中世
88	肥後国分寺	奈良
89	神水	縄文～平安
90	江津湖遺跡群	縄文～中世
91	本妙寺北	古墳～中世
92	井芹城跡	古墳
93	中尾丸城跡	中世
94	北岡神社境内古墳	古墳
95	井芹	中世
96	京町台遺跡群	弥生～中世
97	釈将寺跡	近世
98	京町2丁目	縄文～近世
99	伝大道寺遺跡群	縄文～近世
100	寺原横穴群	古墳
101	峰霊院跡墓地	中世
102	成就院大喜山覚勝寺	中世
103	長岡堅物屋敷跡	近世
104	将釣国跡	近世
105	お薬園跡	近世
106	七軒町	縄文～中世
107	黒髪町遺跡群	縄文～中世
108	小峰	縄文～中世
109	常薬寺	中世
110	桜山中学校校庭	古墳～中世

Tab. 3　遺跡名

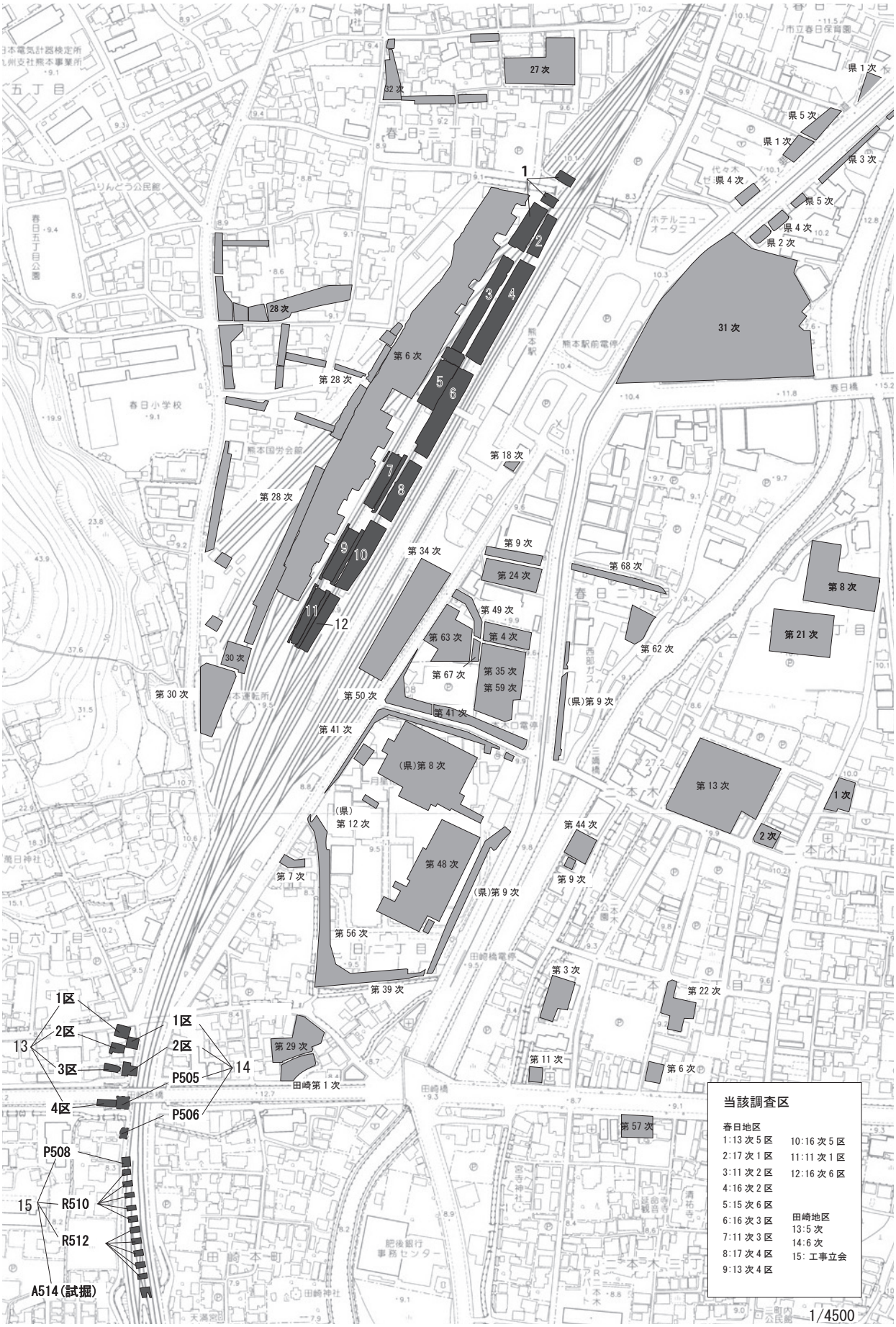


Fig. 6　周辺の既往調査区と当該の調査区

2　発掘作業の経過　調査日誌
（二本木遺跡群春日地区）

二本木春日　13 次 5 区

調査期間　平成 22 年（2010 年）12 月 10 日～
平成 23 年（2011 年）3 月 16 日
調査担当　岡本真也、多賀晴司、浦辻栄治

12.10　表土剥ぎ。
12.16　表土剥ぎ後検出面の精査、撹乱掘削。
12.17　係会議の為、現場休業。
12.20　表土剥ぎ後の撹乱除去。
12.21　午後降雨、東拡張区 1 ～ 3 矢板際土取り。
1. 6　撹乱除去作業。
1. 7　撹乱除去作業。
1.11　調査区北半分掘削・清掃・溝北半分検出状況撮影。
1.12　溝掘削・清掃、溝南半分検出状況撮影。
1.13　溝にトレンチ設定後掘削、溝撹乱上端実測。
1.14　トレンチ掘削、撹乱・トレンチ断面実測。
1.17　S010･S011 溝掘下げ､井戸 SE01 調査に着手。S009・S010 土層断面実測。
1.19　S009・S010 掘削、S011 土層断面実測。
1.20　S010・S011 掘下げ、S010 土層断面及び遺構検出状況撮影。
1.25　13 次 5 区 -1・2 表土剥ぎ完了、13 次 5 区 -2 遺構検出状況撮影。
1.26　S011 調査、13 次 5 区 -2 柱穴等掘削、調査区上端等の測量、13 次 5 区 -1 表土剥ぎ後精査 S011 平面及び南北中央土層実測。
1.27　13 次 5 区 -1 遺構検出後掘削、南側平面図、東側北端～中央平面図・断面図実測。
1.28　13 次 5 区 -1・2 遺構掘削、S011 完掘・清掃、S011 平面実測、S011 完掘及び遺構確認状況撮影。
1.31　土層断面除去。13 次 5 区 -2、新たに確認した遺構調査。
2.1　13 次 5 区 -2 土層断面除去・13 次 5 区 -2 井戸調査及び実測。
2.2　3 層の溝掘削、近世井戸及び遺構群と確認。
2.3　S016 井戸・溝調査、平面・土層断面等実測。SE01・S015、土層断面撮影。
2.7　遺構平面・断面実測。
2.8　5 区東側平面完掘状況撮影・空撮。
2.9　調査区西側、表土剥ぎ。
2.10　重機掘削
2.14　雨天の為、現場作業中止、図面等チェック作業
2.15　撹乱除去。
2.16　北側 5 区 -1・2 において撹乱除去、S022 完掘状況、S023 獣骨検出状況撮影。
2.18　5 区 -1・2、3 層掘下げ、5 区西側の S021 近世土坑土層断面実測。柱穴半裁～完掘､竪穴建物調査、S055 獣骨出土状況実測。S055 獣骨出土状況、柱穴断面撮影。
2.21　SD05 遺構検出、掘削、溝・撹乱等実測、遺構検出状況撮影。
2.22　SD05･SD02･SD04 掘削、S004、柱穴他実測。
2.23　SD02・SD04 掘削。柱穴等検出・掘削、柱穴・撹乱・土層断面など実測。
2.24　柱穴､SD03 他の掘削及び実測､東拡張区断面、SD02・SD04 平面他実測、SD05・SD02・SD04・S009 と SD03 の切り合い状況撮影。
2.25　溝 SD03 掘下げ、SD02・SD01 平面実測、SD03、1 層遺物出土状況撮影。
2.28　雨天の為、現場作業中止。
3.3　SD03・S029 掘削、遺構集中区調査、SD03 遺物出土状況、SD02・SD04・SD03 土層断面、西壁断面、柱穴・撹乱平面実測、柱穴柱痕確認状況撮影。
3.4　SD03・S021・S029・S030 掘下げ、柱穴掘下げ、SD03・S021 遺物取上げ、西壁土層断面実測、SD03・S021 遺物出土状況撮影
3.7　溝 SD03 溝完掘、S029・S030 掘下げ、柱穴掘下げ。SD03 完掘平面、柱穴群及び S023 近世土坑実測
3.8　柱穴群、SD01・S029 ほぼ完掘、住居 S030 カマド掘下げ、S029 遺物出土状況、北側柱穴群実測、粘土範囲、礫土検出状況及び土層断面撮影。
3.9　柱穴群、黒色土残り掘削、遺構集中区他調査、柱穴群平面、S029 住居遺物出土状況実測後点上げ、SD03 平面実測、柱穴柱跡断面（五か所）撮影。
3.10　遺構発掘（主に住居カマド部分）溝・柱穴・住居調査、遺構平面・断面等、実測、完掘撮影。
3.11　調査休止。
3.14　遺構集中区、柱穴掘削、溝土層断面除去、柱穴平面、柱穴断面実測、礫出土状況、S030 土層断面撮影

3.15　すべての遺構について、未調査箇所及び実測漏れの確認

3.16　遺構集中区・他掘削、遺構平面図実測、S030カマド遺物出土、S033遺物出土、柱穴S057礎石出土状況撮影。

3.17　空撮。

3.18　柱穴、住居跡等遺構の補足調査。残りの遺構写真撮影

二本木春日　17次1区

調査期間　平成28年（2016年）7月4日～
平成28年（2016年）11月15日
（1A区）7/4～7/29
（1B区）10/5～11/15
調査担当　監理　文化財保護主事　水上正孝
調査補助　㈱有明測量開発社

○　17次1区（1A区）

7.4　環境整備、第一回安全講習。

7.5　撹乱掘削、第3層（包含層）の除去、4級基準点測量及びメッシュ杭設置完了。

7.6　撹乱掘削、第3層（包含層）調査。

7.7　3層掘削、遺構検出、全体撮影。

7.8　SD05掘削、S003半裁、遺構配置図実測。

7.11　遺構掘削（SD05・003・004・006）、S003・S004土坑墓土層断面図作成、S003・S004土坑墓土層断面、S002溝骨出土状況撮影。

7.12　S002掘削、S003、1・2層掘削、S004･006完掘、ST01・S005半裁、遺構配置図作成、1/20遺構実測、S005・006土層断面、ST01検出、S004・006完掘状況撮影。

7.13　S002・005掘削、遺構実測図作成、S002骨出土状況撮影。

7.14　S002溝掘削､S008･009土坑半裁､S003完掘、S003・S005遺物出土状況、平面遺構実測、S003土坑完掘撮影。

7.15　SD05・002掘削、S008半裁、S002・008・009土層断面実測、S002・008・009土層断面、S005遺物出土状況撮影。

7.19　S005・009焼土範囲掘削、S005・009焼土調査SD05・002溝掘削、S005・009焼土範囲実測、S005・009焼土範囲撮影。

7.20　SD05・005・009～012掘削、SD05・調査区土層分層調査、S005・009焼土断面・完掘、SD05土層実測。

7.21　SD05・010掘削、写真撮影前の清掃、S009個別実測図、SD05・010調査区東壁土層図、ST01・S002骨出土状況、S010調査区東壁土層撮影。

7.22　ST01・S005写真撮影用清掃、S010掘削、S010土層断面追加実測、S010土層断面写真、ST01・S005完掘撮影。

7.25　SD05写真用清掃、S002・008・011掘削、遺構検出、詳細遺構実測、S005完掘実測、SD05・008完掘状況撮影。

7.26　遺構検出、SD05・002・012・014・015・016・017・018掘削、写真撮影用清掃、詳細遺構実測(S=1/20)S012土層断面実測、S012完掘、S12検出、S012・014・015・017・018土層断面撮影。

7.27　全景写真撮影用清掃、S010掘り下げ、詳細遺構実測（S=1/20）、調査区全景、S010・011・012・014・015完掘状況撮影。

7.28　S010掘削、詳細遺構実測。（S=1/10）

7.29　S010下端実測、S010半裁、S016・017・018完掘実測。

※本調査区の調査は終了。

○17次1区（1B区）

10.5　4級基準点測量及びメッシュ杭設置、環境整備。

10.6　環境設備。

10.7　環境整備。

10.11　撹乱掘削、包含層2層掘削。

10.12　包含層2層掘削、S021土層実測。

10.13　遺構掘削、調査区南側詳細遺構実測図作成、S021完掘状況撮影。

10.14　遺構掘削、調査区南側詳細遺構実測図作成、SE02・SD02・SD04・S011土層断面実測、S023完掘、SE02・SD02・SD04・S011土層断面撮影。

10.17　撹乱掘削、溝掘削、小穴掘削、調査区南側遺構実測図作成。

10.18　遺構掘削、撹乱掘削、写真撮影用清掃、現場内環境整備、各遺構完掘撮影。

10.19　遺構掘削、詳細遺構実測図作成、遺構配置図作成、SE02獣骨出土状況撮影。

10.20　遺構掘削・トレンチ掘削、詳細遺構実測図

作成、S027 土層断面実測、S027・028・029 土層断面撮影。

10.21　遺構掘削、表土掘削、遺構検出。

10.24　遺構掘削、包含層 2 層掘削、住居内柱穴検出、S028、029 土層断面実測、SE02 全景、S026 土層断面、S027 柱穴検出状況撮影。

10.25　遺構掘削、撹乱掘削、包含層 2 層掘削状況及び土層断面図実測、土層断面撮影。

10.26　遺構掘削、包含層 2 層掘削、詳細遺構実測図作成、遺物出土状況、土層断面撮影。

10.27　遺構掘削、詳細遺構実測図作成、土層断面実測、完掘撮影。

10.28　遺構掘削、表土掘削及び遺構検出、詳細遺構実測図作成。

10.31　調査区内清掃、詳細遺構実測図作成。

11.1　調査区完掘全景撮影。

11.2　SE02 拡張掘削、土層断面図作成、調査区完掘全景撮影。

11.4　SE02 拡張掘削、確認トレンチ掘削、遺構平面図作成。

11.7　SE02 拡張掘削、確認トレンチ掘削、平面図遺構実測、完掘撮影。

11.8　SE02 拡張掘削、確認トレンチ掘削、SE02 骨出土状況実測、SE02 出土状況撮影。

11.9　SE02 拡張掘削、土層確認トレンチ掘削。

11.10　作業員休み、実測のみ実施。

11.11　SE02 拡張掘削、遺構平面図作成実測。

11.14　SE02 拡張掘削、SE02 拡張部実測、SE02 遺物出土状況撮影。

11.15　SE02 写真撮影清掃、SE02 完掘。

※ SE02 の最終完掘撮影を行う。これで発掘作業は、すべて終了した。写真撮影・実測後、井戸を埋め戻し、その後撤収。

二本木春日　11 次 2 区

調査期間　平成 21 年（2009 年）8 月 3 日～平成 21 年（2009 年）12 月 4 日

調査担当　岡本真也・多賀晴司・波多野芳郎・藤崎正人・稲葉洋一・大森 紘・上土井朋美・浦辻栄治

8.3 ～ 8.6　表土剥ぎ

9.8　撹乱掘削。東西両側壁作り。

9.9 ～ 9.11　撹乱掘削。

9.17　表土剥ぎ後清掃、撹乱掘削、調査区・平面等実測。

9.18　重機掘削、撹乱掘削、調査区実測。

9.24　撹乱掘削、壁清掃、1 層検出、S001 ～ S005 掘削、全体平面図。

9.25　1 層検出、掘削、S007・撹乱掘削、1 層遺構・柱穴・溝等平面実測、遺構検出状況 S001 ～ S006 撮影。

9.28　精査、撹乱掘削、S001 ～ S004 平面実測、西壁断面撮影。

9.29　撹乱掘削、壁清掃、土器洗い。

9.30　土器洗い、図面整理。

10.1　S011 とともに 3 層掘削に入る。撹乱はその都度掘削、S010・S011 遺構検出状況撮影。

10.2　降雨の為、現場作業中止。

10.5　降雨の可能性が高かった為、現場作業中止。

10.6　降雨の為、現場作業中止。

10.7　台風 18 号接近の為、現場中止。

10.8　SF01 大溝東西 Tr 掘削、S012、S013、S007 完掘、南側トレンチ掘削、北側遺構検出。SF01 平面、南東断面、1 層遺構平面実測。S007、S008、S012、S013 完掘状況・3 層上・3 層下・4 層上・4 層下層遺構検出状況・1 層遺構完掘状況撮影。

10.9　SF01・S010（3 層 C 主体遺構）他遺構・トレンチ掘削、SF01 西壁と調査区西壁断面、SF01・S008・柱穴 1 平断面、東壁断面実測。S015 土層断面撮影。

10.13　SF01、S015・S017・S021・S022・S023・S025 完掘、S026 トレンチ掘削、東西断面 1/20 平面図、S015・S017 断面・平面、S015・S017 完掘状況、S019・S024 土層断面実測・完掘状況撮影。

10.14　他遺構掘削、柱穴半裁、SF01、1/20 割付平面実測、S016 土層断面、カマド覆土検出状況、S020・S014 土層断面撮影。

10.15　SF01、2 ～ 3 層 S029 他遺構掘削、柱穴半裁、S030 カマド下土坑断面、SF01 遺物点上げ、他個別断面実測、S014 完掘状況、S028 床面検出状況、カマド下土坑、S016 カマド完掘状況、S030 カマド下土坑、床面状況、柱穴 9 土層断面撮影。

10.16　SF01・トレンチ掘削、SF01 下端と硬化面の範囲、1/20 個別図・断面図・調査区北側壁断面実測、SF01 硬化面層検出状況、S016 完掘、カマド完掘、S028 土層断面・遺物出土状況・柱穴 19 撮影。

10.19　SF01、5 層掘削、土器面出しと水洗い、柱穴半裁の続き、SF01 遺物点上げ、SF01 獣骨、柱穴 10 断面、1/20 個別・割付図、S028・S016・S030 実測、S033 断面、S030 完掘状況、柱穴 10 遺物出土状況撮影。

10.20　SF01 側溝、SF01、5-1・2 層掘削。側溝・遺物点上げ・獣骨他遺構平・断面実測。SF01 側溝、獣骨出土状況撮影。

10.21　SF01、5 層・6 層掘削、S016 完掘、SE03 掘削、S026・柱穴、完掘若しくは半裁、SF01 遺物・獣骨、SF01 側溝・SE04 遺物点上げ、S016・S026・S028・S032 完掘実測、SF01 獣骨出土状況、S016 完掘、S036 断面撮影。

10.22　SF01 他遺構掘削完掘。SF01-3、5-1 層獣骨出土状況、6 層、S010 下端、S028・S036 断面、SE03・柱穴 19・S026・S016 遺物点上げ、SF01 土層断面、S026・S028・S036・S033 完掘、SE03・SE04 検出状況撮影。

10.23　40・41 G、3 層掘削、SE03・S027 遺構検出。SF01 ベルト断面、SE03・S026 点上げ、S028 平面実測。

10.26　38 G 清掃（3 層）、3 層掘削、トレンチ・柱穴半裁、1 層溝掘削。SF01 西側、他遺構北壁断面実測、点上げ。

10.27　S037・S040 掘削、S044 完掘、他遺構掘削。S039、SE03 断面、SF01 東壁断面、S038・S039・S047・S048・S049・S044 平面実測。S038・S010 完掘状況と S037 土層断面実測。S038・S010 完掘状況と S037 土層断面撮影。

10.28　3 層下層・S037 掘削。S027 遺物点上げ、西壁断面、S037 完掘、SF01 東断面、SE03 点上げ、柱穴 S019 土層断面実測。S043 完掘状況、柱穴 S019 土層断面、S027 カマド下土坑完掘状況撮影。

10.29　3 層以下掘削、柱穴半裁・完掘、S051・S052・S040 他、遺構掘削、SE03・SE04・S027 完掘。撹乱及び柱穴 32・33 完掘及び S051 平面・断面、S052 土層断面、SE03・SE04・S043・S026・S027 柱穴 19 点上げ、S031・S034 点上げ。S040 土層断面、S053 土層断面、S027・柱穴 19 完掘状況、S031 遺物出土状況撮影。

10.30　調査区西部、遺構検出 SF01 ベルト除去、柱穴半裁・完掘、SE03 掘り下げ、SE04 掘削。SE03・SE04・S027 点上げ、柱穴 54 土層断面実測・撮影。

11.2　SF01・SE03 完掘、S059・SI05 柱穴半裁・完掘、西個別図、S052・SF01、5-2 層獣骨出土状況、S052 上端平面及び断面実測、SE03 完掘撮影。

11.4　SF01 遺構掘削後、道路最下層の礫・土器等実測、SF01 道路検出状況、SE03・SE04 骨・遺物出土状況撮影。

11.5　SF01 層下・7 層掘削、柱穴、S052・S057・S058 掘削、SE04 獣骨出土状況、S034 遺物点上げ、S057・S058 断面、S052 土層断面、S048 完掘状況、S066 カマド、SE05 撮影。

11.6　SF01・SI05 完掘、SK03 半裁、柱穴完掘、SF01 完掘、S071 柱穴平面、南側道路跡の西側部分平面実測、SE04 点上げ、SE05 点上げ、竪穴断面、井戸断面実測、S061 完掘状況、S071 完掘状況、柱穴列断面、SF01 獣骨出土撮影。

11.9　柱穴の半裁・検出、S036 ～ S038 清掃、柱穴段下半裁、S052 平面図、柱穴半裁、S057 埋土 2 層（完掘状況）、S032 断面、掘立柱穴断面実測、S057・S058 完掘状況、SE04 井戸撮影。

11.10　雨天の為、作業中止。

11.11　雨天の為作業は中止、実測作業のみ実施

11.12　S080・S087 検出、S055・S056・S073 完掘、柱穴完掘、西側壁面、S080・S087 検出、柱穴平面、S072 東西土層断面、SE04 断面、東壁断面実測。S117・S066 断面検出状況、SE04 遺物出土状況撮影。

11.13　S080 ～ S086 掘り下げ、西断面、柱穴、東断面、SE05 完掘状況平面・断面記入、SE04 実測、骨片出土状況、S076 骨片出土状況、柱穴 13 検出状況、S072 完掘状況撮影。

11.16　S080 ～ S089 掘り下げ、SK03・柱穴 91・93・76 礫・遺物・人骨平面、S081・S079 土層断面実測、SK03 土坑出土状況、柱穴検出状況、S091 断面撮影。

11.17　雨天の為現場作業中止。

11.18　遺構掘削、中央部の住居跡群調査、柱穴S172・99・102・S065 井戸、SF01 北側上端、SK03・S080 平面・遺物出土状況、S089 遺物取上げ、S062・S066 断面、S064 カマド完掘、S089 遺物取上げ状況、S088・S097 遺物出土状況と切り合い状況確認後撮影。

11.19　遺構と柱穴掘下げ、柱穴平面レベル、S088、S089 平面・遺物出土状況、SK03・S080 遺物出土状況実測、S086・S081 土層断面状況撮影。

11.20　遺構掘削、SK03・S091・S066 完掘状況、S080 遺物出土状況実測、S066 完掘、S068 埋 1 層カマド付近、S099 カマド検出状況、柱穴平面、S080 遺物実測、点上げ後撮影。

11.24　遺構検出、柱穴群掘削・実測、S067 下端、S102 平面図実測、S080 断面、S068・S094 平面追記。

11.25　S070・S064・S103 平面、S092・S093 実測。S080 北側土層断面図、S086 遺物出土状況撮影。

11.26　全面清掃。S083・S086 遺物実測。S092・S093・S105 平面、S114 完掘状況平面図、SE06 平面及び断面実測。S092・S093・S102 完掘、SK02 遺物出土状況撮影。

11.27　清掃、全体写真（空撮）。

11.28　発掘調査現地説明会。

11.30　遺構断面土層崩し、遺構掘削。S063 遺物点上げ、SE04 井戸平面図、S086、S016 遺物取上げ、S082・S083 土層断面図、SK02 土層断面実測、金属製品出土状況、S095 断面撮影。

12.1　遺構集中区掘下げ。S080・S114 平面、S086 遺物出土状況、他遺構断面、S080 完掘状況、S057・S086 カマド断面実測。S114 遺物出土状況、S099 カマド断面撮影。

12.2　遺構掘削、S099 カマド・S113 カマド平面図、東壁土層断面、S065 井戸平・断面、S060 平面、S080 完掘状況、S083 完掘状況実測。

12.3　遺構集中区の清掃及び実測。S117 出土のカマド石と SF01 断面との比較。S099・S113 カマド完掘、柱穴 184 完掘状況撮影。

12.4　本日をもって調査終了。遺構図レベル入れ、SK06・S092・S093 断面図、ポイント確認。S082・S083・S084・S085・S117 完掘状況、調査区地形測量、遺構集中区完掘状況撮影。

二本木春日 16 次 2 区

調査期間平成 27 年（2015 年）9 月 7 日～平成 27 年（2015 年）11 月 26 日

調査監理　文化課　参事　中村幸弘

調査補助　(株) 島田組

9.7　試掘坑の掘削、明日から重機掘削に先立ち、試掘坑を 3 ヶ所開け、遺構面までの深度と撹乱の有無を確認。遺構面までは現地盤からおおむね 1m 前後。調査区南側のほうがやや深い。調査区南端試掘坑から、暗渠レンガ作りの基台を検出。撹乱として扱い、重機掘削においてできる限り取り除く方針。仮設事務所を設置。

9.8　重機掘削 2 区。県監督員中村参事監督のもと、調査区南端より重機掘削を開始。南端付近では撹乱レンガ構造物、コンクリート、H 鋼等が多く遺構面の残りは少ない。重機掘削は 18 日頃まで続く見込み。

9.9　県監督員中村参事監督のもと重機掘削を実施。前日に引き続き撹乱暗渠、レンガ構造物が多く、遺構面の残りは少ない。

9.10　県監督員中村参事監督のもと重機掘削を実施。撹乱暗渠、レンガ構造物が多く残るが前日に比べ遺構面の残りは多い。

9.11　県監督員中村参事監督のもと重機掘削を実施。撹乱は調査区の中央部を除いて比較的少なく、遺構面も残っている。

・次週の予定　15 日より作業員を投入し、遺構検出に着手。重機掘削は 17 日頃終了の見通し。

9.14　引き続き県監督員中村参事の監督のもと重機掘削を実施。撹乱は比較的少なく遺構面もよく残る。

・Grid 杭打設　二本木遺跡設定 Grid に沿って 5m 間隔で杭を設置。全体の 4 割ほど完了。

9.15　本日より作業員を投入

・重機掘削　引き続き、県監督員中村参事監督のもと重機掘削を実施。撹乱は少ない。

・包含層掘削・遺構面精査、調査区南端より重機掘削後整形を開始した。ブロック 96C~F は撹乱が大部分を占め遺構残りが悪く、B より北は隣接する調査区から続く幅 10m 程度の大溝も検出された。調査区半分程度の面精査を終えた。

9.16　降雨の為、調査は休工。

・重機掘削　雨の合間を縫って引き続き県監督員中村参事のもと、重機掘削を行う。撹乱は少なく土器

片が多くみられた。重機掘削は明日終了の予定。
9.17　引き続き県監督員中村参事の監督のもと、重機掘削を行い、2 区の重機掘削を終えた。調査区北端付近では撹乱が再び多くみられた。明日重機の搬出を行い、2 区北側に残土置き場が確保できる予定。
・遺構面精査・遺構検出　一昨日に引き続き重機掘削後の遺構面整形を行い、残りの範囲の整形を終えた。
・Grid 杭打設　二本木遺跡のブロックに沿って 5m 間隔で Grid 杭の打設を実施、全体の 7 割ほど完了。
9.18　2 区調査区内で遺構検出を行い、一通りの検出を終えた。調査区中央～北部にかけて、竪穴建物と思われる方形の遺構が数基のほか、溝・土坑・柱穴が多く検出された。隣接する調査区（平成 23 年度調査）に比べ遺構密度は少ない。
・遺構略図の作成　検出された範囲のうち、調査区中央部で略図の作成を実施。
・Grid 杭打設　二本木遺跡仕様のブロックに沿って 5m 間隔で Grid 杭の打設を実施。2 区調査区内の打設を完了。
9.24　調査区北側から順次撹乱の掘削を開始した。浅めの撹乱は完掘し、深い撹乱は 20㎝程度の深さで掘削を停止した。深い溝状の撹乱のほか、東壁沿いの方形撹乱を掘削予定。
・遺構略図の作成　調査区北部で略図の作成を実施。
9.25　調査区北部～東壁沿いの方形撹乱の掘削を終了し、中央部の撹乱の掘削に着手。
・遺構略図の作成　調査区南部、及び撹乱掘削に伴って検出された遺構の略図作成。
9.28　調査区中央部大撹乱の掘削を進めた
・遺構略図の作成　調査区南部、及び東壁沿いの遺構略図作成実施。残りは撹乱掘削に伴って新たに検出された部分のみ。
9.29　一昨日より行っていた調査区中央部の撹乱の掘削はほぼ終了。引き続き東壁沿いの撹乱、調査区南部の撹乱の掘削を進めている。
・遺構検出　調査区南部を横断する大溝、及びその周辺の再検出。
・遺構略図の作成　調査区中央部を中心に、取り残していた遺構と新たに検出された遺構の略図作成。
9.30　調査区東壁沿いの撹乱の掘削はほぼ終了。調査区南部の撹乱は引き続き掘削を進めている。
・遺構検出　引き続き調査区南部を横断する大溝、及びその周辺の再検出を実施。
・遺構略図の作成　調査区中央部を中心に、撹乱の略測を実施。降雨により午後 2 時に現場作業を終了。
10.1　降雨の為、現場作業中止。
10.2　昨日の雨により溜まった水を排水。全体に水はけがよく、排水ポンプは今後も必要ない。
・遺構検出　調査区南部を横断する大溝及びその周辺の再検出。
10.5　調査区南部の撹乱を引き続き掘削
・遺構検出　調査区南部を横断する大溝、及びその周辺の再検出。ブロック 81-P19 ～ 20、Q19 ～ 20、R18 ～ 20 の遺構再検出、及び検出面の写真撮影。
10.6　調査区南部の撹乱を引き続き掘削。
・遺構検出　調査区南部を横断する大溝、及びその周辺再検出を引き続き実施。ブロック 81-N20、O20、82-L1 ～ 2、M1 ～ 2、N1 ～ 2、O1 ～ 2 の遺構検出及び検出面の写真撮影を実施。
10.7　調査区南部の撹乱を引き続き掘削。
・遺構検出　調査区南部を横断する大溝の検出を行い、検出状況の写真撮影を実施。
・遺構掘削　本日より遺構掘削を開始。ブロック 81-R18、19、S18、19 にまたがる範囲の柱穴半裁を実施。
10.8　引き続き調査区南部の撹乱の掘削を行い、一部を除いて終了。
・遺構掘削　調査区南部を横断する SF01 の掘削を開始。中央に断面を設け両側を一段掘り下げた。ブロック 81-O ～ Q に跨る範囲の柱穴半裁を実施。
10.9　ブロック 81-O・82-M ～ N にまたがる範囲の柱穴半裁を実施。SF01 は引き続き掘り下げ。柱穴 S14 の掘削及び出土状況の写真撮影を実施。S145 は SF01 の埋土に掘り込まれる。
・遺構検出　SK04・S002・S003 の検出状況の写真撮影を実施。
10.13　調査区東壁沿いの未検出だった範囲を精査し、土坑、柱穴を検出。
・遺構掘削　竪穴建物 S023 の掘削を開始。南北 3m、東西 4m の方形プラン。L 字断面を残し数㎝ずつ掘り下げ。溝 SD06 の掘削を開始。断面を残し順々に掘り下げ。隣接する調査区から続く溝ブロック 81-Q ～ R にまたがる範囲の柱穴半裁を実施。
10.14　引き続き竪穴 S023 を掘り下げ。深さ 40 ～ 50cm 程度か。竪穴建物西壁で須恵器杯の完形品が

出土。引き続き溝SD06を掘り下げ。土層は黒褐色土、遺物は小土器片で出土数は少ない。
・写真撮影　ブロック81、82-N～Sに跨る範囲の柱穴土層断面写真を撮影。
10.15　溝SD06を断面除いて完掘。土層は黒褐色の単層。竪穴建物S023は完掘。竪穴建物四隅に主柱穴があり、明日検出のうえ掘り下げ予定。SK04・S002・S003の掘り下げを開始。S189は円形の柱穴で約1.2m。検出面下40㎝ほどで須恵器が出土。本遺構は井戸になる可能性が強い。引き続き小円形柱穴の掘り下げを進める。
・写真撮影　溝SD06の全景、及び土層断面の写真撮影を実施。S023の写真撮影を実施。
10.16　竪穴建物SK04・S002・S003を引き続き掘り下げ、S003は中央部に窪みがあり別遺構が絡んでくる可能性がある。井戸S063の掘り下げを開始。上端では径180㎝程あるが、掘り下げると急速に狭くなり、深度40㎝以深では径80㎝程になる。深度50㎝ほどのところで獣骨が出土した。井戸S066～S067の掘り下げを開始。他の井戸S063・S189に比べて出土する土器の量が多い。
・写真撮影　井戸S063で獣骨の出土状況の写真撮影。井戸S189で須恵器杯の出土状況の写真撮影を実施。
10.19　引き続きSK04・S002・S003を掘り下げている。切り合いはS002が新しいがそれ以外は、はっきりしない。S003の中央部窪み及び、東側の窪みは井戸の可能性がある。S013周辺を再検出し、輪郭を明瞭にさせた。窪みに水が溜まったものか。また、南下端付近で一段掘り下げた面から井戸を検出。井戸S066・S067を引き続き掘り下げている。切り合いは、はっきりしない。井戸S189を半裁再開。検出面下約1.8mまで掘り下げたが、安全のため掘削を中止。明日、土層断面写真撮影予定。
・写真撮影　ブロック89-K-2～3の小柱穴の土層断面写真を撮影。
10.20　引き続きSK04・S002・S003を掘り下げ。井戸かと見られていたS003東側の落込みは井戸ではない模様。引き続き井戸S066・S067を掘り下げている。S067の中層からは人頭大の礫が数個出土。S013自然の落ち込みを段下げし、改めて周辺も含めて遺構検出をした。土器が多く出土したS011の輪郭を確定させたほか、新たに井戸、竪穴建物を検出した。井戸S189は明日以降、断面手前を箱掘りし、改めて断面の撮影及び実測をする予定。
・写真撮影　井戸S189の土層断面を撮影した。ブロック81-Q～Rの小柱穴の土層断面を撮影した。
10.21　引き続きS066・S067を掘り下げている。両者とも井戸と思われる。土層観察からS067をS066が切っている。S066が後出。S067中位で40㎝×70㎝程度長方形の礫が投げ込まれた状態で出土した。他にも一抱えほどの礫を検出。引き続きSK04・S002・S003を掘り下げ断面を残しほぼ完了。SK04の西側床面直上で土師器杯が6点並んで出土。他にもS002との境で高台付き須恵器杯が1点出土。竪穴建物S023は十字断面の除去作業に着手し、ほぼ終了した、東西壁際で小竪穴と切り合っている。S010・S011との境付近において一括廃棄された状況で土器が出土。S215を半裁。掘り下げの結果、井戸ではなく未完成の井戸の可能性が高い。半裁小柱穴を完掘。ブロック81-R～Sから順次進めている。
・写真撮影　井戸S066・S067の全景写真を撮影。S010の一括廃棄土器の出土状況を撮影。
10.22　井戸S066・S067を引き続き掘り下げ。S066は調査区法面に近く崩落の危険があるため深度1.5mほどで掘削を中止。S067は断面観察のための箱掘りを開始し、井戸枠内も更に掘り進めたところ湧水。明日清掃後に写真撮影の予定。井戸S189も断面観察の為に箱掘りを開始。S003と切り合う土坑S219・SK05について段下げを開始。S219は井戸の可能性が高い。竪穴建物S023の床面検出を引き続き進めている。竪穴建物と考えていたS073・S074・S075を含む断面を残して掘り下げたところ、数cmで地山に到達。断面土層から竪穴建物ではなく面の落込みと判断。ブロック81-N～Rにおいて半裁小柱穴完掘を実施。小柱穴S094から礎石と見られる上面が平な礫が出土した。
10.23　井戸S219を引き続き掘り下げ。他の井戸に比べて遺物の出土量が多い。S011の廃棄土器を取り上げた跡から検出された円形の土坑は、半裁の結果検出面下10㎝程で底に達し井戸ではなかった。竪穴建物S023を数点の土器を残し完掘。床面からは柱穴が検出されず無柱の建物と考えられる。井戸S189は土層断面観察のための箱掘りを進めている。方形土坑S221を掘り下げた。深さは10㎝ほどで、貼床や柱穴もなく竪穴建物ではない。調査区北半に

おいて半裁小柱穴の完掘を順次進めている。ブロック 81-S ～ R、及び 82-J ～ K の範囲を再度遺構検出した。調査区北端付近で切り合い関係のある方形土坑が検出されたほか小柱穴もいくつか新たに検出。
・清掃　竪穴建物 S023 の完掘状況の清掃をした。井戸 S066・S067 を箱掘りした後の土層断面写真を撮影。

10.26　円形土坑 SK05 出土遺物の写真撮影を実施。明日、実測の予定。SF01 の掘り下げを再開。出土した遺物 2 点は実測後取上げた。銭貨が 1 点出土。ブロック 81-S ～ T の範囲の遺構を再検出。竪穴建物を 1 棟検出、撹乱で切られた土壁で柱穴を確認。またこの範囲で検出された小柱穴半裁を順次開始。

10.27　引き続き SF01 掘り下げを実施。調査区上端から遺構底面までの深さが約 3m になっていると予想されるため安全上、調査区法面に沿って幅 60㎝程度の小段を設置、ブロック 81-S ～ T の範囲の小柱穴の半裁を実施。井戸 SE07 の掘り下げを開始。他の井戸と同様、検出面から掘り下げるにしたがって徐々に径が小さくなっている。竪穴建物と見られる S262・S263 の掘り下げを開始。切り合いが不明なため 5㎝程度の段下げを行い確認する予定。
・写真撮影　S002 の土層断面、及び遺物出土状況の写真撮影を実施。
※午後から雨により 13 時 30 分で現場作業を終える。

10.28　井戸 SE07 の半裁を引き続き行い、安全の為深度 1.8m 程度で掘削を中止。明日土層断面の写真撮影、半裁部分の遺構実測の予定。切り合っている遺構があるため、箱掘りするかどうかは未定。竪穴建物 S262・S263 の段下げを引き続き継続。SF01 の掘り下げを引き続き実施。現在の掘削深度は検出面より 50㎝。ブロック 81-S ～ T の小柱穴の半裁を行っている。竪穴建物 S222 の掘り下げを開始。撹乱に切られて 4 分の 1 程度しか残っていないが、撹乱の壁で柱穴と思われる落込みが確認できる。
・写真撮影　竪穴建物 S003 の土層断面、及び遺物の出土状況の写真撮影を実施。

10.29　竪穴建物 S262・S263 を引き続き掘り下げ。S002 の床面を精査したところ、帯状の窪み、円形の窪みを確認。SK04・S002・S003・S023 の点上げ。竪穴建物 S222 を断面とカマドを除いてほぼ掘り上げた。明日、写真撮影と実測の予定。土坑 S264 の掘り下げを開始したが、西側の肩が不明瞭で検出面を再度削って確認が必要。SF01 の掘り下げを引き続き継続。断面より西側で深度 80㎝、東側 50㎝まで掘り進む。ブロック 81-S ～ T の小柱穴の半裁を引き続き継続。

10.30　S262・S263 を引き続き掘り下げ。肩部の埋土の落込み方から一般的な竪穴建物ではないと考えられる。SK05 の出土遺物を点上げしたのち、切られている撹乱の壁面に沿って断面を設定し半裁。井戸底までは達していない。SF01 の掘り下げを進めている。断面西側では固く締まった埋土に到達しそれをさらに薄く剥ぐと一部礫が敷き詰められていた。溝全体が道路として使われていた際の路面と見られる。路面直上から獣骨が数点出土。深度は検出面から 110㎝。断面の東側も順次掘り進めている。

11.2　引き続き SF01 を掘り下げ。断面西側底面で検出された礫敷きの路面は礫の残りが悪く、溝中央付近の一部に溜まる様子。路面両側には深度約 20㎝、検出面からは約 140㎝の側溝を確認。断面東側も一部路面の深度まで掘り進めている。竪穴建物 S263 を引き続き掘り下げ。土師器の甕が多く出土。

11.4　S262・S263 を引き続き掘り下げ。ほぼ床面まで掘削を終え、竪穴建物ではない可能性が高い。調査区西壁の整形を引き続き進めている。北端から順次土層の分層を開始。

11.5　SF01 の掘り下げを進めている。ほぼ底面まで掘り下がった。今後は路面の礫敷きの清掃、側溝部分の掘削に取り掛かる。井戸 S066・S067 の断面掘削を開始。調査区西壁の整形は終了し、北側から順次分層、実測を開始。今後、分割撮影をする予定。西壁全体の撮影は後日、調査区全景とともに撮影。

11.6　SF01 の掘り下げを引き続き進めている。側溝が掘り終わり、路面の礫敷きも一部残して検出完了。次週、土層断面の撮影、礫敷き上面までの状況での撮影、サブトレンチを設定して礫敷きを掘り上げ、再度土層断面の撮影、実測、及び礫敷きの完掘を、進めていく予定。井戸 S066、S067 の断面はずしを実施。次週礫の出土状況を撮影実測したのち完掘予定。調査区西壁の撮影のための清掃を実施。それにともない壁際で新たに柱穴、及び竪穴と方形土坑も検出された。また調査区南端付近では、撹乱によって壊された壁だけに痕跡がみられる竪穴建物があることが判明。
・写真撮影　調査区西壁の土層断面の撮影を行なっ

た。10 カットに分け 35㎜と中判で撮影をした。西壁全景については後日調査区全景の撮影を行う際に同時に撮影する予定。竪穴 S217 の検出状況の撮影を実施。

11.9　SF01 は土層断面の撮影の後、路面にあたる礫敷きの検出を行っている。ブロック 81-S 、T の範囲の小柱穴及び土坑の半裁を実施。竪穴建物 S217 の肩部に切り合っている遺構を明確にするため、範囲を絞って精査を実施。明日は十字断面を設定し掘り下げていく予定。

・写真撮影　SF01 の断面の土層断面撮影。井戸 S067 における巨石の出土状況の写真撮影を実施。この際、雨が降り出したため、明日念のためもう一度撮影する予定。

※降雨により午前中で現場作業を中止。

11.10　引き続き SF01 の路面の掘り下げを行い、断面部分を除く礫敷き全体の検出がされた。明日断面土層の実測を実施のち、断面を外し礫敷き全体の検出を行う予定。方形土坑 S001 の掘り下げを開始し、SK05 と同様に竪穴状に 15㎝程掘り下がった面から更に中央部では円形に深掘りされている。中央部の円形部は井戸と見られる。S007 付近の再検出を行い、竪穴と見られる S007 のほか、切り合った円形及び方形土坑が検出された。切り合い関係が明瞭でないため、全体を一段掘り下げる。竪穴 S217 の掘り下げを開始。掘り下げ前から硬化面が見られたように、検出面からの残りは浅い。北辺の焼土の周辺から土器の出土量が多い。ブロック 81-M ～ O、96C ～ D の小柱穴の半裁を実施。不定形土坑 S288 の掘り下げを開始。

・写真撮影　井戸 SE07 の土層断面写真を撮影。S003、SK04 及び、SK05 の一連の遺構の土層断面の写真撮影。

11.11　方形土坑 S001 を引き続き掘り下げ、断面をのこして掘り下げた。中心に井戸と見られる円形の深い落込みがあり竪穴ではない。井戸部分の底は安全の為深度 1.5m 程度で掘り止めた。井戸 SE07 の半裁の残り部分を掘り下げた。S007 周辺を一段下げ、竪穴 2 基と井戸 1 基を検出。竪穴 S007 と井戸 SE08 から掘り下げを開始。竪穴 S217 を引き続き掘り下げを開始。井戸 S189 と未完成のまま放棄された井戸 S215 に隣接しており、当遺構も井戸になる可能性が高い。楕円形土坑 S288 を引き続き掘削し、半裁を終えた。長軸で約 1.2m の大きさがあるが、遺物が一切出土しない。

・写真撮影　ブロック 81-O 及びブロック 81-S の範囲にある小柱穴の土層断面の写真を撮影した。

11.12　井戸 SE07 を箱掘りし、更に下層の土層を確認するため断面を精査。検出面より 2.5m 程で湧水したため掘削は停止。SK04・S003 とそれに伴う井戸 S219 の土層断面を取り、S219 の下層を確認するために掘り下げた。井戸 S216 を半裁した。井戸かどうかの性格は不明。井戸 S189 の半裁残りの掘り下げを開始した。竪穴 S007 の掘り下げを引き続き実施。一段下げたところ東半分はほぼ床面に達したが西半部はさらに深くなっている模様。SE08 の掘り下げを引き続き実施。大量の土器が出土。土器廃棄遺構の可能性が高い。SF01 土層断面の除去を行い、遺構全体の礫敷きの検出を確認した。明日礫敷き検出状況の写真撮影を行う予定。

・撮影　井戸付き土坑 S001 の土層断面を撮影した。方形土坑 S262、S263 の土層断面を撮影した。竪穴建物 S217 の土層断面を撮影。ブロック 81-N、及び 82-P ～ R の範囲の小柱穴群の土層断面を撮影。

11.13　朝からの降雨により現場作業は中止。

11.16　井戸付き土坑 S001 の断面を除去し完掘。方形土坑 S262、S263 の断面を除去し完掘。竪穴 S217 の断面を除去した後カマド部分が残る。井戸 S063 の断面を除去し完掘。井戸 SE07、井戸 S189、井戸 S067 の湧水を排水しながら泥を可能な範囲で除去し、井戸底の深さを測った。それぞれ湧水面から 40㎝～ 60㎝の深さがあり、検出面から深度は 3 ～ 3.15m を測る。井戸 S219 の半裁残りを掘り下げ完掘した。調査区中央部の小柱穴群の完掘を実施。

・写真撮影　S216 の土層断面の写真撮影をした。竪穴 S222 の土層断面の写真撮影をした。ブロック 81-S ～ T、82-K の範囲の小柱穴群の土層断面の写真撮影をした。

11.17　朝からの降雨により現場作業は中止。

11.18　朝からの降雨により現場作業は中止。

11.19　新たに検出された竪穴建物 S301 の掘削に着手し、断面を残しほぼ掘り上げた。調査区全体の小柱穴の完掘を引き続き行い数個を残しほぼ終了。井戸 S216 の掘り下げを引き続き行い下層について半裁が完了。上層は完掘している。井戸 S063 の掘り残し部分を完掘。明日、完掘写真を撮影する予定。

・写真撮影
竪穴建物 S301 の土層断面の写真を撮影した。SE08 の出土状況の写真を撮影した。竪穴建物 S217 カマド部分の出土状況の写真を撮影した。小柱穴群土層断面写真を撮影した。
11.20　竪穴 S301 断面はずしを実施。断面の下から方形の浅い落込みを確認した。別遺構の可能性がある。SE08（土器廃棄）を掘り下げたところ、円形の深い落込みを確認した。井戸と思われる。井戸を廃棄土坑に転用したものか。井戸枠内は調査区法面の上端から深度 3m を超えたので安全の為途中で掘削を終了。方形土坑 S007 を掘り下げた。検出面から 20㎝程で底に達し、底は平らである。竪穴かどうかも含め用途は不明。竪穴建物 S217 のカマド部分の出土状況を実測したのち断面を設定し焼土を取り除いた。床面から明確に焼土の落ち込む線が確認された。井戸 S216 の下層断面を実測したのち残りを完掘し、掘り下げを完了した。竪穴 S222 の撹乱にかかる断面を実測し、カマド部分に断面を設定して焼土を掘り下げている。SF01 の路面と思われる礫敷きを掘り下げ完了した。次週全景撮影にむけ面清掃を開始した。
・写真撮影　井戸状遺構 S063 の完掘状況の写真撮影をした。SF01 内の路面と思われる礫敷きの出土状況を写真撮影。土坑 S288 の土層断面の撮影。
11.24　明日の天気予報が雨になっているため予定していた全景撮影を本日の午後に実施することになった。
・遺構掘削　先週から引き続いて撮影のための全体清掃を実施。前日新たに検出された方形土坑 S306 を掘り下げた。
・写真撮影　完掘状況の全景を撮影した。調査区北側に 3 段の櫓を組み北からのカットと調査区南側の工事用通路に脚立を立て南からのカットを撮影。方形土坑 S301、SF01 の完掘状況の撮影を実施。
11.25　全景写真撮影のための清掃によって新たに検出された遺構を調査。井戸 S307、竪穴状落込み S312、313、314、廃棄土坑 S316 がある。
・写真撮影　個別遺構の完掘を撮影した。竪穴等大型の遺構は個別で、柱穴等小型の遺構は一定のエリアにまとめ撮影。
※道具の洗浄、片づけ、櫓の解体、ブルーシートの清掃等を行い、2 区の作業員を投入しての作業は本日までで終了。6 区の調査には 12 月 7 日より作業員投入予定。明後日より本体工事が開始される予定。
11.26　残りの遺構実測を実施。最後の片付け等を行う。2 区の調査区内における調査はこれで終了。次の調査区となる 6 区の表土剥ぎは 12 月 1 日からの予定。

二本木春日 15 次 6 区
調査期間　平成 22 年（2010 年）2 月 16 日～
平成 22 年（2010 年）2 月 25 日
平成 23 年（2011 年）4 月 13 日～
平成 23 年（2011 年）7 月 8 日
調査担当　岡本真也・多賀晴司・大森 紘
平成 22 年
2.16　調査区北側表土剥ぎ開始。
2.17　表土剥ぎ、遺構検出。
2.18　SD01・S002・S003 掘削調査
2.19　竪穴建物跡 S005 平面図実測。東壁撮影。
2.24　S003 竪穴建物平面、S007 土坑断面、S005 竪穴建物平面実測、S005 竪穴建物、S012 土坑墓西断面撮影。
2.25　S012 断面平面、S003・S004 完掘平面実測。
平成 23 年
4.13　調査区南側表土剥ぎ開始。
4.14　表土剥ぎ、清掃。
4.15　表土剥ぎ終了。
4.18　出土遺物の整理、土器洗い。
4.19　粗作業、カクラン掘削。
4.20　カクラン掘削。
4.21　SD07・カクラン掘削、粗作業。
4.22　SD07・S002 ～ 005 掘削後清掃。遺構検出状況撮影。
4.25　SX01・S006・S007 掘削。
4.26　S013・S010 掘削。
4.28　溝切り合い確認の為掘削。溝平面、畝群 S009、駅遺構（土坑）S007 実測。
5.6　大溝、SI01・SI02 その他遺構掘削。S009 畝群実測。
5.9　S016 掘削。南北の大溝上層の掃除。SX01、S009、S007、S006 実測。

5.13　清掃、遺構掘削。S009 畝実測。S006・S016 完掘状況撮影。

5.16　清掃、遺構掘削。S009 畝実測。S016 完掘状況実測。S013 土層断面、S016 完掘状況、S018 上層の土層断面状況撮影。

5.18　トレンチ 1・2・3・S018 掘削。調査区外周と撹乱実測。S018 井戸枠切石出土状況撮影。

5.19　SX01 上層・埋土・トレンチ掘削・調査区外周、撹乱実測。

5.20　SX01 北側掘削、柱穴 1 ～柱穴 3 完掘状況撮影。

5.23　降雨のため、現場作業中止。

5.24　SX01 掘削、S018 掘削。SX01 北曲角平面図、レンガ排水施設、SX01 土層断面実測。SX01 北曲角周辺完掘状況、土層断面撮影。

5.25　SX01 北側上層～下層掘削、SX01 南側埋 1 層掘削。SX01、№ 1 骨点上げ実測。S009 遺物出土状況、S175 土層断面、S176 土層断面撮影。

5.26　降雨の為、現場作業中止。

5.27　SX01 埋土掘削、S020 畝溝掘削。S018 断面、SX01 獣骨出土状況実測、駅関連遺構、修正追記。

6.1　SX01 掘削、土層断面・平面実測、S018 井戸清掃、出土状況撮影。

6.6　SX01 掘削、S018 井戸検出状況、調査区中央西土層断面、SX01 獣骨取上げ実測。

6.7　降雨の為、現場作業中止。

6.8　S010 西側完掘、SX01、2 層まで掘削調査。S018・S010 礫出土状況、平面線、西側完掘、S002 西土層断面、東土層断面実測。S016 西側土層、S010 西側完掘状況撮影。

6.9　SX01 南北ベルト土層を残し、北部分と西側部分の 2 層を中心に掘削調査。平面図、獣骨出土状況、南北ベルト土層断面実測。獣骨出土状況撮影。

6.10　降雨の為、現場作業中止。

6.13　調査区水没の為、現場作業中止。

6.14　2 層・3 層掘り下げ、遺物出土・獣骨取上げ。

6.15　SX01 残りの部分掘削、SX01 北側完掘実測、SX01 北側完掘状況・東西トレンチ（北より）土層撮影。

6.17　SX01 土層掘削。完掘状況実測 C-C' ベルト付近、D-D' ベルト付近。獣骨出土状況撮影。

6.18　雨で調査区が水没の為、現場作業中止。

6.22　D-D' ベルト土層掘削、調査区北側、全体清掃、掘削。SX01 遺構完掘平面、獣骨出土状況 3 ～ 7 実測、SX01 完掘状況、獣骨出土状況撮影。

6.23　S024・S025・S026・S027・S028・S033 埋土掘削、SB08・P6 ～ 9・13・15 ～ 21 掘削。S024 土層断面撮影。

6.24　SE09、遺構 0 ～ 70㎝北側掘削。S030 ～ S032 土層断面実測、土層断面 (0 ～ 70㎝) 撮影。

6.27　S035、P17 ～ 21、3 層遺構検出、同掘り下げ、S026・S027・S035、完掘状況、S036 土層断面実測。

6.28　SI03・S039・SI01・SI02 土層トレンチ掘削、SE09 完掘平面遺物平面、S029・S030・S031 土層断面他実測。

6.29　S041・S043 埋土掘削。S047・S044・S046 トレンチ掘削。矢板隙間残部 1 層・3 層掘削調査。S041 遺物出土状況、北西部 3 層遺構完掘状況実測。S038・S043 土層断面撮影。

6.30　S041・S042・S044・S047・S048・S049 埋土掘削、3 層柱穴群埋土掘削調査。北西部道遺構完掘状況、S038・S043・P49 土層断面、S041 遺物出土状況同点上げ実測。S041 遺物出土状況、土層断面、S042・S047・S048 土層断面撮影。

7.1　S050 土層残し掘削、柱穴類半裁及び完掘。SI03・SI02 土層断面実測。S041・S042・S047・S048 土層撮影、柱穴 75 柱痕確認状況、柱穴 95、1 層礫出土状況撮影。

7.4　S041・S042・S047・S048・S044・S049 柱穴群完掘。S041・S047 完掘状況、遺物出土状況同点上げ、S049 土層断面実測。S047 完掘状況、S049 土層撮影。

7.5　S042・S048・S044・S038・S045 その他柱穴群埋土掘削。S041・S049 完掘状況、S044 土層断面実測。S047・S049。S041 完掘状況、S044・S045 土層断面撮影。

7.6　SE10 完掘、SI03 遺物点上げ。

7.7　SI02・SI01・SI03・S052 完掘。SX01 大溝を中心に清掃。柱穴類、SI03 完掘平面、カマド焼土範囲、SE10、SI02、S052 完掘平面実測。SI01、SI02 完掘状況、SI03・S052 カマド状況、完掘状況、SE10 井戸完掘状況撮影。

7.8　遺構の実測、撮影等をチェックし本調査区の発掘調査を終了した。

二本木春日 16 次 3 区

調査期間　平成 27 年（2015 年）11 月 10 日
～平成 28 年（2016 年）1 月 21 日
調査担当　監理　中村幸弘
調査補助　(株) イビソク

11.10　調査区精査、撹乱掘削。
11.11　撹乱掘削。
11.12　遺構掘削（SX01）。
11.13　降雨の為、現場作業中止。
11.16　SX01、包含層 3 層掘り下げ。
11.17　降雨の為、現場作業中止。
11.18　降雨の為、現場作業中止。調査区に隣接して設置していた道具倉庫、仮設トイレを 5 区三軌 JV 用地から 3 区鹿島 JV 用地への調査区変更に伴い移設作業を午前中に実施。
11.19　包含層掘削、北側調査区精査。
11.20　包含層掘削、遺構検出、調査区北側精査、遺構配置図実測。
11.24　撹乱掘削。
11.25　撹乱掘削。
11.26　撹乱掘削。
11.27　撹乱掘削。
11.30　調査区北側検出、遺構配置図実測。
12.1　遺構掘削、撹乱掘削。
12.2　遺構半裁作業。
※降雨により午後から現場作業中止
12.3　調査区北側遺構半裁作業。
12.4　調査区中央部遺構半裁作業、土層断面図作成実測、土層断面撮影。
12.7　撹乱掘削、SX01 掘削、遺構半裁。土層断面作成、SK06・SE11 平面図実測。土層断面写真撮影。
12.8　遺構掘削、完掘、井戸半裁、SX01 トレンチ掘削。土層断面図作成、土層断面写真撮影。
12.9　遺構掘削、SX01 トレンチ、SE11 半裁その他完掘。土層断面図作成、土層断面写真撮影。
12.10　降雨の為、現場作業中止。
12.11　遺構平面図作成。
12.14　遺構掘削。平面図作成、土層断面図作成。土層断面、検出状況撮影。
12.15　降雨の為、現場作業中止。
12.16　SE11 掘り下げ、SX01 トレンチ 2 掘削。遺構平面図作成。S130 検出状況、土層断面撮影。
12.17　SX01 トレンチ 2、SE11 掘り下げ、撹乱掘削。SE11 土層断面、遺構平面図実測。土層断面、完掘状況撮影。
12.18　調査区北側精査。SE11 完掘、SX01 出土状況図、全体遺構図実測。SX01 出土状況、S143・S145 検出状況撮影。
12.21　降雨の為、現場作業中止。
12.22　遺構掘削。平面・土層断面図実測。土層断面、完掘状況撮影。
12.24　遺構掘削。平面・土層断面図実測、土層断面撮影。
12.25　遺構掘削。平面・土層断面図作成、土層断面撮影。
※本日より 1 月 5 日までに JR 輸送繁忙期となる。また年内の現場稼働が今日までとなり、年末年始休暇になることから現場養生、飛散対策最終見回りを行った。
1.5　遺構検出、掘削。遺構平面図実測。遺構検出、土層断面撮影。
※年始の作業開始日であった。調査区南側部分の作業に入っていくが、当初遺構検出から時間が経ていることからまず再検出から行った。
1.6　遺構掘削。遺構平面図実測。遺構検出、土層断面撮影。
1.7　遺構掘削。遺構平面図実測。土層断面撮影。
1.8　遺構検出、掘削。遺構平面実測、土層断面・完掘状況撮影。
1.12　遺構掘削。遺構平面図実測。土層断面撮影。
1.13　遺構掘削。遺構平面図実測。土層断面撮影。
1.14　遺構掘削、撹乱掘削。遺構平面図実測。土層断面、完掘状況撮影。
1.15　遺構掘削。遺構平面図、土層断面実測。土層断面、完掘状況撮影。
1.16　遺構実測。
1.18　全体清掃。
1.19　全体清掃。SE12 掘削。SE12 実測、SE12 土層断面撮影。
1.20　全体清掃。全体写真撮影。
1.21　調査区南壁土層精査。調査区南壁土層断面実測。土層断面、完掘状況、空撮写真撮影。

二本木春日 11 次 3 区

調査期間平成 21 年（2009 年）12 月 7 日
～平成 22 年（2010 年）3 月 17 日
平成 22 年（2010 年）6 月 16
～平成 22 年（2010 年）6 月 24 日
調査担当　岡本真也・多賀晴司・藤崎正人・波多野芳郎・稲葉洋一・上土井朋美

12.7　表土剥ぎ開始。
12.8　表土剥ぎ。遺構検出状況撮影。
12.9　表土剥ぎ後整地。清掃、撹乱掘削。
12.10　降雨の為、現場作業中止。遺構配置図作成。
12.11　降雨の為、現場作業中止。
12.14　南部撹乱掘削、1 層より上の遺構検出。
12.15　遺構掘り下げ。駅舎関連の遺構と判断。
12.16　駅遺構・撹乱除去作業。
12.17　S001 溝、S002 畝群掘削。駅遺構群実測。S003 と切り合い土層状況確認。
12.21　S001、柱穴切り合い掘削。遺構確認用表土剥ぎ。S001 完掘状況（S003 含む）撮影
12.22　1-3 層掘削。S001 畝跡他、駅関連遺構実測。S005 井戸写真、駅関連遺構撮影。
12.25　3 層掘削。
12.28　1-3 層掘削、3 層・3A 層掘削。S008 人骨、歯出土状況実測。
1.5　3 層掘り下げ、清掃、駅関連遺構掘削調査
1.6　遺構検出、遺構範囲確認。S005、獣骨、3 区全体平面図、調査区外周実測。S006 、東壁土層断面実測。遺構検出状況、S005 獣骨出土状況撮影。
1.7　遺構検出清掃。調査区外周、東壁図、南壁図実測。遺構検出状況撮影。
1.8　係会議の為、発掘作業中止。
1.12　遺構掘削、遺構検出、S005 上層掘り下げ、柱穴半裁。南側、東壁面の断面図作成、S005 土層、遺物出土状況実測、S005 上層遺物出土状況撮影。
1.13　雪の為、現場作業中止。
1.14　引き続き現場作業中止。
1.15　遺構掘削、S005 掘り下げ、SE16・S020、半裁調査。柱穴 137･138 断面、東壁、SD08 土層断面、西壁土層断面、S005 実測。S012、柱穴 137、柱穴 101、柱穴 138、S029 検出状況、SE16 井戸土層、検出状況撮影。
1.18　SD08 溝掘削、SD08 骨、遺物出土状況実測。SD08 骨検出状況撮影。
1.19　遺構掘削、SD08 完掘、S005 半裁。SE13、S028 遺物出土状況ほか実測。SE14・SD08・S024・S019・S020・S026 土層断面図及び平面図実測。掘立柱建物、SE13 遺物出土状況、柱穴 98 柱痕、S026・S019 土層断面撮影。
1.20　遺構掘削、S023 掘り下げ、S019、S020、S026 調査。東壁実測、SD08・ST02 平面図実測。ST02 遺物・骨出土状況、S005・S026 土層撮影。
1.21　遺構掘削、S055 掘り下げ、S023 埋土 1 層完掘。S003 井戸実測、SD08・S019・S017 個別図作成、S026 遺物出土状況、平面図実測。S019 遺物出土 SK07・S030 完掘、SE13 遺物出土状況、S023・SD08 完掘状況撮影。
1.22　S041・S037・S020・S035 調査。SE13、SE14・S028・S029 遺物出土状況、S033・SK08 遺物出土状況、SK07・SE13・SE16・S019・S016・S036・S041・S020 人骨片と遺物見通し図、竪穴建物トレンチ部実測。S001 検出状況、S010、ST02 人骨と遺物出土状況、SE16 井戸 3 層上層遺物出土状況、S011 西側検出、柱穴 50 南側、南側井戸撮影。
1.25　降雨の為、現場作業中止。
1.26　遺構掘削。割付図 SE14・ST02 平面、土層断面、S020 遺物取上げ、SE16 遺物取上げ、S040・S026・S035、S036 実測。柱穴列、SE13・S011 出土状況、ST02 完掘状況、柱穴 89･115･97･96 撮影。
1.27　S032 竪穴建物、SE16 井戸調査。S017・S034・S033・S032 土層断面、S037 平面、S020 井戸完掘状況、S037 断面図実測。S017 埋土 1 掘削状況、S037 硬化面検出と土層断面、S020 完掘状況、SE16 井戸枠検出状況撮影。
1.28　昨日の業務を継続。
1.29　昨日の業務を継続。
2.2　S005 完掘、S024 トレンチ掘り下げ、写真清掃、SE13 掘削、柱穴 157、竪穴建物掘削、井戸最下層調査。S037 平面図作成、No1 ～ 3 割付図、1 ～ 5 確認追加修正、S034 平面、S040 平面、硬化面遺物点上げ状況、完掘平面実測。S005 完掘（全体、底面）、掘立柱穴列完掘。S011 完掘状況、S017 土層断面撮影。
2.3　SE13・S005・S046 ～ S048 掘削。S023 埋土 1 層完掘状況、S005 井戸平面図、S037 遺物出土状況、SE16・SE13、掘立柱穴列、平面図、S040・S045 遺物取り上げ図実測。S005 埋土 4 層土礫、SE16・

S037・ブロック柱穴内遺物出土状況、S032 遺物出土状況撮影。

2.4　S032 掘削、SE13・SE18・SE17・S046・S047 井戸調査、S161 平面遺物取上げ、S032 平面遺物取上げ、S017 遺物出土状況実測。S032 完掘、SE13 土馬出土状況、S017 完掘状況、SE16 完掘、SE17 検出、S039 生活面カマド検出状況撮影。

2.5　S047・S049 掘削。S161 土層断面、S032・S037 平面図作成。S046 、壁、東壁断面実測、井戸断面、割付、柱穴、S047 平面図等実測。SE13 完掘状況、SE18 骨出土状況、SE17・SE18 土層断面撮影。

2.8　S023 完掘、S049・S047 掘り下げ、S046・S047 調査。柱穴 161、S023 カマド、S049 出土状況、S047 埋土実測。東側掘立柱穴列断面図、西側断面図作成（一部未完成）。S037 焼土範囲、S031 土層、柱穴 161 遺物出土状況実測。柱穴 161 礫出土、S023 完掘状況、S049 埋土 1、遺物出土状況、S047 完掘状況、SE18 遺物骨出土状況撮影。

2.9　雨天の為、現場作業中止。

2.12　S024 埋土 1 層掘削、S024 カマド掘削、S017・S049 完掘調査。柱穴及び遺構断面図、西側土層断面、SE17・S017・S049 平面、礫取上げ、SE18 遺物・骨点上げ、柱痕土層断面図、柱穴平面図、土層断面図実測。柱穴 172・173 土層断面、SE17・S017・S049 焼土粘土出土状況撮影。

2.15　降雨の為、現場作業中止。

2.16　柱穴 172・173 完掘、SE18・SE17 調査。S037 柱穴断面、S033 平面、SE18（井戸）土層断面図、柱穴土層断面図、竪穴建物跡南北断面、S005 井戸平面図実測。SE18（井戸）・SK08・柱穴 198 土層断面遺物出土状況撮影。

2.17　S024 埋土 1 層完掘、柱穴 198 他完掘、SE17・SE18 調査。S024 遺物点上げ、SE17・SE18・柱穴 198 実測、S024 遺物出土状況、SE17 木出土掘削状況撮影

2.18　SE18 調査、S024 完掘。SE18 平面図、点上げ、SE17 平面図上部のみ、S024 完掘状況、SK08 遺物取上げ焼土範囲、SE18 遺物取上げ実測。SE17 掘削状況、S024 南、東、カマド周辺、SE17 完掘状況、SK08 粘土出土状況撮影。

2.19　遺構掘削、S037 カマド完掘調査、SK08 土層断面、SE18 遺物取上げ、SE13・S051 平面図、SK08・S024 土層断面実測、S043 遺物出土状況撮影。

2.22　S037 カマド、S039、S041、柱穴 159 完掘、西壁土層断面、SE18 遺物点上げ実測、SE18 遺物出土状況撮影。

2.23　SE18・S038・S039・S040 調査。S037・S038・S039・S040 平面実測、S038 遺物出土状況撮影、S039 完掘状況撮影。

2.24　S044・S041 完掘。空撮前の清掃。

2.25　S044、S041 完掘、S052、柱穴 62 の追加割付図実測。SK08 完掘状況撮影。調査区全景撮影。

2.26　降雨の為、現場作業中止。

2.27　現場説明会。135 名の来場者。

3.1　降雨の為、現場作業中止。

3.2　S037 下端追加実測。

3.5　記入漏れ遺構チェック。

3.8　土色入れ他。土層ポイント記入、遺構の記入漏れ確認。

3.9　降雨の為、現場作業中止。

3.10　SE17 井戸掘削・遺物点上げ。SE16、4 層出土礫実測。SE16、4 層礫撮影。

3.11　SE17 完掘。SE17・SE18 平面図、SE16 礫痕実測。SE17 完掘状況、SE18 完掘状況撮影。

3.12　SE17 井戸の土壌洗浄。土器洗い。

3.15　重機にて 3 区埋め戻し開始。

3.16　昨日に引き続き 3 区埋戻し。図面整理、土器洗い。

3.17　本日をもって、当調査区の調査終了。

6.16　表土剥ぎ開始。

6.17　東西拡張部清掃、遺構掘削。遺構平面実測。検出状況・完掘状況撮影。

6.18　降雨のため、現場作業中止。

6.21　東西拡張部遺構埋土掘削。西拡張部グリッド杭打ち及び遺構平面実測。SI05・S064 平面実測。遺構検出状況撮影。

6.22　SE15 完掘、東拡張部遺構埋土掘削。SI05・SE15 、柱穴他実測。SD08（溝）完掘平面、SI05・S067・S068・S070・S074 平面実測。SE15・SI05・SD08・S067 完掘状況、他遺構検出状況・完掘状況撮影。

6.23　東拡張部遺構実測。

6.24　S072・S075・柱穴 322 掘削。S072・S075 底面実測。S072・S075・柱穴 322 完掘状況撮影。本日で東西拡張部終了。

二本木春日 17 次 4 区

調査期間　平成 28 年（2016 年）11 月 29 日
～平成 29 年（2017）年 2 月 28 日
調査担当　監理　文化財保護主事　水上正孝
調査補助　(株) 有明測量開発社

11.29 ～ 12.2　環境整備。
12.5 ～ 12.6　基準点測量、メッシュ杭設置。
12.7　環境設備。遺構配置図作成。
12.8　遺構検出。遺構配置図作成。遺構検出状況撮影。
12.9　遺構掘削、遺構配置図作成。SE21 土層断面撮影。
12.12　遺構掘削、111T1・2 ～ 111K1・2 包含層掘削。遺構配置図、SE21 土層断面実測。SE22 獣骨出土状況、S004 土層断面撮影。
12.13　遺構掘削、111G1 ～ H1 ブロックにトレンチ掘削。S004 土層断面実測。S003 土層断面撮影。
12.14　遺構掘削。遺構配置図、S003 個別実測図作成、SE22・SE23 土層断面図作成。土層断面撮影。
12.15　遺構掘削。遺構配置図・平面図作成。SE22 遺物出土状況、SE21 完掘状況撮影。
12.16　遺構掘削。SE22 完掘状況撮影。
12.19　遺構掘削。C5・6 間包含層掘削、C4・5 間遺構検出、柱穴掘削。平面遺構図実測。S003、S011 完掘状況撮影。
12.20　遺構、柱穴掘削。SI06 土層断面、SI07・SD08 土層断面実測及び撮影。
12.21　遺構掘削、柱穴掘削。SI06 個別実測図、S013 土層断面図実測。SI06 硬化面検出及び遺物出土状況、SD08 完掘状況撮影。
12.22　遺構掘削、柱穴掘削。SI07 カマド部分断面図、平面遺構図実測。SI07 遺物出土及び硬化面検出状況、SI07 カマド部分断面撮影。
12.26　遺構掘削、遺構検出、包含層掘削、柱穴掘削。遺構配置図・平面遺構図・SI07 個別図実測。SI07 カマド残存状況、S014 土層断面状況撮影。
12.27　遺構掘削。柱穴掘削。SI07・S014・S015 土層断面図、遺構配置図、平面遺構図実測。S016 遺物出土状況、S014・S015 完掘状況撮影。
※本日の作業をもって、今年の作業は終了。
1.6　S017 掘削、柱穴 71 ～柱穴 77 掘削。S015 土層断面、遺構平面図実測。S015 土層断面、SI07 完掘状況撮影。
1.10　S017・SD08・SK10・S022 掘削、柱穴 79 ～柱穴 91 掘削。S015・S017・S018・S019・SD08・SK10・022 土層断面図作成。遺構図平面実測。S017・S018・S019・土層断面、SD08・SK10・S022 土層断面、S015・S016 完掘状況撮影。
1.11　SK10・SD08・S017・S023 掘削、柱穴 91 ～柱穴 105 掘削。遺構平面実測、S023 土層断面作成。S022 完掘状況、SK10 遺物出土状況撮影。
1.12　SD08・S017・S023、柱穴 106 ～柱穴 115 掘削。包含層掘削。遺構平面実測、SK10 個別図実測、SD08 土層断面作成、SD08・S023 完掘状況撮影。
1.13　S017 掘削。SK10 個別図実測。S017 完掘状況撮影。
1.16　S018・S019・S025 掘削、遺構検出。SK10 個別図作成、遺構平面実測。遺構検出状況撮影。
1.17　SE19・S018・S019 掘削。S005 土層断面、遺構平面実測。S005 土層断面及び焼土範囲、S018 完掘状況撮影。
1.18　S018・S019・S005 掘削、包含層掘削。調査区南側全景（北から）の写真撮影実施。後日先行引き渡し場所の全景（西から）の撮影予定。
1.19　先行引き渡し場所（C3・4 間、C4・5 間）トレンチ掘削、包含層掘削（C1・2 間）。遺構平面実測。調査区南側（C4・5 間）全景、調査区南側（C3・4 間）全景撮影。
1.20　調査区西壁面清掃、C1・2 間清掃、SE19・SE20・S025・S027 半裁。調査区西壁土層断面、遺構平面図実測。作業管理写真、調査区西壁土層断面、遺構検出状況（C1・2 間）撮影。
1.23　SE19・SE20・S027・S034・S035・S036・S037・S038 掘削、柱穴 151 ～柱穴 168 掘削、図面整理、S027・S034・S035 土層断面撮影。
1.25
SE19・SE20・S027・S034、S035、S036、S037、S038 掘削、柱穴 151 から柱穴 172 まで掘削、SE19・SE20・S027・S036・S037・S038 土層断面図実測。S035 遺物出土状況、S040 土層断面撮影。
1.26　SE20・S027・S038・S041 掘削。土層断面、遺構平面図実測、図面整理、SE19・SE20・S025・S038 土層断面撮影。
1.27　SE19・SE20・S027・S038・S041・S042・S043 掘削、柱穴 173、柱穴 174 掘削。S034・

S037 完掘状況撮影。

1.30　SE20・S027・S044・S045・S046・S047 掘削。S042・S043・S044 土層断面図実測。S027・S042・S043・S044 土層断面、SE19・S025 完堀、SE20 遺物出土状況撮影。

1.31　S035・S038・S040・S041・S042・S046 調査、S041・S046 土層断面実測。S027・S035・S038・S040・S042 完掘状況、S041・S046 土層断面撮影。

2.1　S017・S041・S044・S045・S046・S047 掘削。S045・S047 土層断面実測。SE19・SE20・S041・S044・S046 完掘状況、S045・S047 土層断面撮影。

2.2　S017・S045・S047・S050・S051・S052・S053 掘削、柱穴 181 ～柱穴 183 掘削。S050 土層断面、遺構配置図、遺構平面図実測。S045 完掘状況、S050・S051・S052 土層断面撮影。

2.3　S017・S047・S050・S051・S052・S053・S054・S055 掘削。S052・S056・S054・S055・柱穴 188 土層断面、遺構平面図実測。S052・S056・S054・S055・柱穴 183 土層断面、S047・S050・S051 完掘状況撮影。

2.6　S053・S054・S055・S056・S057・S017・S034 掘削、S053・S017・S018・S019 土層断面、遺構平面図作成。S053・S017・S018・S019 土層断面、S034・S052・S054 完掘状況撮影。

2.7　S017・S053・S056 掘削。調査区（C1・2 間、C2・3 間) 清掃。遺構平面図実測。S053・S055 完掘状況、S057 土層断面撮影。

2.8　S056・S019 掘削、S049・S057 土層断面図、遺構平面図実測。S017 完掘状況、S049 土層断面撮影。

2.9　S019・S049・S056・S057 掘削。遺構平面図実測。S049 完掘状況、S056 内柱穴検出状況撮影。

2.10　S018・S056・S057 掘削。遺構平面図、S057 土層断面実測。S056・S057 完掘状況撮影。

2.13　S018・S019・S058 掘削。遺構平面図実測。

2.14　S059 掘削、調査区（C1・2 間・C2・3 間）清掃。遺構平面図実測。S043 完掘状況撮影。

2.15　SE20 拡張部掘削。調査区全景、C1・2 間完掘状況、C2・3 間完掘状況撮影。

2.16　SE20 拡張部掘削、S060・SI05 掘削。

2.17　SE20 拡張部掘削。遺構平面図実測。

2.20　SE20 拡張掘削。西壁土層断面実測。

2.21　SE20 拡張掘削、S030・S060・S061・S062・S063 掘削。西壁土層断面、SE20 遺物出土状況、S061 完掘状況、西壁土層断面撮影。

2.22　SE20 張部掘削、S056・S060・S030・S062 掘削。SE20 個別図、遺構平面図、西壁土層断面 C1・2 間実測。SE20 土層断面・完掘状況、S030・S062・S063 土層断面撮影。

2.23　S063 掘削、SE20 埋戻し。遺構平面図実測。遺物整理。SK09・S062・S059・S064・S068 完掘状況撮影。

※本日をもって、遺構掘削が終了。

2.24　S063 完掘状況撮影。現場撤収準備。

2.28　現場撤収実施。

二本木春日 13 次 4 区

調査期間　平成 22 年（2010 年）3 月 18 日
～平成 23 年（2011 年）2 月 25 日
調査担当　岡本真也・多賀晴司・大森 紘

3.18　表土剥ぎ開始。

3.19　重機掘削、調査区環境整備。

4.15　表土剥ぎ。重機掘削。

4.16　北側表土剥ぎ、重機掘削。

4.22　降雨の為、現場作業中止。

4.23　1 ～ 3 層清掃、S005 駅遺構掘削。駅関連検出状況撮影。

4.26　S008 検出・掘削、S007 掘削。S008 と駅関連遺構実測。S008・S007 検出状況撮影。

4.27　朝まで降雨の為、現場作業中止。割付図準備等。

4.28　S008 畝掘削、1 層 -3 掘削。S008 畝平面図、中央西側土層断面、S001 壁面断面実測。

4.30　1 層 -3 掘削、清掃。中央西側土層断面、駅関連 1 層割付図実測。

5.6　1 層 -3・3 層掘削、清掃。東拡張部掘削、S001、S003（1 層溝）掘削、撹乱掘削。S008 畝平面、中央南、北土層断面図実測。検出状況撮影。

5.7　降雨の為、現場作業中止。

5.11　1 層 -3・3 層掘削。1 層畝跡（完掘平面）、1 層駅関連遺構完掘平面実測。中央西側土層断面、S008 畝平面実測。土坑墓検出、未掘部分現況、西側土層断面（S001 西側）撮影。

5.12　掘削と清掃。1 ～ 3 層掘削。3 層遺構検出。畝、鉛汚染区域、ST03 土坑墓、S007 レンガ排水升実測。1 層畝跡・駅関連施設 S001・S005・S006 実測。遺

構検出状況撮影。

5.13　3 層遺構精査、トレンチ掘削、遺構掘削。調査区・北東側・畝跡・駅関連施設跡実測、レンガ施設平面、調査区割付図、鉛汚染区域平面実測。S017 ～ S023 切り合い状況撮影。

5.14　SI13・SI14・S018・S013 トレンチ、埋土上層・下層掘削。S025・S026 掘削。S025、1 層畝跡・駅関連施設、調査区外周平面実測。

5.17　SI14・S013 埋土下層掘削、S017 トレンチ・埋 1・2 層掘削、SI10・S018・S021・S022 トレンチ掘削、S025・S026 掘削。調査区外周・S013 土層断面、S025 平面・断面・点上げ、S026 平面・断面実測。S013 土層断面・遺物出土状況、SI14 土層断面硬化面検出状況、S025 遺物出土状況・断面、S026 骨検出状況・断面撮影。

5.19　降雨の為、現場作業中止。

5.20　S025･S026 遺構確認･半裁。S016 ベルト外し、SI10・S018・S021・S022 埋 1 層掘削、S017 埋 2 層掘削、S013 ベルト外し。S025・S026 遺物出土状況・平面 SI14 土層断面実測。

5.21　S025・S026 遺構柱穴掘削。S017 埋 2 層掘削、SI10 埋 1 層・埋 2 層掘削、S022 埋 1 層掘削。S025･S026 遺物出土状況点上げ、4 層検出柱穴半裁、SI14 土層断面図、S013 遺物出土状況・硬化面範囲・遺構外形実測。S025・S026 遺物出土状況、S027 検出状況土層断面撮影。

5.24　割付図 1-1 ～ 16-1 実測。S013 遺物点上げ、S022 土層断面、SI14 遺物出土状況、遺物点上げ実測。調査区外壁土層断面撮影。

5.25　S022 埋 1 層掘削、SI14・S013 土柱崩し、調査区外壁清掃、平面掘削、遺構確認。調査区外周実測。割付図 15・16-2 終了。

5.26　S017 埋 2 層掘削、SI09・S018 埋 1 層掘削、S028 埋土掘削、SI14 ベルト・カマド掘削。S018 遺物実測点上げ、S017 土層断面実測。住居上下端、柱穴上下端、土層断面図実測。柱穴 21・柱穴 22 土層断面実測・撮影。

5.27　S017 清掃、SI09・S018 掘削、S013 完掘、SI14 カマド付近掘削。S017 土層断面。S018 遺物出土状況･点上げ実測。調査区東側土層断面、住居断面、柱穴他、S027 完掘状況 SI14 カマド掘削状況、撮影。

5.28　S017 ベルト外し、S028 掘削、4 層検出柱穴完掘、ST04 土坑墓、SI14 カマド覆土掘削、S013 完掘。S017 土層断面注記、SI10・S028 遺物出土状況、土層断面実測。S022 完掘状況及び遺物出土状況、ST04 人骨出土状況・遺物出土状況、S030 土層断面、S013・S022 完掘状況、柱穴 97・98 切り合い断面状況、ST03 撮影。

5.31　S028 ベルト外し、柱穴半裁、S017 カマド掘削。SI13・ST03 周辺精査・トレンチ掘削。埋土検出柱穴半裁。SI14・S030 掘削。ST03 土層断面・遺物見通し・完掘実測図、S022 完掘平面図、S030 土層断面実測。S017・S031 カマド検出状況、SI14 カマド掘削状況撮影。

6.1　SI10 掘削・プラン検出、柱穴半裁・完掘他。S017 カマド半裁、SI14 カマド完掘。S025 井戸切り合い確認・トレンチ掘削、S007 掘削。SI13 周辺 3 層柱穴埋土・トレンチ掘削。S013 内柱穴、他柱穴平面、SI11 遺物平面、S029 遺物平面点上げ実測。SI14 カマド完掘状況、SI13 埋 1 層出土遺物点上げ実測。S029 検出状況、S017 遺物出土状況・カマド半裁状況、S034 検出状況及び柱穴 112・113 断面、S030 完掘状況、SI14 カマド完掘状況撮影。

6.2　現場休業

6.3　SI13 周辺柱穴埋土掘削（J7・76、K75) トレンチ掘削。ST04・S025 掘削。SI13 周辺柱穴完掘状況（J75・76、K76）実測。SI14 平面、S025 出土状況 S030 他割付図実測。SI13 周辺柱穴完掘状況（J75・76、K75)、SI14 完掘状況、S007 掘削状況、ST04 ～ S026 切り合い断面、柱穴遺物出土状況撮影。

6.4　SI10・S034・S017・柱穴完掘。S025 井戸・S026 掘削。S028 礫取上げ、SI10・S018 遺物出土状況・平面断面実測。S025 平面図、S026 遺物出土状況、SI14 平面図割付図実測。柱穴遺物礫出土状況、SI10 遺物出土状況・完掘状況、S025 完掘状況撮影。

6.8　S031 カマド完掘、S029 完掘、SI13 埋 1 層掘削、SI13 埋土 3 層柱穴半裁。S018 遺物実測・点上げ、S029 完掘状況、S034 平面、S026 遺物出土状況、SI14 完掘状況、3 層検出、柱穴完掘状況、柱穴 121・122 土層断面実測。S029 完掘状況、SI11 遺物出土状況、S026 遺物出土状況、S033 断面、柱穴 121・122 土層断面撮影。

6.9　SI09･SI11･S018･S036 掘削、その他柱穴掘削。SI13 埋土検出、3 層柱穴掘削。S026・S037・S033 掘削。SI11・S036 遺物出土状況・取上げ、S021 遺物出土状況、SI10 遺物取上げ、S017 拡張部実測。3

層柱穴完掘状況、S026 点上げ実測。S036 遺物出土状況、S017 完掘状況、S031 検出状況、柱痕有る柱穴断面撮影。

6.10　SI11 完掘、SI09 掘削、その他柱穴掘削。SI13 埋 1 層掘削、SI13 周辺柱穴埋土掘削。S026 掘削。SI10 完掘状況、S017 完掘状況、S031 検出状況、SI13 周辺柱穴完掘状況、S026 礫出土状況実測。S036 下層遺物出土状況、SI10 完掘状況、SI10 鉄器出土状況、S026 礫出土状況撮影。

6.11　S018、1 層、S031 掘削、その他柱穴類掘削。SI13・S026 埋 1 層・埋 2 層掘削、SI13 埋 2 層検出・3 層柱穴掘削。S017 完掘状況実測。S026 完掘状況、SI14 完掘状況実測。SI13 周辺 3 層柱穴完掘状況、SI13 遺物出土状況・点上げ実測。SI09・S018 遺物出土状況、S026・S037 完掘状況、SI13 遺物出土状況撮影。

6.14　SI11・S031 清掃。S018・S039 掘削、S021 カマド、S031 カマド掘削。SI13 周辺 3 層柱穴埋土掘削。S031 遺物出土状況、S021 カマド断面、SI09・S018 遺物出土状況、柱穴・SI11 完掘状況実測。S025・S026・S037 平面断面実測。SI13 周辺 3 層柱穴完掘状況、SI13 平面個別図実測。S031 カマド断面・遺物出土状況・完掘状況・SI11 完掘状況・SI09・S018 土層断面、SI13 土層断面撮影。

6.15　降雨の為、現場作業中止

6.16　S018 ベルト・S039 掘削。SI09・S018・S021 遺物、SI09 土層断面、S039 遺物出土状況、S018 土層断面実測。SI13 周辺 3 層柱穴完掘状況実測。S039 遺物出土状況撮影。

6.17　SI13 ベルト埋 1 層掘削。SI13 カマド埋土樹痕掘削。SI13 周辺 3 層柱穴完掘状況、SI13 カマド粘土塊検出状況、柱穴 239・103 遺物出土状況撮影。

6.24　SI13 埋 2 層掘削、SI09・S018 床面掘削。SI13、周辺 3 層柱穴遺物出土状況点上げ実測。S018 完掘状況、SI09 カマド検出状況撮影。

6.28　降雨の為、現場作業中止。

6.29　降雨の為、現場作業中止。

6.30　降雨の為、現場作業中止。

7.1　空撮の準備。SI13 カマド粘土検出状況・遺物点上げ実測。

7.2　SI13 カマド埋土掘削。S007 断面、SI13 カマド粘土範囲・断面追記・支柱点上げ実測。空撮全景、SI13 カマド支柱出土状況撮影。

7.5　土器洗い、図面整理。

7.6　降雨の為、午前中土器洗い。SI13 カマド埋 1 層・埋 2 層掘削。SI13 埋 2 層残部掘削。SI09・S021・S018 完掘状況、周辺柱穴平面図等実測。SI13 カマド遺物出土状況・粘土塊掘削状況実測。カマド遺物出土状況及び埋土掘削状況撮影。

7.7　SI13 清掃。SI13 完掘状況、駅関連遺構レンガ造り暗渠、S007 平面断面、S033 断面実測。

7.8　SI13 硬化面剥がし、SI13 周辺 3 層柱穴掘削。SI13 使用時完掘状況実測。柱穴 233 再実測。柱穴 249・250 完掘状況実測。

7.9　SI13・SI14 周辺清掃。引き渡し準備。SI13 掘形完掘状況実測。SI13・SI14 完掘状況撮影。土器水洗い。

7.12 ～ 16　土器水洗い。

12.13　降雨の為、現場作業中止。

12.14　重機による拡張部分表土剥ぎ。作業員初出勤。午後北岡神社横から 5 区へプレハブ・トイレ移動。

12.15　拡張部分調査面清掃、排土場・排水処理関係整備。2 日前の豪雨による泥水排除。

12.20　中央から南側溝跡の検出、発掘。1 層掘り下げ。S008 検出状況撮影。

12.21　矢板際の土壌除去発掘。15:00 から降雨のため作業中止。

12.22　清掃、撹乱穴掘り、溝発掘。

12.24　S004、S008、他西拡張部発掘。北側、溝群 S008 と S004 検出状況。S008 完掘状況と S004 の深さ 50㎝まで掘り下げ状況の撮影。

1.5　遺構確認。遺構検出状況撮影。

1.6　清掃後発掘。土管跡溝の掘り下げ。

1.7　畝溝と他の溝の発掘。水準測量、基準杭設置委託成果簿の確認。畝溝群と矢板跡撮影。

1.11　東拡張部溝掘削。他清掃、遺構確認。西拡張部遺構確認。東拡張部平面図作成。

1.12　1 層掘削、溝の発掘、トレンチ清掃、ベルト除去。

1.13　遺構検出、S007 発掘。平面図作成。遺構検出状況撮影。

1.14　S044・S045 発掘。溝跡・撹乱等の平面図作成。

1.17　S044・S045 発掘。平面実施。

1.18　S047・S045・S044 遺構調査。平面実測。

1.19　土管溝の完掘。S007 鉄道関連のレンガ積遺構掘削、S044・S045 完掘。遺構平面図測量、S008

溝群と撹乱等実測。1 層完掘状況撮影。
1.20　3 層発掘、遺構検出。平面実測。遺構検出状況・一括遺物出土状況撮影。
1.21　3 層発掘、遺構検出。4 層上面検出状況撮影。
1.24　研修のため現場作業中止。
2.3　遺構検出及び発掘。平面実測、検出状況撮影。
2.4　主に竪穴建物 (SI08・SI12・S053) の発掘。
2.7　3 層、S042 調査、SI08・SI12 断面実測。SI08・SI12・S053 土層断面、西拡張部（3 層下）4 層上検出状況撮影。
2.8　竪穴建物と柱穴調査、掘削及び撮影。
2.9　竪穴建物と柱穴、井戸その他調査。竪穴建物と柱穴、平面図実測。
2.14　降雨の為、現場作業中止。図面等チェック作業。
2.15　遺構・柱穴掘削。割付図・個別図作成。
2.16　井戸・柱穴調査、獣骨検出。遺構平面図作成。
2.18　柱穴発掘。獣骨、井戸調査。柱穴群、獣骨出土状況実測。柱穴及び土層断面撮影。
2.21　井戸 SE24 調査、獣骨取上げ。東拡張部完掘写真準備のため清掃。柱穴断面図、井戸 SE24、獣骨出土状況実測。
2.22　柱穴、溝及び井戸 SE24 調査。S060 完掘。遺構の個別図、断面図実測。S060 完掘状況・東拡張部完掘写真撮影。
2.23　柱穴 376・381 掘削。井戸 SE24 完掘。竪穴建物、柱穴、樹痕実測。SE24 完掘状況撮影。
2.24　西拡張部写真撮影のため清掃。割付図、個別図作成。西拡張部完掘写真、S059・S061 の完掘状況撮影。
2.25　調査区掘り残し並びに実測図チェック。
本日をもって、4 区発掘、写真、測量すべて終了。
機材等撤収も終了。

二本木春日 16 次 5 区

調査期間　平成 27 年（2015 年）8 月 7 日～平成 27 年（2015 年）10 月 31 日
調査担当　監理　中村幸弘
調査補助　(株) イビソク

8.7　表土剥ぎ。
8.10　表土剥ぎ。
8.11　表土剥ぎ、トレンチ掘削。ブロック 110-M19Grid 包含層掘削。
8.12　降雨の為、現場作業中止。
8.13　包含層掘削（M18・19、N17 ～ 20Grid）
8.14　包含層 3 層掘削（O18・19Grid）。包含層遺物出土状況 No1 ～ No7 実測。獣骨出土状況撮影。
8.17　人力掘削は降雨の為、中止。表土掘削。
8.18　包含層（3 層）掘削（O18・19Grid）。
8.19　人力掘削は降雨の為、中止。表土掘削。
8.20　包含層（3 層）掘削（P18・19Grid)。
8.21　包含層掘削、トレンチ掘削。
8.24　包含層掘削（P19Grid）、4 級基準点設置及びメッシュ杭設置。台風 15 号接近に伴い、ブルーシートを撤収。飛散物や残材がないように台風養生を行った。
8.25　台風 15 号上陸により作業中止。
8.26　包含層（3 層）掘削（Q16・17・R16Grid）。
8.27　包含層（3 層）掘削（Q18Grid）。
8.28　包含層（3 層）掘削（Q19・R17Grid）。
8.31　降雨の為、現場作業中止。
9.1　包含層が厚く堆積しているために今後の作業と工程を考慮し作業員を増員。
9.2　包含層（3 層）掘削（S14Grid）、撹乱掘削。
9.3　包含層（3 層）掘削（S16・T14 ～ 16Grid）
※ JR、三軌ＪＶ、鹿島ＪＶ、県文化課、県高架推進室及び (株) 島田組、(株) イビソクとの会議があった。議題は現在の進捗状況と 9 月 7 日の表土掘削について。
9.4　包含層（3 層）掘削（R17・18・S17・18Grid）。
9.5　撹乱掘削。
9.7　包含層（3 層）掘削（T16・A15・16・B15・16Grid）。
9.8　包含層（3 層）掘削
9.9　遺構検出。遺構配置図作成。

9.10　遺構掘削。
9.11　遺構検出。遺構配置図作成。
9.14　遺構掘削。
9.15　遺構検出・掘削。遺構配置図作成。S001、S006 ～ 011 土層断面撮影。
9.16　遺構掘削･半裁。13 時過ぎより降雨の為､シート養生後作業を中止。
9.17　遺構掘削（半裁）、撹乱掘削。遺構土層断面図作成。遺構土層断面撮影。
※ 13:30 より JR 工程会議を行う。現在までの進捗と今後の見通しについて。参加者、JR、県文化課、県高架推進室､鹿島ＪＶ､三軌ＪＶ､(株) 島田組､(株) イビソク。
9.18　遺構掘削（柱穴半裁、トレンチ掘削）。遺構土層断面図作成。遺構土層断面撮影。
9.24　S100 トレンチ掘削､精査。柱穴土層断面実測。柱穴土層断面撮影。
9.25　S100 トレンチ掘削、検出。柱穴土層断面図作成。柱穴土層断面撮影。
※月曜日に県文化課の中村氏の検査を受けて記録の作成を行う予定。
9.28　柱穴半裁､完掘。S100 トレンチ土層断面実測。柱穴土層断面撮影。
※調査工程会議が 14:00 から開催。
9.29　柱穴半裁、完掘。SI18・S120 掘削。S100 トレンチ実測。S100 トレンチ土層断面撮影。
9.30　SI18・SI20・S120 掘削。柱穴土層断面実測、S100 トレンチ土層断面撮影。
※ 15:00 で降雨の為、作業終了。
10.1　降雨の為、現場作業中止。
10.2　遺構掘削。柱穴土層断面、遺構平面図実測。柱穴土層断面撮影。
10.3　遺構実測。
※工期が今月末の為に土曜日は実測日とする。
10.5　SE25･SE26･S150 他柱穴半裁。柱穴土層断面、SE25・SE26・S150 平面図実測。柱穴土層断面撮影。
※県文化課中村氏が休みの為に岡本氏が代理で監督を行う。
10.6　SI18・SI20 竪穴建物跡掘削、SE25・SE26・S150 井戸跡掘削。SE25・SE26・S150 他柱穴土層断面図実測。SI18・SI20 平面図実測。
※遺構数や工期の関係から平面図の記録が危ぶまれた為、期間限定で社員を 1 人増員した。
10.7　SI18・SI20 竪穴建物跡完掘、他柱穴完掘。SE25・SE26・S150 半裁部掘削。柱穴土層断面図、遺構平面図実測。柱穴土層断面撮影。
10.8　SI15・SI21 掘削、 SE25・SE26・S150 他柱穴完掘。柱穴土層断面図、遺構平面図実測。柱穴土層断面撮影。
10.9　SI15･SI21 掘削、柱穴完掘。柱穴土層断面図、遺構平面図実測。柱穴土層断面撮影。
10.10　遺構実測。
10.13　SI15・SI21 完掘、他柱穴完掘。柱穴土層断面図、遺構平面図実測。土層断面撮影。
※ 14:00 から調査工程会議。5 区に関しては 10 月 30 日までの作業。
10.14　SI22・SI23 掘削、柱穴完掘。柱穴土層断面、遺構平面図実測。柱穴土層断面撮影。
10.15　SI23・S268・S269 掘削。柱穴土層断面、遺構平面図実測。土層断面撮影。
10.16　遺構掘削。柱穴土層断面図､遺構平面図実測。柱穴土層断面撮影。
10.17　遺構実測。
10.19　SI19・S269・S284 掘削。柱穴土層断面図、遺構平面図実測。柱穴土層断面撮影。
10.20　SI19、SI23 掘削。柱穴土層断面図、遺構平面図実測。柱穴土層断面撮影。
10.21　S314 半裁、その他柱穴完掘。遺構平面図実測。柱穴土層断面撮影。
10.22　遺構掘削(S314 半裁終了)。遺構平面図実測。遺構個別写真撮影。
10.23　SE27・SE28・S314 井戸跡掘削。遺構平面図実測。遺構個別撮影。
10.24　遺構実測。
※現地遺構実測作業を行う。
10.26　S001・S369 掘削。遺構平面図実測。遺構個別撮影。
10.27　S001・S369 掘削。遺構平面図実測。
※降雨の為、15:00 で作業を中止。
10.28　全体清掃。
※ 16:00 より調査工程会議。5 区調査区（R264）は 31 日に引き渡し予定であったが、31 日土曜まで現場に入ってもよいとのこと。
10.29　全景写真撮影。
10.30　S001・S120、包含層掘削。調査区西壁土層断面実測。遺構個別撮影。

10.31　遺構実測。
※５区最終日であり、図面チェックと追加作業を行い５区終了した。

二本木春日 11 次 1 区

調査期間平成 21 年（2009 年）6 月 12 日
～平成 21 年（2009 年）9 月 18 日
平成 23 年（2011 年）4 月 26 日
～平成 23 年 6 月 29 日
調査担当　岡本真也・多賀晴司・大森　紘

平成 21 年

6.12　表土剥ぎ開始。
6.15　清掃、表土剥ぎ。
6.16　表土剥ぎ終了。
6.17　環境整備。
6.18　3 層掘削。掘り下げ調査。
6.19　3 層掘削。全体図実測。
6.23・24　降雨の為、現場作業中止。
6.24　掘り下げ後、清掃。全体図実測。
6.25　1 層掘り下げ。
6.26　1 層掘削、掃除。1 層遺構掘削開始。
6.30　降雨の為、現場作業中止。
7.1　降雨の為、現場作業中止。
7.3　東側トレンチ掘削、S003 他溝掘り下げ。1 層の溝実測。
7.7　S001 ～ S008 完掘。S007・S008 平面図実測。S007 完掘状況撮影。
7.8　掘り下げを中心に作業。S001 ～ S008、1 層の溝実測。S001 ～ S008 撮影完掘状況撮影。
7.9　掘り下げ。北東より 11m の土層断面、S001 ～ S008 平面図実測。
7.10　降雨の為、現場作業中止。
7.13　掘り下げ、清掃。東側西側壁土層断面、S001 ～ S008 平面実測。
7.14　遺構集中区掘り下げ、遺物取り上げ。断面実測ポイント入れ、西側土層断面図、遺構平面実測。
7.15　遺物取上げ、東壁トレンチ掘削。東西土層断面実測。遺構検出状況・遺物出土状況撮影。
7.16　掘り下げ、清掃。東側・西側トレンチ掘削。遺物点上げ、土層断面図実測。
7.17　遺物集中区点上げ。
7.21　降雨の為、現場作業中止。
7.22　降雨の為、現場作業中止。
7.23　清掃、遺構検出。SE31、1/4 対面掘り下げ。遺構検出状況撮影。
7.27　降雨後の現場水抜き作業を実施。
7.28　降雨の為、現場作業中止。
7.29　清掃、遺構掘削。
7.30　ST09 他調査。ST09・ST06・S016 平面、S018 土層断面実測。ST10 遺物出土状況・土層断面、ST09・ST06 土層断面、ST08 遺構検出状況撮影。
7.31　SI26・ST10・S018 掘削。ST08 半裁、S024 調査。SD25・S012・S013・S024 平面図、ST08 断面図、S016・SI26・S018 平面、土層断面、ST10 平面断面見通し図実測。
8.3　昨日の業務を継続。
8.4　ST09・S018 遺物洗い、柱穴 6・7・10 半裁、遺構掘削。SD26・S030・S031 掘削開始。SD16・SD17 平面、SD24・ST09 平面、完掘遺構出土状況実測。溝群を含む遺構検出状況、SD25・S012・S013 完掘状況撮影。
8.5　SD26 掘削、柱穴 5 完掘。遺構平面実測。遺構検出状況（全体）、柱穴 4 ～ 7 断面検出状況、ST09・ST06・ST08 遺物出土状況撮影。
8.6　遺構掘削。東壁土層断面、遺構平面図実測、ST08 完掘状況撮影。
8.7　S018（竪穴建物）硬化面掘り下げ、SE31（井戸）掘り下げ、S016 掘り下げ。SE31 土層断面・平面、S018 土色入れ実測。S018 硬化面・遺物出土状況、SE31 土層断面撮影。
8.10　SE31 掘り下げ。S016 完掘、S021 ほぼ完掘。SD26・ST07 実測。東土層断面、S018 平面実測。ST07・S036 完掘状況撮影。ST10 遺物出土状況、S016 土層断面撮影。
8.11　SE31 井戸 3 層掘り下げ、SK12・S041・S045 掘り下げ、S009 溝掘り下げ、S036 完掘。S018 遺物出土状況・点上げ、ST10 遺物出土状況、S016 土層断面、ST07・S036 遺物出土状況実測。SE31 井戸土層断面、SK14・S046 遺物出土状況、S036・S041 完掘状況及び土層断面撮影。
8.12　降雨の為現場作業中止。S31・S016 土層断面実測。
8.13　現場説明会準備。

8.17　S018 竪穴建物最下層・SE31 井戸 5 層下掘り下げ、S016 完掘。ST10 遺物点上げ、S048 遺物出土状況実測。S040 完掘状況・土層断面、S036 周囲検出状況、SD15 土層断面、SE31・S045 遺物出土状況撮影。

8.18　SD15・S048 他各遺構掘削。SK14・S050 遺物出土状況、SE31 土層断面実測。SE31 、5 層下土層断面・遺物出土状況撮影。SD15 南側土層断面、S048 検出状況撮影。

8.19　SD15・SD12 掘削。SD15 断面平面実測。SD15 完掘状況、SD12 検出状況、SK12 遺物出土状況撮影。SI24・S018 遺物出土状況・完掘状況撮影。

8.20　SD15・SK12・SE30・S048・S052 完掘。SK12 遺物点上げ、S052 土層断面・完掘状況実測。SD15・SD12 実測。ST09・ST06・ST07 完掘状況、SD23・SD22 完掘状況、S048 土層断面撮影。S05・S056 遺物出土状況撮影。

8.21　SE31・SE30 井戸・S054 竪穴建物床面掘削。S048 実測終了。SD15 点上げ終了。S056・S052、遺物平面、S018 完掘状況実測。ST05 骨検出状況、S048 完掘状況撮影。

8.24　SSE29 掘削、SE31 完掘。他掘り下げ及び遺構検出。SE29 土層断面・遺物出土状況、SK12・SE30 土層断面、SI14 遺物出土状況実測。ST05・S060 完掘状況、SE30 井戸上層遺物出土状況撮影。

8.25　遺構掘削 SE30 井戸平面、S054 硬化面 ST05 土層断面実測。S056 土層断面、ST10 人骨下床面柱穴検出状況撮影。

8.26　遺構集中区掘り下げ、SE30 掘り下げ、S006・SK12・S063 完掘。SD15 修正、SK12 遺物出土状況、SE29 土層断面実測、SE12・S063 完掘状況撮影。S079 遺物出土状況、SE32 検出状況撮影。

8.27　SD29・S082 埋土掘り下げ、S073 埋土 1 層下げ。SD13・S073 平面図実測。

8.28　調査を継続しながら、明日の現場公開準備。

8.29　現場説明会。

8.31　井戸 SE29、SD27 調査。遺構平面・点上げ、遺物出土状況実測。SE29 遺物出土状況撮影。

9.1　S067 調査。S009 平面断面、SE29・SD27・S075 遺物点上げ実測。S090・S091、遺物出土状況、SD13・SD14・ST05・S059・S062 完掘状況、SD27・S076・S078・S089 完掘状況撮影。

9.2　柱穴 14 完掘、柱穴 9･10･12 半裁、S100 完掘。SI24・SE30 完掘。柱穴 9・10・12・14、SI24 土層断面実測。SD27 断面検出状況、SI24・SE30 完掘状況撮影。

9.3　柱穴類完掘、S103 半裁。柱穴・他遺構平面、S050・S010 平面実測。S103 土層断面実測。S075・S103 土層断面撮影。

9.4　柱穴遺構掘削。SD27・S075・S076・S073 土層断面、SE29 遺物点あげ、S010・S050・S045 平面断面実測。ST05 遺物出土状況・土層断面、柱穴 12 遺物出土状況、S067･S097 ～ S099 完掘状況撮影。

9.7　遺構掘削、SE29 完掘。SE30 平面実測。SE29・S103 遺物出土状況撮影。

9.8　遺構集中区調査。SD29・S103 遺物点上げ、SE32・SI24 完掘状況実測。S076 土層断面写真、SK14・SK15・S050 カマド・S110 撮影。

9.9　SI27 ～ SI31・S117・S118・S120 掘削。S076 土層断面、SK14・S050 遺物出土状況、SK15 土層断面実測。竪穴建物切り合い状況、SK15 土層断面 S050 撮影。

9.10　竪穴建物群平面・遺物点上げ、SE31 集中区平面土層断面、SE30 平面土色入れ、遺物平面実測。

9.11　SI27 ベルト外し、SI24 完掘平面図、集中区土層断面、東西土層入れ実測。

9.14　調査区壁断面実測。

9.15　遺構集中区の平面、遺物点上げ実測。

9.16　空撮準備。

9.17　SE31 平面、溝・竪穴建物調査・実測。

9.18　S128･S129 追加、SI27 実測修正。本日をもって当区の発掘調査は終了。

平成 23 年

4.26　東西拡張部重機掘削、表土剥ぎ。

4.27　表土剥ぎ、粗作業。

4.28　表土剥ぎ後、環境整備。

5.9　東拡張部・西拡張部、環境整備。

5.13　東拡張部・遺構掘削。

5.16　西拡張部精査。

5.17　清掃、遺構検出。3 層上検出状況撮影。

5.18　遺構掘削、検出、3 層掘り下げ、SD15・SD16・S146・S062 埋土掘削。S146 土層断面撮影。

5.19　SD26 遺構掘削、3 層掘削。割付図・個別図実測。

5.20　遺構検出。4 層上遺構完掘状況実測。検出状

況撮影。

5.24　S177･S171･S010 埋土掘削、S171 遺構掘削、検出。S010、東拡張区 2 ～ 3、4 層上遺構完掘撮影。

5.25　S009 出土状況、S175･S176 断面、S177 断面、S095 検出状況撮影。

5.27　遺構掘削。S009・P58・P95・S176 実測。東拡張区完掘状況撮影。

5.30　S172・S183・S184・S185・S186・S187・S188・S189 調査。各遺構群平・断面図実測。カマド断面撮影。

5.31　東拡張部遺構確認調査。南部完掘状況撮影。S186 完掘状況、S174・S189 カマド検出状況点上げ実測。

6.1　東拡張部 4 ～ 5 測量・実測。S189・S186、S192 床面検出状況撮影。

6.2　西拡張部遺構実測。S204・S044 遺物点上げ。

6.6　S198 ほか、埋土掘削、溝等調査。S192 、遺物出土状況、S192 ほか完掘状況、S203 ほか、カマド、S201・S208 埋土掘削、包含層掘り下げ、柱穴掘削調査。S207 カマド遺物点上げ、同完掘状況、S191・S192 土層断面、S201・S208・S211・S212・S198･S199 完掘状況実測。S107 遺物出土状況撮影。

6.9　S207 埋 2 層、S221・S223・S168 埋土掘削、遺構検出、柱穴半裁、トレンチ、掘削等調査。S211、ほか完掘状況、S201 ほか実測。遺構完掘状況撮影。

6.14　遺構掘削調査、西拡張部測量･調査。東拡張部、遺構掘削状況撮影。

6.15　降雨の為、現場作業中止。

6.17　東西拡張部掘削終了。断面実測。S225 完堀状況撮影。

6.21　S225・S235 実測。

6.22　清掃。

6.23　西拡張部、南壁土層断面実測。

6.24　東西拡張部断面図作成。

6.25　東拡張部断面図作成。

6.29　図面チェック、東西拡張部終了。

二本木春日 16 次 6 区

調査期間　平成 27 年（2015 年）12 月 1 日
～平成 28 年（2016 年）2 月 8 日
調査担当　監理　中村幸弘
調査補助　(株) 島田組

12.1　6 区の表土剥ぎ開始。

12.2　表土剥ぎ 2 日目。
※降雨により午前中で作業を中止。

12.3　昨日からの雨で残土処理上が稼働していないため、本日の表土剥ぎは中止。

12.4　表土剥ぎ 3 日目 。

12.7　表土剥ぎ 4 日目、人力掘削開始。

12.8　表土剥ぎ最終日、撹乱の掘り下げを開始。

12.9　撹乱の掘り下げを継続。

12.10　朝からの降雨により現場作業は中止。

12.11　昨日からの雨により、午前中は土嚢作りと崩落した壁面の清掃を実施。午後からは南端の範囲を避けて遺構検出を実施。溝状の遺構と方形の遺構を検出。

12.14　調査区南端の撹乱を引き続き掘り下げを継続。周辺の調査面を広く表土が覆っており、全体を薄く掘り下げ開始。方形遺構 S401・S402 の調査を実施。

12.15　昨夜からの雨により午前中は休工。
午後から調査を再開。調査区南端の撹乱を引き続き掘下げ。順次北に向かって、撹乱の掘り下げを継続。方形遺構 S401・S402 の 5㎝程度包含層を掘り下げたところで S402 の輪郭を検出。

12.16　調査区南端の撹乱周辺において再度検出をかけたところ、焼土を伴う土坑の形、方形の遺構、溝状の遺構等、数個の遺構が検出された。それに伴い、中途で掘削を停止していた撹乱を改めて底面まで掘り下げることにした。方形土坑 S401 の段下げの結果、下層から幅 1m 程度の溝 S412 を検出。
･溝 S404･S405･S410 を土層残して掘り下げ、完了。小柱穴・S406・S409 を半裁。

12.17　遺構掘削　方形土坑 S402、方形土坑 S415、方形土坑 413 掘下げ。溝 SD09 の掘り下げを南端から開始、併せて、溝 S430 を掘り下げた。
・ブロック 125-I、J の検出状況、溝 S405・S410・S411 の土層断面、方形土坑 S413、小柱穴の土層断面の写真撮影を実施。

12.18　方形土坑として掘り下げている S401 は包含層の落込みの可能性あり。掘り下げ面からは先日検出された溝 S412 のほかに溝を 2 条検出。方形土坑 S415 土層を残して掘り、溝 SD09、方形土坑 S438、溝 SD26、方形土坑 S422、円形土坑 S433 を掘り下げた。ブロック 125-K の小柱穴の半裁を実施。S415 の土層断面、ブロック 125-K の小柱穴群の土層断面を撮影。

12.21　昨夜から続く雨により現場は作業中止。

12.22　遺構掘削　S402 から南側にかけて順次包含層を掘り下げ。溝 SD09 は南端のブロック 125-M、N を終了。方形土坑 S442 は一段下げの状態で遺物を点上げし、面を再度精査。SD26・SD12・S450・S451 の掘り下げを開始。S442 の遺物出土、ブロック 125-F-12 周辺及び 125-G-10 検出状況、ブロック 125-J-L 小柱穴の土層断面を撮影。

12.24　溝 SD26・SD12 の掘り下げを継続。方形土坑 S444 を掘り下げ完掘。溝 S445 の掘り下げを開始。方形土坑 SK13 を掘り下げ、土層を残し終了。溝 S449・S454、土坑 S454 を掘下げ、出土状況写真にむけて清掃を開始。溝 SD12・SD11・S457・S459 の掘り下げ開始し土層を残し終了。溝 SD09・S412・S439・S453・SD12・柱穴 S422、土坑 SK13 の土層断面の撮影。

12.25　遺構掘削　溝 SD12 を掘り下げ、土坑 S454 及び周辺の溝 SD12、落込み S402 の遺物の調査を実施。引き続き溝 S459・溝 S445 掘り下げ、切り合う部分をのこして完掘。溝 S449 を完掘。溝 SD09・SD15、円形土坑 S462 の掘り下げを開始。

・土坑 S454、溝 SD12 の遺物出土状況を撮影。西壁の北側部分の土層断面を撮影。

※年内の作業は本日まで、道具の清掃を行い片づけ養生を実施。年明けは 1 月 5 日から現場作業を開始する予定。

平成 28 年（2016 年）

1.5　今日は新年最初の現場作業。片づけていた道具を準備、現場養生の復旧のうえ調査開始。

溝 SD09 の掘り下げを開始。SD12・S456 と並行して東側に並ぶ溝。溝 SD28 を完掘。溝 S464 を引き続き掘り下げ。土坑 SK13 の掘り下げを開始。撹乱床面から SD09 と見られる溝のほか、東側に平行してもう 1 条の溝が確認。

溝 SD28・S450・S457 の土層断面の撮影、小柱穴 S465 の土層断面の撮影を実施。

1.6　遺構掘削　土坑 SK13・溝 SD12、土坑 S438、溝 SD12 掘り下げ開始。溝 SD11・S457、溝 SD10 を検出し掘り下げ。北側は溝 SD12 と切り合う。溝 S464 を引き続き掘削中。溝 S468 の土層断面写真を実施。

1.7　遺構掘削　溝 SD10・SD11・SD12・S412・S470・S464・S473 の掘り下げを継続。土坑 S471、溝 S440、小柱穴の S472 の土層断面の撮影を実施。

1.8　遺構掘削　溝 SD11・S452a・S473 の掘り下げを継続。溝 S412 の床面から検出された土坑 S479 を土層残し掘り下げ。小柱穴 S475・S478・S480 を半裁。溝 SD11・S473 の遺物出土状況、土坑 S462・S475、溝 S449、S477 の土層断面を撮影。

1.12　遺構掘削、溝 SD09、溝 SD26、溝 SD25、溝 SD15 の掘り下げを開始。写真撮影　ブロック 125-I、周辺の検出状況を撮影。

1.13　溝 SD09・SD15・SD25・S484 の掘下げを継続。

1.14　南北撹乱の西側で溝 S286、礫敷き遺構 SD30 が検出。溝は SD32・S484・S492 を引き続き掘り下げ、SD32・SD25・S492 は終了。溝 S441・SD25 は一連の遺構とみなし掘り下げを実施。設定した土層レベルの観察から溝 SD25 より古く、溝 SD15 より新しい遺構。溝 S489、と土坑 S490、方形土坑 S491 の掘り下げを開始し掘削終了。方形土坑 S462、溝 S469 の土層断面を再撮影。

1.15　溝群 SD09・S486 他遺構検出。礫敷き SD30 は継続。溝 SD15、柱穴 S493 ～ S496 土器出土状況の撮影。

1.18　溝 SD25・S484、S486 の調査を実施。

1.19　溝 SD25 の掘り下げを継続。ブロック 125-I ～ j の範囲の小柱穴群完掘、南北撹乱の床面までの掘り下げを北端において開始。溝 SD12 の土層断面撮影を実施。

1.20　ブロック 125-L ～ N の範囲で溝群 SD09・SD25・S484・S486 の完掘状況と礫敷き遺構 SD30 の検出状況を撮影するため清掃。溝 SD25 の掘り下げ継続。ブロック 125H ～ I の範囲は終了、ブロック 125-J ～ K の範囲は上層が終了。ブロック 125-K ～ L 範囲の半裁小柱穴を完掘。溝 SD09・SD12・SD32・S452a・S484・S485・小柱穴・S497 ～ S499 の土層断面の撮影。

1.21　溝 SD09 引き続き掘り下げ。溝 SD25 を引

き続き掘り下げ。各所で残していた土層を順次開始。調査区南端の完掘撮影ののち溝群下層遺構である溝 S511 の掘り下げを開始。調査区南端 SD09 ～ SD25 の遺構完掘状況の撮影。調査区北端 SD12 周辺、S452 周辺の遺構完掘状況の写真を撮影。小柱穴群の土層断面の撮影。

1.22　溝群の下層遺構である溝 S511 を引き続き掘り下げ。溝 S515 の掘り下げも開始し、小礫が散見。溝群の下層遺構である溝 SD31 の掘り下げを開始。溝 S518 の掘り下げを開始し、完掘。方形土坑 SK13 を引き続き掘り下げ。溝 SD09 に隣接して平行する溝の掘り下げ。ブロック 125-I ～ J の範囲の小柱穴半裁及び完掘。ブロック 125-J ～ K の範囲で小柱穴の土層断面を撮影。溝 SD31 の土層断面撮影。

1.25　一昨日からの雪による積雪霜柱のため、現場作業は中止。

1.26　礫敷き遺構 SD30、溝 S511 の検出を引き続き継続。土坑 S520、土坑 S524 の掘り下げ終了。ブロック 125-K ～ L の半裁及び完掘を継続。ブロック 125-K ～ L の範囲で小柱穴の土層断面の写真撮影。

1.27　礫敷き遺構 SD30 の検出を継続。礫敷き遺構 SD30 の両側に沿う側溝状の溝 S511・S506 の掘り下げを継続。S511 は土層 4 で急激に溝幅と深度が変化している様子が見られ、溝 SD25 の一段階深い部分につながっていく。空撮に向けた調査区清掃を南側より開始。小柱穴群の完掘を継続。溝群 SD09 等の土層（土層 3・土層 5）の土層断面を撮影した。溝 S522 の土層断面を撮影した。

1.28　次週空撮に向けての調査区床面清掃を継続。礫敷き遺構 SD30 の検出作業、上層の溝状遺構 SD31、土坑 S525・S526 も継続中。午後からの降雨に伴い午前中で終えた。

1.29　降雨により現場作業中止。

2.1　礫敷き遺構 SD30 の検出を引き続き行い完了した。空撮まで現状を維持し、空撮後に礫を外して完掘する予定。溝 SD14 の掘り下げを行った。便宜上南側を SD14a、北側を SD14b とした。土坑 SK13・S531 の土層断面を撮影した。

2.2　引き続き空撮に向けて調査区全面清掃を行った。溝 SD14 を引き続き掘り下げ、掘り終えた。礫敷き遺構 SD30 を含む溝群の土層断面（土層 4）を撮影。

2.3　空撮に向けた調査区の全面清掃を継続。一部、遺構の掘り残し等を完掘した。溝 S545 の土層断面写真撮影を実施。完掘状況の写真撮影を部分ごとに分割して撮影した。調査区西壁の土層断面の写真を撮影した。

2.4　空撮後礫敷き遺構 SD30 の礫外しを行った。溝 S461 の掘り残し部分を掘り下げた。写真撮影
礫敷き遺構 SD30 の検出状況の写真を再度撮影した。礫敷き遺構 SD30 が残っている状態での調査区完掘状況を空撮にて実施。空撮を正午過ぎに行うため実測だけにとどめ午後から掘削を行った。

2.5　溝の土層断面の写真を撮影。柱穴 S543 の土層断面の写真撮影。本日は午後から管理技士不在の為に現場作業は中止し、遺構実測写真撮影のみ行う。

2.8　礫敷き遺構 SD30 の礫土層の断面写真を撮影。礫敷き遺構 SD30 の完掘状況の写真を撮影。

※本日の調査を持って本調査区の調査を終了した。

二本木遺跡群（田崎地区）

調査期間　5 次　平成 24 年（2012 年）2 月 22 日
～平成 24 年（2012 年）5 月 9 日
6 次　平成 25 年（2013 年）10 月 7 日
～平成 25 年（2013 年）10 月 18 日
調査担当　宮本大・馬場正弘
土野雄貴・多賀晴司・北原美和子・浦辻栄治

○ 5 次　平成 24 年

2.22　1 区表土剥ぎ完了。

2.24　排土置き場等環境整備。

2.27　1 区、現代層堀削、2 区･3 区表土剥ぎを実施。

2.28　午後、現場中止。2 区略図作成。

2.29　1 区排水後、一部トレンチ掘削、2 区遺構検出、3 区土嚢づくり。

3.6　1・2 区、降雨後の排水、3・4 区表土剥ぎ。

3.7　1 区～ 4 区遺構検出。2･4 区遺構検出状況撮影。

3.8　2 区遺構内埋土掘下げ、3 区遺構配置図作成・遺構検出状況撮影。

3.9　機材搬入、天候不良につき現場作業休止。

3.12　1・2 区遺構調査、3 区防空壕実測、2 区 ST01 人骨出土状況・SE01 断面撮影。

3.13　1、2 区　遺構掘削。1 区 SD01 断面実測・撮影、2 区 SE01 断面実測。

3.14　1 ～ 3 区遺構検出・半裁。

3.15　1 ～ 2 区実測。

3.16　降雨の為、現場作業中止。1 区図面整理。

3.19　1 区遺構掘削。3 区調査区内整備、2・3 区遺構実測。

3.21　2 区 SE01 遺構調査。3 区 S302 実測及び撮影。2 区 S201 完掘、S208 遺物出土状況、S204 断面状況撮影。

3.22　3 区調査終了、土層断面 (南壁) 実測及び撮影。

3.23　雨天の為現場中止、1・2 区図面整理。

4.12　1 区調査区内整備。2 区井戸 S204 完掘、ST01 遺物出土状況・人骨出土状況実測・撮影。

4.16　1 区 SI01 半裁・遺物出土状況、S152 完掘状況撮影。2 区 ST01 堀下げ、SK01 遺物出土状況実測、SE01・S204 完掘状況撮影。

4.17　1 区 S108・153 断面清掃・土層断面撮影。2 区 ST01 人骨追加検出、SE01・S204 完掘、SK01 遺物出土状況・完掘状況実測。

4.18　1 区 S108・S153 断面、S131 遺物出土状況実測。2 区 ST01 掘削・完掘状況実測・撮影。S204 完掘、S205 断面実測。

4.19　1 区 S108 カマド検出、S153 硬化面部分検出、S131 遺物出土状況実測、S108 カマド断面撮影。2 区　S205・S203 床検出、S264 半栽、S263 個別図実測。

4.20　2 区遺構調査。

4.23　2 区 SI01・SI03 カマド検出、S205 ベルト掘削。1 区 SI01 完掘状況実測、2 区 S264 実測。2 区 S264 完掘状況、SI03 遺物出土状況撮影。

4.24　1 区 SI01 カマド完掘、SI02・S108・2 区 S205 掘削、S203 柱穴検出、S282 検出・半栽。1 区 SI01 カマド断面・平面、2 区 SI03 遺物取上げ、S282 断面実測。

4.25　1 区 S132、カマド半栽、2 区 S203、S282 平面実測、1 区 S132 断面・カマド断面撮影。

4.26　S266・283・284・278・S204 掘削。2 区 S204 、S205 追加部分、S258 平面実測、調査区完掘状況撮影。

5.7　1 区 SI02 完掘・竪穴建物床面検出、S153 硬化面検出・遺構内柱穴検出。

5.8　作業員採用試験のため、現場休止。

5.9　1 区 SI02 遺物出土状況実測後遺物取上げ、調査区完掘状況撮影。

○ 6 次　平成 25 年

10.6　1 区表土掘削、調査区外周平面実測。

10.7　表土剥ぎ、 4 級基準点設置、環境整備。

10.8　台風接近の為、現場中止。

10.9　1 区遺構検出、　S001、S002、S003、S004 及び S006 ～ S036 遺構実測、遺構検出状況撮影。

10.10　1 区遺構埋土掘削、S037 ～ S057 実測、地形測量。

10.11　雨天の為、現場作業中止。

10.12　1 区 S001、S002 埋土掘削、S005 の土層断面撮影。

10.15　表土残部除去、柱穴群平面実測。

10.16　2 区遺構検出、1 区柱穴群平面実測。

10.17　2 区、S058・S060・S059 埋土掘削、1 区 S003 貼り床掘削、1 区 S004 平面実測。

10.18　2 区調査、地形測量。外周下端、平面図、S058 西端土層断面、S060 東端、トレンチ北側土層断面実測。各調査区完掘写真を撮影後、調査終了。

第３章　遺構

調査区は、九州新幹線新熊本駅に隣接する形で在来線の高架化が図られている。調査区北は北岡神社踏切南から始まり、南は新幹線新熊本駅南端部まで調査を実施している。

調査は県直営並びに民間調査組織への委託事業として実施し、調査区呼称は「○次○区」で表記し報告している。

発掘調査の結果は、九州新幹線新熊本駅で発掘調査を実施した調査時と同じく８世紀後半から９世紀代を経て、12 世紀代の遺物・遺構までを確認した。

発掘調査の実施に当たっては、鉄道建設の推進と文化財保護の両面から調整が図られ、一部調査に先行して基礎杭を設置するなどした。

１　遺跡の調査

二本木遺跡群は、律令国家の地方支配の要として地方行政官庁である国府が全国に成立してくる養老、神亀年間から天平期（８世紀前半）とされる。肥後の国府については県内に候補地が多く、その所在を確定するまでには至っていない。しかし近年、熊本駅及び駅周辺再開発事業に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地二本木遺跡群地内において、熊本市による発掘調査で政庁跡と見られる大型総柱建物や、直角に配置される建物が確認されるなど、国府中心遺構群と見られる建物群が検出していることから、県内の国府の所在に関する議論にも一定の終止符が打たれる日も近いのではないかと考えられる。

ここ二本木遺跡群は、大正年間には八木田政名により『新選事跡通考』で四神相応の地であると指摘されたことを始め、奈良時代の古瓦が出土していることから、乙益重隆・松本雅明・佐藤伸二により有力な国府推定地として指摘され現在に至っている。

２　遺構各説

二本木遺跡群春日地区（13 次５区・17 次１区）

当該調査区は、先行調査で実施した二本木遺跡群６次調査の北西部に位置し、二本木遺跡群ブロック 67・ブロック 82 内に位置する。調査区は３地区に渡り、北側調査区から 13 次５区－１～３までとして報告する。

これから報告する調査区では、調査に先行し新熊本駅在来線駅舎建設に伴う橋脚基礎杭の掘削工事が終了していることから、杭が露出した状態で調査を実施している。

13 次５区－１　本調査区では、６本の基礎杭が先行設置されその間を調査し、近世を中心とする廃棄土坑・溝等を検出している。古代の溝状遺構と考えられる遺構を検出しているが、撹乱により年代の検証ができなかったため個別での報告はしていない。隣接する６次調査に伴う予備調査時には遺構が希薄な地域と判断され、調査から除外していたことを裏付ける調査結果となっている。

13 次５区－２・３　本調査区では、計 14 本の基礎杭が先行し設置されている。調査では古代の掘立建物、柵列及び柱穴群を検出している。13 次５区－１調査区から 10 数メートル離れた場所に位置しているが、急に古代の遺構密度が濃くなるなど、古代の土地利用を如実に表すことを意味しているのではないかと判断される。古代の遺構縁辺部にあたる可能性もある。

17 次１区　本調査区は、６次調査区、13 次５区調査区と北端を同じくし調査を実施した調査区。調査区を大きく抉り取るように熊本駅時代の撹乱により削平を受けている。遺構は、井戸・土坑及び土坑墓を検出するとともに、隣接する 13 次５区３と共通する溝を数多く検出している。

柵列 SA01（Fig.8）遺構の種別ごとに報告を基本とするが、本遺構は掘立柱建物 SB01 の東北隅に位置し、主軸が大きくずれていないこと、埋土が同じであることから共伴する遺構として報告する。

柱穴は３基からなり遺構中心間で２間とも 1.6 mを測り総長 3.2 mの直線をなす。掘立柱建物 SB01 柱穴よりやや小規模な掘方を有する。

Fig.7　13 次 5 区 -1・2・3・17 次 1 区遺構配置図

柵列 SA02（Fig.9）SB01・SB02 の両掘立柱建物とのほぼ中間に位置し、主軸もほぼ同一を呈している。構成する柱穴は３基で 3.3m の長さを確認している。本柵列は主軸に沿い長方形の隅丸掘方を呈しており、掘立柱建物にもみられる丁寧な掘方を見せている。SB01・SB02 間のほぼ中心に位置することから、両遺構に伴い設置された柵列と考えられる。東側延長部にもやや間をおいて柱穴列が見られたことから当初は同一遺構であった可能性もあるが、検証できないため本報告ではこの規模で柵列と判断した。

掘立柱建物 SB01（Fig.8）13 次５区－２・３に跨り検出した遺構。検出した規模は梁行３間（７m）、桁行３間（7.9 m）、面積 55.3㎡の長方形を呈する。柱穴の平面形は円形・長方形とも確認しているが南面に面する側柱では、長方形の掘方のみで構成している。他の柱穴の残存状態が悪いため詳細は不明だが、南側柱の軸が掘方の中心を通っているため、掘削に際してはこちら側の側柱を基準に柱穴を掘削したことが考えられる。

掘立柱建物 SB02（Fig.9）SB01 と主軸を同じくし南側に位置する。SB01 との間には柵列 SA02 があり、その南側に位置する遺構。梁行２間（4.5 m）、桁行４間（9.5 m）を測り、42.75㎡の長方形を呈する。

遺構の南縁部に当たる P2 ～ P5 ではわずかだが柱根を残し、約 20㎝の柱痕を確認している。他では確認できていないが、抜き取り痕等はみられない。柱穴の掘方の深度が浅いため確定したことは言えないが、掘立柱建物北側には雨落ち溝とみられる浅い溝状（E-E'）の遺構を確認している。柱穴中心部との間は約 30㎝～ 40㎝であり、軒先の伸長を表している可能性もある。柱穴 P7 埋土から土師器が１点出土している。

井戸 SE01（Fig.10）掘立柱建物 SB02 の柱穴 P5・P6 間で検出した遺構。周囲の遺構の切り合い関係がないため、検出状況からのみでは遺構の新旧は不明である。平面はほぼ円形で 2.34 m、検出面より約 30㎝の深度でステップを有し 1.3m 付近で掘り方が狭まっている。掘削深度は安全を確保しながら 3.08 mまで掘削したが底面は確認できていない。土層は大まかにしか確認ができず、黒褐色粘土を主体とする埋土を上下２層としている。出土遺物は土師器皿、托及び高台付杯が出土しているが出土層は不明である。

井戸 SE02（Fig.11）円形を呈し直径 1.44 mを測る遺構。遺構埋土は黒褐色土を主体とし土層は構成されている。垂直方向への掘削のため安全対策を取ったのち、確認された土層は３層であるが安全面を考慮して掘削を行ったため、詳細な土層は確認されていない。層位に関しては土色等にほぼ大きな違いはない。井戸壁面は堆積層の性質に係る土層の違い、層の硬軟による水位の浸食により崩落しているものと考えられ、当初の姿は留めていない。特に３層相当の層位は砂礫層を中心とする柔層に相当するため外側に湾曲し広がる。出土遺物は土師器杯、布目痕を残す古代の平瓦片が出土している。

土坑 SK01（Fig.12）直径 2.6 mの遺構。本遺構では断面形状に特徴を有し、北側では２段に及ぶ段掘りが見られ、南側ではほぼ垂直の掘り方を有する。底面は円形に幅 10㎝程度の溝を巡らす。底面に溝をめぐらす遺構の性格は今回の調査結果からは検証することはできなかったが、類似する遺構は６次調査で井戸 SE001 ～ SE004 として報告している遺構に土層及び断面形態が類似している。６次調査では井戸として報告したが、現時点で他の調査事例を勘案すると土坑として報告すべき遺構であったと考える。出土遺物は無いが、６次調査との遺構の類似性から、糸切り底部を有する土師器が出土する 13 ～ 14 世紀に相当する時期の遺構と考えられる。

墓 ST01（Fig.13）長方形土坑を呈する直葬の遺構（土坑墓）である。主軸は N- ５°-E を測り頭部は北に位置する。頭部は掘り方の一部に係り右向きに埋葬した側臥の状態で検出している。土坑は長軸 1.25m、短軸は 0.94 m、深度は 20㎝である。出土遺物はない。出土人骨の詳細は NPO 法人人類学研究機構報告を巻末に掲載している。

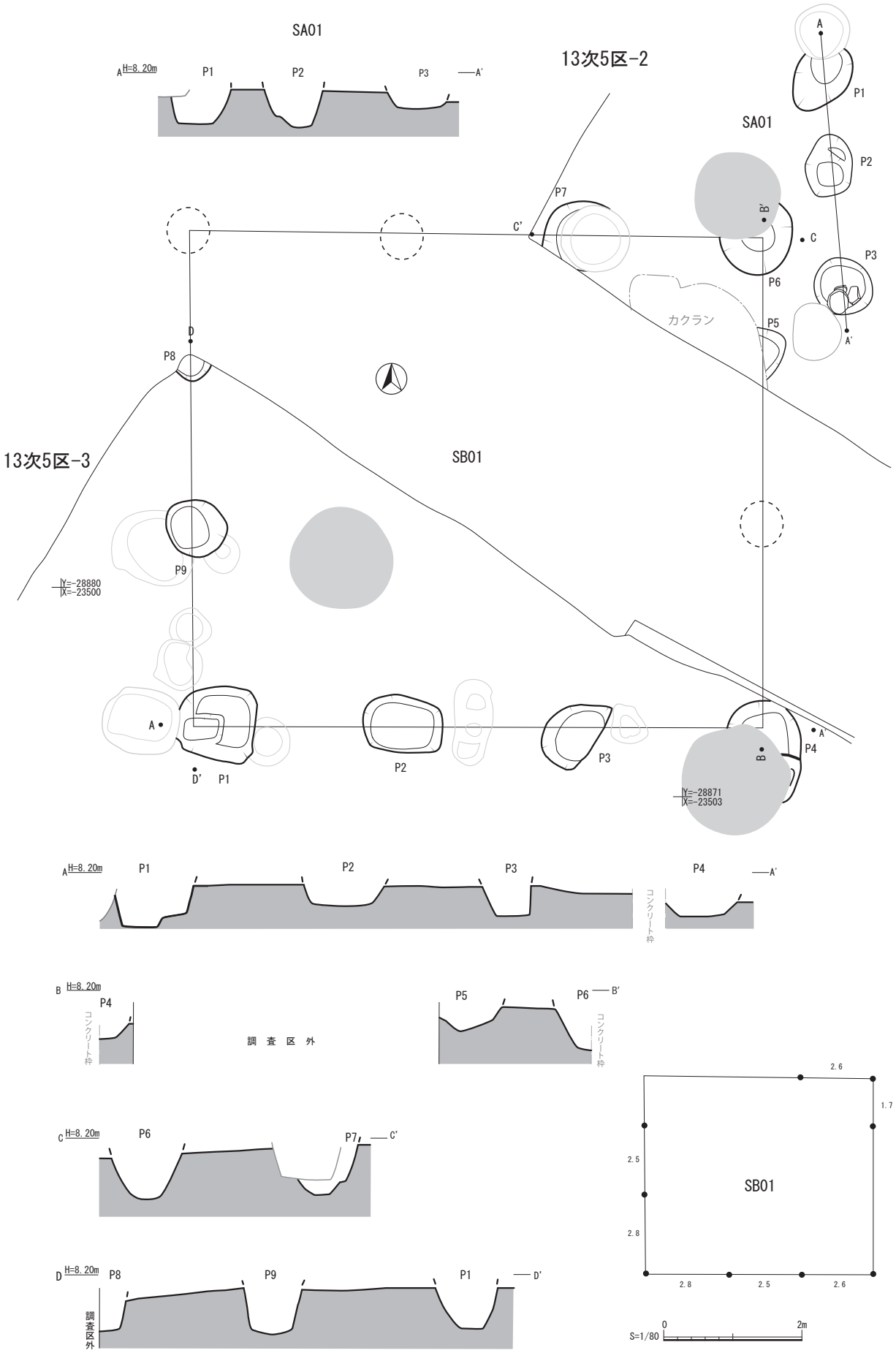
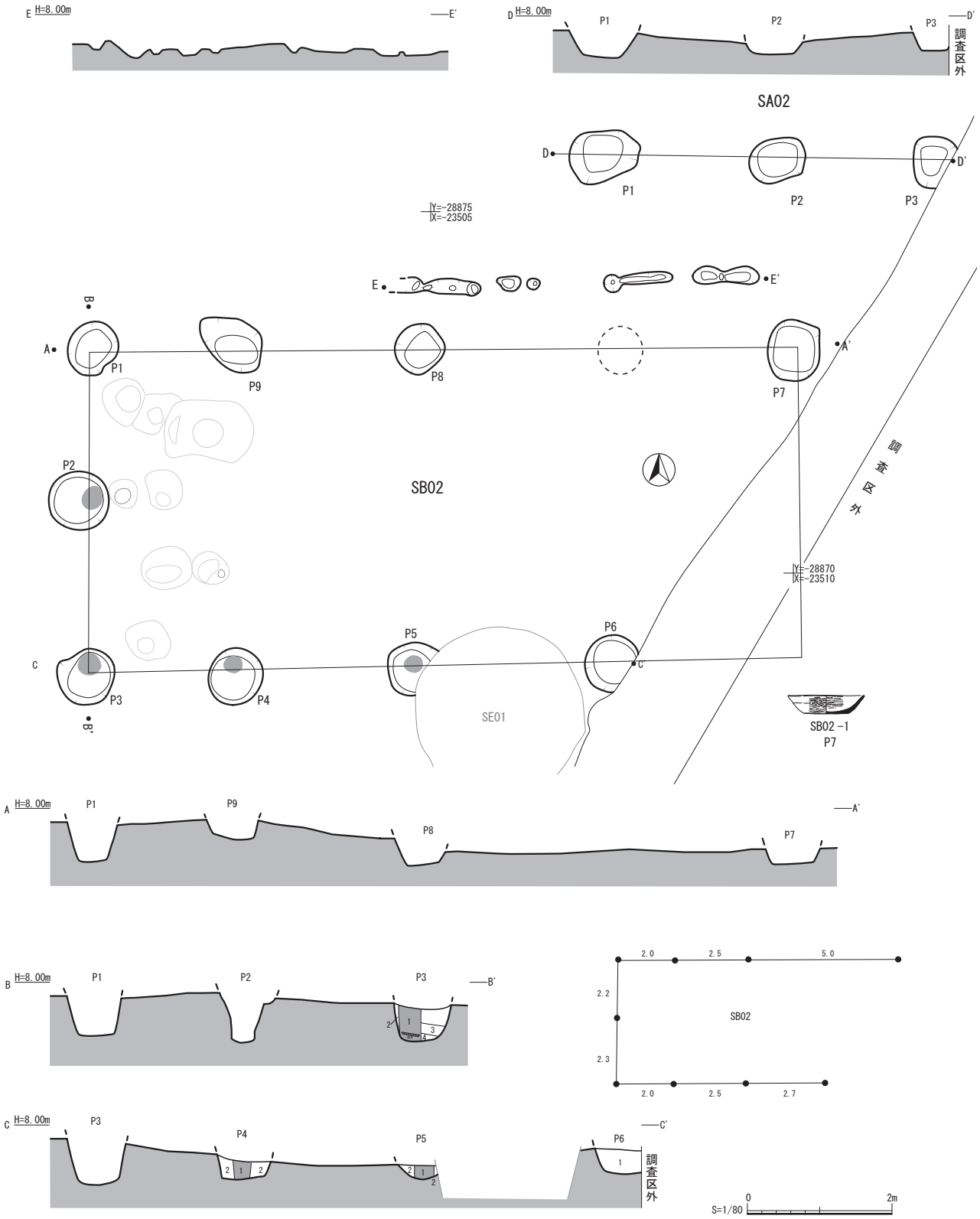


Fig.8　掘立柱建物 SB01・柵列 SA01 実測図



P3
1. 黒褐色土（7.5YR2/2）粘性あり
2. 灰褐色土（7.5YR4/2）黒褐色土混じる
3. 灰褐色土（7.5YR5/2）
4. 黒色土（7.5YR2/1）

P4
1. 黒褐色粘質土（10YR2/2）
2. 黒褐色土（10YR2/2）

P5
1. 黒褐色土（10YR2/2）
2. 黒褐色土（10YR2/2）

P6
1. 黒色粘質土（7.5YR2/2）

Fig.9　掘立柱建物 SB02・柵列 SA02 実測図

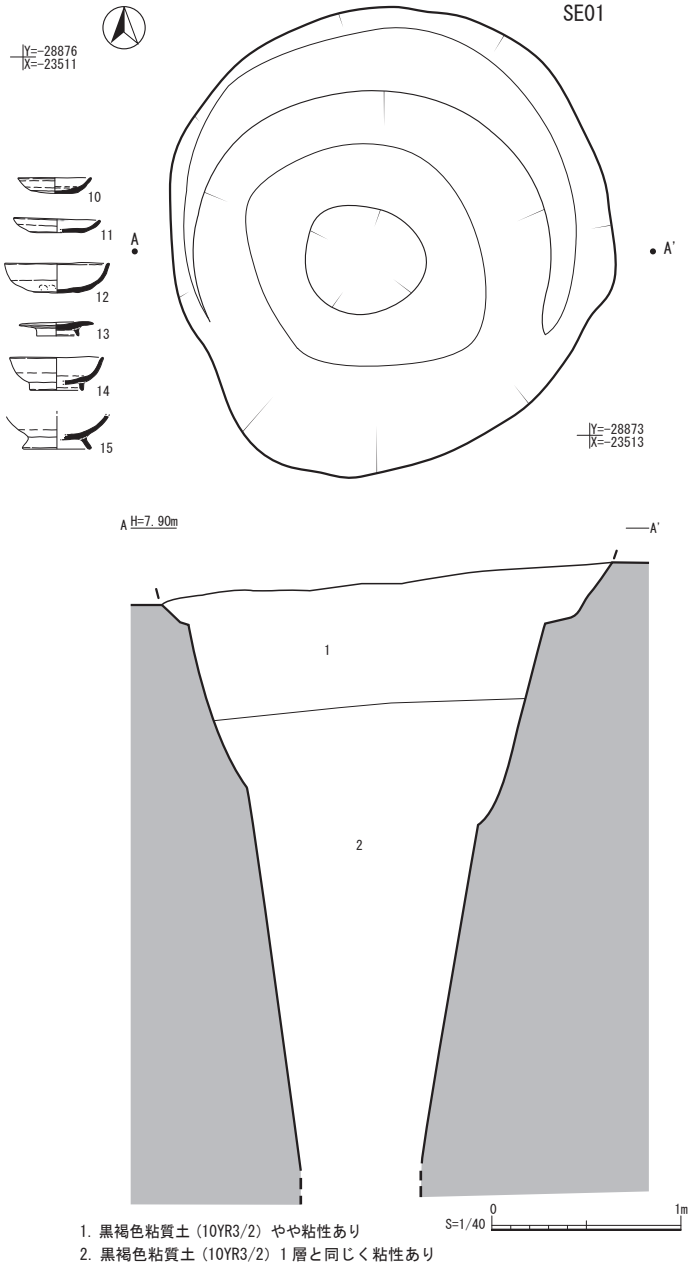


Fig.10　井戸 SE01 実測図

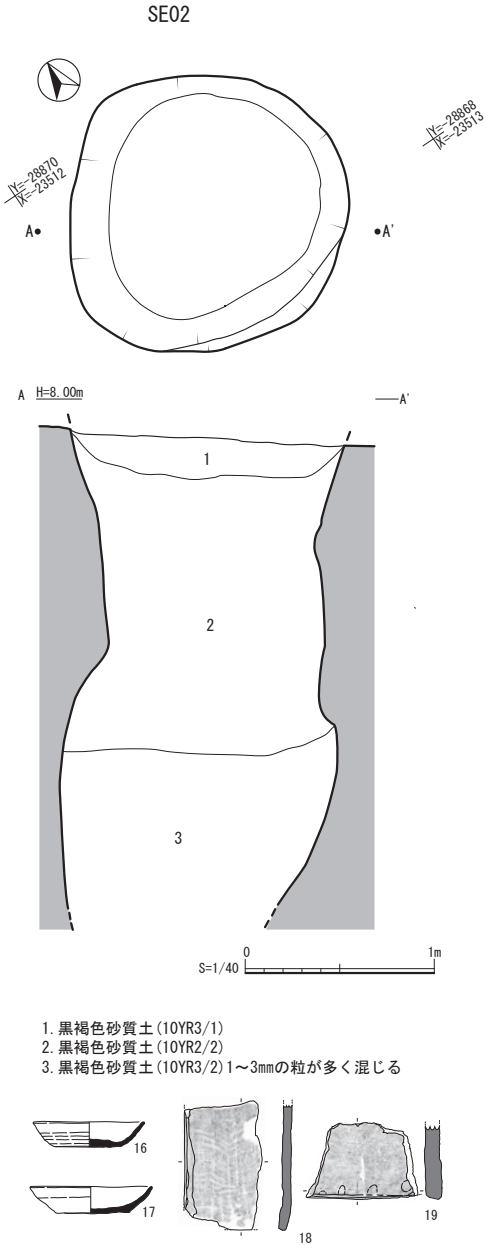


Fig.11　井戸 SE02 実測図

溝 SD01 ～ SD05（Fig.14）

13 次 5 区並びに 17 次 1 区で検出した遺構。6 次調査で SD001 ～ SD004 として検出し 12 ～ 13 世紀の溝内部に掘立柱建物群を有する方形区画として認識し、報告していた溝である。溝からの出土遺物は少なく、主に出土する遺物は古代の土器類であるが、時期を示すように輸入陶磁器が出土するなど新しい要素を示す遺物も出土している。遺構には SD03 など遺構上端に沿い柱穴列を有するものもあり、区画としての溝だけではなく一部には防御を目的とした溝も想定できる。今回の調査区内では直線状に検出しているのみで、屈曲部分などは見られない。これだけの溝状遺構が重複し長期間継続して維持されていることから、これら一連の溝状遺構は二本木遺跡群の中で一定の土地利用を制限、もしくは区画する意味を持つものである可能性が高い。

また、一時期柱穴を有する遺構が存在するなど防御性とまではいかないかもしれないが、明確に溝の内と外を意識した遺構が存在するため、近接する地域の中におそらくは門に相当する遺構が存在する可能性もある。

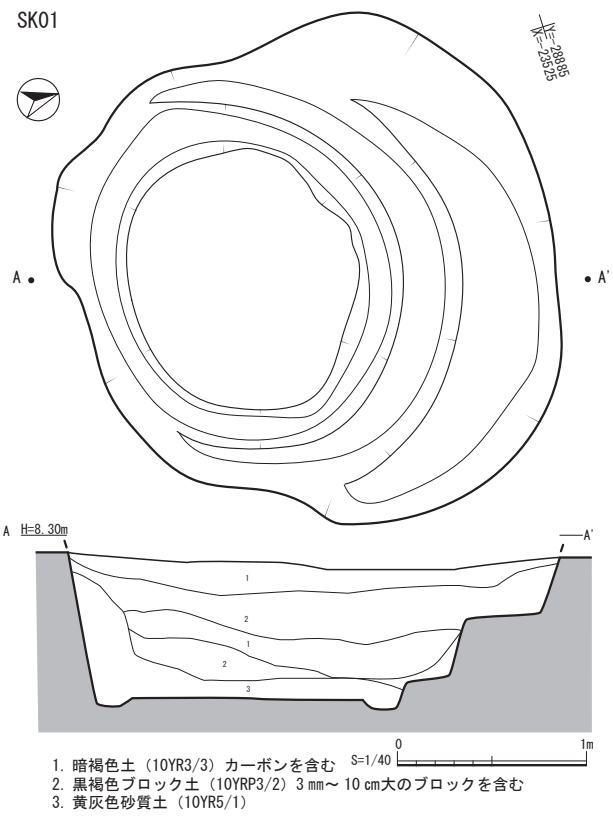


Fig. 12　土坑 SK01 実測図

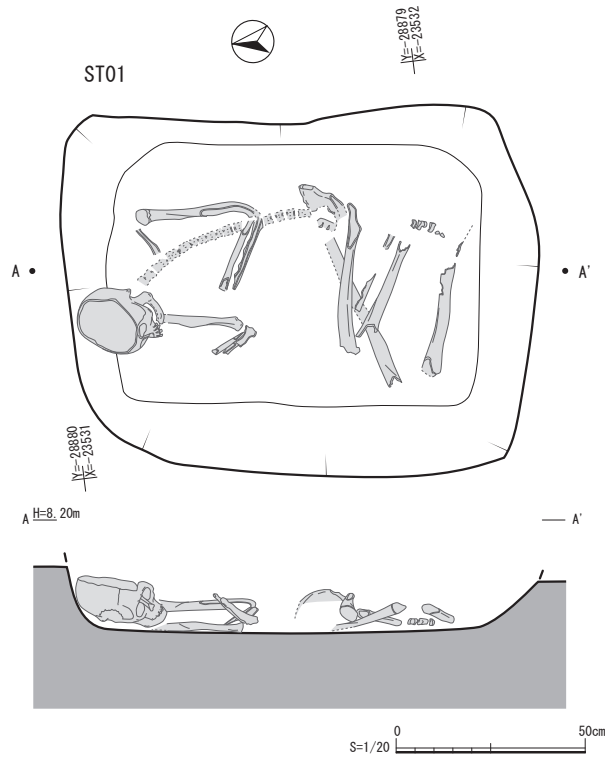


Fig. 13　墓 ST01 実測図

溝 SD01　浅いＵ字状の断面を有する遺構。調査区西側では一部上端が切り合う。隣接する６次調査との間には未調査区を挟むことから６次調査区の遺構とのつながりは不明。埋土は下端に他の土がブロック状に混入するが、層として確認できるものではない。

溝 SD02　SD03 の西側上端を切り、東へ平行して延びる遺構。切り合い関係は SD03（旧）→ SD02（新）の切り合いを示す。土層の色調等が SD01 に類似するため時期的にはあまり違いのない時期のものと想定される。

溝 SD03　13 次５区－３から 17 次１区にかけて検出し調査した遺構。数条の同一方向に延びる溝のうちの１基である。先述している SD02 と重複し先行する。
遺構断面は下端が水平で、総じて逆台形を呈する。土層の堆積状況が SD04 に類似しており、南北方向からの自然堆積による埋没状況を見て取ることができる。

溝 SD04　SD03 の北側に位置し他の溝との切り合いはない。遺構断面は下端が平坦面で逆台形を呈する。土層は４－５層、２－３層で交互堆積の様相を呈するが、２－３層では傾斜が急であることから人為的な埋め戻しの可能性もある。

溝 SD05　これまで報告してきた遺構のなかで最も南に位置し、他の遺構との切り合いは認められない。検出した遺構中央部付近では上端に近いところで柱穴を認めるが規模が小さいこと、間隔が広いことなどから SD03 同様の目的を持つ遺構とは考えられない。遺構に伴う可能性があるとまでに留める。土層断面は最下層に安定した３層の堆積があるが、わずかに２層が三角堆積を示し時間を置かず、１層が単層で成り立っていることから人為的に埋め戻されたことが想定される。

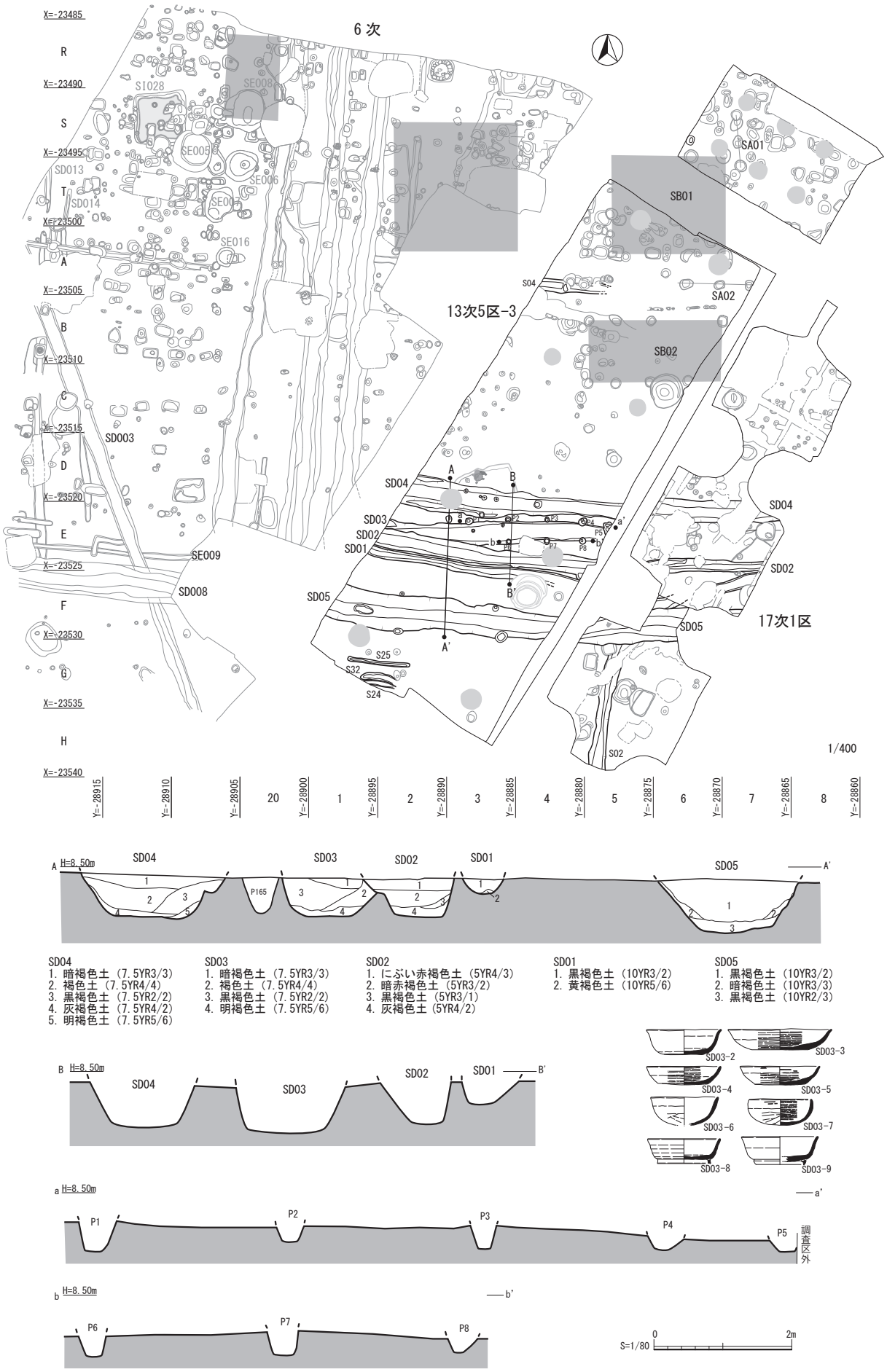


Fig.14　溝 SD01 ～ SD05 遺構配置図

11 次２区

本調査区は、先行調査の二本木遺跡群６次調査（81 ブロック）に相当し、若干の未調査区を挟み隣接している。さらに、後述する 16 次２区が本調査区に隣接する。６次調査区から連続する遺構も多い。

16 次２区

本調査区は、事業の性格上、事業主体者から早急な引き渡しが強く求められたことから、民間調査組織を活用し、支援業務の一環として発掘調査を実施した。発掘調査は、当課中村幸弘（参事）が監理・監督し、株式会社島田組がこれを受託し実施した。

道路 SF01（Fig.16）６次調査区の道路 SF001 の延長部に当たる。遺構は調査区を東西に横断し、他の遺構には見られない規模の掘削を伴う。最大幅は約 6.5 mを測り、掘り方の断面は逆台形を呈し、下端両端には側溝状の浅い溝が見られる。側溝状の溝に挟まれる中央部は硬化面が残り、硬化面を剥ぐと下からは小規模な波板状の凹凸が見られ、道路状遺構として補修を繰り返しながら利用されていた過程を見ることができる。また、底部全般には広く暗褐色の砂質土が広がり一部では整地痕跡ではないかとも観察されている。土層断面 A-A'・B-B' 等では断面観察の結果、埋没過程の中で再掘削し規模を縮小しながらも道路として利用していた過程を読み取れる。
出土遺物は、６次調査の際に道路床面から景徳鎮系染付椀片が出土していることから、14 ～ 15 世紀前後の時期の遺構と判断している。

掘立柱建物 SB03（Fig.17）本調査区では最も北に位置する遺構。３間（4.5 m）× 2 間（4.5 m）、平面積 20.25㎡を有する正方形の建物で梁、桁等、主軸方向は判断できていない。柱穴はやや不定形の円形を呈し、底部はやや平底形をなす。土層等は作成されていないため不明。

掘立柱建物 SB04（Fig.18）本遺構は近接する掘立柱建物群に比べ規模が大きく、梁行４間（9.1 m）、桁行５間（12 m）平面積 109.2㎡の大型の総柱掘立柱建物である。検出した柱穴も他の掘立柱建物とは違い、直径が 80㎝～ 1 mを測り円形で直径 20 ～ 30㎝の柱根を残す。一部には抜き取り痕と見られる斜め方向への埋土の広がりがあるが、すべての柱穴断面で観察されるものではない。同規模の掘立柱建物は検出されておらず、この周辺では中心的建物の一つと考えられる。

掘立柱建物 SB05（Fig.19）本遺構は SB04 に隣接して検出した遺構。撹乱により遺構残存度が悪いため全体規模が不明。検出した規模では、遺構南東隅を中心に南北に２間（4.9 m）、東西に１間（1.9 m）のみである。遺構平面形は直径 30㎝程度の円形掘り方で上部削平が激しく、基底部に近い部分のみの検出であった。土層断面は作成されていない。SB04 に近接しすぎているため時期差があるものと考えられる。

掘立柱建物 SB06（Fig.20）梁行２間（4.8 m）、桁行３間（6.8 m）、32.64㎡のこの遺跡では最も一般的な規模の掘立柱建物である。柱穴は円形もしくは不定形の円形を呈し、北辺小口側以外は小規模な柱穴が並ぶ。北辺の柱穴は不定形ながらも円形を呈し、直径も 50 ～ 70㎝である。出土遺物は無い。

掘立柱建物 SB07（Fig.21）本調査区で検出した掘立柱建物で最も南に位置する遺構である。遺構の大半は調査区外と溝に切られ、残りが悪い。検出できたのは南北に１間（2.2 m）、東西に２間（4.4 m）で遺構北西隅のみ確認できている。全体規模は不明。

Fig.15　11次2区・16次2区遺構配置図

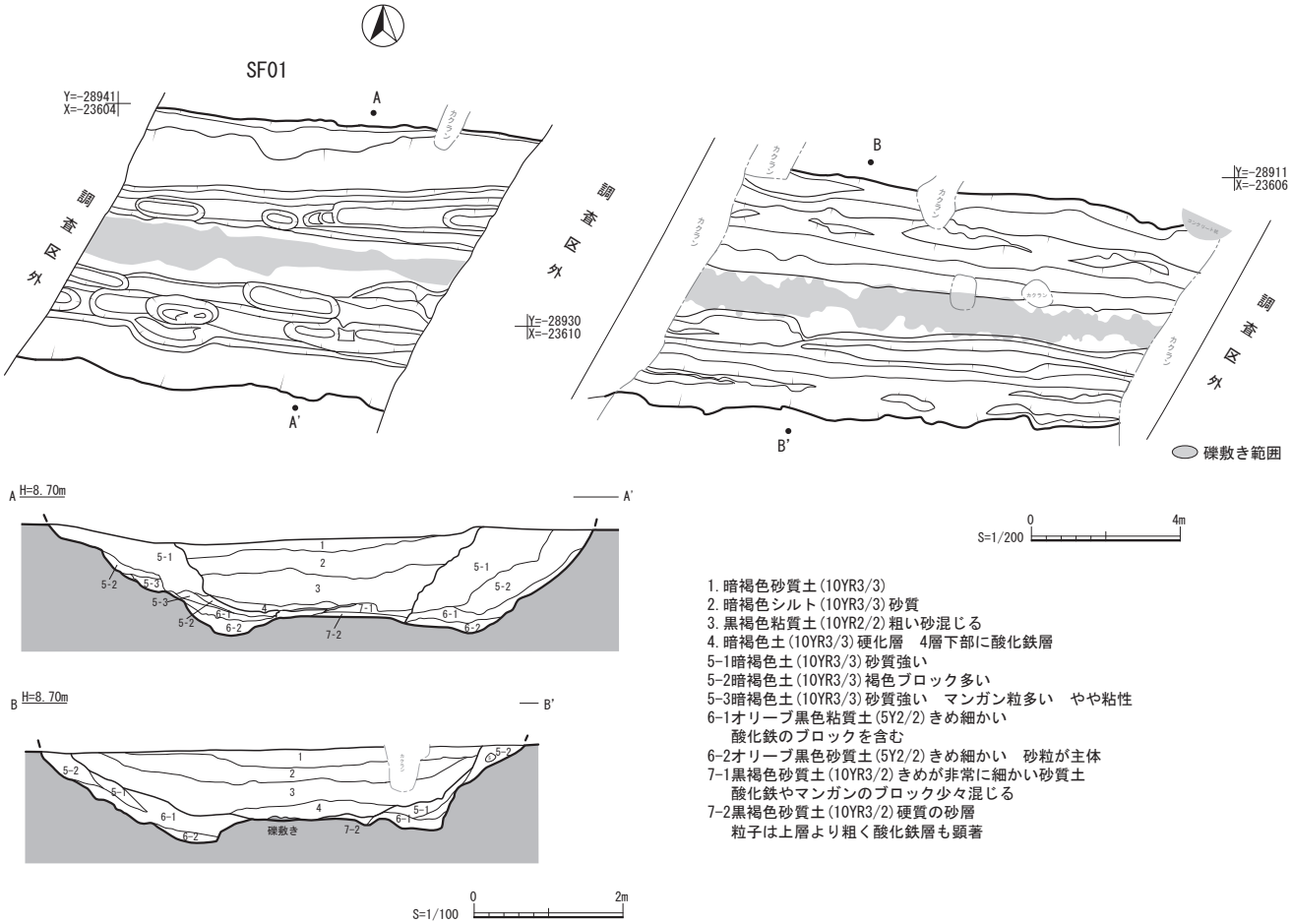


Fig.16　道路状遺構 SF01 実測図

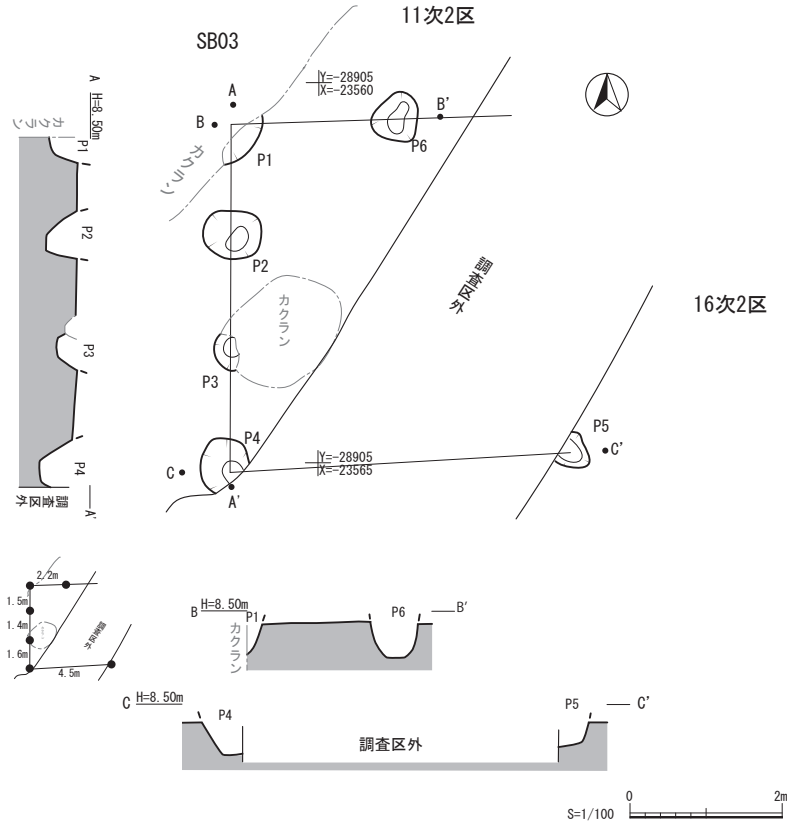
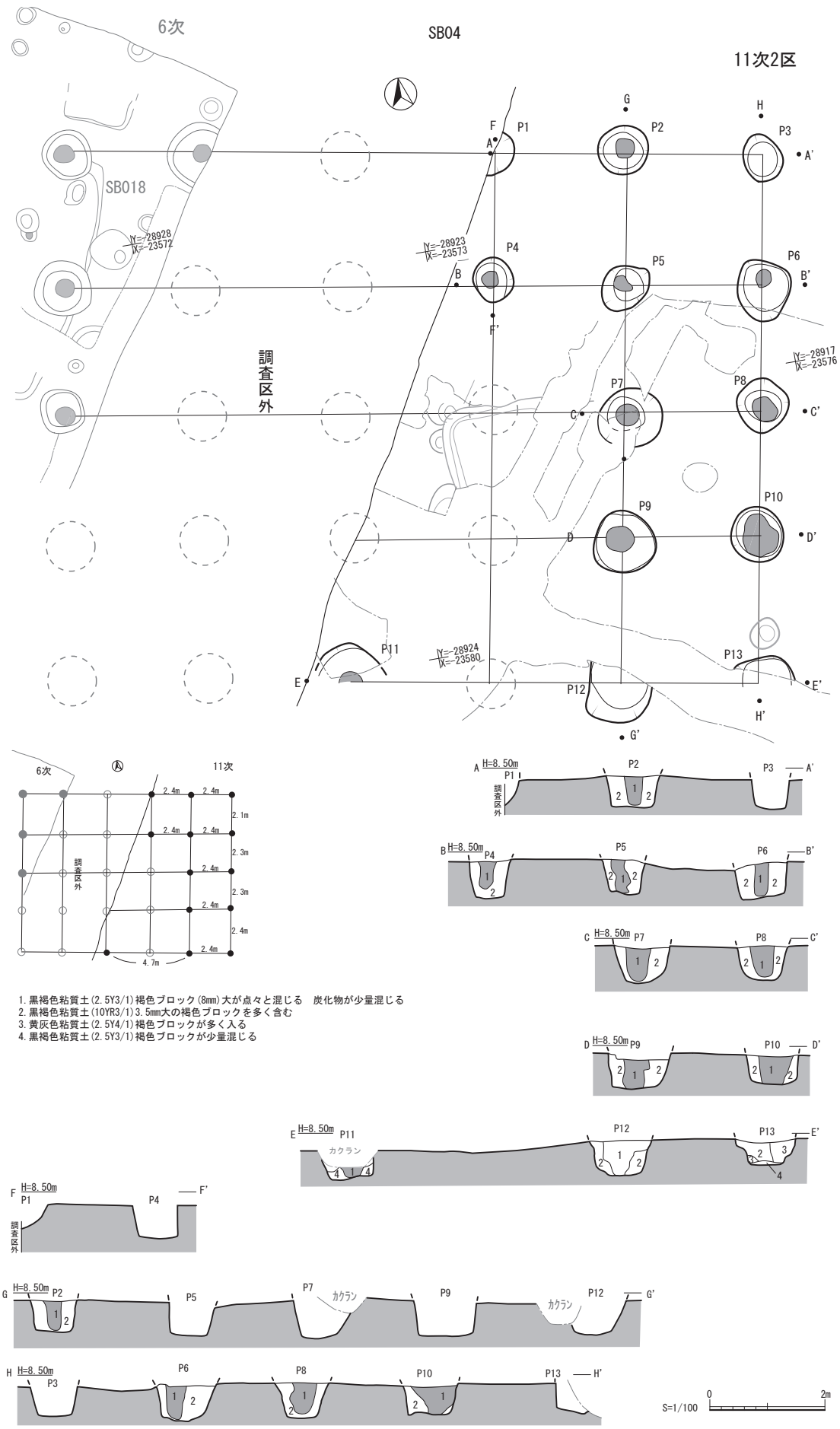


Fig.17　掘立柱建物 SB03 実測図



1. 黒褐色粘質土(2.5Y3/1)褐色ブロック(8mm)大が点々と混じる　炭化物が少量混じる
2. 黒褐色粘質土(10YR3/1)3.5mm大の褐色ブロックを多く含む
3. 黄灰色粘質土(2.5Y4/1)褐色ブロックが多く入る
4. 黒褐色粘質土(2.5Y3/1)褐色ブロックが少量混じる

Fig. 18　掘立柱建物 SB04 実測図

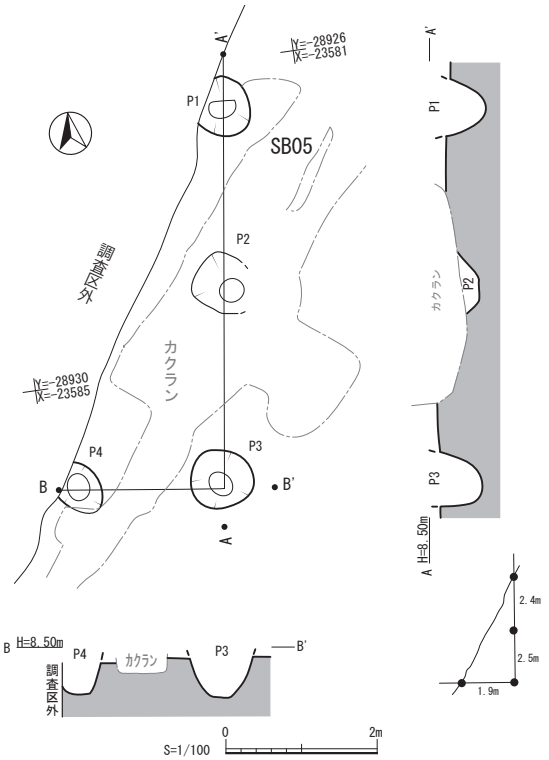


Fig.19　掘立柱建物 SB05 実測図

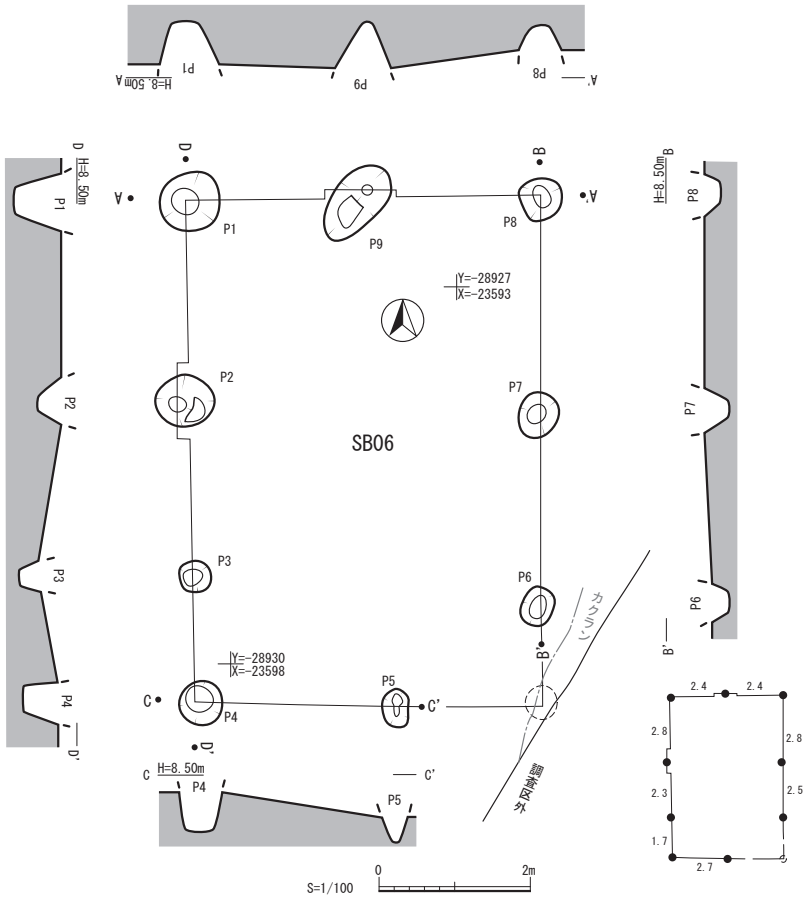


Fig.20　掘立柱建物 SB06 実測図

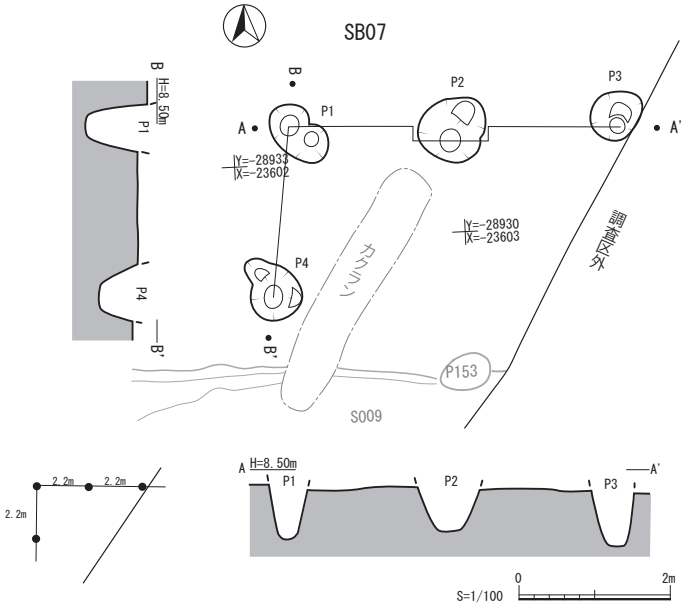


Fig. 21　掘立柱建物 SB07 実測図

溝 SD06（Fig.22）11 次２区・16 次２区に渡り検出している溝。６次調査では、溝 SD011 として報告している溝である。幅最大 1.2 mの溝であり、16 次２区では古代の竪穴建物を切り、南側へ延びる。埋土中からの遺物の出土はない。

井戸 SE03（Fig.23）本遺構は検出状態では不定形の円形を呈しているが、一部に直線的な線も見られることから掘削当初は隅丸方形であった可能性もある。遺構東側では２段掘り、西側では１段の有段をもって成形される。深度が深いため下層においての土層断面観察は大まかではあるが、上層の有段部分では１層・２層の境目は、おそらく側板を差し込んだ痕跡ではないかと考えられる。２層は側壁外側の押さえの埋土で、東側１段目までは掘り方、２段目からが井戸本体の掘り方であろう。井戸本体部は２段目以降垂直に伸び、2.84 mまで観察できたが、３層にシルト状帯水層を検出したためそれ以降の掘削は中止した。出土遺物は土師器杯、高台付杯、高台付椀は良くある出土品であるが、欠損した風字硯、石製錘が出土していることから、井戸廃棄にあたり廃棄遺構としての役割もあったのかもしれない。

井戸 SE04（Fig.24）本遺構は東西に主軸を持ち楕円形を呈している。南北に撹乱が入るが、概ね遺構平面形は遺構深度が浅かったことから楕円形の井戸遺構として差し支えない。この遺構では調査時の主軸はややずれた位置を切ってあるが、遺構底部を掛けてあるためそのまま断面として提示する。掘り方は浅い段を持ちながら掘り込み、中心部のみ帯水層である層位まで掘り下げられ、掘削深度は 3.19 mを測る。途中地盤が弱い部分では外側に向かって崩落している。最下層では砂質シルト層をもって掘り方終了まで確認できている。出土遺物は主に１層の上部、浅い土坑状掘り方からの出土である。本遺構からの出土遺物は多く土師器皿、高台付杯、甕、須恵器皿、杯、高台付椀、托、大甕、鉢、高台付椀の転用硯及び鉄製の鈎を有する石製錘等が出土している。土器類の器種構成は土師、須恵とも類似しており、井戸廃棄の際の祭祀行為の可能性も否定はできない。

井戸 SE05（Fig.25）本遺構は井戸 SE03 と重複して検出した遺構。かろうじて残っている部分を精査した結果、図示する遺構平面を底部付近で確認することができた。遺構掘り方は底部付近においても円形ではなく、隅丸方形をしており掘削の丁寧さを見て取れる。遺構底面までの深度は 3.24 mを測る。出土遺物は壁際に残る１層埋土中から土師・須恵の高台付椀が１点ずつ出土している。

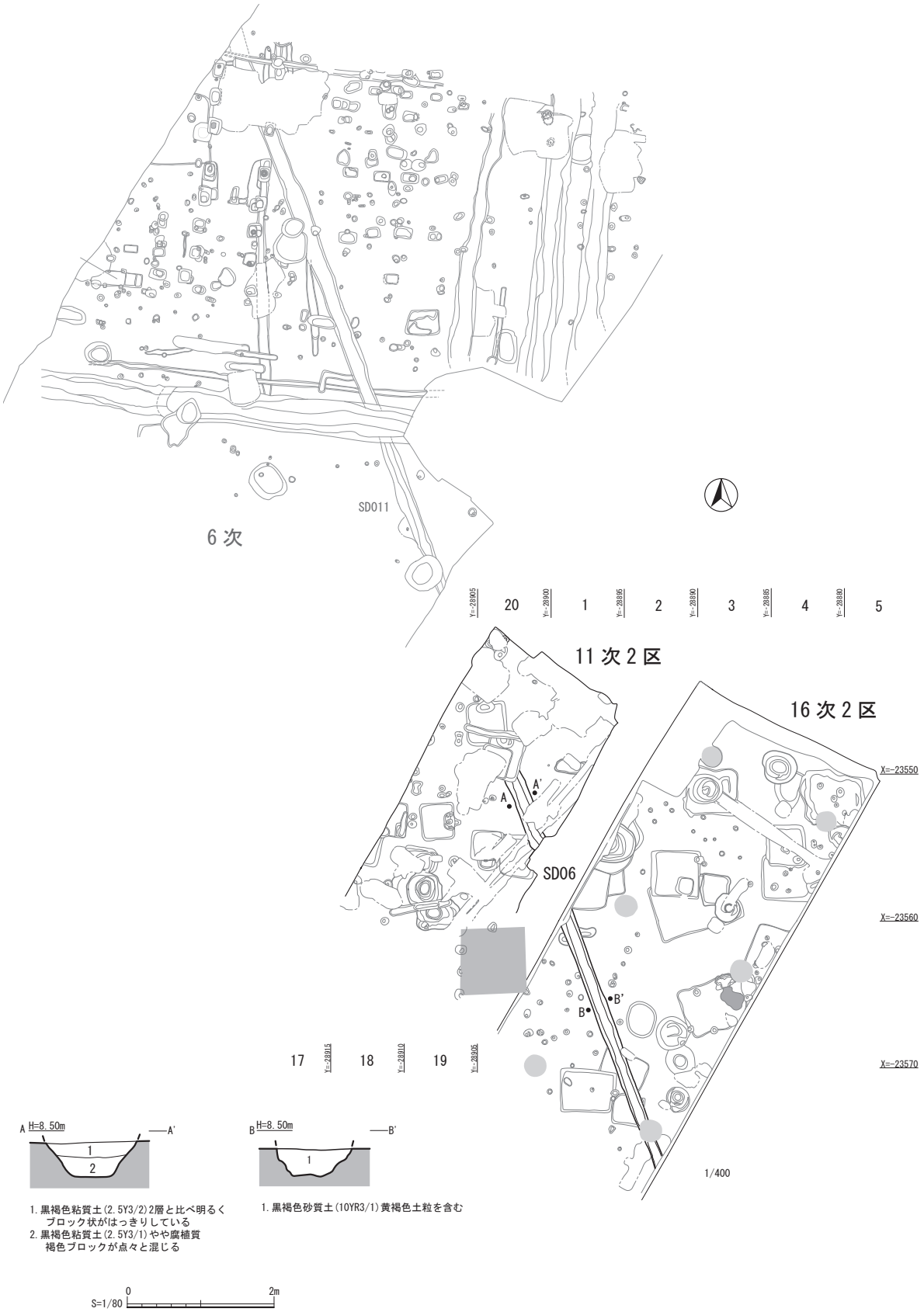


Fig.22　溝 SD06 実測図

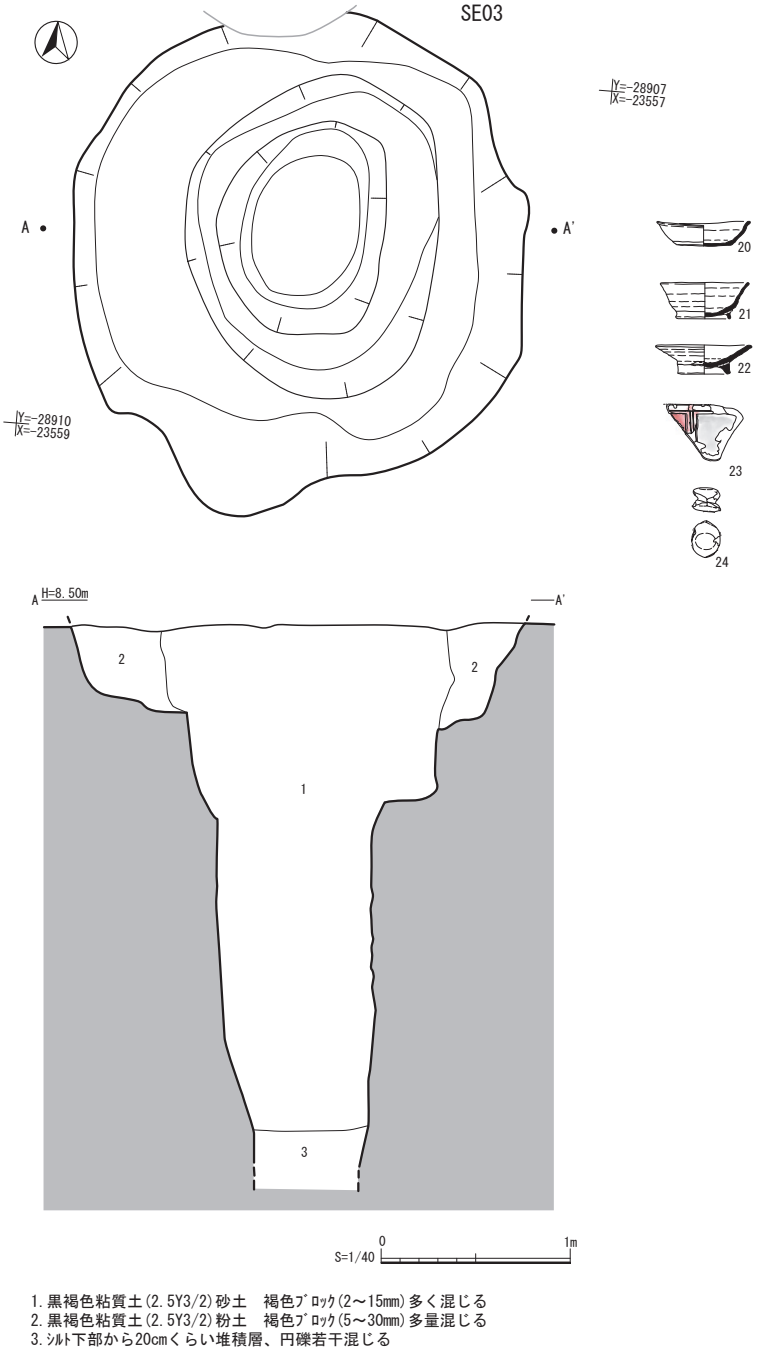


Fig.23　井戸 SE03 実測図

井戸 SE06（Fig.26）調査区ほぼ中央に位置し、遺構の約半分が調査区外にあたる。掘立柱建物 SB04 の東側に位置している。遺構は半分のみの掘削面積となったため 0.94 mまでしか掘削できず調査を終えている。土層のあり方からして、他の井戸断面と類似していることから井戸と判断した。
埋土中からは土師器杯３点、須恵器高台付杯、把手付き鉢が出土している。

井戸 SE07（Fig.27）本遺構は調査区の北端に位置し、検出した遺構。円形の掘り方を有し、ほぼ中央部に井戸本体の掘り方をおく。井戸底部は帯水層に達したため底部まで掘削が達していない。
この遺構では他の井戸に比べ土層断面が詳細に作成されているため、井戸廃棄後の自然埋没過程を垣間見ることができる。井戸本体の底部付近は、南側から流れ込んだ９層土砂により埋没が始まり、７・８層の土が同

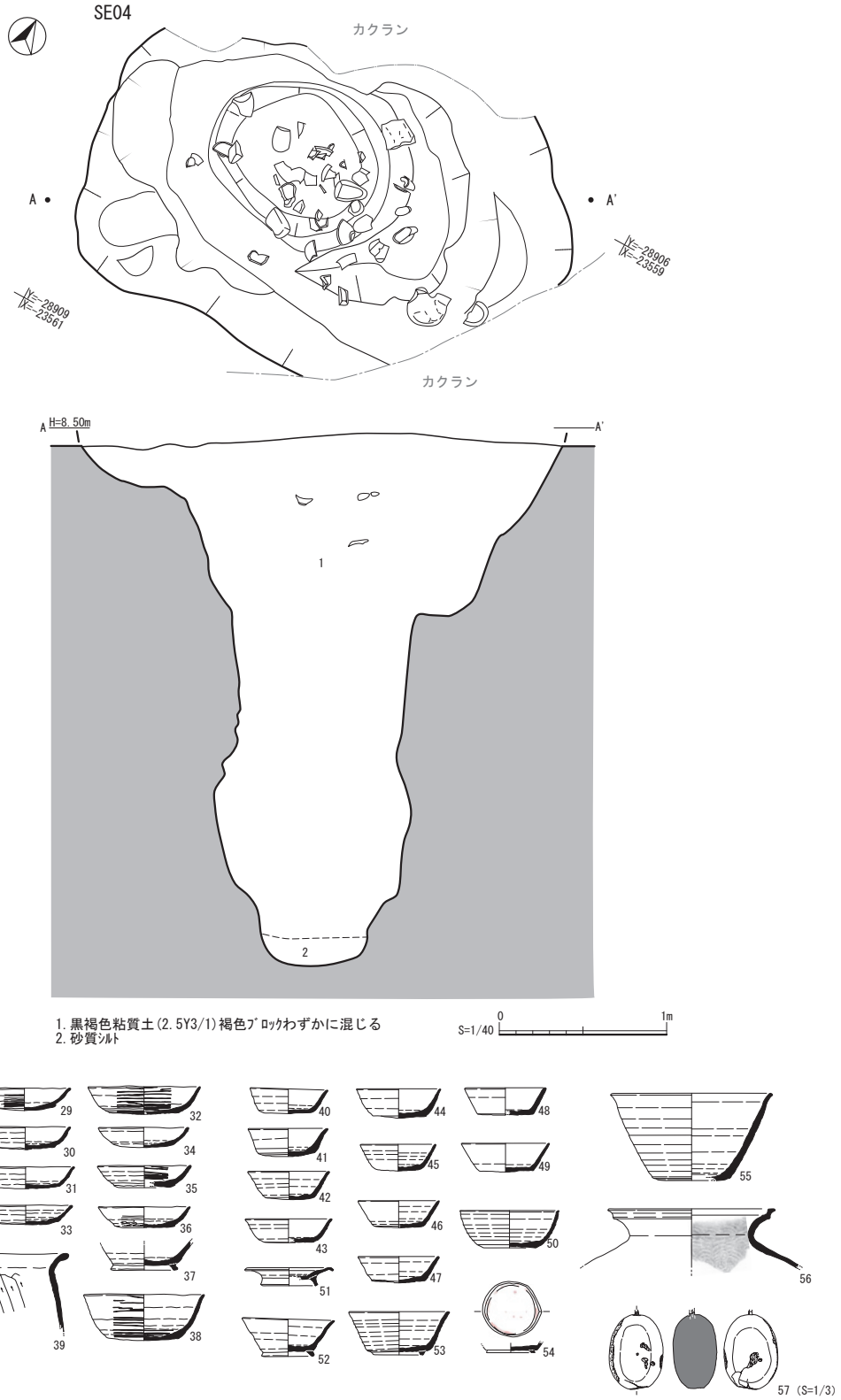
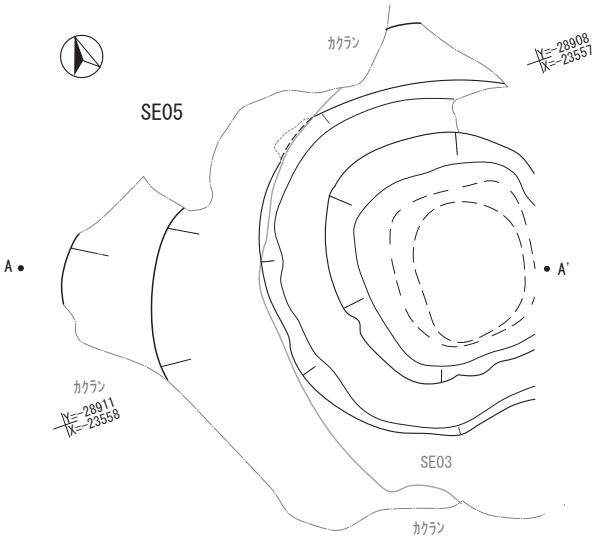
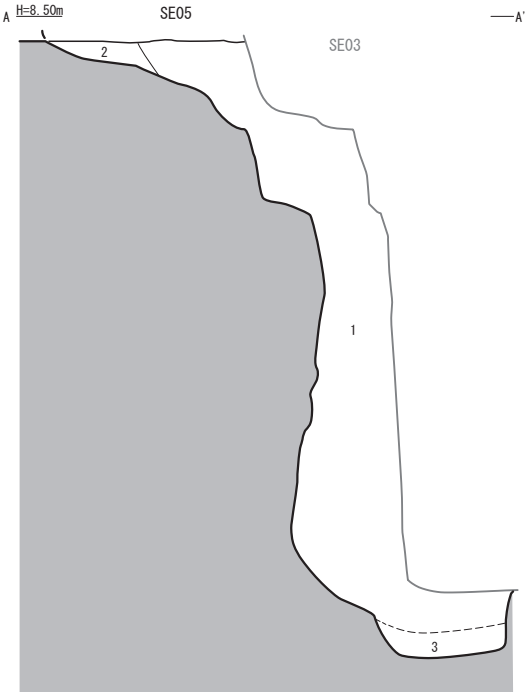


Fig. 24　井戸 SE04 実測図

じく南側から流入し、その後レンズ状堆積をくり返し埋没している。途中５層の埋没過程で、古代の土師杯、皿等と九州系Ⅳ類（黒色土器Ｂ類）に分類される椀が出土している。時期はこれまで主体となっていた９世紀第１～２四半期の時期からやや新しくなり、10 世紀前後の時期の遺構と考えられる。

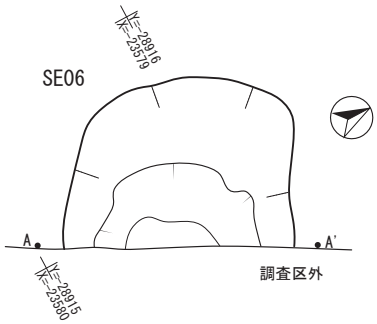


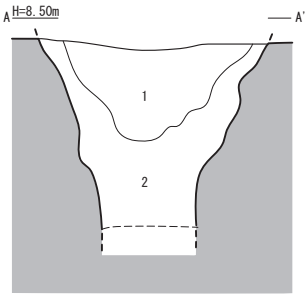


1. ｵﾘｰﾌﾞ黒色粘質土(5Y3/1)粗く大きい褐色ﾌﾞﾛｯｸが多量に入る
2. 黒褐色粘質土と褐色土がﾌﾞﾛｯｸ状に入る
3. ｼﾙﾄ～砂まじりｼﾙﾄ

S=1/40 0 1m

Fig.25　井戸 SE05 実測図





1. 黒褐色粘質土(2.5Y 3/1)灰白色の炭化物が多く混じる
2. 黄灰色粘質土(2.5Y 4/1)(10cm～)の褐色ﾌﾞﾛｯｸが混じる

S=1/40 0 1m

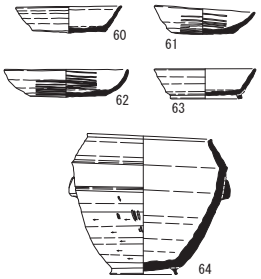
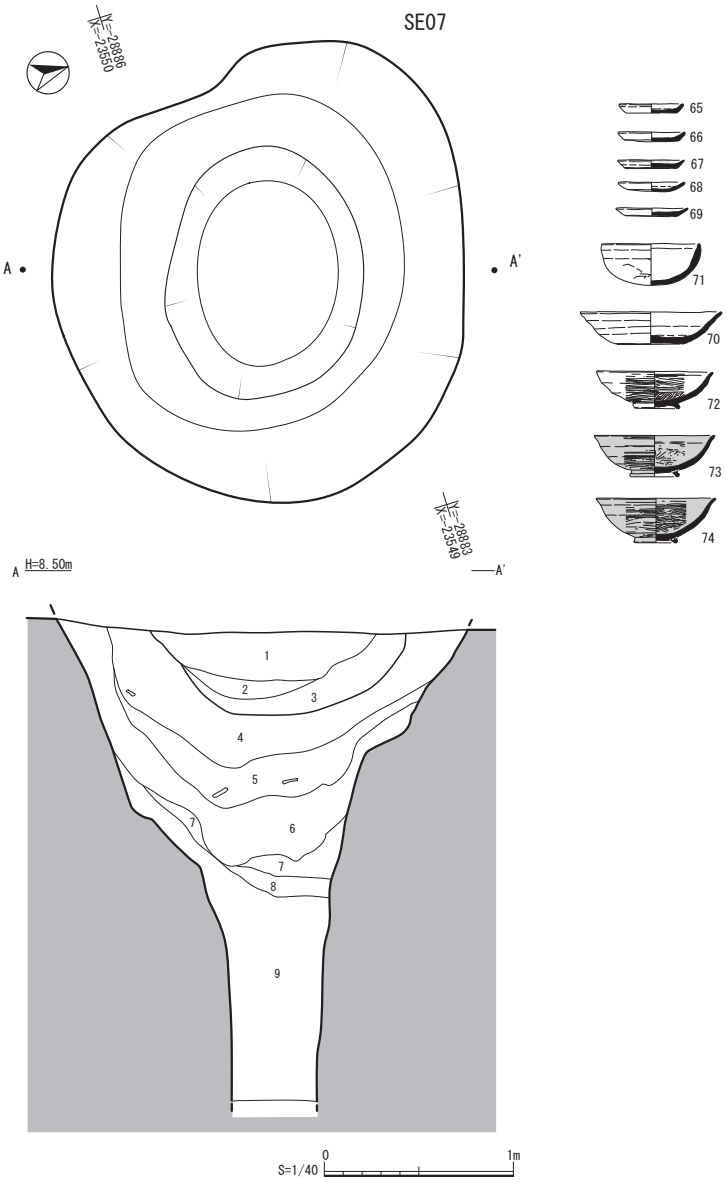


Fig.26　井戸 SE06 実測図

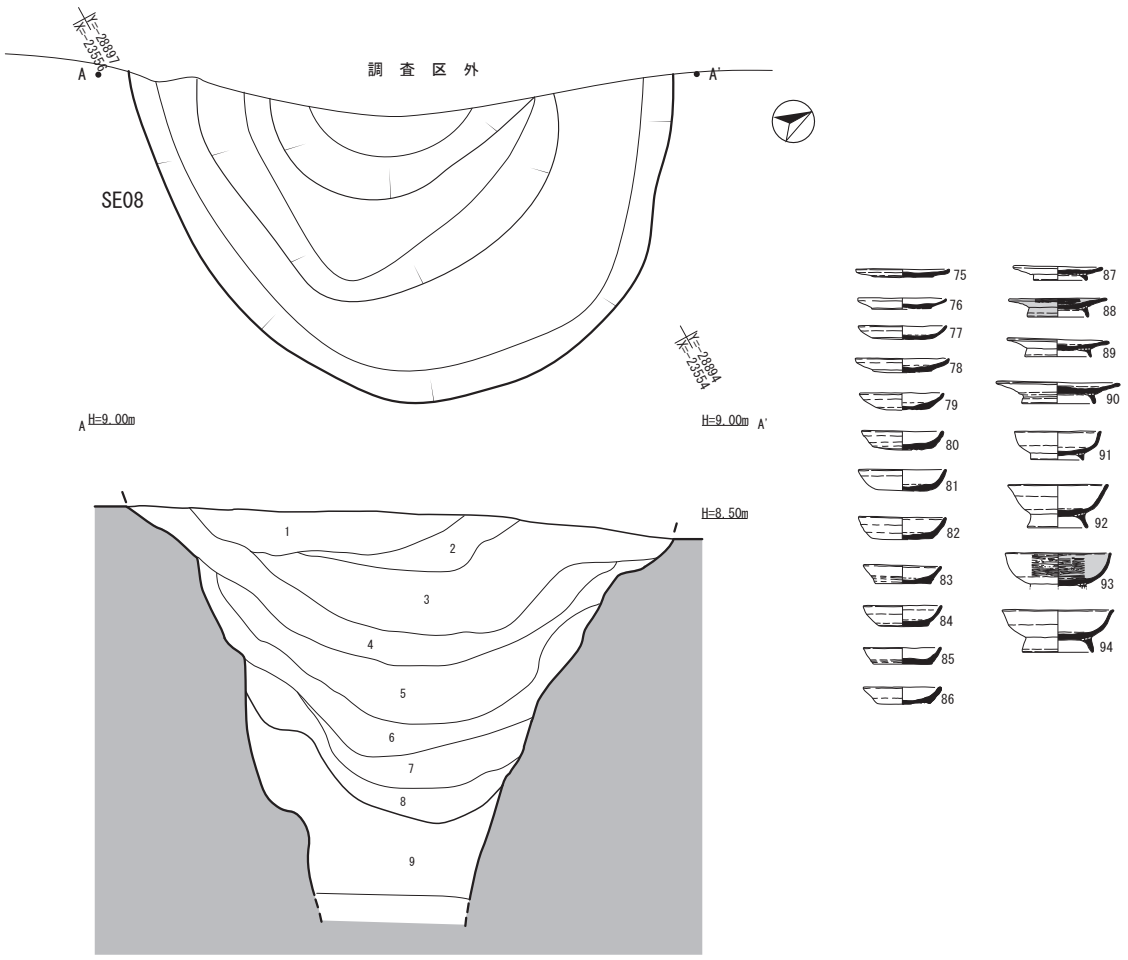


1. 黒褐色砂質土(10YR2/3)
2. 黒褐色砂質土(10YR2/3)8～20mm大の褐色ブロックを多量に含む
3. 黒褐色砂質土(10YR2/3)2層より褐色ブロックが少ない
4. 黒褐色砂質土(10YR2/3)粘性強い　6～10mm大の黄褐色粒を含む
5. 黒褐色砂質土(10YR2/3)粘性強い
6. 黒色粘質土(10YR2/1)
7. 黒褐色粘質土(10YR2/3)7層に類似　粘性強い
8. 黒褐色粘質土(10YR2/3)黄褐色土粒を含む
9. 暗褐色粘質土(10YR2/3)粘性強い

Fig.27　井戸 SE07 実測図

井戸 SE08（Fig.28）調査区北端に位置し、遺構の半分は調査区外に当たる。遺構中心部は埋土が盛り上がる状態を残し、検出した模様である。遺構の直径は２ｍを超える規模で、他の井戸に比べると大型である。遺構大半が調査区外であるため竪穴は基底部まで掘削できず、深度は 1.98 ｍまで掘削している。土層は中央部が窪むように堆積しており遺構廃棄後、自然堆積による埋没過程を垣間見ることができる。出土遺物は多く、土師器・須恵器の皿、杯、托、高台付椀等がある。うち、１点は黒色土器 A 類が出土するなど多彩さを見せている。

土坑 SK02（Fig.29）本遺構は竪穴建物が検出されている調査区ほぼ中央部で検出した。一見竪穴建物とも見て取れるが、竪穴建物とした場合の構成要素が皆無である。長径 3.6 ｍ、短径 2.7 ｍの長方形で北側を撹乱で切られている。土師杯、須恵高台付杯が各１点出土している。



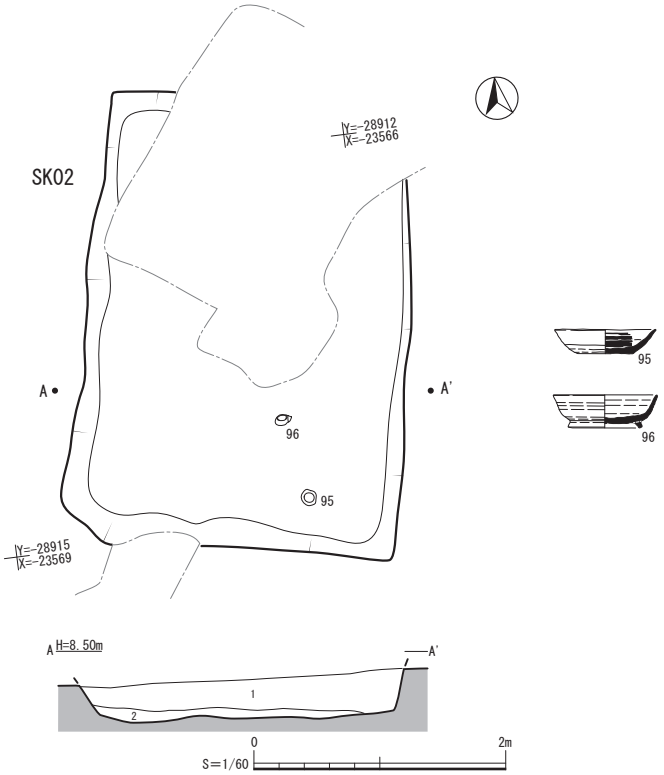
1. 黒褐色砂質土(10YR2/3)1層よりやや暗い　1cm大の黄褐色土粒ブロック混入
2. 黒褐色砂質土(10YR2/3)2層よりややや暗い
3. 黒褐色粘質土(10YR2/3)土器片を多く含む
4. 黒褐色粘質土(10YR2/3)5層よりやや明るく土器片少ない
5. 黒褐色粘質土(10YR2/3)6層に類似
6. 黒褐色粘質土(10YR2/3)やや砂質で大きな土器片を含む
7. 明黄褐色土(10YR6/6)砂質で無遺物層
8. 暗褐色粘質土(10YR3/3)
9. 黒褐色粘質土(10YR2/3)粘性強い

Fig.28　井戸 SE08 実測図

土坑 SK03（Fig.30）長楕円形を呈する遺構。底部でさらに有段を持ち楕円形に下がる。深度は約 60cm あり、土層中に骨が出土したことから土坑墓の可能性も想定しているが（人骨、獣骨の判断は不可）、現時点では土坑として報告する。主軸は東西方向に向く。

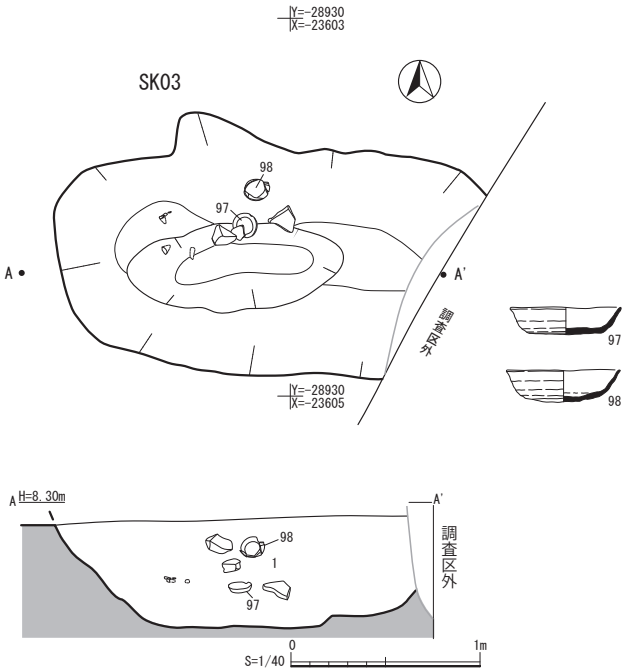
土坑 SK04（Fig.31）南東隅を土坑 SK05 と重複し検出している遺構。遺構形状は方形を呈する。土層は単層で掘り方はややすぼまりながら下端に至る。
遺構長辺西側に土師器皿５点、杯１点及び須恵器高台付き杯１点の遺物が各３点ずつ２列に並べられた状態で出土している。１点はやや外れているが出土層位が同じであるため一括資料として扱っている。遺物の出土状態から遺物の年代を知るうえで極めて良好な一括資料で、遺構の性格としては埋納遺構であるとみられる。

土坑 SK05（Fig.32）本遺構は円形を呈する遺構。当初井戸とも考えられたが、遺構深度が１ｍであり帯水層まで達していないと判断されるため土坑として報告する。断面形状は逆台形で底部付近のみ、やや直線状に伸びる。土層は下層に向かうに従い細くなり、上層は１層のみで構成している。遺構廃棄後、ある時期に一気に埋められた可能性も想定される。出土遺物は主に１層下部から出土している。遺物は土師杯、高台付杯、須恵高坏、甕がある。



1. 黒褐色粘質土(2.5Y3/1) 粗い砂質がﾌﾞﾛｯｸ状に入る
2. 黒褐色砂質～粘質土(2.5Y 3/1)粗い砂質がﾌﾞﾛｯｸ状に入る

Fig. 29　土坑 SK02 実測図



1. 黒褐色砂質土(10YR2/3)粒子が粗く砂質が強い

Fig. 30　土坑 SK03 実測図

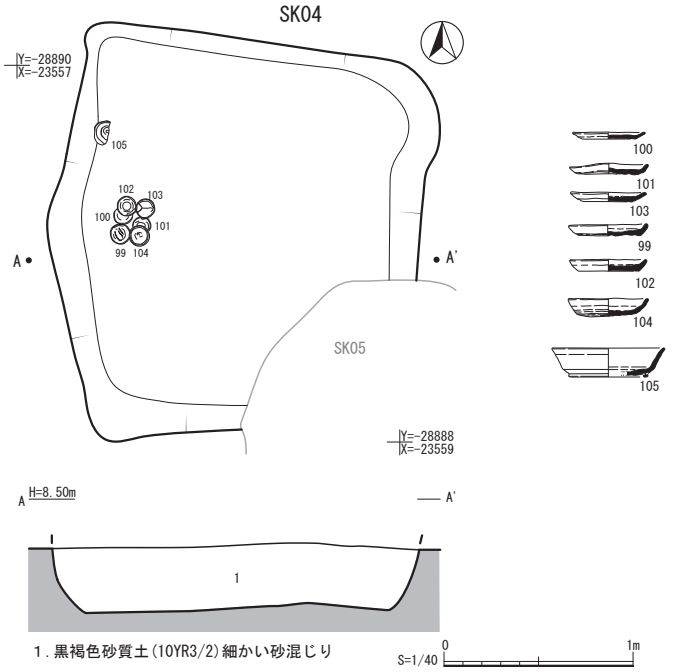


Fig.31　土坑 SK04 実測図

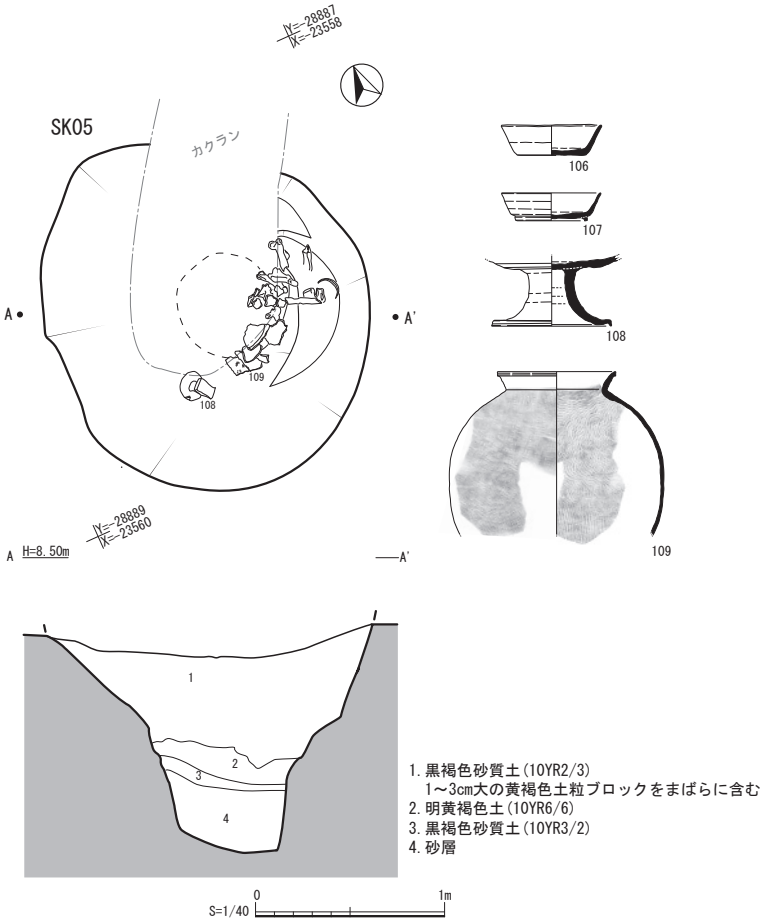


Fig.32　土坑 SK05 実測図

15次6区・16次3区

本遺構は西側で6次調査区と接し、大規模な溝状遺構の延長が予想された調査区である。調査の結果、6次調査では溝状遺構と見られていた遺構が多数の溝に囲まれた方形遺構を形成しており、南から延びる溝状の遺構と合わせて、当該遺跡群のなかでは最大級の規模を誇る遺構となった。中心となる平坦面には小規模な建物痕跡を検出し、特殊な遺構であった可能性が高い。

16次3区は後世の撹乱が入り遺構の残存状況は非常に悪い。

方形区画 SX01（Fig.34）ここで検出した遺構は6次調査・15次6区調査・16次3区調査の各区に渡り、断片的に調査され確認された。本遺構は、6次・15次6区の調査区に渡り方形区画を検出し、15次6区・16次3区の調査区に渡り溝状の遺構を検出している。

本遺構は、北側の方形区画部と、南辺に接する溝状遺構とに大別できる。方形区画部は、最終形態の遺構となる一辺が南北14 m×東西17 mの区画に、内部平坦部南北7 m×東西8 mを呈する。平坦部南側上端近くには左右に分かれ切り合う小柱穴を検出する。中心部付近は多数の柱穴が見られるが、撹乱も多く建物痕跡を認めることはできない。また、その北側には確認できる限りで2間（3.7 m）の柵列を検出し、更にその北側には平行する溝状遺構を検出している。

方形区画は、東側において14°北に主軸を振り南北ほぼ同じ規模の17 m区画を呈し、更にその下部からは南北約19.5 mの隅を直角に持つ溝状遺構を検出している。これら一連の溝状遺構の変遷から3度に渡る方形区画の築造経緯が窺える。切り合いが激しいことから平坦面における遺構検出は最上部の方形区画でしか確認することはできない。最上部平坦部西側には平坦面から南に尾根上に伸びる張り出しを見ることができる。その南には方形区画南辺に取り付くよう、南に向かい約50 mに渡る溝状遺構が伸びる。溝断面は、方形区画に近い（D–D'）で深く逆台形を呈し、南に行くに従い浅く幅を広めながら緩やかな立ち上がり（E-E'）を示す。15次6区では遺構最下部まで調査を実施し、下端は不定形ながらも波板状とまではいかないが、浅い土坑状の落ち込みを残す。16次3区の調査区では溝状遺構の一部にトレンチを入れ確認するに留められている。出土遺物は糸切りの土師器皿及び杯類、土師器内面に「大内」をヘラ書きされた杯及び土馬が出土している。

柵列 SA03（Fig.36）掘立柱建物 SB09 の東に隣接し検出した柵列状遺構。掘立柱建物に比べ小規模な柱穴により構成され3間、全長4.9 mからなる。断面形は不定形で P4 のみは断面に柱痕を持つ。さらに埋土からは円面硯の一部が出土しており、他の柱穴と比べると掘り方等もしっかりとしている。掘立柱建物 SB09 と近接するため同時期の遺構として判断に迷うところもあるが調査時の判断を尊重し柵列として報告する。

柵列 SA04（Fig.38）掘立柱建物 SB11 の南に隣接し検出した遺構。掘立柱建物柱穴に比べ小規模で径40cmを測る。残存する柱穴の間隔は2.2 m、2.6 mを測り、全長4.8 mのみである。西側は SB11 同様、後世の遺構により削平を受けているとみられ当初は SB11 と同程度の柵列が存在していた可能性も高い。

掘立柱建物 SB08（Fig.36）15次6区北側で検出した遺構。梁行3間、桁行3間を基本とするが、西北隅の柱穴を検出していない。また、北側梁行の中間柱も検出できていないため、全体規模を確認することはできない。南側梁行では通常の柱間となる P4・P6 間に柱穴痕跡 P5 を認める。主軸は桁行に沿い南北におく。

掘立柱建物 SB09（Fig.36）遺構の大半を撹乱により削平され全体規模は不明である。削平率が高いこと、全体として遺構深度が浅いことから、後に報告する SB10 同様遺構認定には疑問が残る。柱穴としている断面を観察するも柱痕、抜取痕は見られず、P1・P3 では埋土の水平堆積を呈する等、不自然さを感じる。

仮に遺構とした場合、残存規模では梁行2間×桁行3間以上で、南北方向に主軸をおく。P1・P2 間では柱穴を検出していないが、建物規模から想定すると浅い状態で存在していた可能性もある。柱穴平面は円形、

Fig. 33　15 次 6 区・16 次 3 区遺構配置図

若しくは楕円形で掘り方は浅い。

掘立柱建物 SB10（Fig.37）遺構の大半を撹乱により削平され全体規模は不明である。削平率が高いこと、全体として遺構深度が浅いことを勘案し、掘立柱建物として検討する必要があるかもしれない。柱穴としている断面を観察するも柱痕、抜取痕は見られず、P1・P3・P4 では埋土の水平堆積を呈する等、不自然さを感じる。仮に遺構とした場合、現存する規模は梁行２間（3.6 m）、桁行２間（4.2 m）を測る。桁行方向は撹乱により削平されている可能性もある。当遺跡で一般的にみられる掘立柱建物からすると４間×２間であるため、撹乱により消滅していると判断するのが適当であろう。主軸は桁行方向に南北が来ることからこの方向に主軸を有する遺構であると考える。

掘立柱建物 SB11（Fig.38）東西に主軸をおく遺構。現状では梁行２間、桁行３間の柱穴からなる。西側柱穴は中世以降の遺構となる幅約３mの溝によって削平を受ける。柱穴はすべて円形を呈し、隅丸方形を呈するものはない。遺構断面は底面が平底となるものが大半で、P5 底部では僅かだが段を有していることから柱穴を据える際に調整した痕跡である可能性がある。また、隅柱となる P6・P7 では、底部で礫が出土しており、柱穴を設置する際の一つの方法として、礫を用いた根固め若しくは楚盤としての利用であったかを窺える良好な資料と見られる。P6 では断面で上部が開く柱痕を確認していることから抜き取り痕の可能性を窺わせる。

井戸 SE09（Fig.39）15 次６区のほぼ中央で検出した遺構。平面は円形を呈し、土坑状に広がる掘り方部分を掘下げると約 80 ～ 90cm の上端を持ち、垂直に竪穴を穿つ。竪穴は下層に行くに従いややすぼまりながら深度を深め、地表から 2.9 m掘削したところで約 60cm の幅となる。途中から湧水が激しくなりこれ以上の掘削は無理と判断し調査を中断している。出土遺物は多彩で、土坑状の掘り方から古代の土師・須恵器の皿、杯及び高台付杯が出土すると共に、竪穴下層からは口縁部を欠いた高台付長頸壺（荒尾産須恵器）が１点出土している。このレベルからの出土遺物は、井戸が廃棄された時期に最も近い遺物として捉えることができよう。井戸竪穴部断面中位でやや外側に広がる部分は、堆積土の砂質が強い層が、水位の作用により崩落した部分に該当する。

井戸 SE10（Fig.39）15 次６区で SE09 に隣接し、竪穴建物 SI02 と切り合う状態で検出した遺構。SI02 よりは後出する遺構と判断している。平面は円形を呈し土坑状に広がる掘り方を有し、中央部付近で竪穴の掘り方が存在する。掘り方は径 80cm ～ 90cm でほぼ垂直に掘り込まれ、底部では径 20cm に至る。竪穴部断面中位で幅が広がる部分は SE09 同様、堆積層の砂層が強い層に該当し、水位の上下により崩落し広がったものとみられる。出土遺物は多く、その大半が掘り方の浅い土坑状からの出土である。詳細は取り上げ時の実測図に残っていないため分からないが、その他の記録類から推測すると出土状況は前述したような状況であったと考えられる。
主な出土遺物は土師・須恵器の皿、杯、高台付杯、蓋等である。竪穴部ではなく土坑状掘り方からの出土であるため井戸廃棄の際、祭祀行為の一環で廃棄された遺物であることが想定される。

井戸 SE11（Fig.40）16 次３区の中心部で検出した遺構。掘立柱建物 SB11 に東接する。平面は円形で、一部直線状のところもあるが、基本的にこれまで報告してきた円形の平面を呈する井戸であるとみられる。
他の井戸と違い本遺構は、土坑状の掘り方部に深い掘り方を有し、他よりも深い位置から竪穴部を穿つ。井戸竪穴部は土坑状掘り方底部から竪穴が垂直に穿たれ、2.7 mのレベルまで安全対策を取りながら調査を実施したがそれ以上は、湧水により調査を中止した。土坑部は土層を４層に分層することができ、１層に至っては井戸枠の痕跡を窺わせる形状を為す。遺物は主に２層～４層から出土しており、出土遺物がほぼ完形で

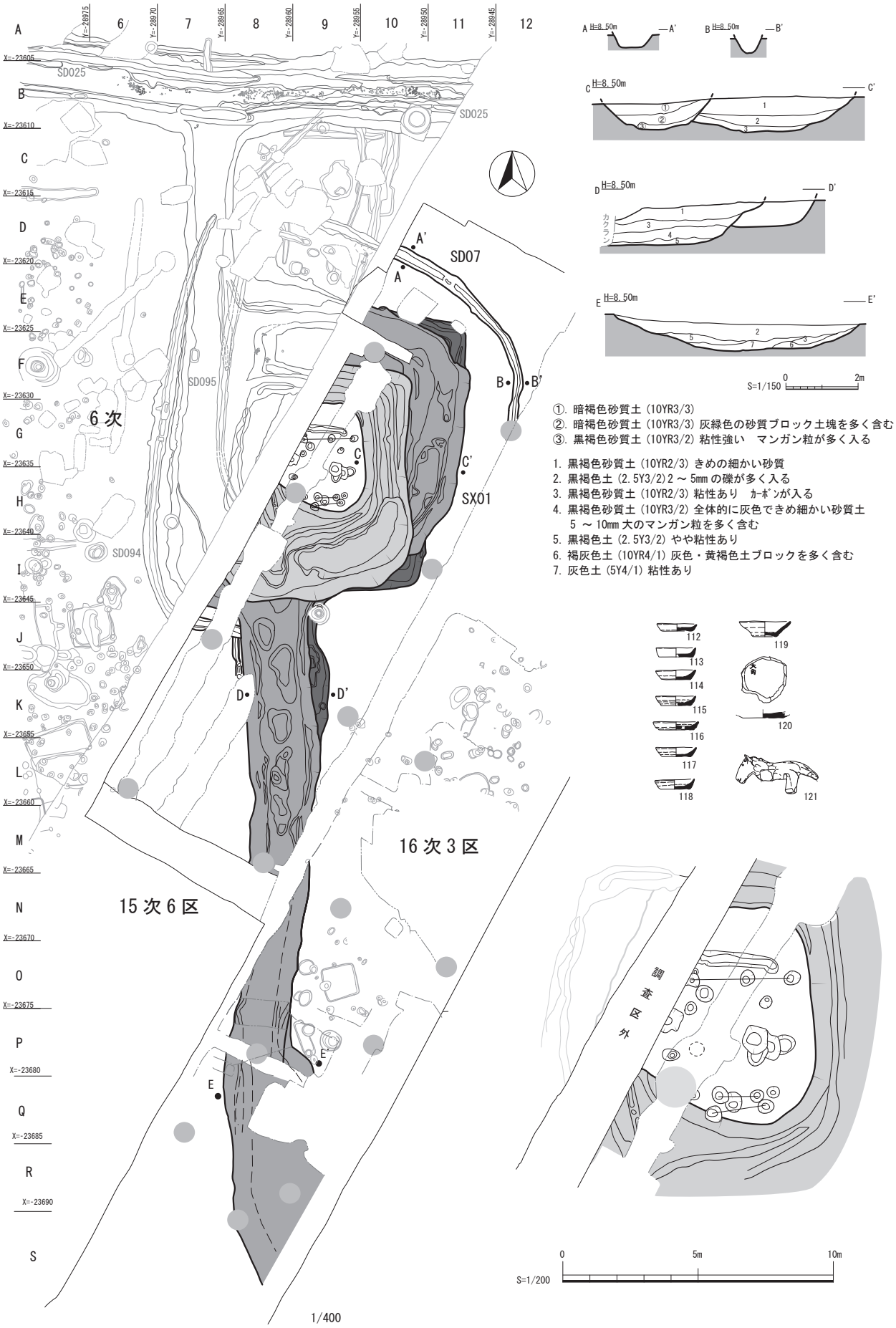


Fig. 34　方形区画 SX01・溝 SD07 遺構配置図

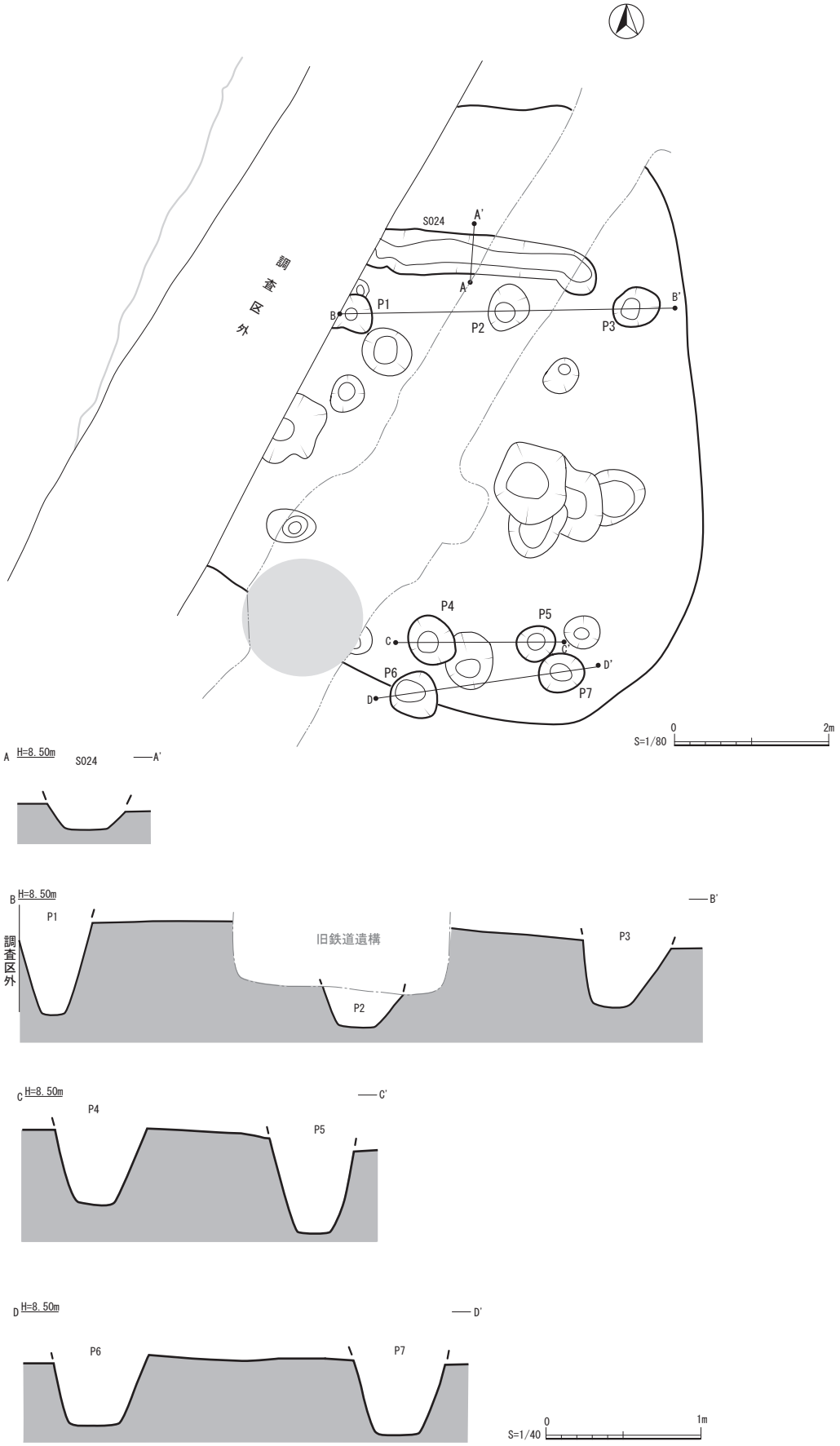


Fig.35　方形区画 SX01 内遺構配置図

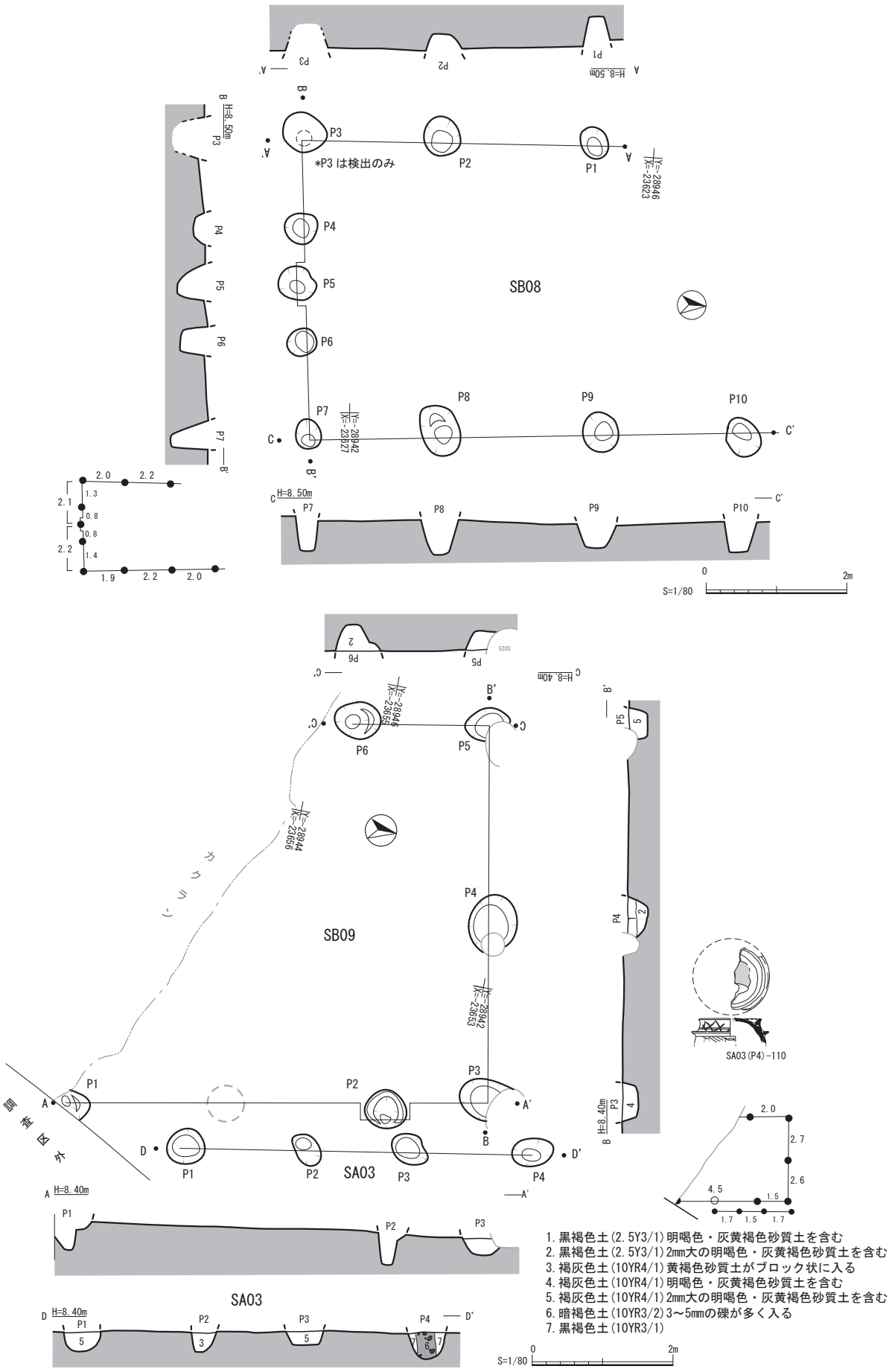


Fig.36　掘立柱建物 SB08（上）・SB09・柵列 SA03（下）実測図

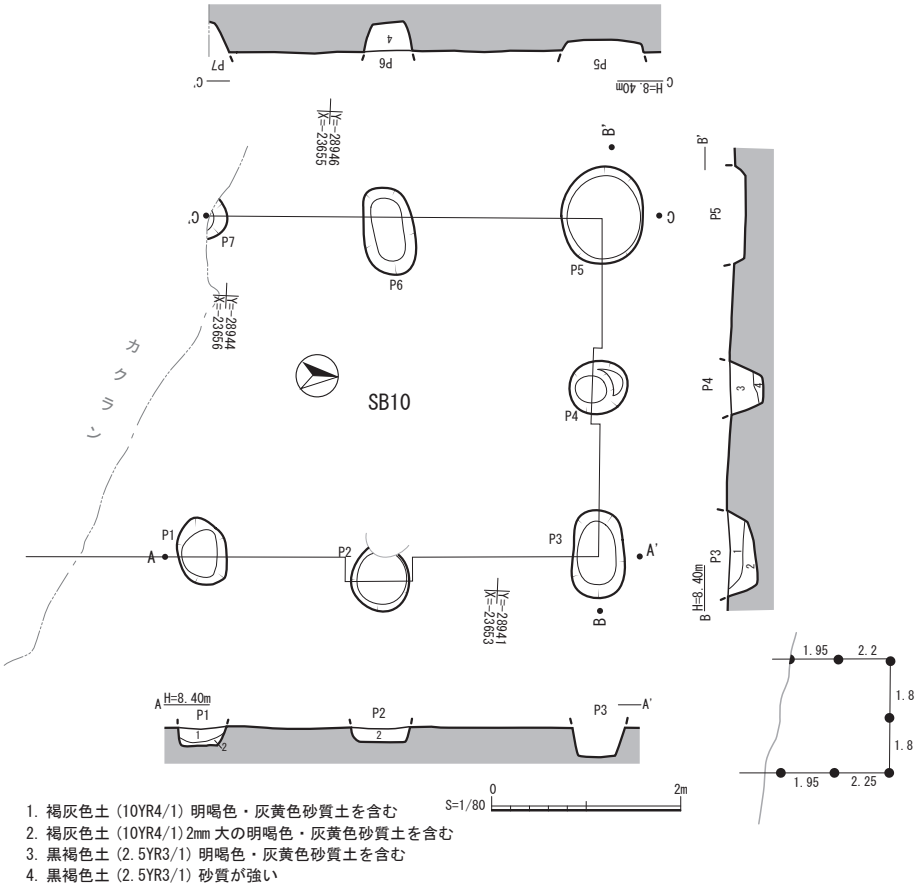


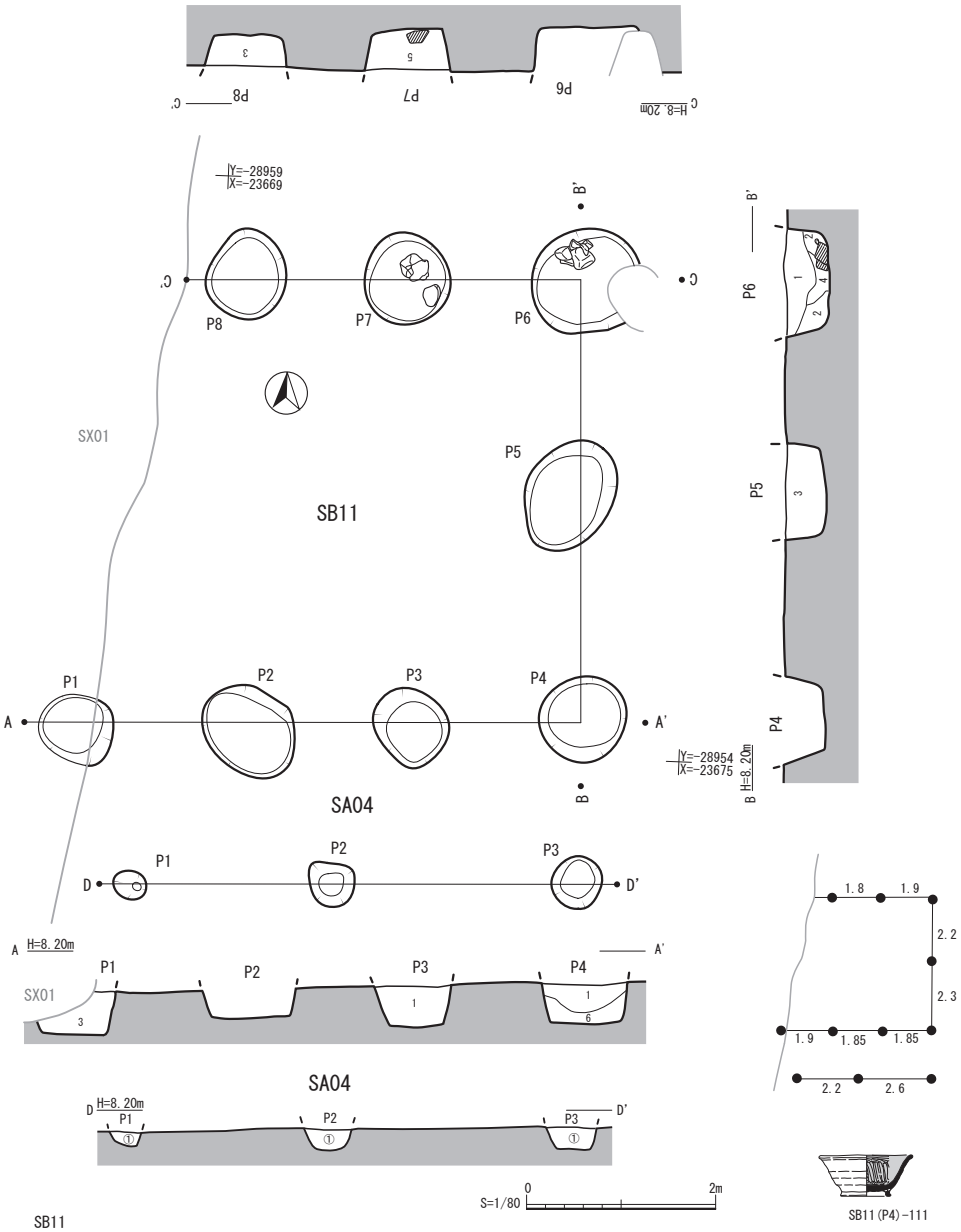
Fig.37　掘立柱建物 SB10 実測図

あること、出土レベルに差異がないことから一括性の高い資料と判断される。

井戸 SE12（Fig.41）16 次３区、SB11 の南西に位置する遺構。上部の削平が激しく、本遺跡群で見られる一般的な井戸に備わる土坑状の掘り方は検出されず、竪穴のみで検出している。上部土坑部は削平された可能性も高い。竪穴はほぼ垂直に掘削されており途中、脆弱な層位付近でやや外に膨らんでいる。

竪穴建物 SI01（Fig.42）方形の形状を呈し、北中央に作り付けカマドに伴う煙道部を大きく張り出す。カマドの粘土壁や焼土は確認されておらず、竪穴建物廃絶時に撤去され、外部に持ち出されたものと考えられる。カマド潰しの祭祀の一環である可能性も想定できよう。竪穴内部の南西部には硬化面が壁に接する形で検出しているが、一部であるため竪穴内利用の推定ができるまでには至らない。また、主柱穴等の柱穴も確認されておらず、建物構成の検討が難しい。土層断面からは２層に分層された部分が、掘り方の一部遺構南側、約 2/3 を貼床にしていたことを窺わせる。遺構埋土からは９世紀代の土師器皿、杯類及び須恵器、高台付杯、蓋等、多数出土している。

竪穴建物 SI02（Fig.43）SI03 を上位に有し重複する遺構。遺構内には作り付けカマドの煙道部痕跡を見ることができるがその他、主柱穴などは確認できない。遺構西壁中央部で検出している柱穴は、調査時には主柱穴の可能性があるとして認識されているが、それと対応する遺構が検出されていないため現状では主柱穴とは断定できない。先に記した様に作り付けカマドの痕跡が煙道部のみであるという結果から、竪穴建物廃絶



SB11

1. 黒褐色土(2.5Y3/1)明喝色・灰黄色砂質(硬質)等含む
2. 黒褐色土(2.5Y3/1)黄褐色砂質がブロック状に入る
3. 黒褐色土(2.5Y3/1)～2mmの明喝色・灰黄色砂質(硬質)が混じる
4. 褐灰色土(10YR4/1)明喝色・灰黄色砂質(硬質)等含む
5. 褐灰色土(10YR4/1)～2mmの明喝色・灰黄色砂質(硬質)が混じる
6. 黒褐色土(2.5Y3/1)黄褐色砂質土を多く含む

SA04

①. 褐灰色土(10YR4/1)黄褐色砂質がブロック状に入る

Fig. 38　掘立柱建物 SB11・柵列 SA04 実測図

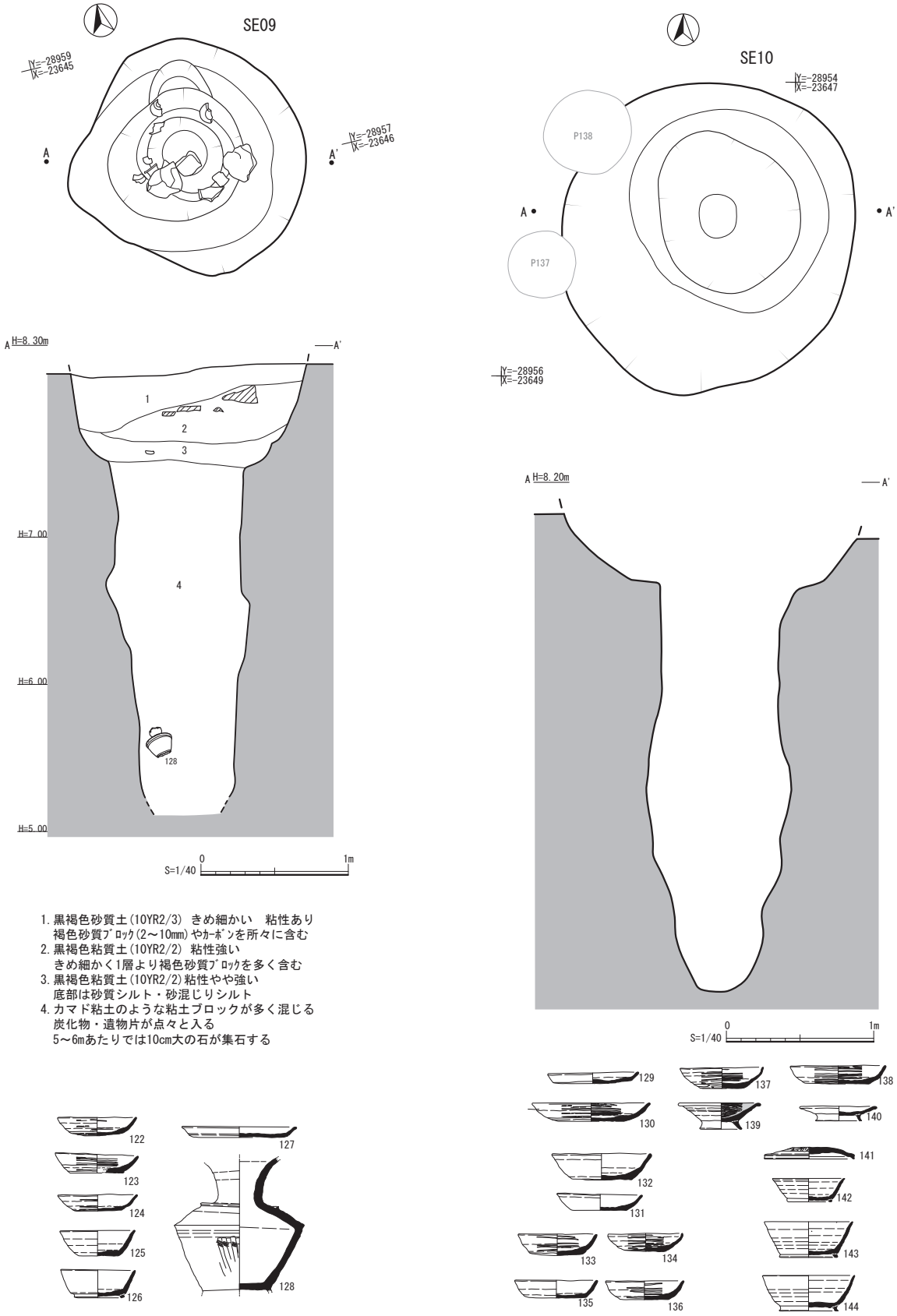


Fig.39 井戸 SE09（左）・SE10（右）実測図

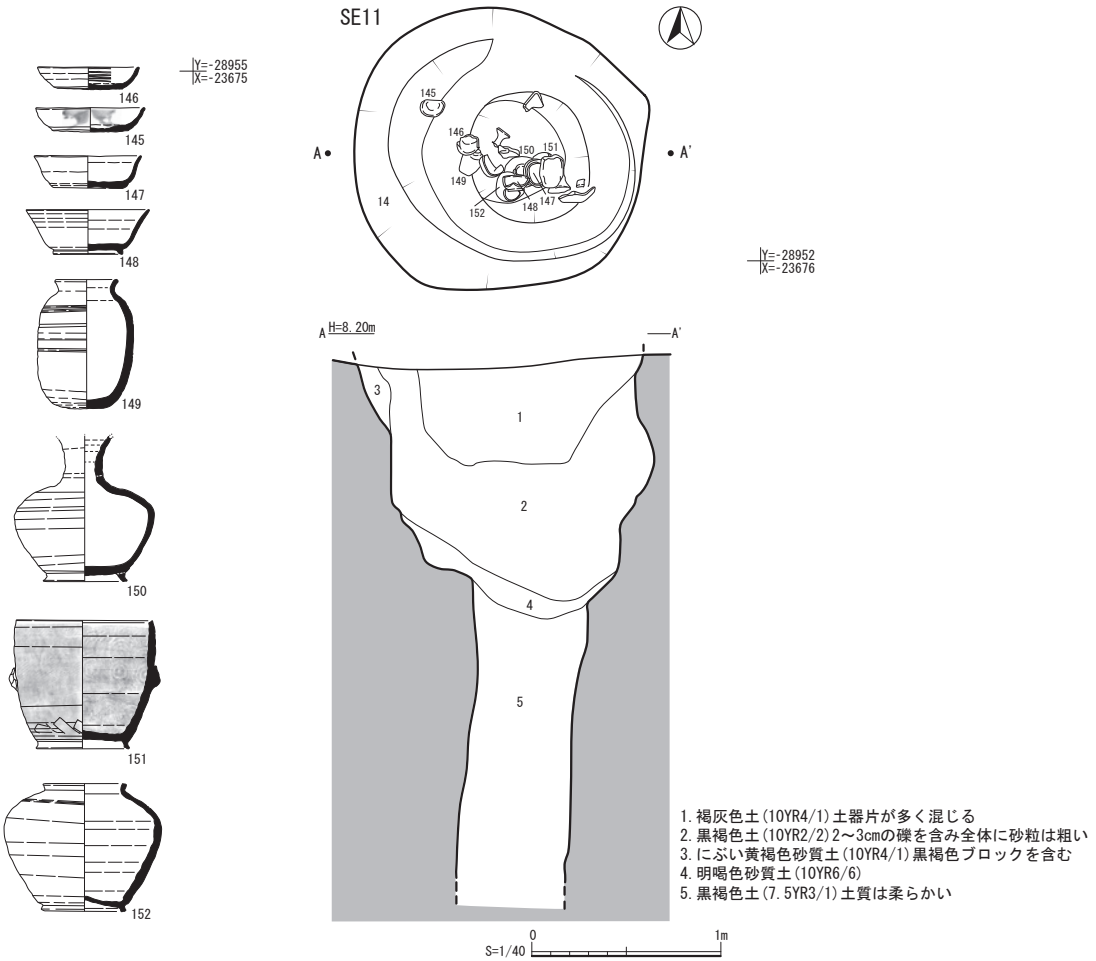


Fig.40　井戸 SE11 実測図

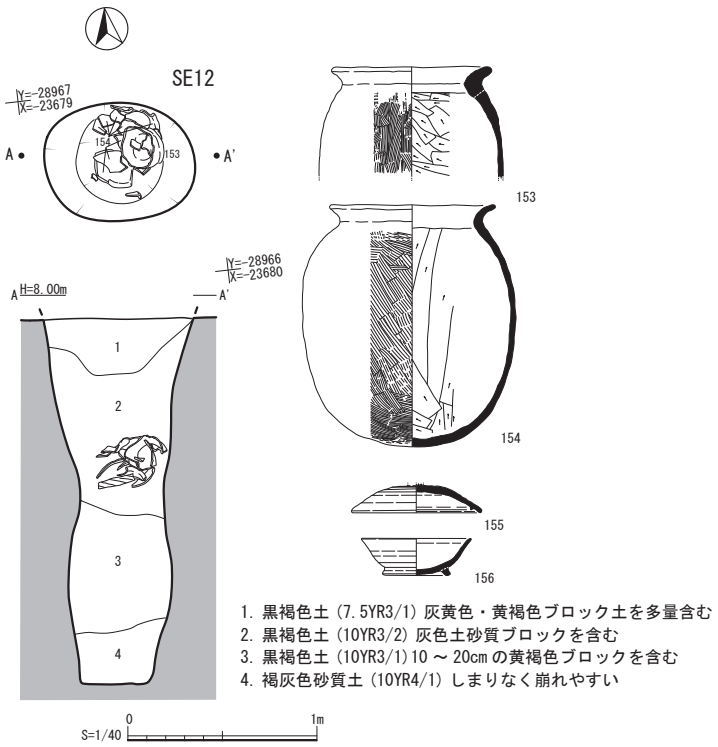
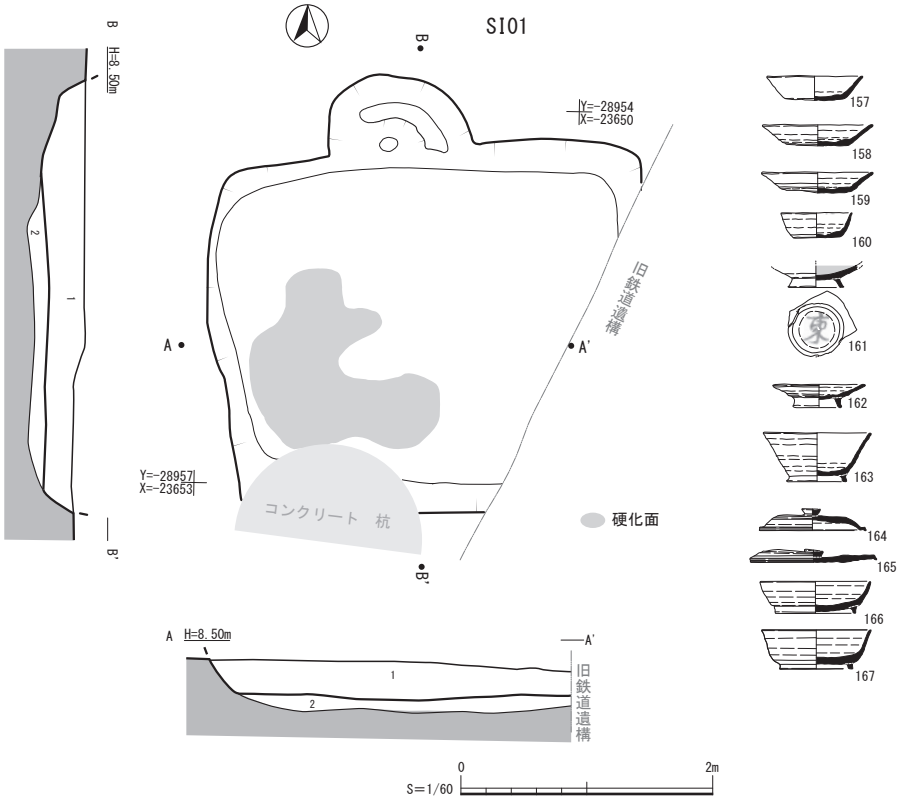


Fig.41　井戸 SE12 実測図

時にカマドを壊す祭祀行為の結果、カマドを構成する粘土及び焼土等は持ち出された可能性が高い。土層は上下２層を確認し、２層下端が不正形の凸凹を残していることから１層下が貼床とみられる。しかし、その上面での硬化面等の検出は確認されていない。遺物は１層埋土からの出土遺物で、須恵器杯、摘付き蓋、輪状摘蓋及び高台付杯身が出土している。

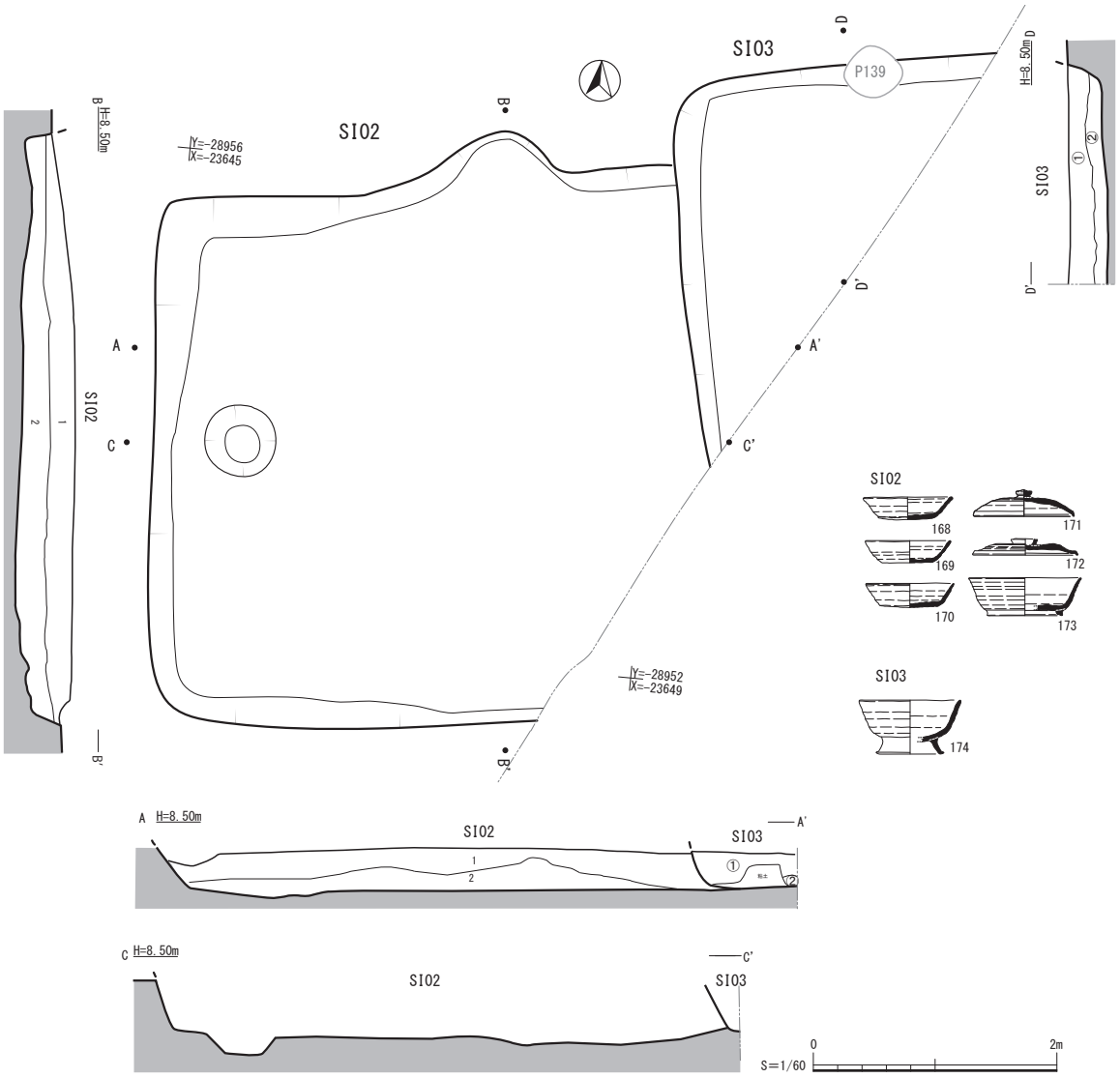
竪穴建物 SI03（Fig.43）約 1/4 の残存で北西隅一角を検出した遺構。西側には竪穴建物 SI02 が下位に位置し重複する。確認する限りでは遺構の上端・下端のみを検出し、作り付けカマド及び主柱穴等は検出されていない。遺構北辺に上位層からの柱穴が重複してくるが時期の違う遺構と認識している。
埋土中からは高い高台が付く土師器高台付碗が１点出土している。

土坑 SK06（Fig.43）方形区画 SX01 の東に位置し周囲には掘立柱建物及び竪穴建物を検出している。遺構はこれらの遺構群のなかで重複し検出しており最も新しい切り合いに該当する。主軸はほぼ南北におき直径約 1.3 m、短辺約１mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、西側にわずかにステップを配し広がりを見せる。ステップ部と下端との間には更に一段、段差があり遺構下端では不定形ながらも楕円形状を呈している。
土層は上下３層からなり下端に近い２～３層では南北方向からの三角堆積の状況を呈し、１層ではブロック状の埋土を有し自然堆積土の状況が見られないことから人為的に埋め戻された可能性もある。
遺物は主に最下層を構成する２・３層中から出土し、それぞれは破片で出土しており、埋納を目的とした遺構ではない。出土遺物は９世紀初頭の日常什器が中心で、破損した遺物のみの出土であることから、遺構の性格は廃棄土坑である可能性が高い。

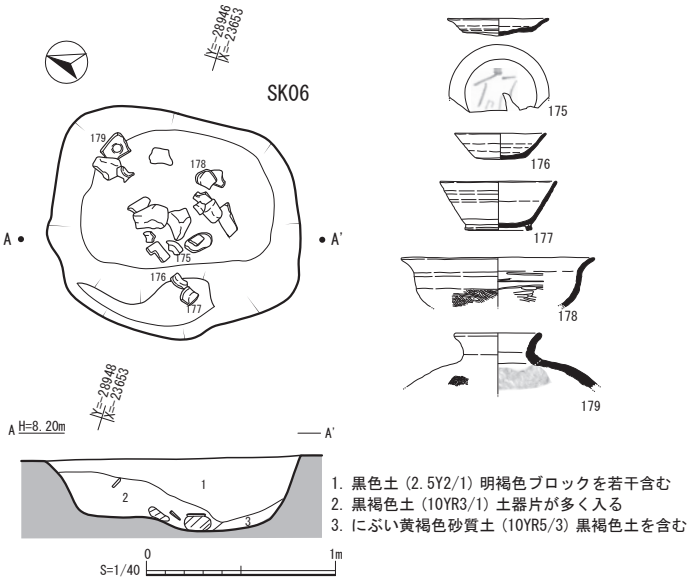


1. 黒褐色砂質土(10YR2/2)きめ細かくやや粘性あり 砂質ブロック・炭化粒を多く含む
2. 黒褐色砂質土(10YR2/2)ブロック層　粘土塊を含む　砂質ブロック・褐色土が入る

Fig. 42　竪穴建物 SI01 実測図



SI02
1. 黒褐色砂質土（10YR2/2）きめ細かい砂質
2. 黒褐色土（10YR2/2）きめ細かい砂質　褐色土ブロックが入る
SI03
①黒褐色砂質土（10YR2/2）褐色土ブロック・焼土粒・粘土魂が多く入る
②黒褐色土（10YR2/2）黒色土ブロックが入る



1. 黒色土（2.5Y2/1）明褐色ブロックを若干含む
2. 黒褐色土（10YR3/1）土器片が多く入る
3. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）黒褐色土を含む

Fig.43　竪穴建物 SI02・SI03（上）・土坑 SK06（下）実測図

11・13次3区・17次4区

11・13次3区　本調査区は平成21年～22年にかけ熊本県の直営で実施した発掘調査の結果である。
17次4区は平成28年11月29日～平成29年2月28日にかけ調査、水上正孝（文化財保護主事）が監理・監督し、調査補助を（株）有明測量開発社が行った。
本調査区は発掘調査に先行して、JR連立事業に係る一連の工事に伴う杭設置で10本の設置が終了している。
※設置に際しては工事立会を実施済

掘立柱建物SB12（Fig.45）方形遺構の北側で、主軸を東西におき検出した遺構。梁行3間（4.4 m）、桁行3間（6.3 m）を測る。西側小口は撹乱により消滅しているが、北西隅の隅柱がわずかに残るため規模を決定するに至った。個々の柱穴平面形は一部に直線状の掘り方を有するものもあるが基本、楕円形の掘り方に括ることができよう。南面には軒を構成するであろう柱穴列が検出されているが、建物に近接し過ぎていること、遺構掘り方が建物より先行することなど未確定な要素を残す。

掘立柱建物SB13（Fig.46）方形遺構と一部重複し検出した遺構。方形遺構との切り合い関係は、掘立柱建物が後出する関係を確認している。本遺構は梁行2間（5.2 m）、桁行5間（12.1 m）を測り、近接地域では見られない規模の建物である。柱穴の平面形は隅柱の一部に隅丸方形に類似する形を示すものもあるが、ほぼ円形のもので構成する。

方形区画溝SD08（Fig.47）11次・13次3区と17次4区の両調査区にかけ確認した遺構。一辺が約11 mの規模で四方に溝を巡らす。溝幅は約1.6 m～2.2 mと幅を持ち掘削され、断面は逆台形を呈する。断面土層がほぼ水平堆積による埋没を見せていることから、遺構は自然堆積による埋没と判断される。
溝南辺の内側の立ち上がりでは途中、段を有し緩やかな傾斜を呈する。また、溝の内部と外部とを繋ぐ陸橋等は確認されていない。
溝内部の平坦部には井戸SE15と竪穴建物SI04を検出している。これらの遺構が方形区画内に意図して作られたものか偶然所在しているのかの確認は出来ていない。出土遺物中には鞴の羽口など特殊な一部を含むが、残された遺構内では小鍛冶を示す鍛造鉄片等は確認されていない。

井戸SE13（Fig.48）調査区の北辺に位置し検出した遺構。調査区際での遺構検出となったため事業者と協議のうえ、遺構の広がる部分のみ拡幅し記録保存を行なった。遺構平面は楕円形で、そのほぼ中心に竪穴を垂直に穿っている。一般的に本遺跡群で見られる土坑状の掘り方は検出できず、竪穴上部が緩く外反する。井戸深度は約2.3 mで底部は平底を呈する。遺構完掘を目的としたため、土層は危険防止のため残していない。埋土中からは9世紀代の遺物が出土しているが、注目すべき遺物として、祭祀に用いられる土馬が出土している。土層を残していないため出土層位等は不明。

井戸SE14（Fig.49）掘立柱建物SB12の南に接し検出した遺構。上部の土坑部は削平されていると思われ、底部がわずかに残る。竪穴は上部から下部に向かい、すぼまるよう逆三角の形状を呈する。東側壁には掘削段階を示す単位が2段に渡り痕跡を残す。底部は平底で角は丸みを帯びる。埋土中からは須恵器杯、高坏杯部及び甕が出土している。

井戸SE15（Fig.50）方形遺構内の平坦部に所在する遺構。平面形はほぼ円形で、土坑状の掘り方の中心部に竪穴を垂直に穿つ。土層断面等は残されていないため、埋没過程及び出土遺物の層位は分からない。

Fig. 44　11・13次3区・17次4区遺構配置図

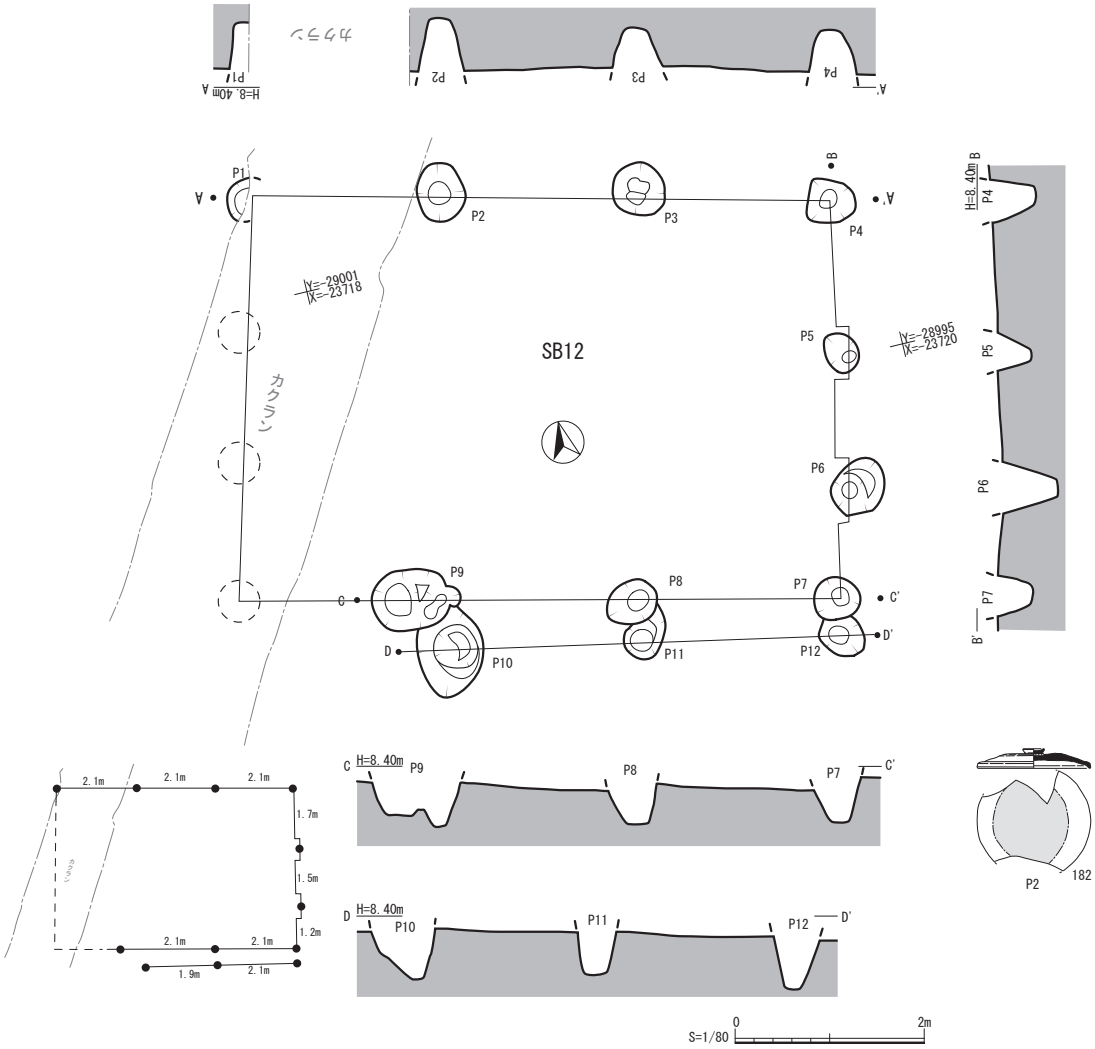
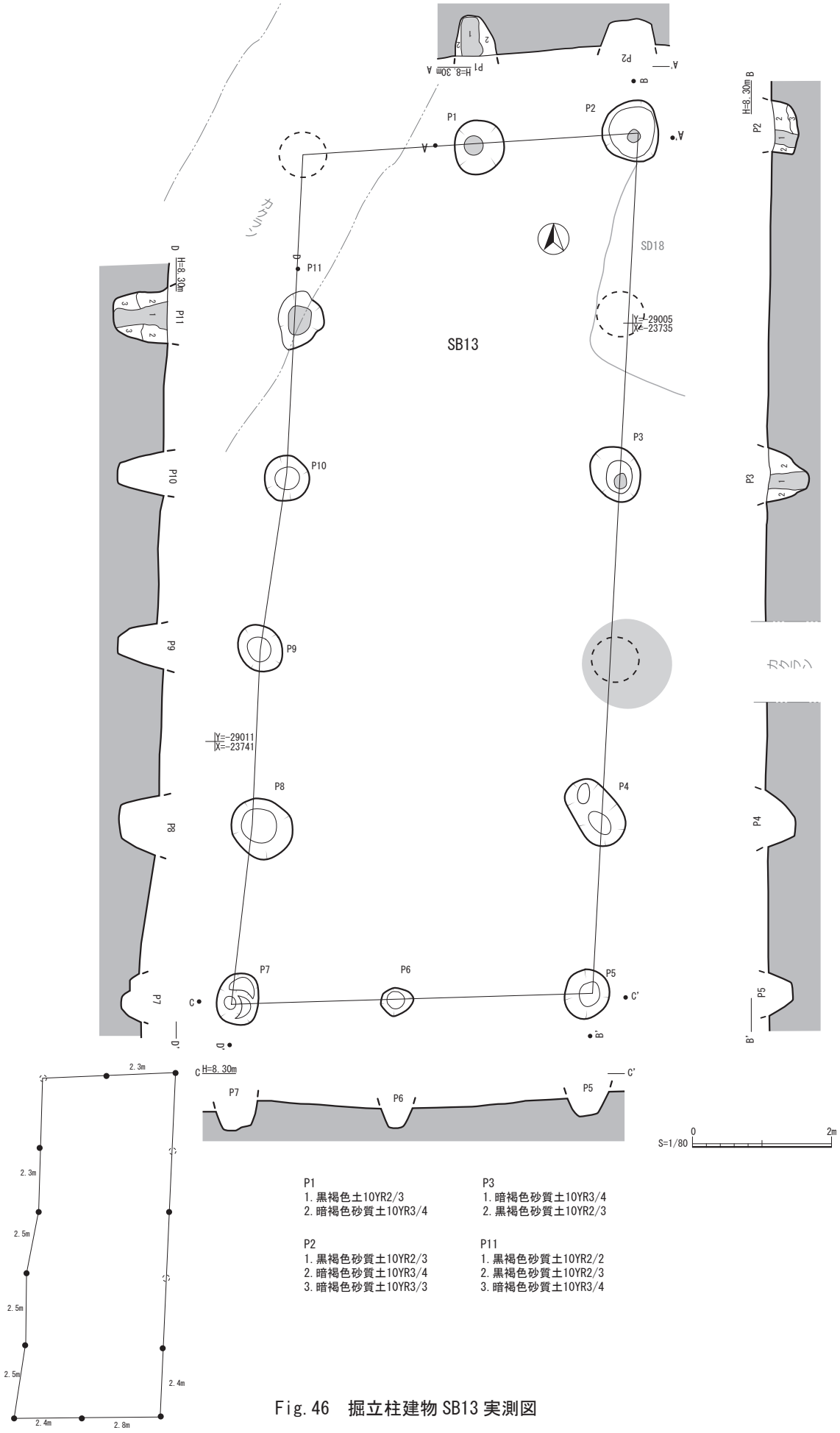


Fig. 45　掘立柱建物 SB12 実測図

井戸 SE16（Fig.51）掘立柱建物 SB13 の範囲内で検出した遺構。平面形は楕円を呈し、中心部から西に寄ったところに竪穴を垂直に穿っている。上部では平底状に土坑が掘り込まれ竪穴部へとつなぐ。
竪穴は水平に埋土が堆積しているが、途中から安全を考慮して断面を残さず掘削した。しかし、底部には達しないため、これ以上掘削するのは危険と判断し調査を中断した。出土遺物の出土層位は分からないが、12 世紀代を示す白磁椀が出土している。

井戸 SE17（Fig.52）　土坑状の掘方部は削平され土坑状掘方底部と竪穴のみを検出した遺構。土坑部の広がりは短く、幅１ｍを超え垂直に穿たれる竪穴が特徴的である。下部でやや不整形となるが、軟弱な層位に当たり、水位の作用により崩壊した痕跡である。竪穴の掘削時に土層を残すと危険であったことから断面は記録されていない。遺物が出土しているが、出土レベルが不明確ではありながらもヘラ切りの土師皿や、内外とも黒色土器の杯が出土するなど９世紀代の特徴を有する資料として一括性が高い事が注目される。

井戸 SE18（Fig.53）調査区南端で検出した遺構。平面形は東西に広がる楕円形を呈し、ほぼ中央部に垂直の竪穴を穿つ。竪穴の断面形状は、約３ｍ付近で幅を狭め平底を為す底部に至る。幅の違いは掘削工程の違いであると考える。他の井戸に見られる軟弱層位の崩落によるものとは見えにくい。当遺跡群では、現在も季節によっては深度３ｍで湧水が見受けられることから、狭まった時点で十分な湧水を得られると判断し変更



P1
1. 黒褐色土10YR2/3
2. 暗褐色砂質土10YR3/4

P2
1. 黒褐色砂質土10YR2/3
2. 暗褐色砂質土10YR3/4
3. 暗褐色砂質土10YR3/3

P3
1. 暗褐色砂質土10YR3/4
2. 黒褐色砂質土10YR2/3

P11
1. 黒褐色砂質土10YR2/2
2. 黒褐色砂質土10YR2/3
3. 暗褐色砂質土10YR3/4

Fig.46　掘立柱建物 SB13 実測図

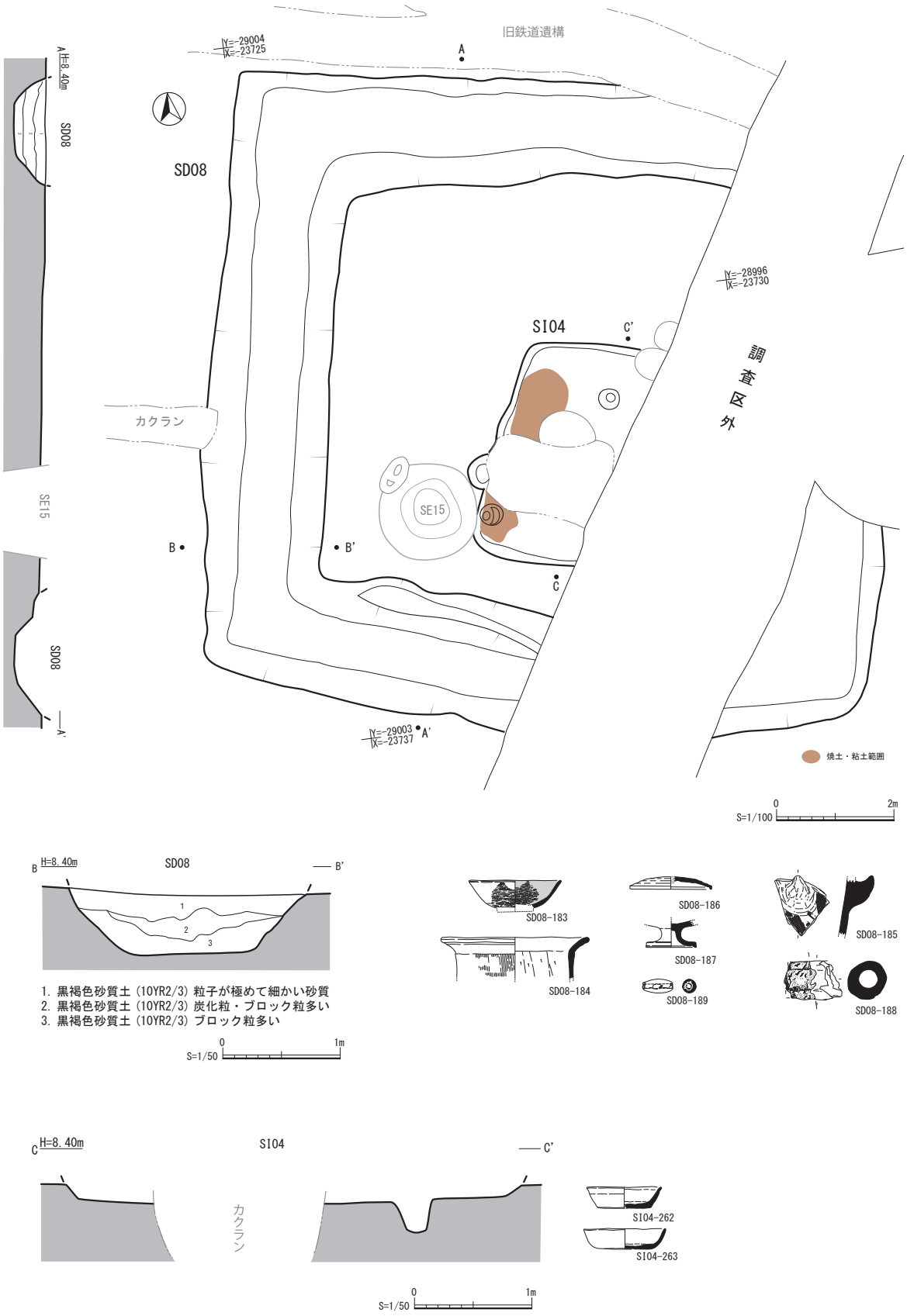
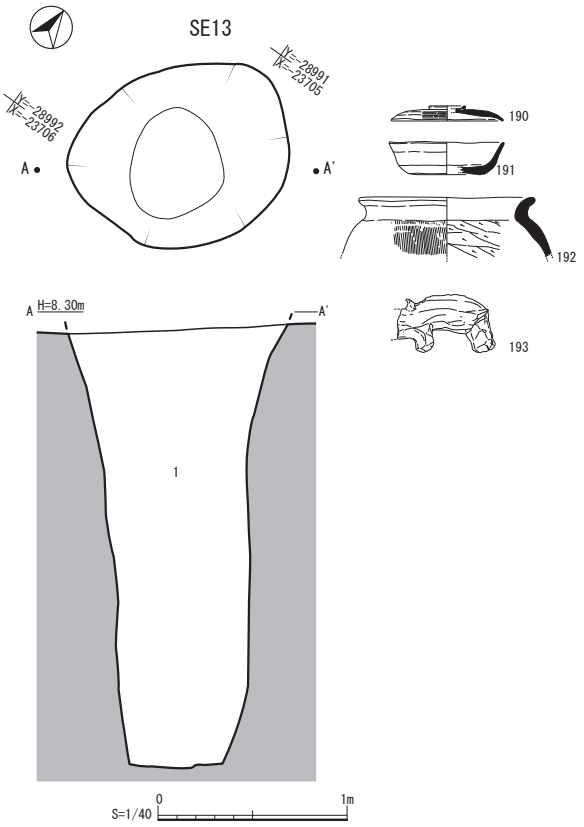
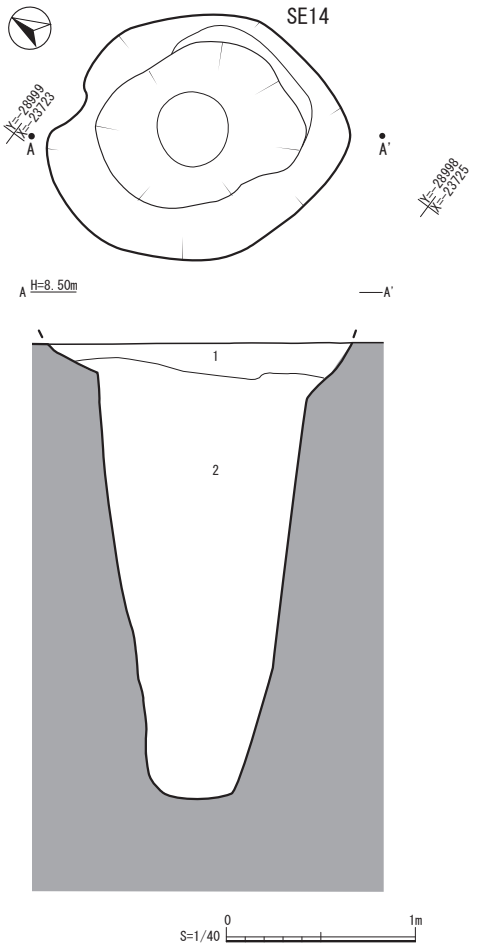


Fig. 47　方形区画溝 SD08・竪穴建物 SI04 実測図



1. 黒褐色粘性土（2.5Y3/1~3/2）粘質強い

Fig.48　井戸 SE13 実測図



1. 黒褐色粘質土（2.5Y3/2）褐色ブロック・炭化物が混じる
2. 黒褐色粘質土（2.5Y3/1）2cm 大の褐色ブロックが多く混じる

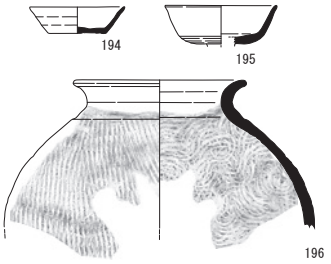


Fig.49　井戸 SE14 実測図

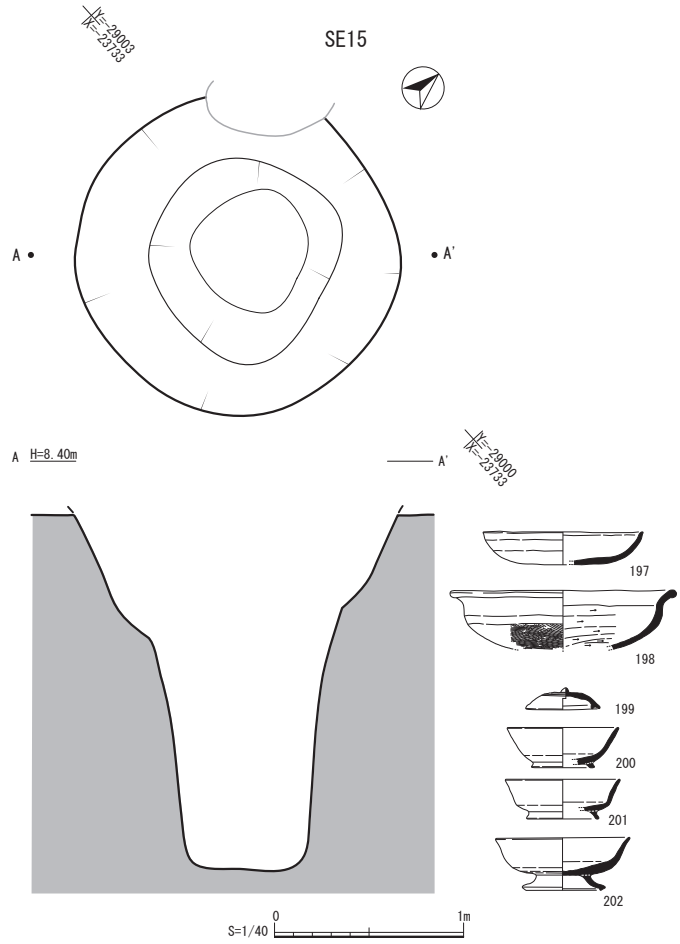
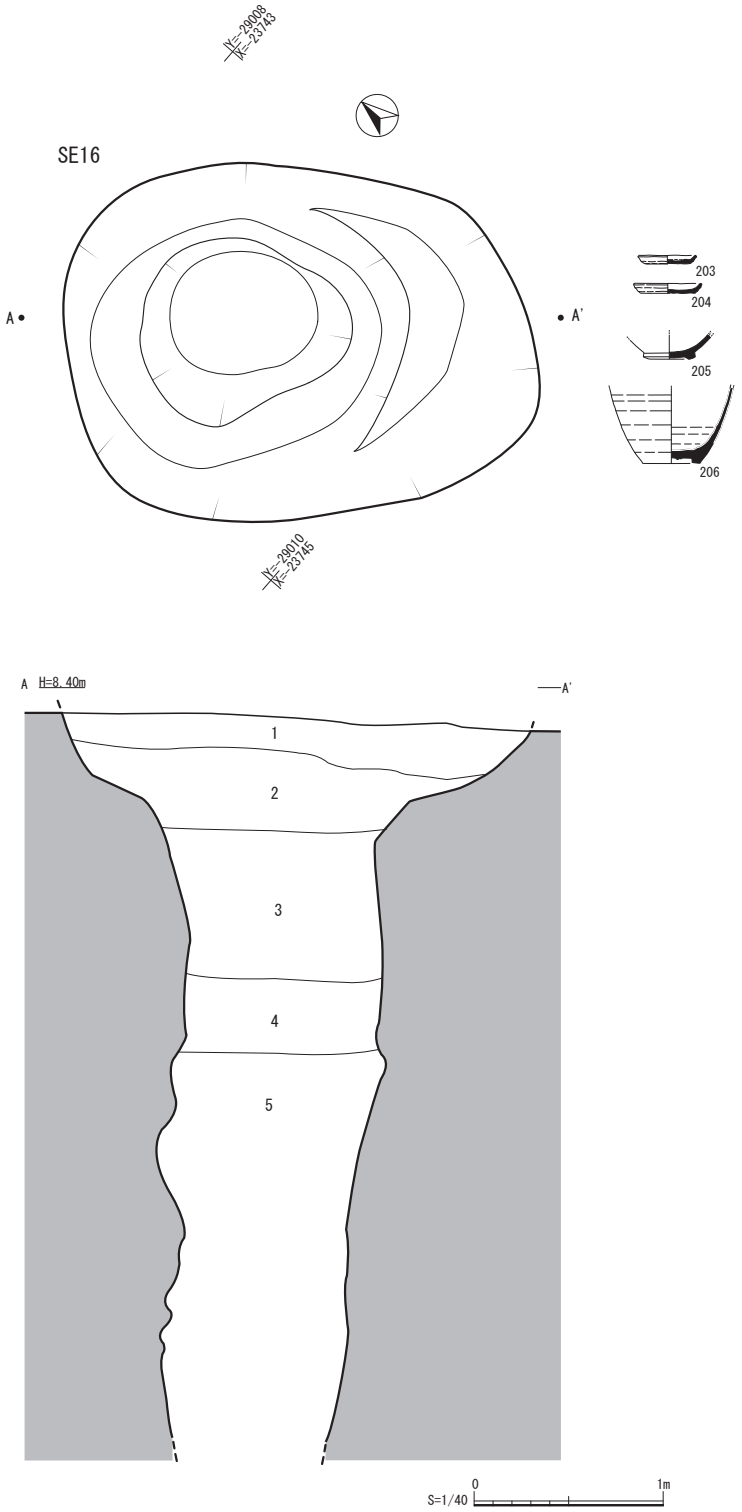


Fig.50　井戸 SE15 実測図



1. 黒褐色砂質土（10YR2/2）粒子が粗く締まる
2. 黒褐色砂質土（10YR2/2）1層より黒く粘質土
3. 黒褐色砂質土（10YR2/2）きめ細かい土
4. 黒褐色砂質土（10YR2/2）白色ブロック粒が多く混じる
5. 黒色ブロック土　井戸埋土

Fig.51　井戸 SE16 実測図

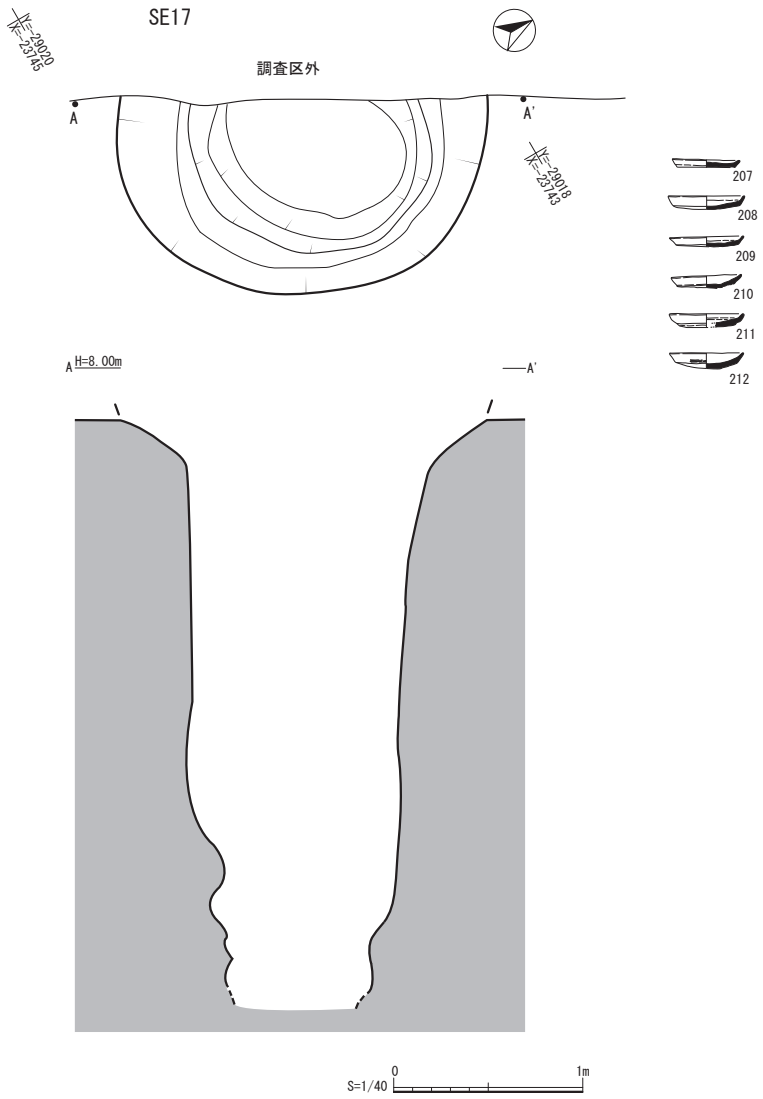
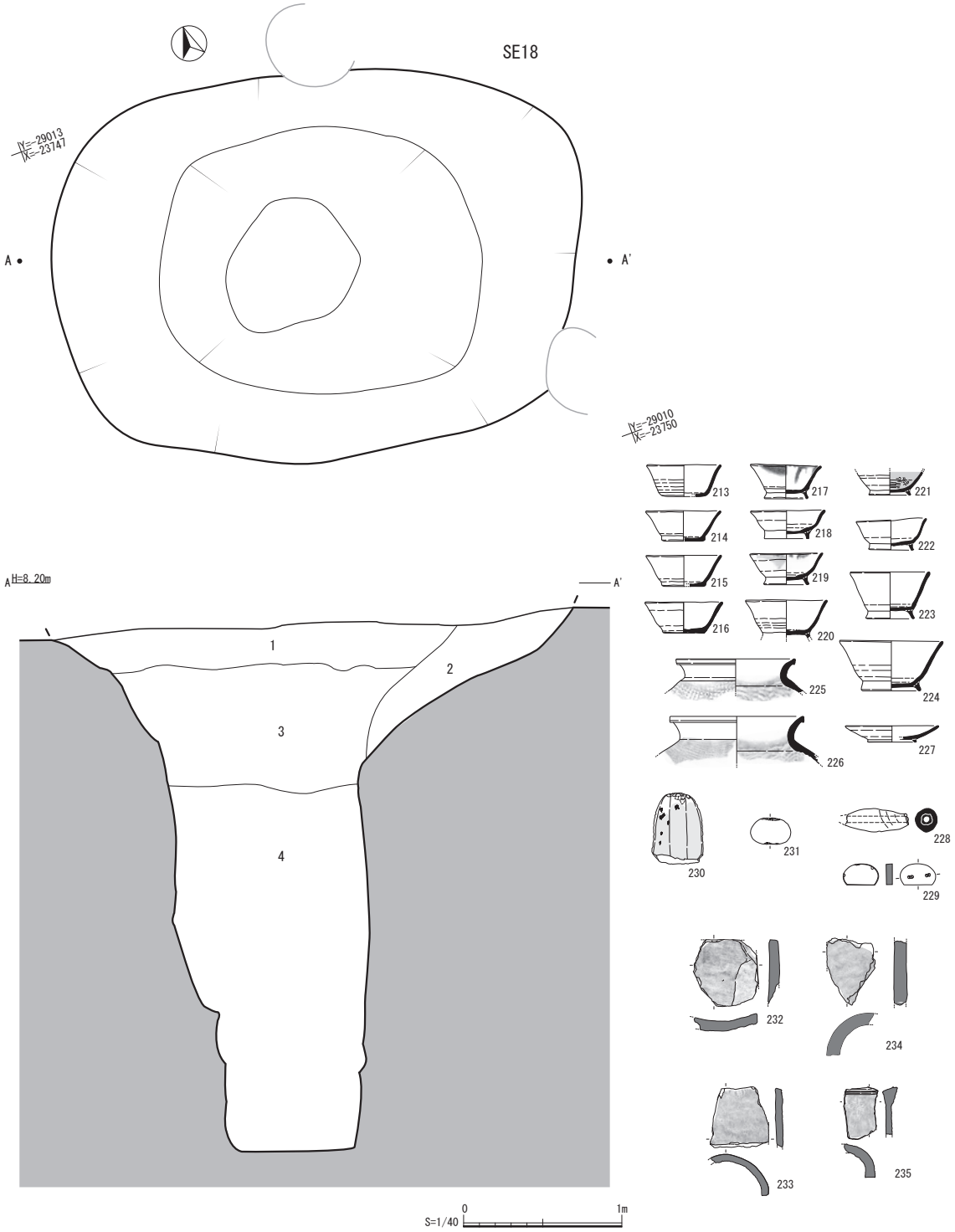


Fig.52　井戸 SE17 実測図

したものと考えられる。本遺構でも調査時には完掘を目指すため、断面を残しての危険な調査手法は取っていない。本遺構からの出土遺物も９世紀代４四半期の遺物が中心であるが、他の遺構に比べ瓦（軒丸・平）が出土する等、特徴的な遺物組成を為している。

井戸 SE19（Fig.54）調査区のほぼ中心に位置し、古代の溝状遺構を切り確認した遺構。平面形は東西に延びる楕円形を呈しており、東側に大きく１段の平坦面を有する。調査時の主軸が断面に沿っていないため、実測図には平坦部が係っていない。土層断面は４層からなり掘削深度は２ｍまでで、安全を考慮して中止している。土層断面からは水平堆積をなす埋没過程を追うことができ、本遺構が利用を停止した時点から放棄されたことが窺える。須恵器蓋が１点出土しているが出土層位は不明。

井戸 SE20（Fig.55）調査区南中央で検出し、調査区に残される遺構の最上部から掘り込まれている遺構。平面形は方形を帯びつつも円形を呈し、遺構ほぼ中央に竪穴を垂直に穿つ。周囲には竪穴を囲む様３方に、「コの字状」の段を有する。西側は調査区外により不明。最上部には土坑状に浅い掘り方を有し、竪穴上部で広く外反するように広がる。遺構深度は約 2.5 ｍあり、最下部では両側縁部が軟弱な層の崩落により横へ広がる。土層断面は５層からなり、１～４層は竪穴上部の土坑状の掘り方まで、竪穴は単層により埋没状況が観察される。このことから竪穴部は同一土による埋戻しがなされ、井戸としての利用価値を滅した後は廃棄状態と



1. 黒褐色粘質土（2.5Y3/1~4/1）砂質炭化物（2～10㎜）若干混じる
2. 黒褐色粘質土（2.5Y3/1~4/1）1層に比べ褐色ブロックが多い
3. オリーブ黒色植粘質土（5Y3/1~3/2）塊状の炭化物混じる
4. 暗灰腐植土（N3/）灰状の炭化物・塊状の炭化物が混じる

Fig.53　井戸 SE18 実測図

して放置され自然堆積による埋没状況を窺える。出土遺物は竪穴最下層部から須恵器短頸壺１個、長頸壺１個、その他１個の計３個が出土している。その他１個とした壺は長頸壺の可能性が高い。

井戸 SE21（Fig.56）遺構南端部で検出した遺構。井戸 SE20 同様に本遺跡群で見られる遺構の最上層部から掘り込まれている。遺構上端は不正形の円を描き、浅い土坑状の掘り方を有し、竪穴は中心部に垂直に穿つ。竪穴部には方形の枠組みがあったことを示す土層を残す。埋没の過程は、土坑状の浅い掘り方部と竪穴部とに大別できる。１～７層は竪穴上部を、８層は井戸枠外側にあたり、井戸枠を外側から抑える埋土とし、９～ 14 層は竪穴部の埋没過程を示す。特に９層は井戸枠の木材痕跡を示しており、貴重な情報を表している。井戸は交互堆積状態で、自然堆積と比べると単位が小さいことから埋戻し作業による埋没と考える。埋土中からは土師器・須恵器の杯、高台付杯及び甕が出土している。

井戸 SE22　（Fig.57）遺構南端部で検出し井戸 SE21 に一部切られた状態で検出した遺構。平面は方形を呈しつつも円弧を描き、隅丸方形を呈する。全体に浅い土坑状の掘り方を有し、中央に楕円形の竪穴を垂直に穿つ。土層は大まかに上下に分別でき、浅い土坑状と竪穴に分かれる。竪穴は井戸 SE21 の土層と比べ、厚く水平に堆積し、井戸枠等を示すような痕跡は見られない。廃棄後、一般的にみられる竪穴のみ埋戻し、その後は放棄状態で自然堆積を示す。内部からは土師器・須恵器の杯及び高台付杯が出土している。５点中、４点には口縁部に油煙が付着していることから燈明皿として利用していた土器類を一括して廃棄したものと見られる。

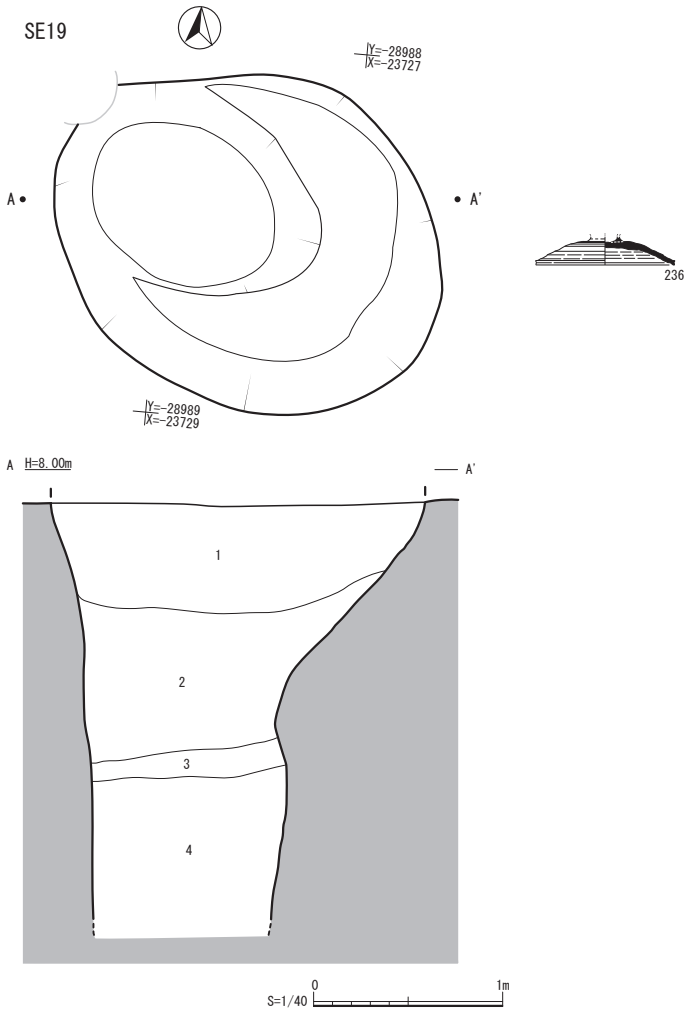
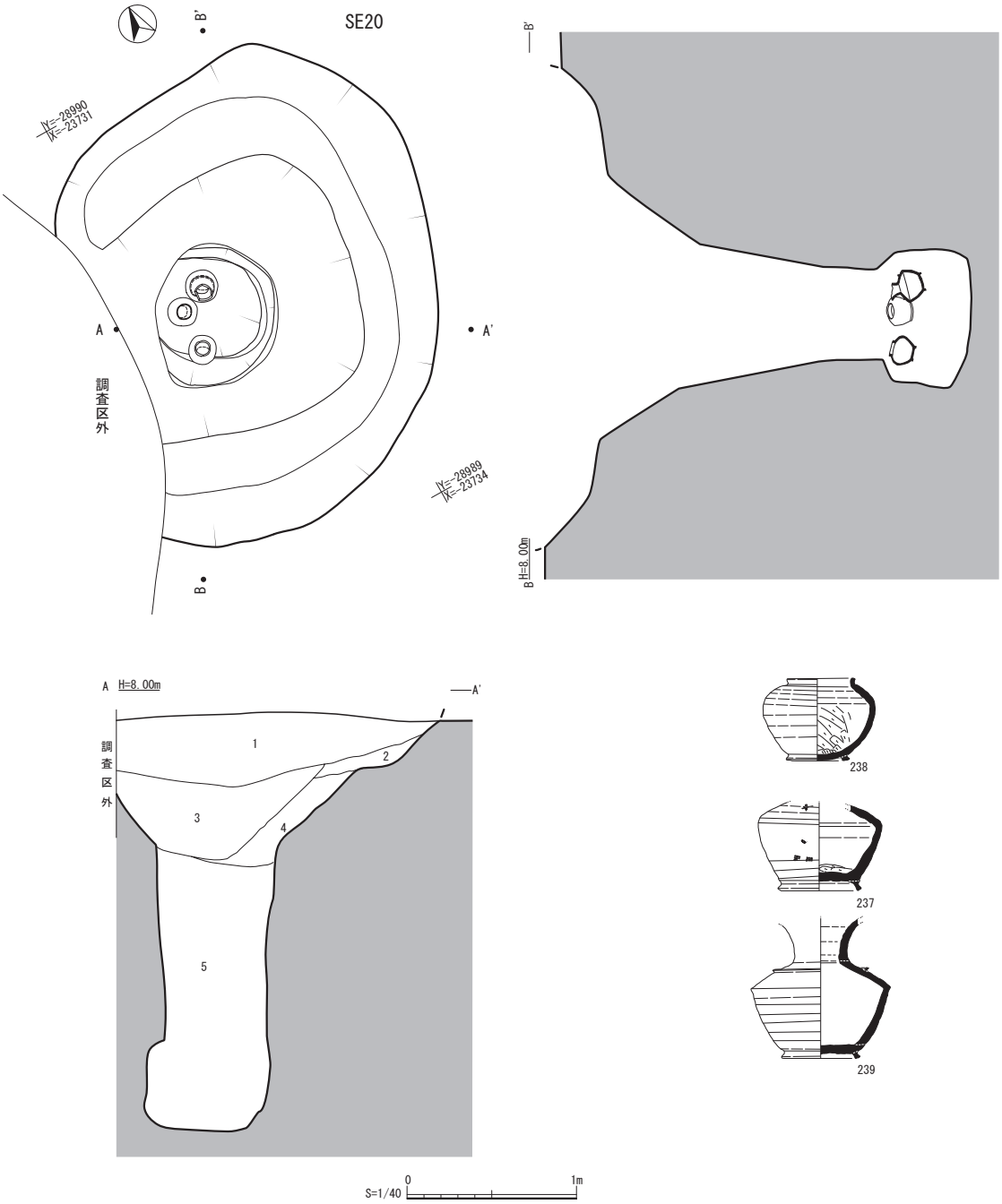
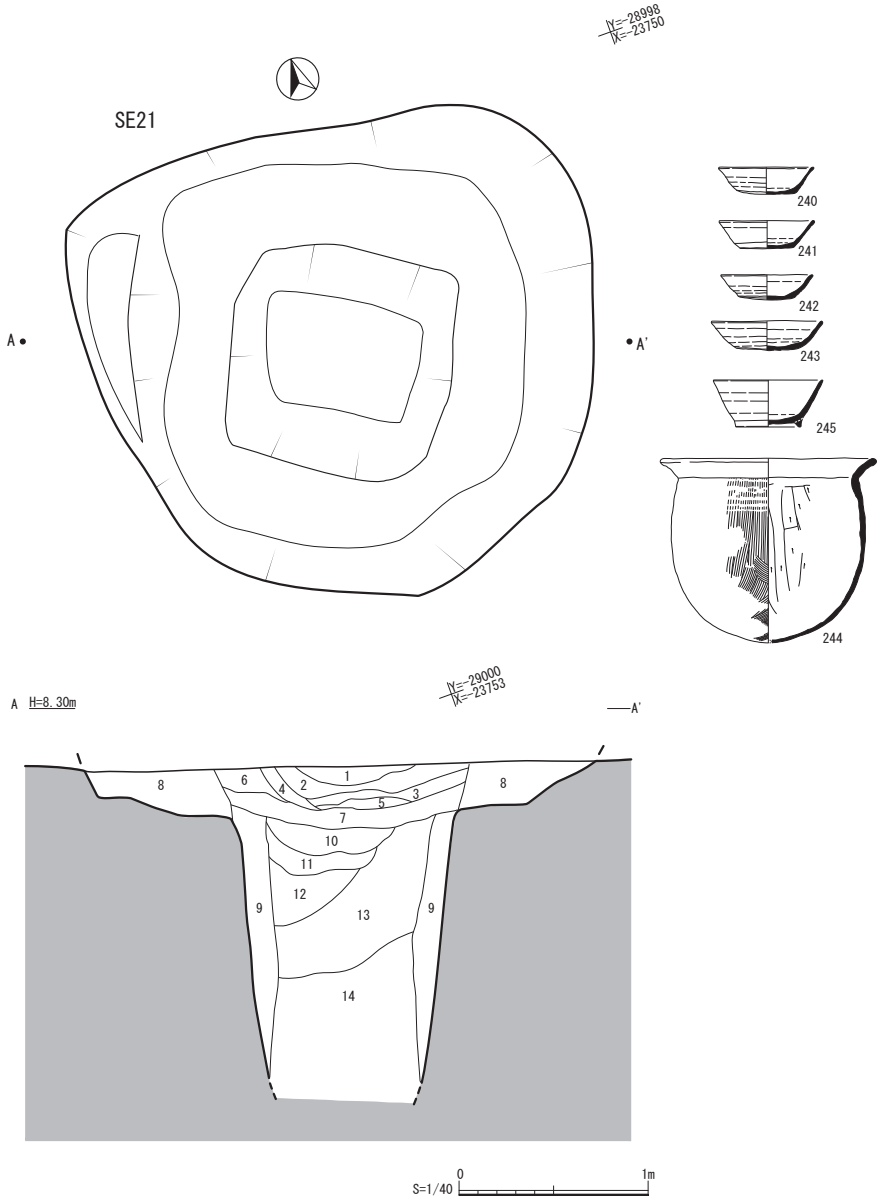


Fig.54　井戸 SE19 実測図



1. 黒褐色砂質土(10YR2/3)粘質弱い
2. 黒褐色砂質土(10YR3/2)粘質弱い
3. 黒褐色砂質土(10YR2/2)粘質弱い
4. 黒色土砂質(10YR1.7/1)粘質弱い　褐色砂質土・砂岩ブロック多くまじる
5. 黒色土(10YR2/1)

Fig.55　井戸 SE20 実測図



1. 極暗褐色砂質土(7.5YR2/3) 赤褐色粒を少量含む
2. 黒褐色砂質土(7.5YR1/3) 灰が帯状に堆積する
3. 黒褐色砂質土(7.5YR2/2) 灰が少量まじり赤褐色粒を少量含む
4. 黒褐色砂質土(7.5YR3/2) 粘質弱い
5. 褐灰色砂質土(7.5YR4/1) 粘質弱い
6. 黒褐色砂質土(7.5YR2/2) 褐色粒が少量まじる
7. 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘質弱い
8. 黒褐色砂質土(10YR3/2) 3～5cm大の砂岩ブロックが多くまじる
9. 黒褐色砂質土(10YR2/2) 0.5～1cm大の砂岩ブロックがまじる
10. 黒褐色砂質土(10YR3/2) 粘質弱い
11. 暗褐色砂質土(10YR3/3) 0.5～1cm大の砂岩ブロックがまじる
12. 黒褐色砂質土(10YR2/3) 粘質弱い
13. 黒褐色砂質土(10YR3/2) 褐灰の土が多くまじる
14. 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘土粒(褐色)が少量まじる

Fig.56　井戸 SE21 実測図

井戸 SE23（Fig.57）井戸 SE21・SE22 の東側で検出した遺構。楕円形の平面に竪穴を挟み２基の柱穴状の遺構を有する。遺構は上部から土坑状の浅い掘り方を有し、その下端で井戸本体の竪穴と柱穴状遺構を検出している。竪穴は垂直に穿たれ、深さは約 1.8 mを測る。下端は水平で、３層からなる土層を残す。土層は水平堆積で長期間放置された土層の様相ではないと見られる。埋土中からは土師器・須恵器の杯類が多数出土している。柱穴状遺構は現状では浅く、柱を固定するほどの深度は有していない。上部削平が大きく柱穴の底部付近を残すのみである可能性も高い。

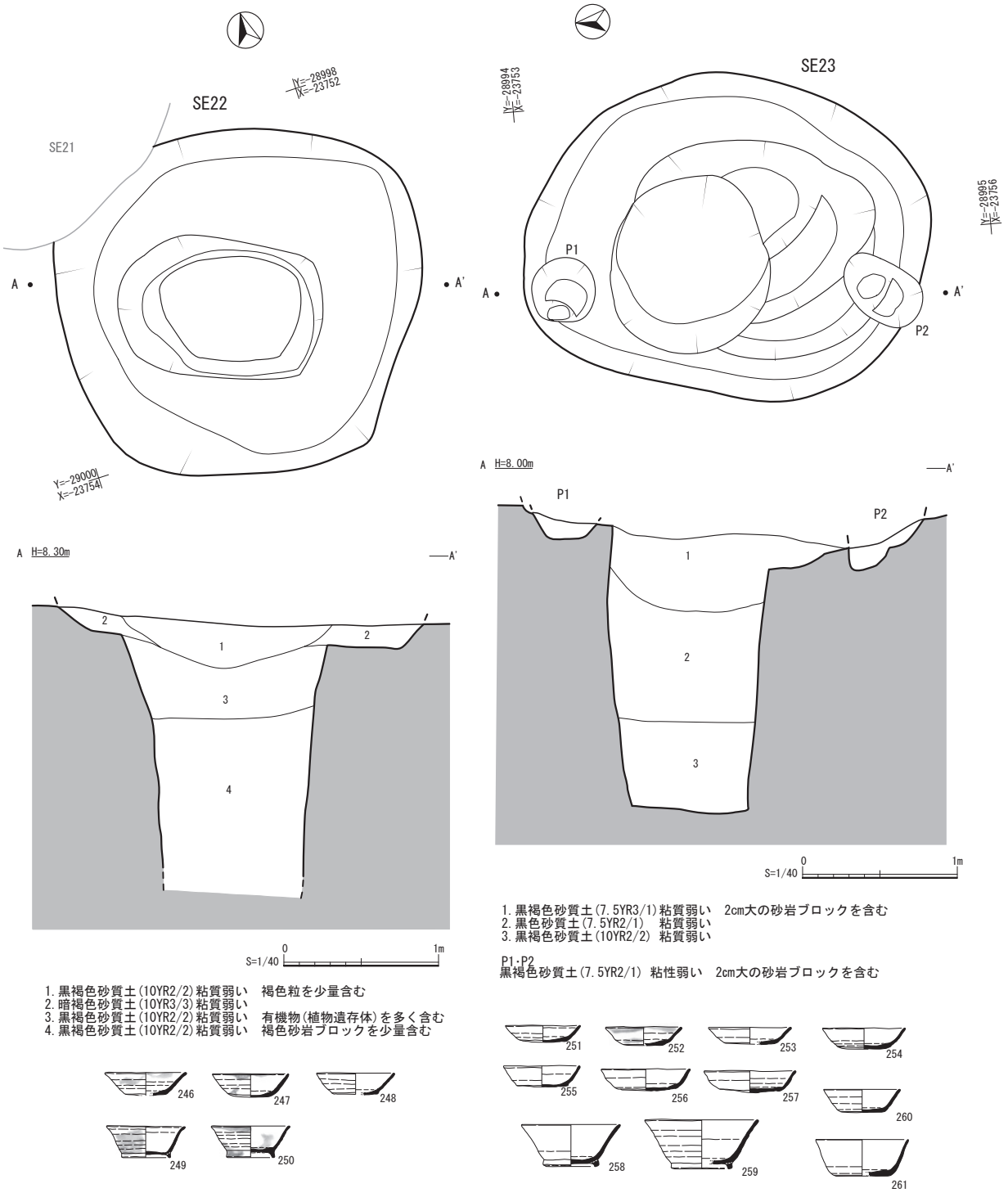


Fig.57　井戸 SE22（左）・SE23（右）実測図

竪穴建物 SI04（Fig.58）方形遺構内部に所在する遺構。井戸 SE15 と切り合い、井戸に先行する遺構と確認している。後世の撹乱等で遺構の約半分は消滅しており全容は不明。遺構西側には壁面に沿い焼土と、焼土を含んだ粘土の広がりを見ることができ、検出状況から崩落した作り付けカマドの焼土カキ出しとも考えられるが、壁面にのみ沿い横に長い範囲に分布していることや燃焼部等、積極的にカマド痕跡を見ることができないことからその他の事例も想定する必要がある。方形遺構の溝からは鞴の羽口が出土していることから小鍛冶痕跡とも想定されるが、調査時に小鍛冶に関する詳細調査がなされていないため、確認する現時点で遺構の性格を想定するには至っていない。埋土中からは土師器杯が２点出土している。

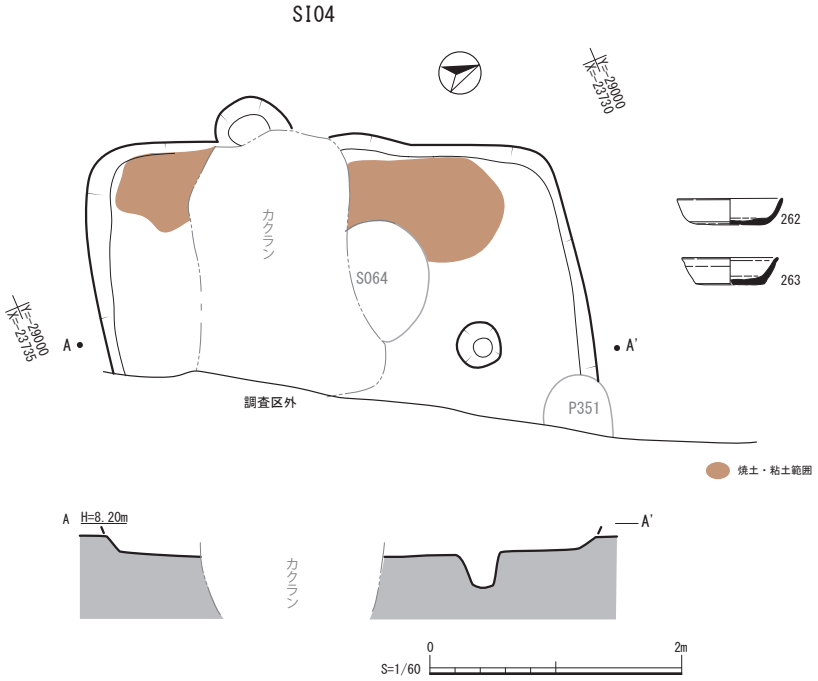


Fig. 58　竪穴建物 SI04 実測図

竪穴建物 SI05（Fig.59）17 次４区の南端に位置し遺構の大半を高架に伴う先行杭により消滅している遺構。本遺構下には竪穴建物 SI06 を検出している。遺構平面は方形を呈し西壁側は消滅しているため、遺構の規格は不明である。残り遺構では隅丸方形とまではいかないが、やや丸みを帯びる隅を有し壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺構内からは他の遺構に見られる作り付けカマドや主柱穴等の明確な遺構は確認されていない。
他の遺構でも主柱穴が明確に検出されないことも多く、当該地域の土壌に由来する遺構検出のしづらさであるかもしれない。本遺構からの出土遺物はないが、重複し先行する竪穴建物とほぼ同じ時期の遺構であろう。

竪穴建物 SI06（Fig.59）調査区南端の井戸 SE21 に切られ検出した遺構。本遺構の上に切り合う竪穴建物 SI05 により遺構の 2/3 が重複し、遺構の残存度合いは悪い。竪穴は残存辺、約２m四方で、隅丸方形及び 90°の角を有する遺構として検出している。通常、遺構角は一様であることが多いが、違うタイプの隅を有することから調査時の検出状況にも疑問が残る。断面では貼床を確認できる。遺構中央部には硬化面が広く残り、硬化面上には土師器・須恵器の杯、高台付杯及び甕等が多く出土している。作り付けカマド、主柱穴等は検出できていない。

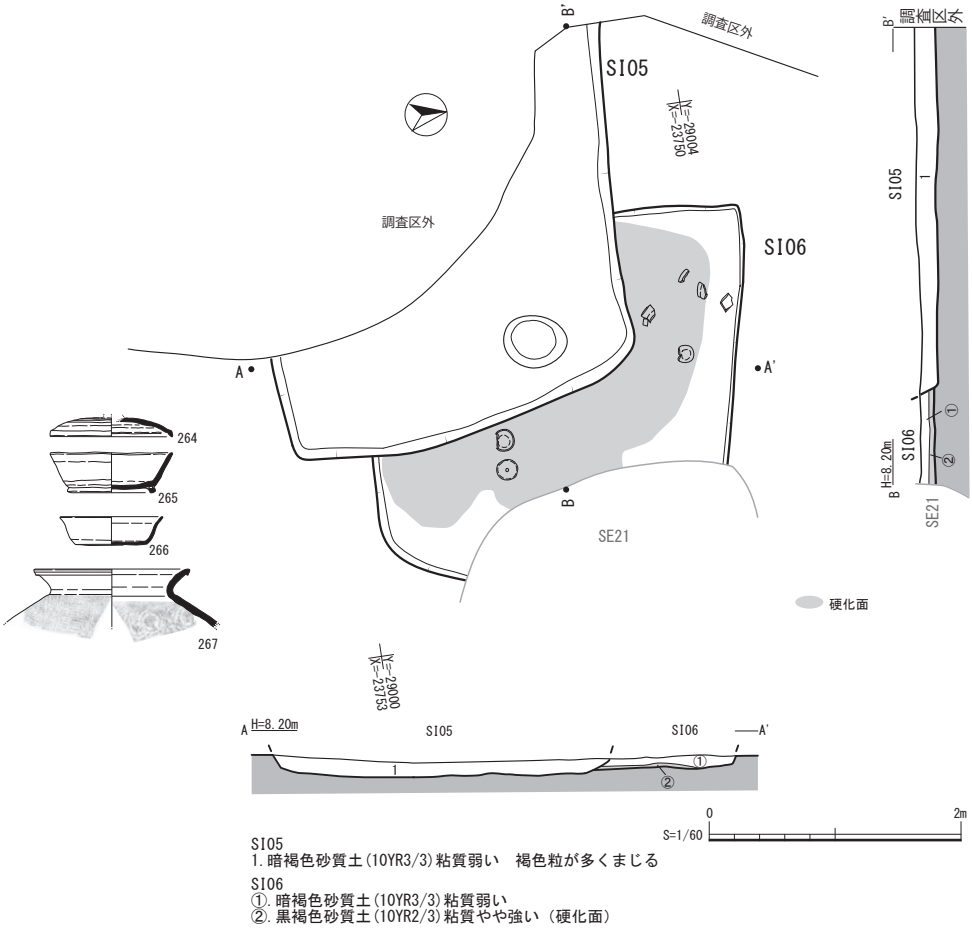


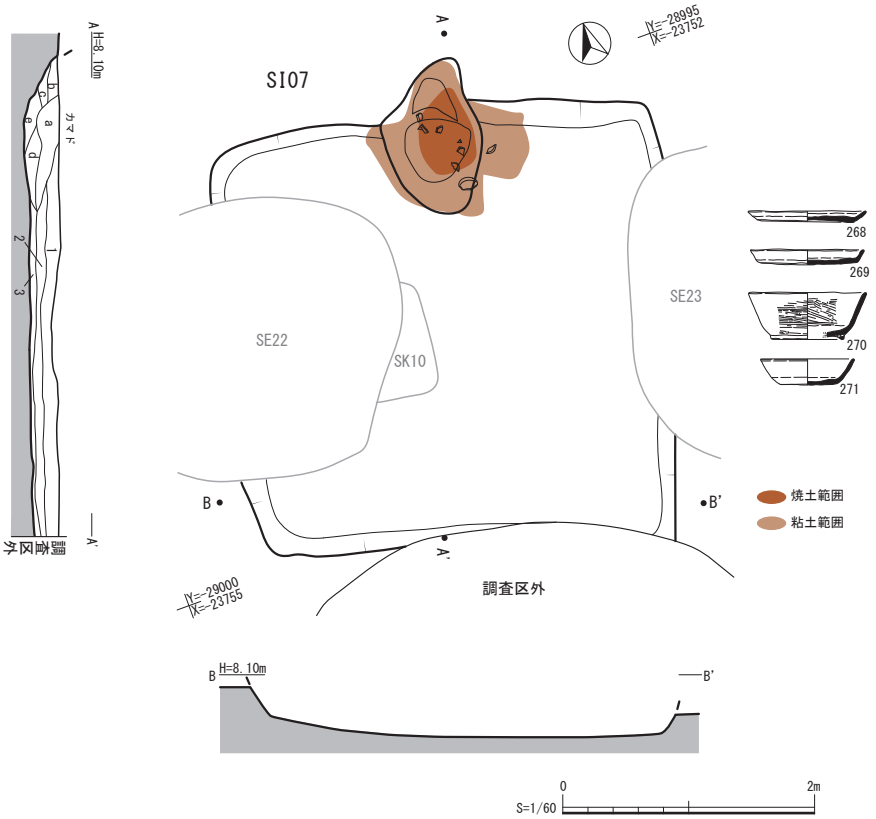
Fig.59　竪穴建物 SI05・SI06 実測図

竪穴建物 SI07（Fig.60）調査区南端に位置し井戸 SE22・SE23 に遺構の東西側を切られた遺構。南辺は先行して掘削された杭により削平されている。残存状況が良いのは北辺に残る作り付けカマド付近で、竪穴建物内のその他の遺構は確認されていない。作り付けカマドは本体の崩落粘土と、その下に燃焼面となる焼土及び焼土粒の広がり、竪穴外に延びる煙道の一部などを確認できる。上部の削平が激しいことから詳細は分からないが、基底部の残りは良い。出土遺物はカマド周辺から出土している土師器・須恵器の皿、杯及び高台付杯がある。

土坑 SK07（Fig.61）東西に主軸を有する遺構。全長が約 1.5 mあるので当初は墓の可能性も検討されたが、遺構下端が水平ではなく段を有すること、副葬品が出土しないこと及び主軸が南北及び東西に乗ってこないことなどから土坑として報告する。出土遺物は土師器の高台付杯が 1 点最下段の床面から出土している。

土坑 SK08（Fig.62）11・13 次 3 区で検出した遺構。ほぼ東西に主軸をおくが、やや西側が北に振れている。断面は 3 層からなり自然堆積の様相は見せず、堆積状況から人為的な埋戻しが考えられる。1 層中には粘土塊が出土しており廃棄土坑であった可能性が想定される。埋土中からは土師器杯と線刻礫が出土している。線刻礫は烏帽子を被った人物像を描いているように見受けられる。

土坑 SK09（Fig.63）17 次 4 区の中央部付近で検出した遺構。遺構の半分は調査区外にあたり全体の 1/2 程度が表出しており調査を実施した。検出した遺構は、残されている限りでの判断ではあるが、円形で断面は逆台形を呈する。土層が残されていないため詳細は不明である。遺構内の埋土中からは風字硯の破片が出土している。廃棄土坑の可能性が高い。



SI07
1.暗褐色砂質土(10YR3/3)粘質弱い　0.5～1cm大の砂質ブロックが多くまじる
2.黒褐色砂質土(10YR3/2)粘質弱い　2と3の境目に赤褐色の鉄分の沈着がみられる　3cm大の砂岩ブロックを少量含む
3.暗褐色砂質土(7.5YR3/3)粘質弱い

[カマド]
a.黒褐色砂質土(7.5YR2/2)粘質弱い　1～3cm大の砂岩ブロックを多く含み、褐色粒を多く含む(カマド壊れ)
b.暗褐色砂質土(7.5YR3/3)粘質弱い　黒褐色土が多くまじる(煙道の壊れ)
c.黒褐色砂質土(10YR2/6)粘質弱い　褐色の土が多くまじる(煙道の壊れ)
d.黒褐色砂質土(7.5YR3/2)粘質弱い　焼土粒が多くまじる(かきだし)
e.褐灰色土(10YR5/1)粘質弱い　焼土(赤褐色)や灰が多くまじる

Fig.60　竪穴建物 SI07 実測図

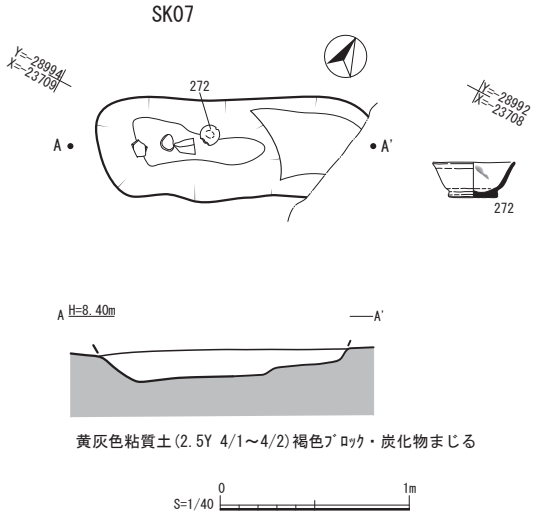


Fig.61　土坑 SK07 実測図

土坑 SK10（Fig.63）調査区の南端に位置し、井戸 SE22 と重複し検出した遺構。遺構平面は方形で、隅は丸く収まる。掘り込みはほぼ垂直で底部は水平である。埋土は交互堆積を呈し、ほぼ水平に堆積を見せる。３層から４層にかけ礫及び古代の遺物を主体とした遺物が出土している。礫は北西隅に固まり出土し、遺物は北東壁に沿い置かれた状態で出土している。

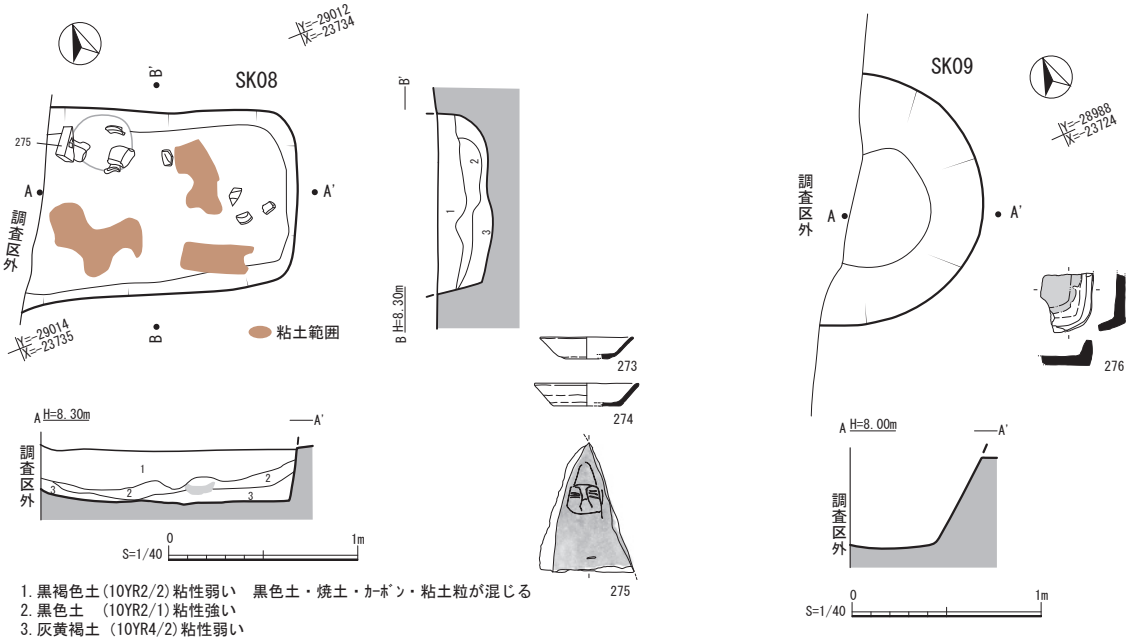


Fig. 62　土坑 SK08（左）・SK09（右）実測図

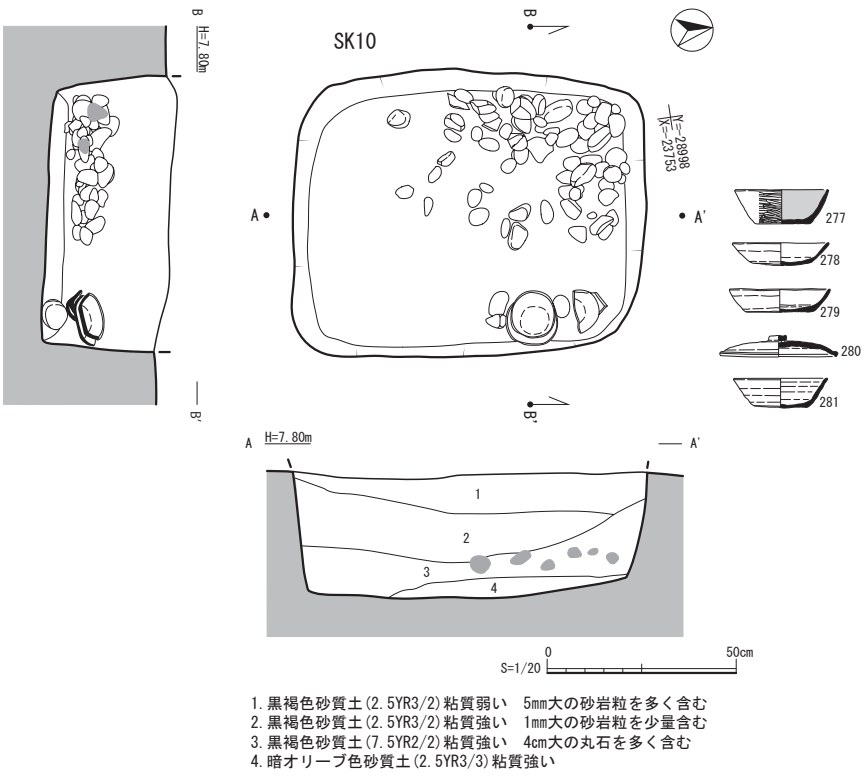


Fig. 63　土坑 SK10 実測図

墓 ST02（Fig.64）11・13 次３区の南端付近で検出した遺構。遺構南側は近世の撹乱により消滅している。遺構平面は隅丸方形の長方形で、南北方向に約 1.9 m以上伸びる。北東隅には高麗青磁椀、土師器皿、杯が配置されており埋土中には人骨を認める。木棺痕跡等は土層断面が残っていないことから確認するすべはないが、北を枕とした土坑墓と判断される。人骨の取り上げ、分析等は専門調査に依頼した。骨の散骨状態から直葬である可能性が高い。

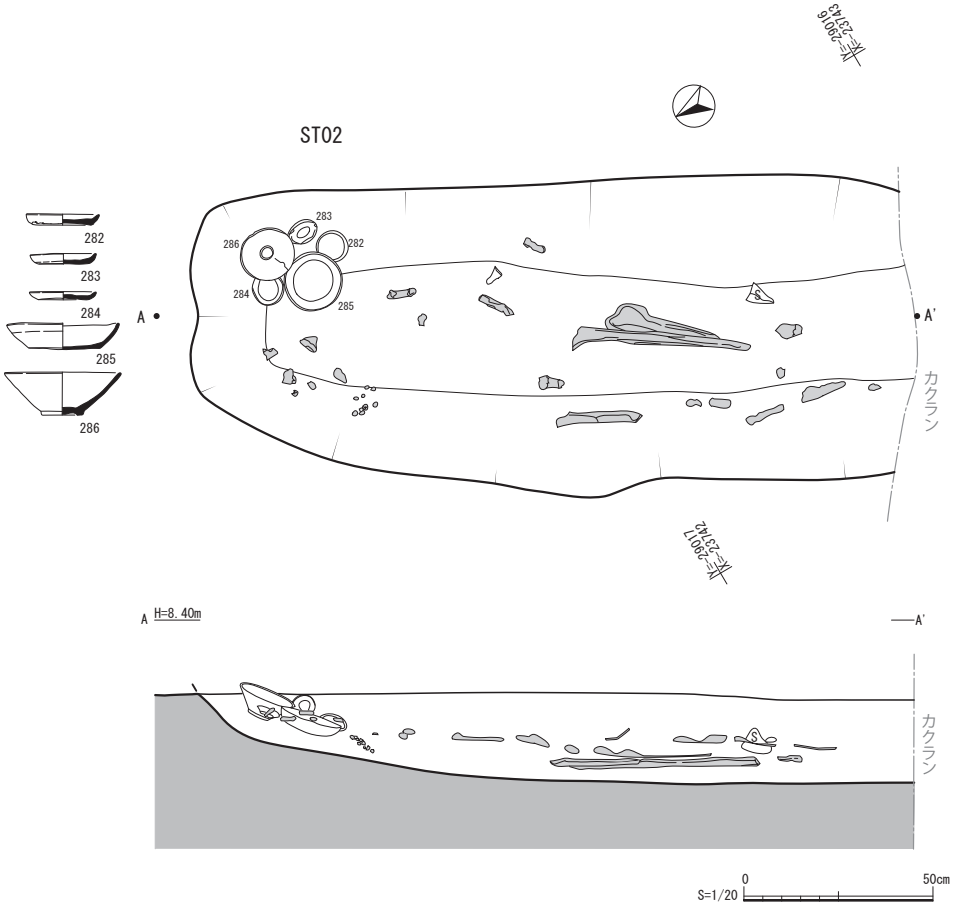


Fig.64　墓 ST02 実測図

13 次 4 区・16 次 5 区

本調査区は今回調査を実施した全体調査区の南側に位置し、13 次 4 区は平成 22 年度（2010 年）、16 次 5 区は平成 27 年度（2015 年）に発掘調査を行っている。13 次 4 区は県文化課直営調査で、16 次 5 区は民間調査組織に委託し実施した。調査区内には先行して設置された鉄道高架に伴う基礎杭が設置されている。

Fig. 65　13 次 4 区・16 次 5 区遺構配置図

掘立柱建物 SB14（Fig.66）２軒の掘立柱建物を重複して検出している遺構。本遺構の時期が先行する遺構として報告する。主軸は東西に有し梁行２間 (3.85m) ×桁行３間 (6.05m)、約 23㎡からなり、南東隅の１基のみ調査区外で未検出。また、検出した柱穴は円形から楕円形を呈し、掘方に規則性は見られないが、柱穴下端はほぼ一定をなしている。柱穴埋土からの遺物の出土はない。

掘立柱建物 SB15（Fig.66）SB14 と重複し、後出した遺構。南北に主軸をおき、梁行２間 (4.6m) ×桁行３間 (6.8m)、約 31㎡を測る。柱穴平面は円形もしくは不定形の楕円形を呈し、掘方に規則性は認められない。柱穴深度はほぼ一定であるが隅柱のうち１基にやや深い掘方が見られる。柱穴深度から、柱としての強度等を考慮すると当該地が約 1 m程度は削平を受けている可能性が高い。埋土中から遺物の出土はない。

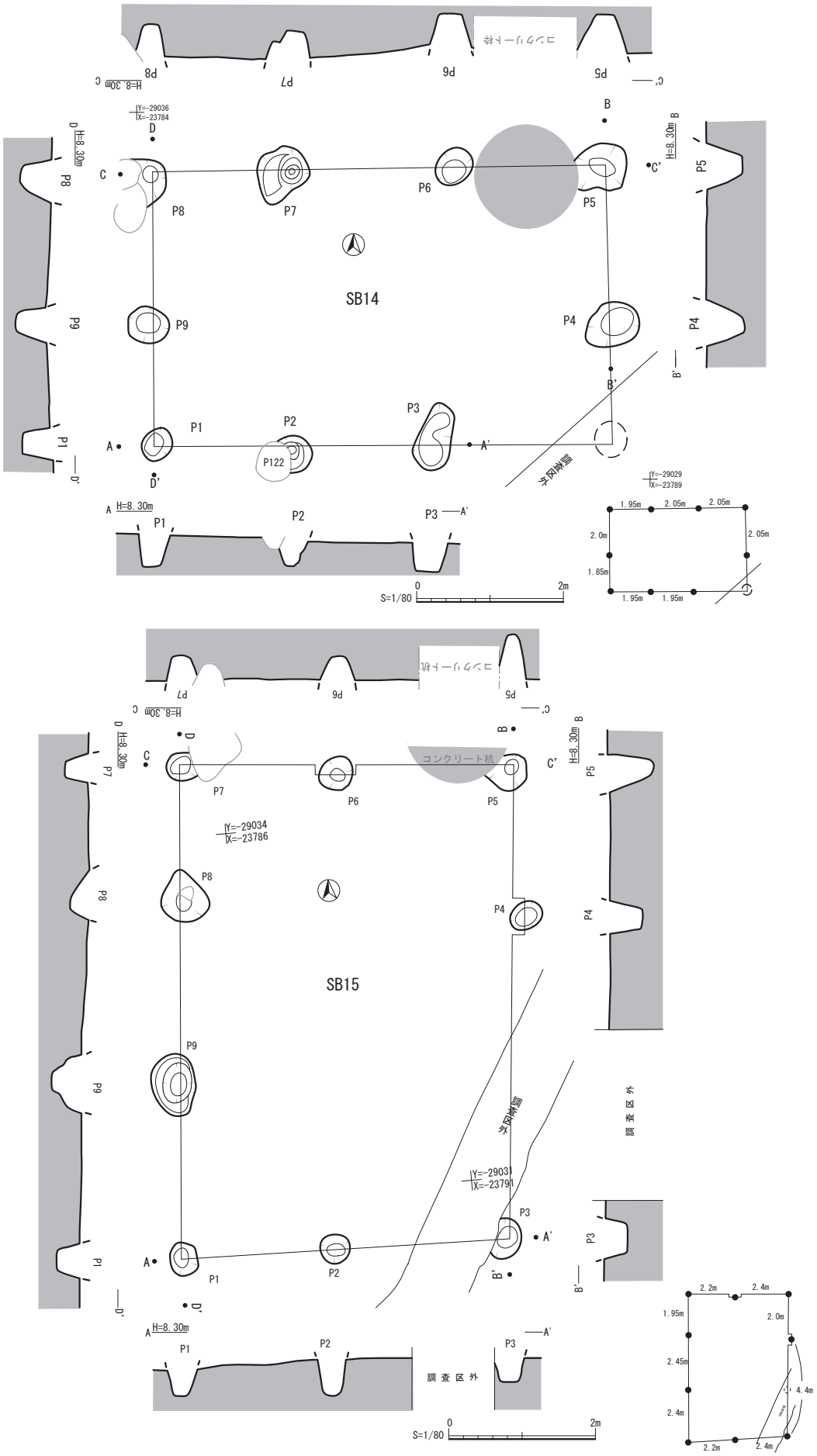


Fig.66　掘立柱建物 SB14（上）・SB15（下）実測図

井戸 SE24（Fig.67）本遺構は調査区西端にあり、二本木遺跡群６次調査に隣接する。東側は鉄道遺構により削平され残っていない。遺構上部では２ｍを超える土坑状の掘方を有し、下端では平坦部を残し、ほぼ中央に垂直の竪穴を穿つ。土坑部の深度は約１ｍ、竪穴は土坑下端付近から約 2.5 ｍを測る。竪穴は上部で１ｍの広さを持ち、中位で軟弱層位に当たっているためかやや膨らむ。下端は 30㎝で平坦を呈している。埋土中からは須恵器杯蓋が出土している。遺物の観察結果から内器面に朱墨を用いた転用硯であることを確認している。

井戸 SE25（Fig. 68）土坑状の掘り方を有し中央に竪穴を穿つ。土坑状の下端には１段平坦面を広く有する。遺構深度は約 2.1 ｍを測る。遺構底面は平坦で、土層は３層に分層される。３層下端付近から土師器甕を出土している。頸部に擦痕が見られることから水汲み用容器として紐が巻かれていたことが想定される。

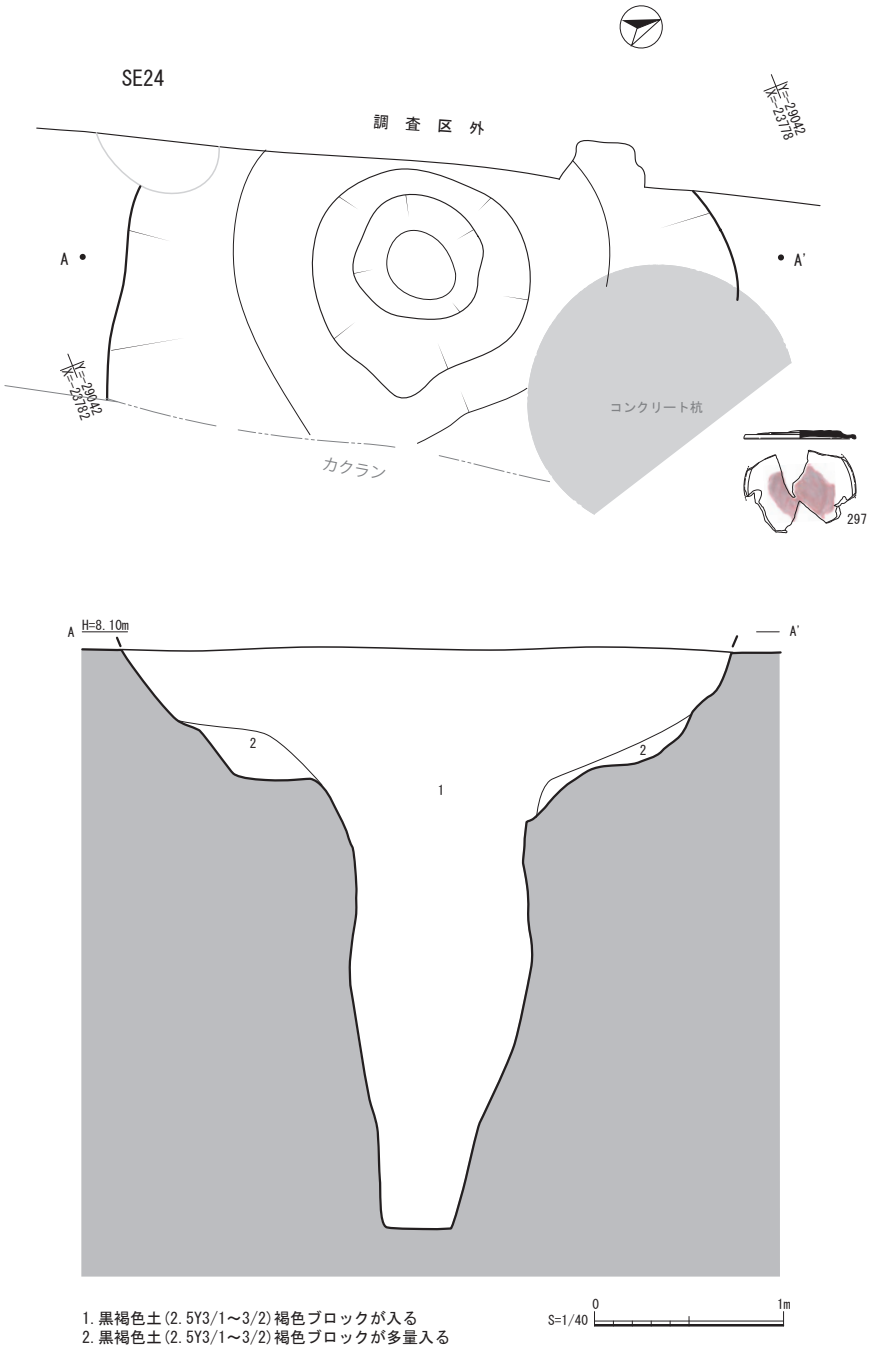


Fig. 67　井戸 SE24 実測図

井戸 SE26（Fig.68）他の同じ遺構でみられる土坑状の掘り方は残らない。上部が削平された結果とみられるが、現状では確認できない。検出されたのは垂直に穿たれた竪穴のみである。中位がやや膨らむが、掘削時の土層の柔らかさから膨らんだものとみられる。土層は６層に分層され、最も下端に近い６層中からは SE25 同様に土師器甕が出土しており、頸部に紐を巻いた痕跡を残す。５層には鉄分を多く含む酸化鉄層を検出していることから当該地が長く水位をこの位置で保っていたことを想定させる。

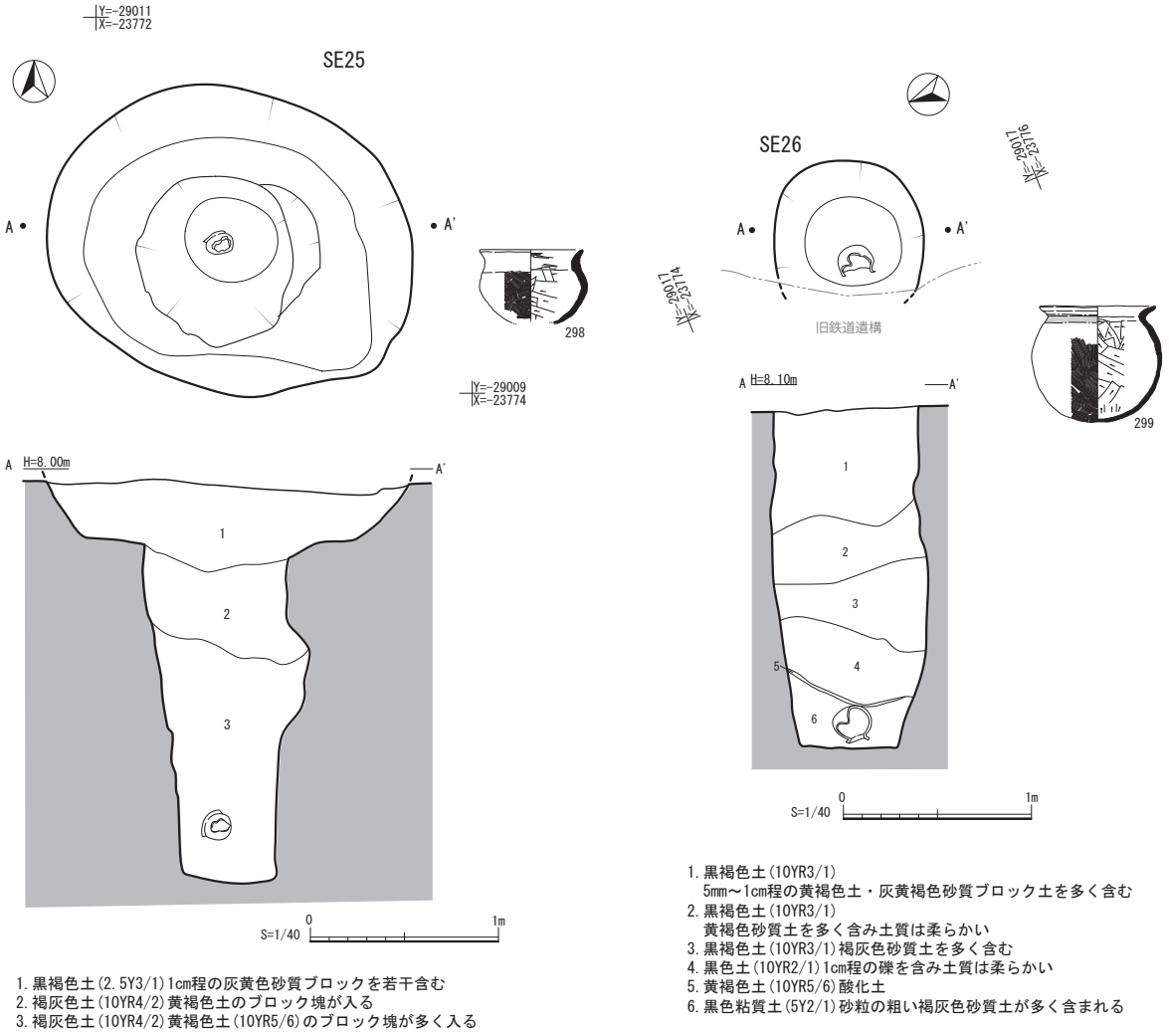
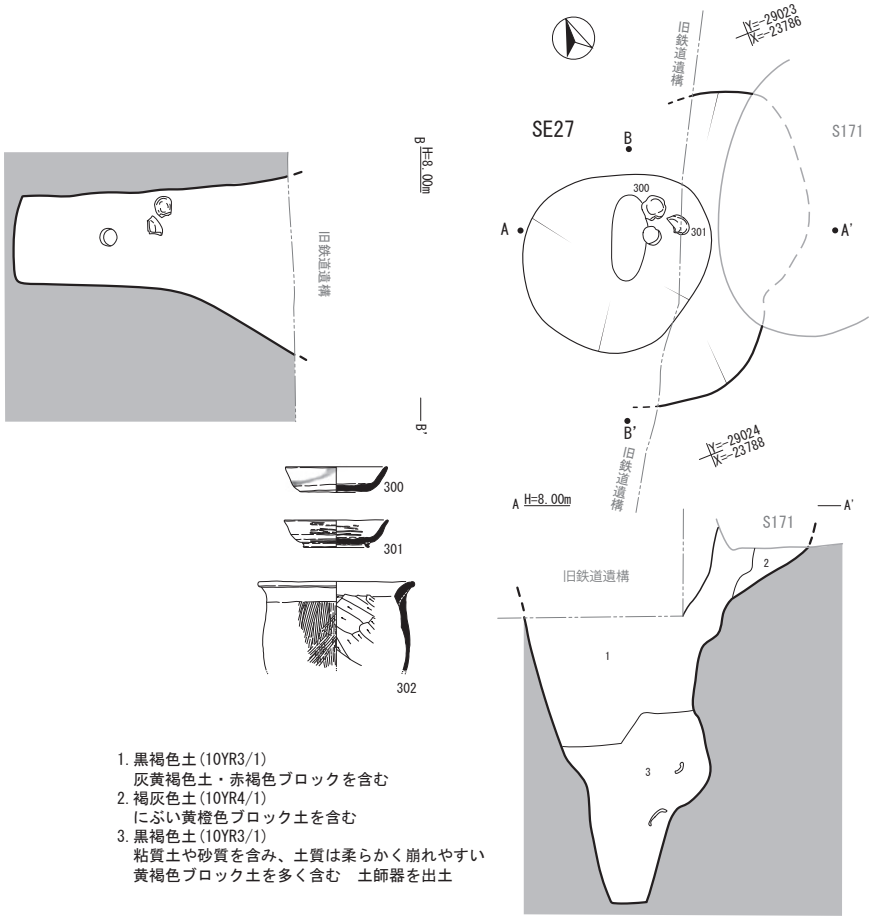


Fig.68　井戸 SE25（左）・SE26（右）実測図

井戸 SE27（Fig.69）遺構上部を鉄道遺構により大幅に削平されており、上端はわずかに南北に残るのみである。掘り方は他に見られるような一般的な井戸状遺構とは違い、上部の土坑状の広がりが緩く、土坑状の丸みを帯びない。また、竪穴も緩やかに外反し底部に向かい不正形の形状を呈する。途中、堆積土の軟弱な層位による変形も含まれるが、あまりにも検出形状が他の遺構と違いすぎるため、未検出遺構の重複による削平も考えられる。今となっては検証しようがないが、遺構形状を明快に説明するには情報が少ない。遺物は３層から出土し、古代（９世紀）の遺物片を含む。

井戸 SE28（Fig.69）上部を鉄道遺構により削平され上端線は推定線で復元している。平面形は楕円形を呈し、西側でやや土坑状の掘り方が不定形に広がる。土坑状の下端レベルは南北で比高差を持ち、南側の高いレベル側から垂直に掘削される。掘削された竪穴底部は平底を呈し床面に接するレベルで須恵器甕が１点出土している。本遺構出土の須恵器甕も頸部に紐状の擦れ痕が明瞭に残り水汲みに利用された土器と考えられる。



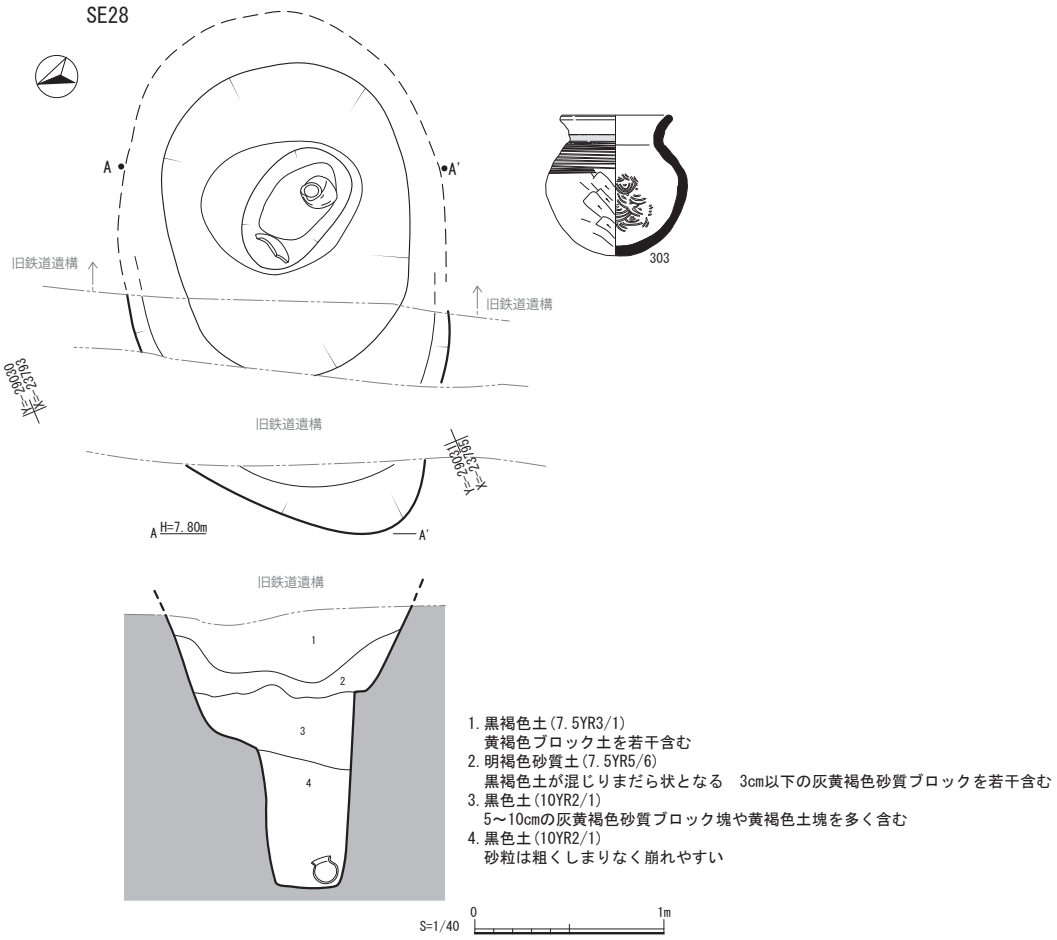


Fig.69　井戸 SE27(上)・SE28(下)実測図

竪穴建物 SI08（Fig.70）調査区北端に位置し、他の遺構の切り合いはない。遺構北西隅と南東隅の一角が調査区外に出るが遺構規模等の基本情報は取ることができた。

平面形は南北にやや長い長方形を呈し、北辺中央に作り付けカマドを有する。カマド本体袖部の残存状況は良く、内部の燃焼面を含めると本遺跡群の中では残りの良いカマドである。袖部には粘土塊による袖基礎が築かれ、上部は崩落のため残らない。内部の燃焼部は壁際に向かい２段に渡り窪み、燃焼効率を上げるためか工夫が凝らされた造りとなっている。煙道部は北辺上端中央部に短く外に広がるが明確には残らない。竪穴建物の土層断面を見る限り、２層上面が生活面と想定し、そこから燃焼部は掘り込まれる。貼床後、カマドを作り付けている状況を観察できる貴重な遺構である。遺構内からは当時の生活に必要な什器類が出土しており、竪穴建物での生活様式を知る上で重要な一括資料として注目される。

その他、竪穴内には建物を構成する遺構としての柱穴、硬化面等は確認されていない。柱穴等は当遺跡の他、今回の調査区からは検出されている事例が少ないため、竪穴内部にそもそも柱穴を有しないのか、土壌の特殊性から検出しにくい土地なのかは不明である。

竪穴建物 SI09・SI10（Fig.71）調査区の中央部に位置し周辺には多数の竪穴建物がある。

SI09　遺構の西側を鉄道遺構により削平され、北側は別の竪穴建物に重複し、全体として残りが悪い。概ね1/4 程度の残存度である。遺構は、南東隅のみの一角でそこからは柱穴等の遺構は検出されていない。埋土中からは土師器皿及び椀が出土している。

SI10　SI09 の東側に位置し、南西隅側で他の遺構と重複し、消滅している。遺構主軸を東西に持ち、長方形を呈する。竪穴内には北西隅に土坑状の掘方を有するがその他、柱穴等は確認されていない。

埋土中からは土師器及び須恵器の皿、杯類、及び甕が出土しており竪穴建物としての性格を有する什器類が出土している。北西隅の土坑状遺構周辺には焼土、粘土等がない事、その他遺構内にも同様の土がないことから竪穴内での火の使用はなかったものとみられる。

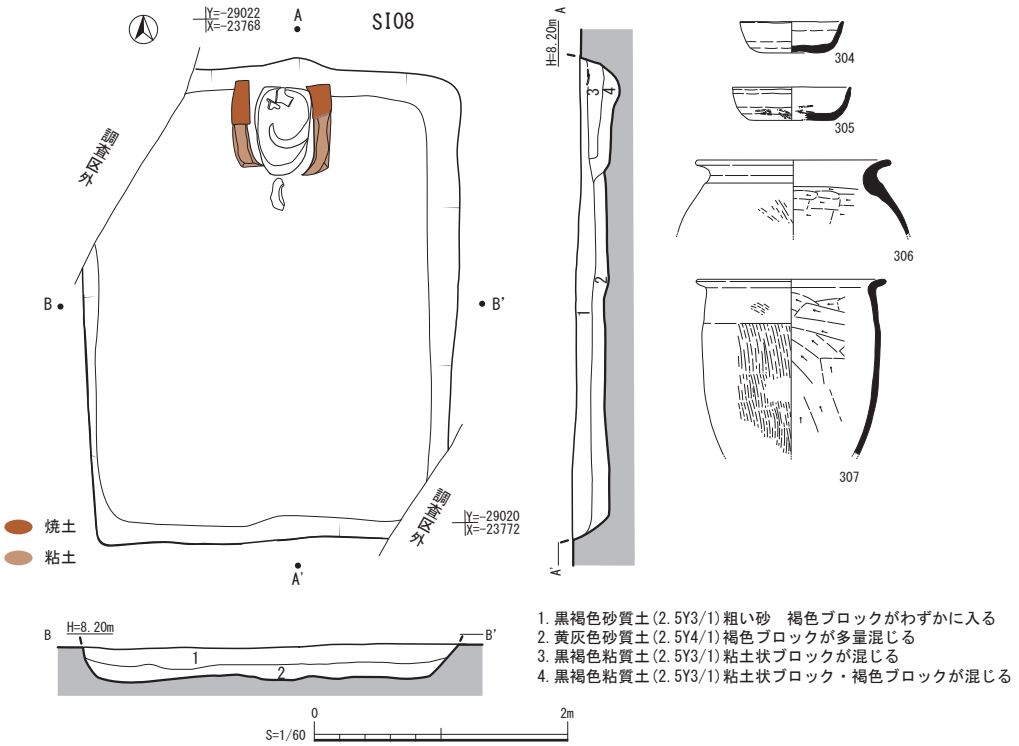


Fig. 70　　竪穴建物 SI08 実測図

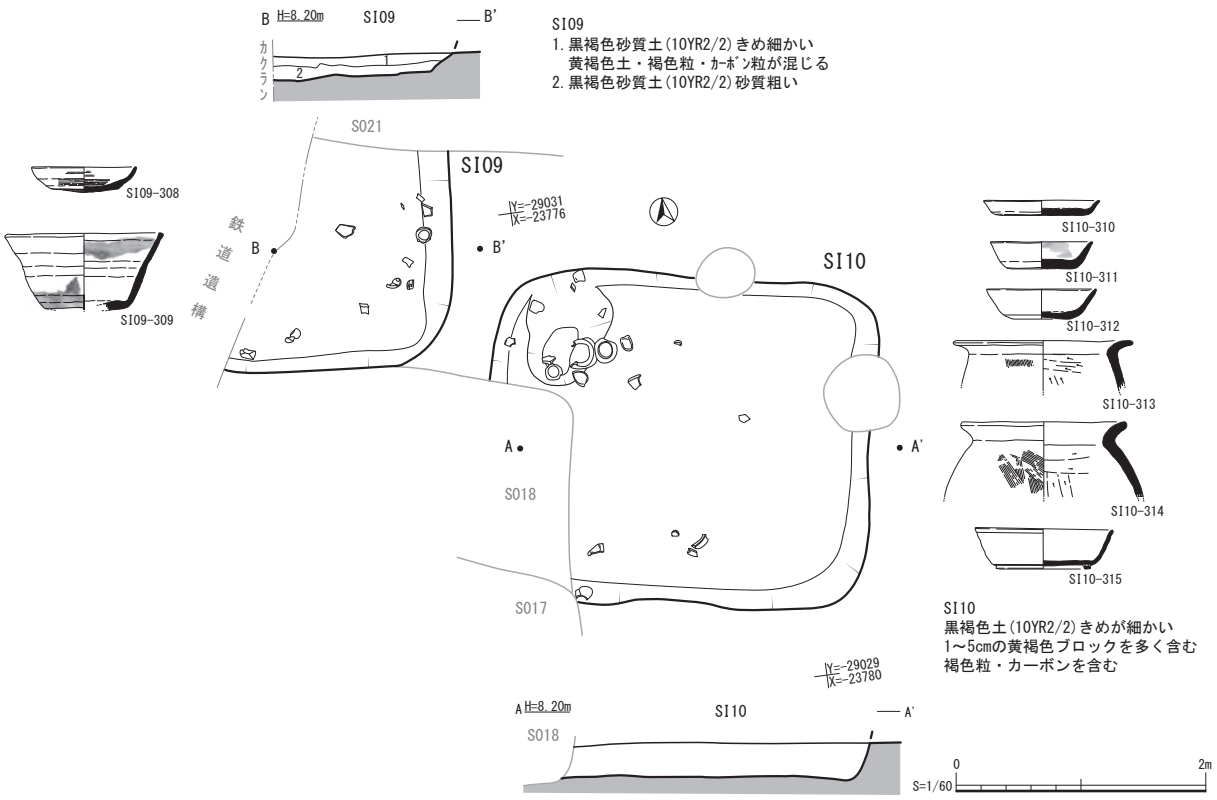


Fig. 71　竪穴建物 SI09・SI10 実測図

竪穴建物 SI11（Fig. 72）調査区中央部に所在し、遺構北西部隅と中央部を鉄道遺構により切られ検出した遺構。遺構は 1 辺 4 m四方の竪穴を有し、小柱穴を床面にて検出しているが、本遺構の主柱穴となりうる遺構とは確認できない。また、作り付けカマド等の痕跡は残らない。
遺物は鉄道遺構等の撹乱の北側に集中して出土しており、いずれも床面直上からの出土である。出土した遺物は土師器皿、須恵器杯蓋及び壺など多数出土しており、一括性の高い遺物である。

竪穴建物 SI12（Fig. 73）SB15 と重複し検出している遺構。遺構の東南部が調査区外に延び、一部未調査である。遺構は 1 辺、約 3.5 mでほぼ正方形を呈する。北壁中央部に作り付けカマドを有する。煙道部は外部にわずかに伸びる。遺構床面とカマドの関係は土層断面（B-B'）に残るように最下層となる 5 層が貼床に相当し、その上面が床面と判断する。カマド部は燃焼面となる壁面及び粘土等が明確には残らず、埋土の中に混入した状態で出土していることから竪穴建物を廃棄する際にカマドを事前に破壊する行為の後に埋め戻されたものと考えられる。北辺に残るカマド掘り方にも袖基底部等が残らないことからもそれが裏付けられる。柱穴は遺構下端隅に 4 基検出している。いずれも、本遺構の主柱穴と判断される。出土遺物はない。

竪穴建物 SI13（Fig. 74）調査区のほぼ中央で検出した遺構。作り付けカマドが西壁中央で検出されていることから主軸を東西に有する。遺構規模も 1 辺が約 5 mを超えるなど本遺跡群内では他に類例を見ない規模を呈する。主柱穴は遺構中心部 2.3 m四方に 4 本検出され、支柱が遺構上端四周に 3 基ずつ配置される。
上屋構造の詳細は専門の方々に譲るが、この時期の支柱穴を有する遺構から、壁立の竪穴建物の可能性が高いと見る。床面には硬化面が主柱穴を取り巻く様に、カマドに相対する東壁際からカマド前面まで広がる。土層断面の記録からも薄いが貼床が施され、その上面が硬化面を示していることが確認される。カマド周辺には焼土及び粘土が残るが遺構埋土中からも出土することから廃棄行為の後に焼土・粘土が混土された状態で埋め戻されたものとみられる。本遺構内からの出土遺物はない。

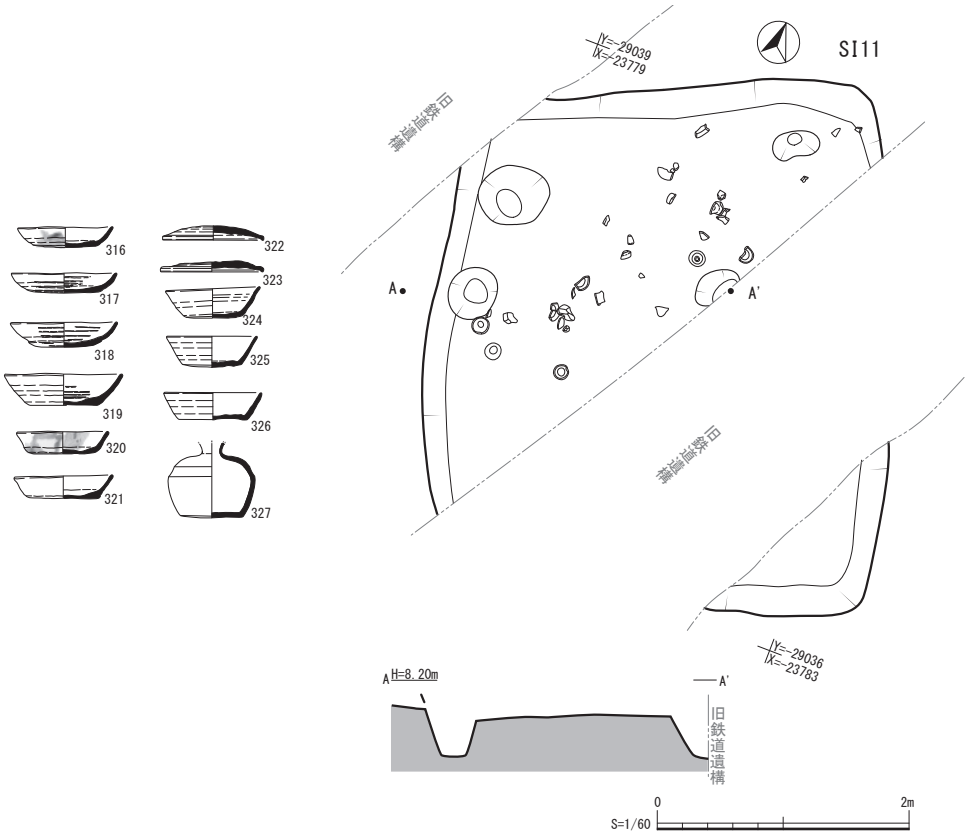


Fig. 72　竪穴建物 SI11 実測図

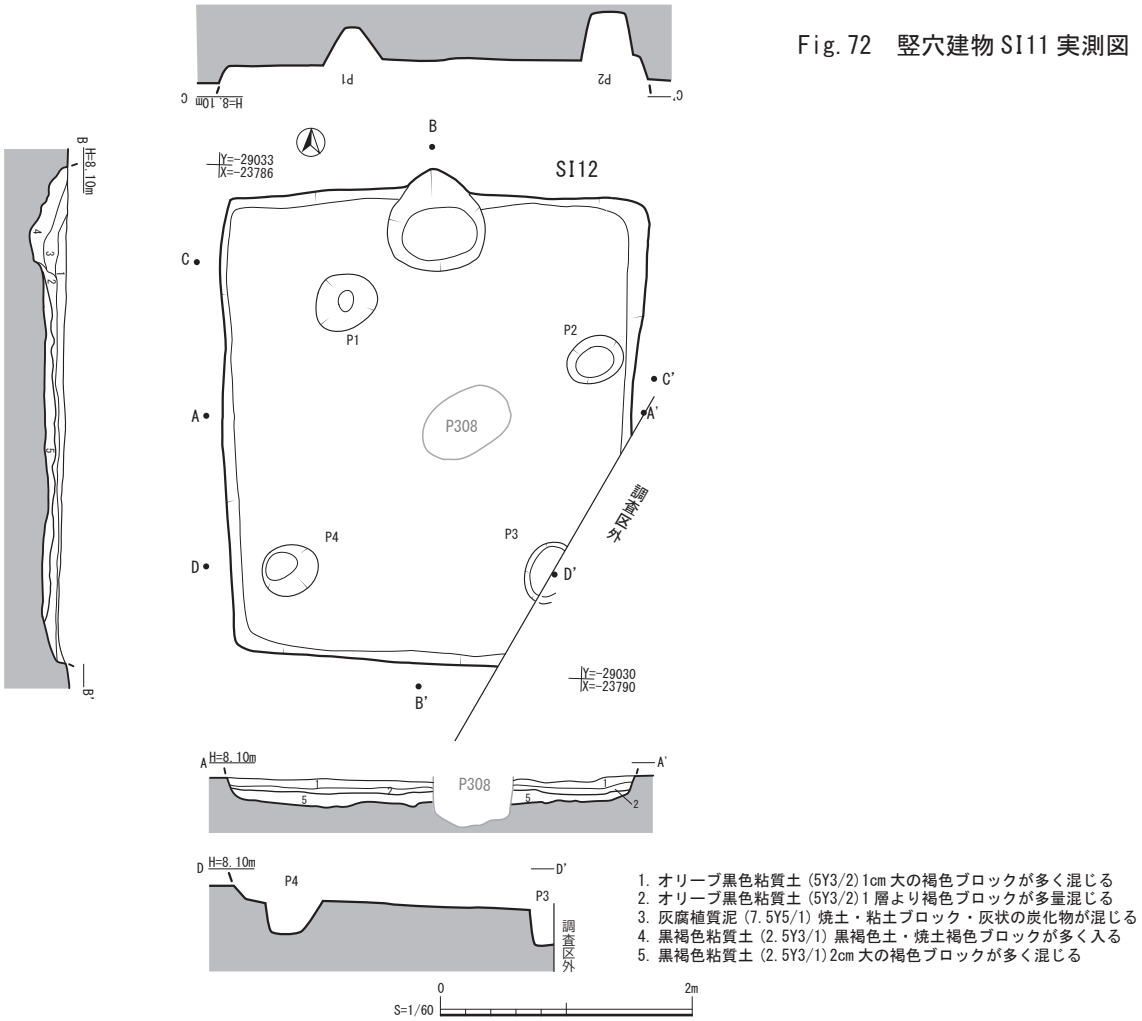
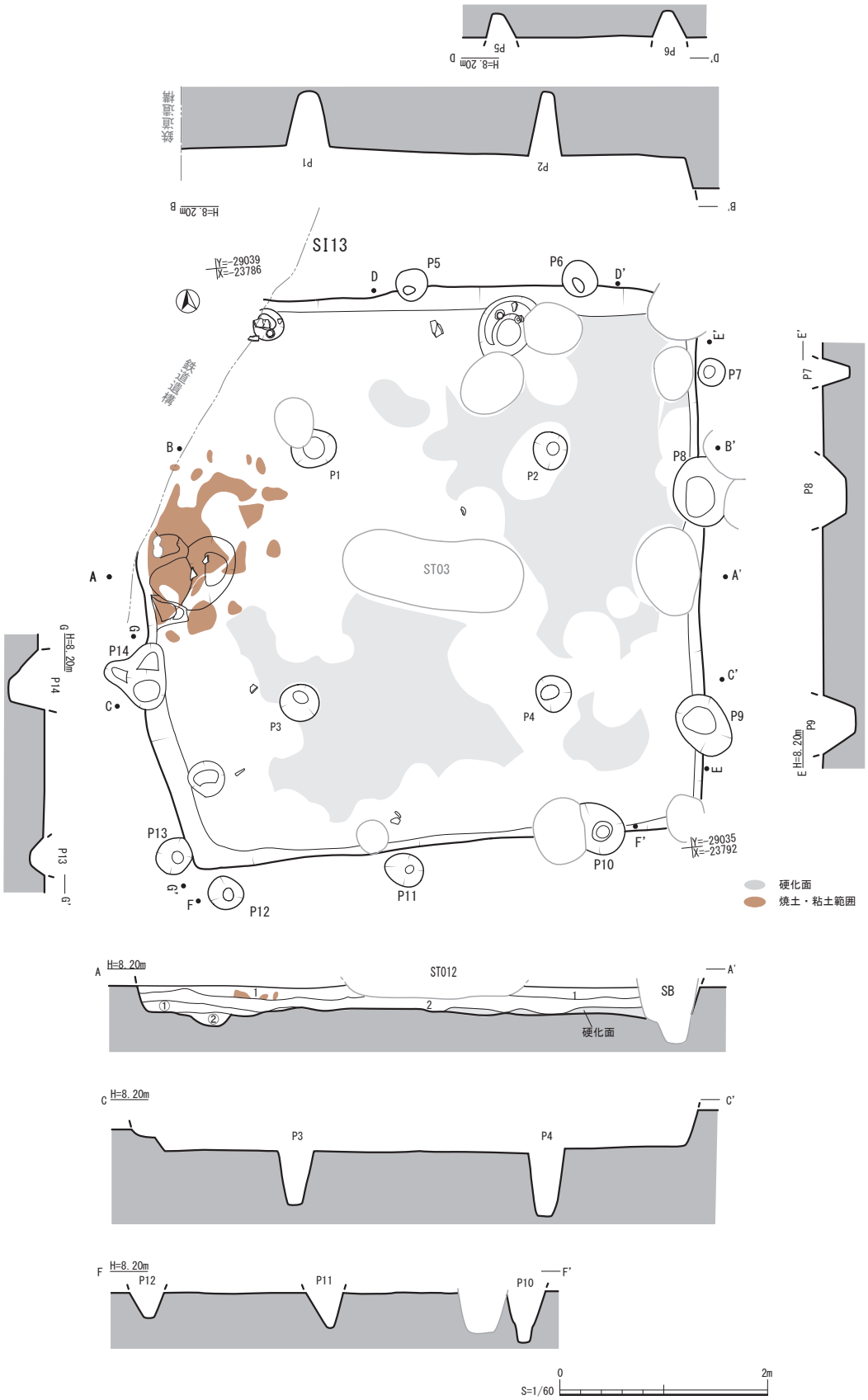


Fig. 73　竪穴建物 SI12 実測図



1. 黒褐色土(10YR2/3)粘性あり　1cm以下の褐色粒が少量混じる
2. 黒褐色土 (10YR3/3)粘性あり　1cm～5cm大の褐色砂質ﾌﾞﾛｯｸを多く含む

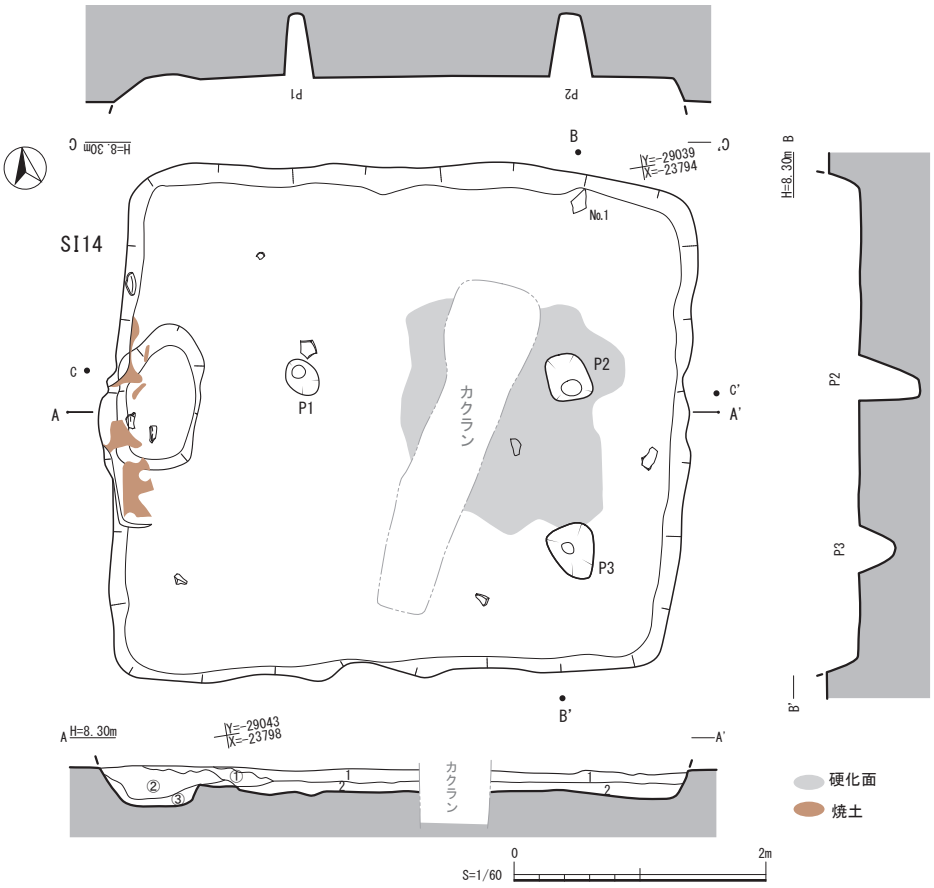
カマド
①にぶい黄橙粘質土(10YR6/6)粘土ブロックよりやや形を残し熱を受けた部分も残る
②黒褐色土(10YR3/3)粘性弱い　焼土・炭化物を少量含む

Fig. 74　竪穴建物 SI13 実測図

竪穴建物 SI14（Fig.75）SI13 の南側に約５ｍの間隔を置き検出した遺構。遺構主軸は東西に有し、西壁中央に作り付けカマドを有する。遺構平面は主軸方向に沿い長方形を呈する。

主柱穴は東側に２基を検出し、カマド前面に１基検出するが、西側においては検出には至っていない。カマドは浅い掘り方を有し壁に沿い楕円形に広がる。他に比べ掘り方が横に広がりが見られる。

煙道部は西側上端中央でやや外に円を描き広がるが明瞭に煙道部を残すものではない。壁に沿い焼土の分布が残る。本遺構からの遺物の出土はない。



1. 黒褐色粘質土(2.5Y3/1) 5～10mm大の褐色砂質土ﾌﾞﾛｯｸが全体的に混じる
2. 黒褐色粘質土(2.5Y3/1) 1層より褐色砂質土ﾌﾞﾛｯｸが混じる
カマド
①粘土ブロックが入る
②(カマド覆土)粘土ﾌﾞﾛｯｸ・焼土ﾌﾞﾛｯｸ・炭化物が混じる
③カマド下層　炭状の炭化物が入る

Fig. 75　竪穴建物 SI14 実測図

竪穴建物　SI15・SI16・SI17・I18・SI19、SI20・SI21・SI22・SI23（Fig.76）

本竪穴建物群は、16 次 5 区調査区のほぼ中央部で検出した遺構群。本遺跡群ではたびたび同規模の竪穴建物を一部切り合うような形で連続して建替えるなど、強い土地利用の規制の下再建している事例が見受けられる。また、遺構内から遺物は出土するものの明瞭な硬化面及び生活に関する施設等が確認されていないことから竪穴式倉庫等の存在も想定する必要がある。遺構群は北側 5 基の切り合い群、南側に 4 基の切り合い群からなる。

SI15　南北に主軸を持つ長方形の遺構。南東部隅を SI18 と重複する。本遺構でも主柱穴及び硬化面は確認されず、床面には数基の柱穴状の掘り方を有するのみである。この柱穴状の掘り方も本遺構に伴うものかは不明。土師器杯が 1 点出土。

SI16　SI15、SI19 と重複し北西側の一辺のみ検出できた遺構。検出できた遺構が壁際のみであることから主柱穴及び、硬化面等の存在は確認できていない。主軸方向も不明。

SI17　大半を他の遺構に切られていることから全体像は分からないが、検出した東側のみの遺構情報からは主軸こそ南北に有するが、その他の柱穴及び硬化面等の生活痕跡は確認できていない。出土遺物はない。

SI18　南北に主軸をおき長方形の平面形を呈する遺構。南東部隅が調査区外に延び、未調査である。北辺中央に柱穴状の遺構を 1 基検出しているが、主柱穴及び硬化面等の存在は確認できていない。出土遺物は土師器・須恵器の椀及び甕など生活什器の範疇に加え、高台付長頸瓶も出土している。

SI19　SI18・SI15 に切られ、SI16 を切る状態で検出した遺構。南側一群となる SI22 とも重複関係を呈する。遺構主軸は東西に有し、小柱穴状の掘り方を確認しているが、主柱穴と想定できるものはなく、硬化面も存在していない。

SI20　これ以降は南側で重複関係を呈する切り合い群。本遺構群で検出された竪穴状遺構の中で最も小さく約 2.5 m× 2 mの遺構。東側中央部にカマドを設置した跡であろう浅い掘り方が残るが、焼土・粘土等は残らない。ここでも他の遺構同様、主柱穴及び硬化面等の痕跡は確認されていない。
出土遺物は、土師器杯・甕 2 点が出土している。

SI21　南北方向に主軸を有し SI20 に切られ検出した遺構。中心部を別遺構に切られていることから詳細は分からない部分もあるが、残された面から主柱穴及び硬化面は確認されていない。

SI22　SI21 に切られ、SI19 を切る状態で検出した遺構。南西部隅から遺構の約 4 割程度を切られているため全容は不明である。北側辺に主柱穴を構成するであろう柱穴を有するが、その他の柱穴が未確認であるため全容は不明。硬化面等は確認されていない。

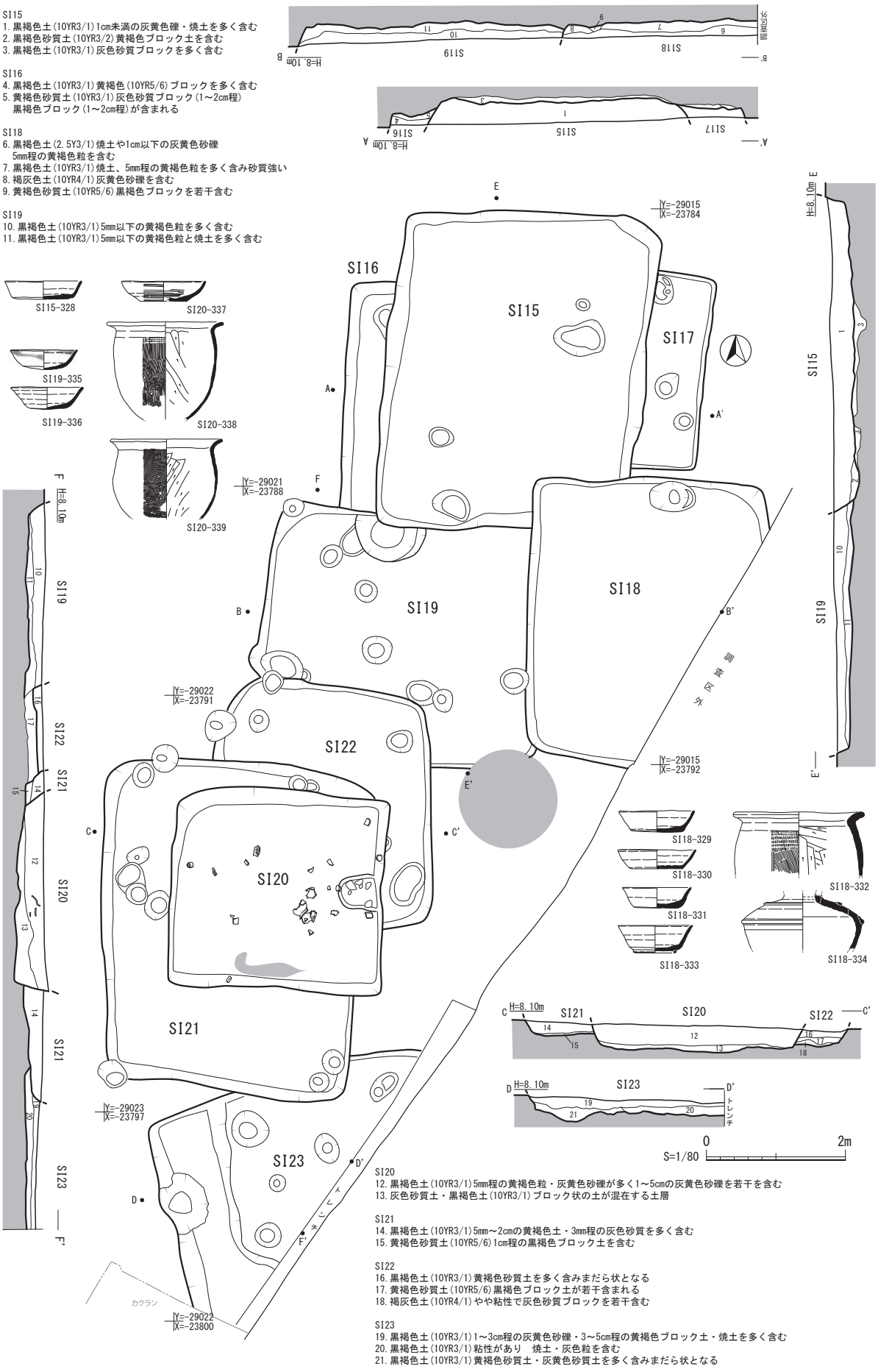
SI23　切り合いの最下層に位置する遺構。長方形の平面を呈し主軸はややずれるが東西に有する。柱穴状の遺構が確認されているが竪穴建物を構成する主柱穴かどうかは不明である。西側には一段下がる部分を有するが、床面を掘りすぎた遺構掘り方である可能性もある。

SI15
1. 黒褐色土(10YR3/1)1cm未満の灰黄色礫・焼土を多く含む
2. 黒褐色砂質土(10YR3/2)黄褐色ブロック土を含む
3. 黒褐色土(10YR3/1)灰色砂質ブロックを多く含む

SI16
4. 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色(10YR5/6)ブロックを多く含む
5. 黄褐色砂質土(10YR3/1)灰色砂質ブロック(1～2cm程)
黒褐色ブロック(1～2cm程)が含まれる

SI18
6. 黒褐色土(2.5Y3/1)焼土や1cm以下の灰黄色砂礫
5mm程の黄褐色粒を含む
7. 黒褐色土(10YR3/1)焼土、5mm程の黄褐色粒を多く含み砂質強い
8. 褐灰色土(10YR4/1)灰黄色砂礫を含む
9. 黄褐色砂質土(10YR5/6)黒褐色ブロックを若干含む

SI19
10. 黒褐色土(10YR3/1)5mm以下の黄褐色粒を多く含む
11. 黒褐色土(10YR3/1)5mm以下の黄褐色粒と焼土を多く含む



SI20
12. 黒褐色土(10YR3/1)5mm程の黄褐色粒・灰黄色砂礫が多く1～5cmの灰黄色砂礫を若干を含む
13. 灰色砂質土・黒褐色土(10YR3/1)ブロック状の土が混在する土層

SI21
14. 黒褐色土(10YR3/1)5mm～2cmの黄褐色土・3mm程の灰色砂質を多く含む
15. 黄褐色砂質土(10YR5/6)1cm程の黒褐色ブロック土を含む

SI22
16. 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色砂質土を多く含みまだら状となる
17. 黄褐色砂質土(10YR5/6)黒褐色ブロック土が若干含まれる
18. 褐灰色土(10YR4/1)やや粘性で灰色砂質ブロックを若干含む

SI23
19. 黒褐色土(10YR3/1)1～3cm程の灰黄色砂礫・3～5cm程の黄褐色ブロック土・焼土を多く含む
20. 黒褐色土(10YR3/1)粘性があり　焼土・灰色粒を含む
21. 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色砂質土・灰黄色砂質土を多く含みまだら状となる

Fig. 76　竪穴建物 SI15 ～ SI23 実測図

土坑 SK11（Fig.77）柱穴状の掘り方を呈するが、他に類する遺構が存在しないため土坑として報告する。遺構断面は２段から構成され浅い段上に須恵器、高台付杯と摘み付蓋がセットで置かれた状態で出土している。

墓 ST03（Fig. 78）東西に主軸を有する遺構。調査時に上部の削平により、伸展で埋葬された人骨が遺構全面にて検出されていたことから当初より墓と認識し調査を実施している。
頭部は東側におき全身を西に向かい伸ばす。人骨の残存状態は悪く、全身骨があったことを示すよう各部分がわずか残る。頭部側に須恵器杯が１点置かれており供献遺物とみられる。

墓 ST04（Fig.79）９世紀代の井戸を下位に有し、その上部から掘り込まれている遺構。平面形は長方形で ST03 同様の土坑墓の形態をなす。頭部は北側に置き、土師器皿、杯及び内外面を研磨された黒色土器が置かれており、供献土器であるとみられる。しかし、遺構北側は南側下端に比べ約 50cm 斜めに落ち込み不正形な下端を呈する。この遺構を観察する限り葬送当初からこのような掘り方であったとは想定されず、遺構断面下位に井戸竪穴部を有していることもこの形を残す一つの要因である可能性も高い。この地域は水位が豊富であること、当初の井戸の規模が大きいことなどから、中央部竪穴に向かい、ST04 の遺構北側が落ち込んだ可能性が高いと考えられる。

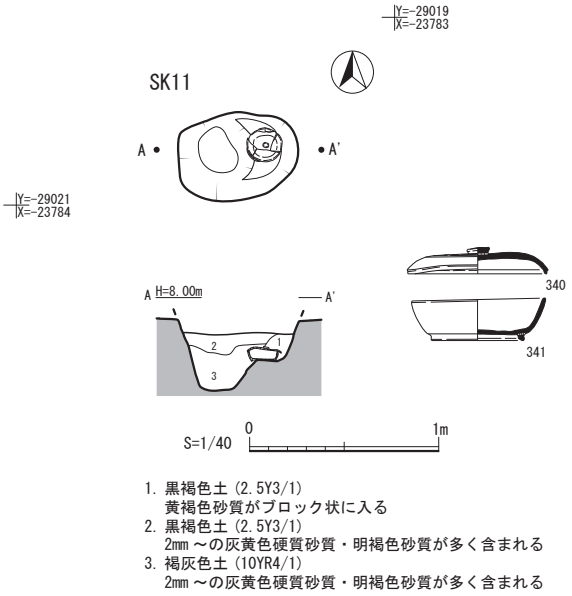


Fig. 77　土坑 SK11 実測図

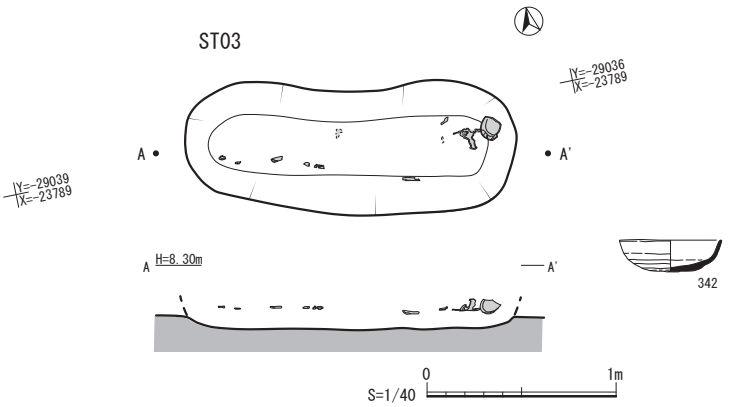


Fig. 78　墓 ST03 実測図

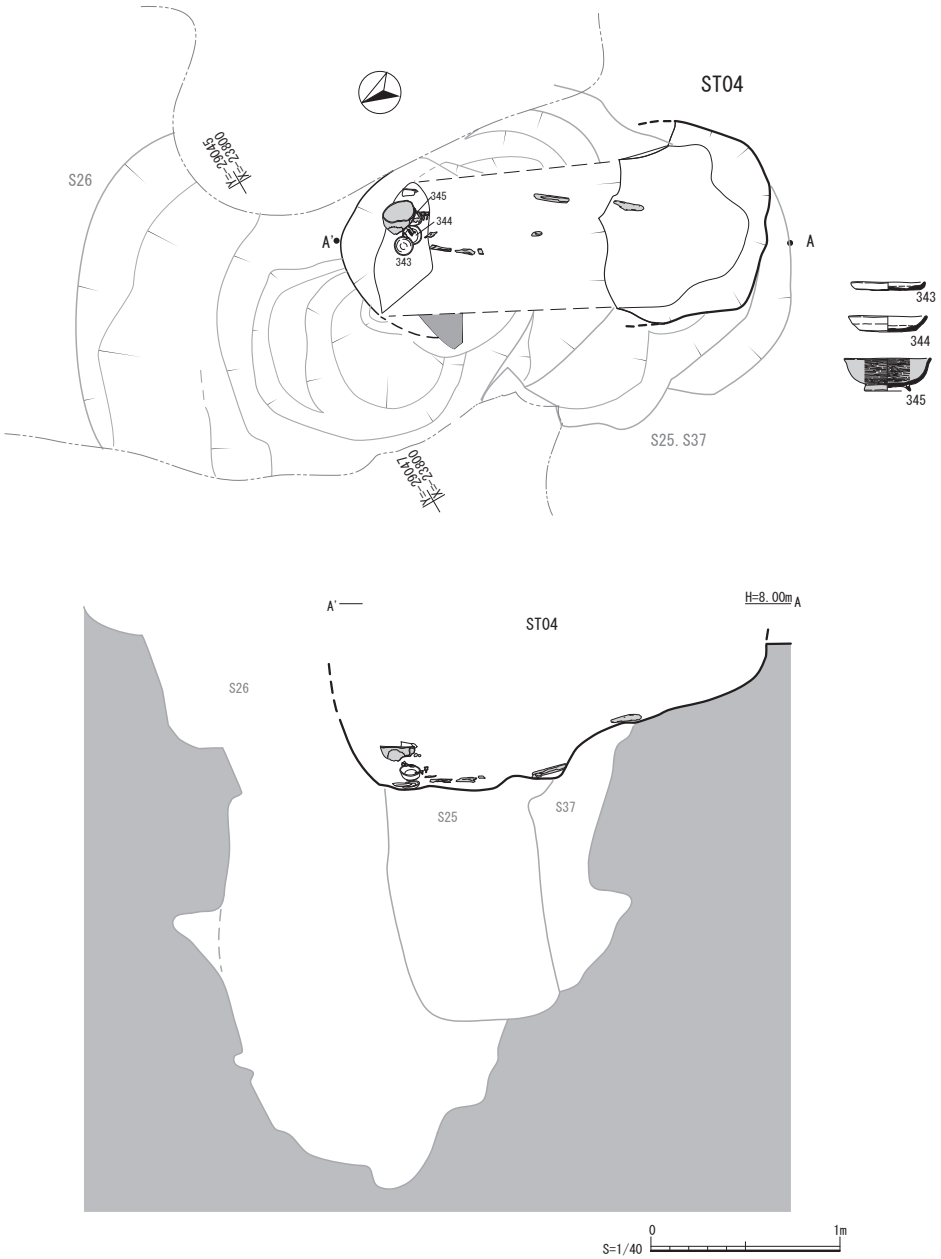


Fig. 79　墓 ST04 実測図

11 次・15 次 1 区・16 次 6 区

本調査区は多数の小規模な溝状遺構を中心に竪穴建物を重複した状態で多数検出している。溝状遺構は多くが東西方向に並走し南北方向に延びる溝に一部接続する。本来は区画溝であると考えられるが切り合いが激しく詳細を知るには至っていない。

掘立柱建物 SB16（Fig.81）調査区西辺近くで検出した遺構。南北４基（１基は推定）３間、東西は２基、１間の規模で検出している。南北側では柱穴列のうちＰ２- Ｐ３間の柱穴間距離が 4.8 mに及ぶことから高架化基礎杭設置個所に１基あり、現在は消滅していると想定した。柱穴平面は円形若しくは楕円形を呈し、方形掘り込み等はない。P3 が４ヶ所ある隅柱の１基と見られるが他の柱穴規模と比べ大差はない。柱穴からは遺物の出土等はない。

掘立柱建物 SB17（Fig.81）SB16 と重複し検出した遺構。SB16 との遺構切り合いが生じていないことから新旧関係は確認できていない。遺構は南北５基、４間×東西３基、２間を検出している。遺構北西側は SB16 同様に調査区外に位置し未調査である。柱穴は円形若しくは楕円形を呈し、形状は一様ではない。明確に隅柱と見られるものは P5 のみである。P5 埋土からは土師器杯が２個体出土しており、隅柱の祭祀行為の一例の可能性もある。

掘立柱建物 SB18（Fig.82）調査区のほぼ中央 SD25 と重複して検出した遺構。遺構切り合いの観点からみると、掘立柱建物南側が SD25 等、溝状遺構により柱穴列を切っているとみられ、柱穴列を検出できていないことから掘立柱建物→溝状遺構の新旧関係を見ることができよう。現存する規模は建物北辺の東西に梁行３基、２間×桁行南北に３基、２間であるが、本遺構群で一般的にみられる２間×３間程度の規模があったものと考えられる。柱穴平面形は円形若しくは不定形の円形を呈する。主軸は南北方向に有するものと見られる。

掘立柱建物 SB19（Fi.82）調査区ほぼ中央で西側寄りに検出している。遺構西側の側柱が、調査区外にあたり検出できていない。遺構規模から推定すると梁行３基、２間×桁行４基、３間と見られる。主軸はほぼ南北に軸を有する。

掘立柱建物 SB20（Fig.83）調査区の南側に位置し、遺構南側の隅柱を含む２基程度を撹乱により失っている。遺構規模は梁行３基、２間×桁行４基、３間からなる。主軸はほぼ南北に有する。柱穴平面は円形若しくは不定形の円形を呈し、隅柱も小規模な柱穴により構成される。他の掘立柱建物に比べ柱穴が小径であるが、柱穴列の並びが確認できていることから建物として報告する。

溝 SD09・SD12・SD15・SD25・SD26・SD27・SA05（Fig.84）

本調査区で最も目を引く遺構は調査区北側で検出された多くの溝状遺構である。遺構の新旧関係は大まかには、ほぼ南北を主軸に有する小規模な溝が古く、主軸をやや東に振る溝が新しい。遺構の性格として土地を区画するものと考えるが、小規模な溝についての利用方法等については考察できていない。

溝 SD25 等の比較的長く、幅を持つ溝は区画溝と想定ができよう。

溝 SD09

調査区の北東端から遺構中央部に延び、途中で SD15 と合流する。SD15 の解説でも記すが、本遺構との同一性は認められない。他の溝に比べると幅を持ち、直線状を呈することから区画溝の可能性を有する。埋土中から土師器杯を１点出土している。

Fig. 80　11・15 次 1 区・16 次 6 区遺構配置図

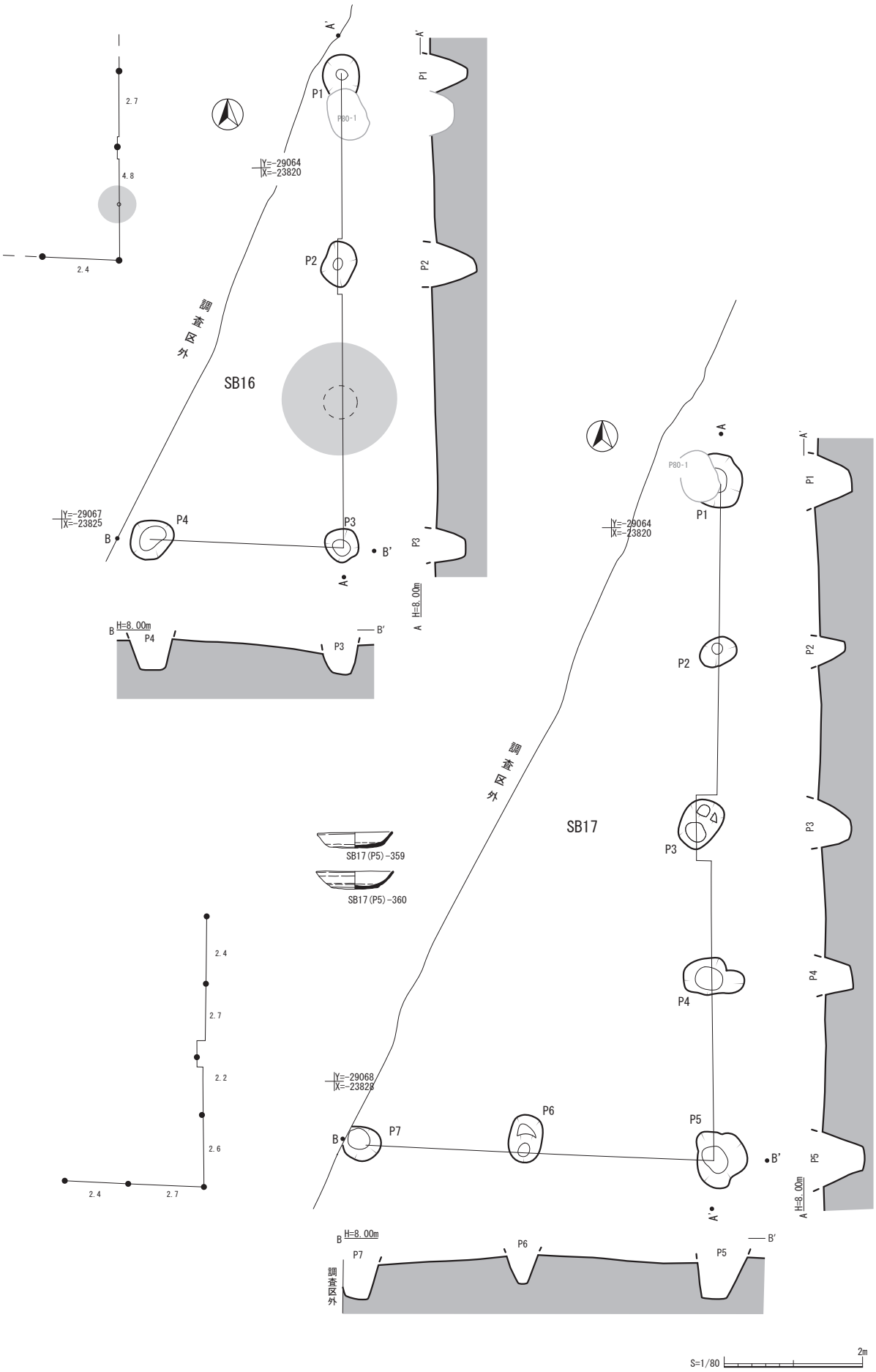


Fig.81　掘立柱建物 SB16（上）・SB17（下）実測図

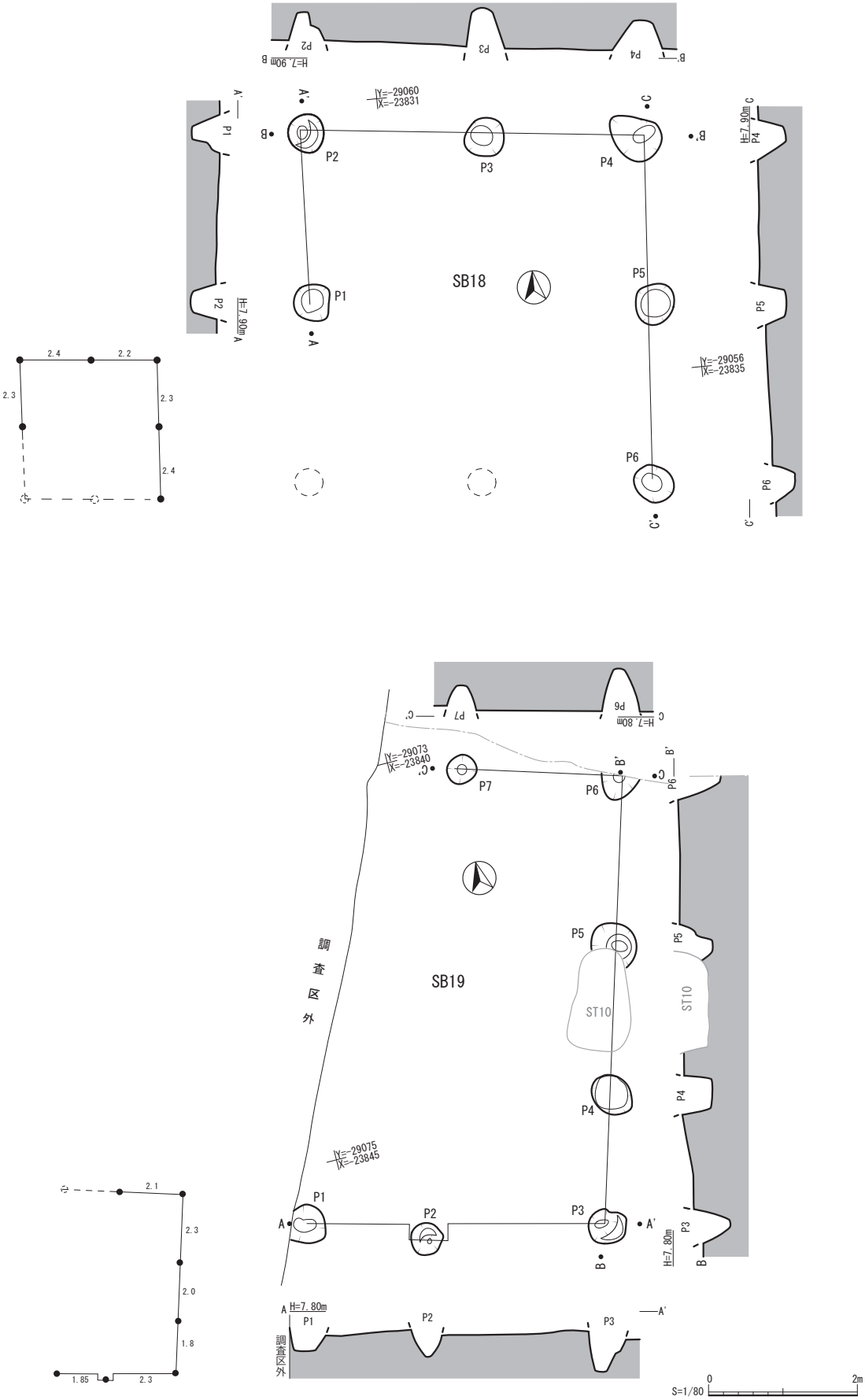


Fig.82　掘立柱建物 SB18（上）・SB19（下）実測図

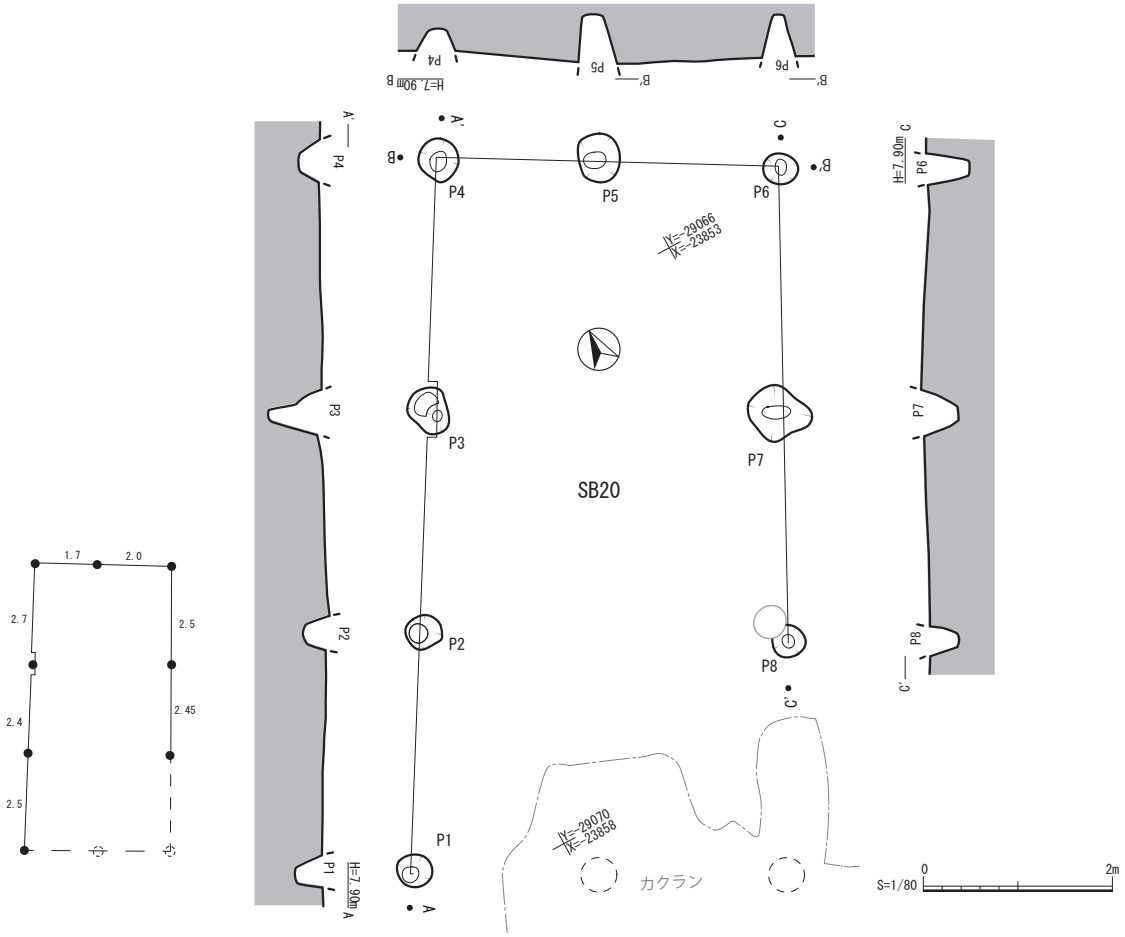


Fig.83　掘立柱建物 SB20 実測図

溝 SD12 調査区北側に位置し緩やかな弧を描く遺構。切り合い関係は比較的新しく SD09 に隣接する遺構を切る状態で確認している。北側は浅くなり明確に遺構を確認できてはいないが、南側については先端がすぼまり丸く収まっている。断面 B-B' の端に断面が係っているが、やや底面は不正形ながらも逆台形を呈する。本調査区内ではこの遺構と共伴する、若しくは対応する遺構は確認されていない。埋土中からは古代の土師器杯、高台付杯（外器面底部に「仲」と墨書有り）、須恵器杯が出土している。

溝 SD15 調査区を南北に縦断し調査区中央部でやや西に向きを変え緩やかに弧を描く。切り合いは他の遺構に比べ比較的新しく小規模な遺構の上から掘り込まれる。断面は浅く黒褐色土を主体とする埋土を持つ。調査区中心部で SD09 と Y 字状に交わるが、埋土の違いなどから同一遺構とは判断していない。埋土中からは遺物等は出土していない。

溝 SD25 調査区内のほぼ中央部に位置し、東西に延びる溝と調査区東部に寄ったところで T 字状に南北へ延びる遺構に直角に交わる。断面 D-D' では最上部からの掘り込みを確認でき、下層には SD26 などの遺構が存在している。断面形状から遺構は逆台形状で、下端は平坦面を呈する。南北に延びる溝側でも逆台形状を呈するが、下端が不正形で平坦ではない。南北側の溝と東西側の溝との性格は不明であるが、近隣の調査区を

巨視的にみると方形区画を呈する区画溝の性格を有している可能性がある。周囲で数多く検出されている溝状遺構と比べると性格の違う遺構である。埋土中からの遺物の出土はない。

溝 SD26　SD25 の東西溝と重複し、切り合いからは古い様相を呈する。SD25 南北溝との接点は明確ではないが、T 字状に接する前の撹乱前後で丸く収まる可能性もある。遺構規模は SD25 より幅・深度とも大きい。D-D' 断面では逆台形状で、下端は水平をなす。埋土中からの遺物の出土はない。

溝 SD27　SD25・26・27 の順に古くなる切り合い関係を有する遺構。遺構の残りはわずかだが、先にあげた 2 遺構とほぼ同じ方向を辿る。先にあげた遺構の中で、もっとも南側に位置し上端を観察できるが、SD26 に比べ短く収まる。残る南側上端では 5 基、4 間の柵列状の柱穴列が認められる。別遺構と見ることもできるがこれまでの二本木遺跡群調査事例からも柱穴列を伴なっている溝が検出されていることから、共伴する遺構としてここでは報告する。

柵列 SA05　SD27 の際に沿って検出された遺構。SD27 の上端に沿い軸が振れずに検出していることから同遺構に伴う柵列である可能性が高い。柱穴は 5 基、4 間からなり柱痕等は確認していない。調査区西側に延びる可能性もあるが調査区外になるため詳細は不明。

井戸 SE29（Fig.85）南側を溝 SD25 により切られ上端が消滅しているが遺構大半は残る。遺構平面は隅丸方形を呈し、上部は土坑状に浅く四周に広がる。東側で 1 段のステップを持つ。土坑状遺構のほぼ中央に竪穴を垂直に穿つ。断面形状はほぼ垂直で下部に従い狭まる。狭小な竪穴部での調査で途中湧水があったため、危険と判断し、土層断面の記録や埋没状況は確認できたが、下端の確認は残していないものと考える。下端付近では礫が数多く出土しその間から土師器杯及び須恵器高台付杯が出土している。

井戸 SE30（Fig.86）調査区中央部で SB19 と重複して検出した遺構。遺構の切り合いがないため新旧は確認できない。遺構平面は長方形で主軸はほぼ東西におく。上部の土坑状の掘り方は浅く、下端はやや不正形である。中央部には竪穴が垂直に穿たれ、下端までの深度は約 2.2 mを測る。竪穴上端の四隅には小柱穴の痕跡を認め、上部に覆屋があった事が窺える。竪穴下端は平坦で湧水が多い。
土層は上層から大まかに 3 層に分層され、3 層から土師器・須恵器杯、須恵器甕及び石製錘が出土している。出土状態が分からないため祭祀行為に伴う遺物かどうかは判断できない。

井戸 SE31・SE32（Fig.87）調査区南端に位置し、2 基の遺構が重複している。
SE31、切り合いの新しい本遺構は先行する遺構 SE32 の東側の大半を削平する。平面形は隅丸方形を呈し、ほぼ中央に竪穴を垂直に穿つ。上部の土坑状の掘り方は上端より一段下にテラス状のステップを持ち竪穴上端に至る。竪穴上端は方形を呈し、垂直に伸びる竪穴は円形を呈する。断面観察では水平堆積で井戸枠等の関連施設があった様子はない。出土遺物は主に 3 層となる竪穴部埋土中から出土しているが、上下にレベル差を有することから一括した廃棄遺物である可能性は低いとみられるが、遺物の時期差はない。
　上記遺構に先行する井戸 SE32 は、重複する遺構の西に位置し平面で見ると、1/5 程度の上端及び中間端のみ残す。断面では下端まで残るが、上部から中位までは削平される。断面から観察すると土坑状の掘り方のほぼ中央に竪穴を穿ち、垂直に伸び下端に至る。遺構深度は約 1.9 mを測る。土層は 4 層に分層される。埋土からの遺物出土はないが、重複する SE31 に先行する遺構として 9 世紀代以前の遺構と認識できる。

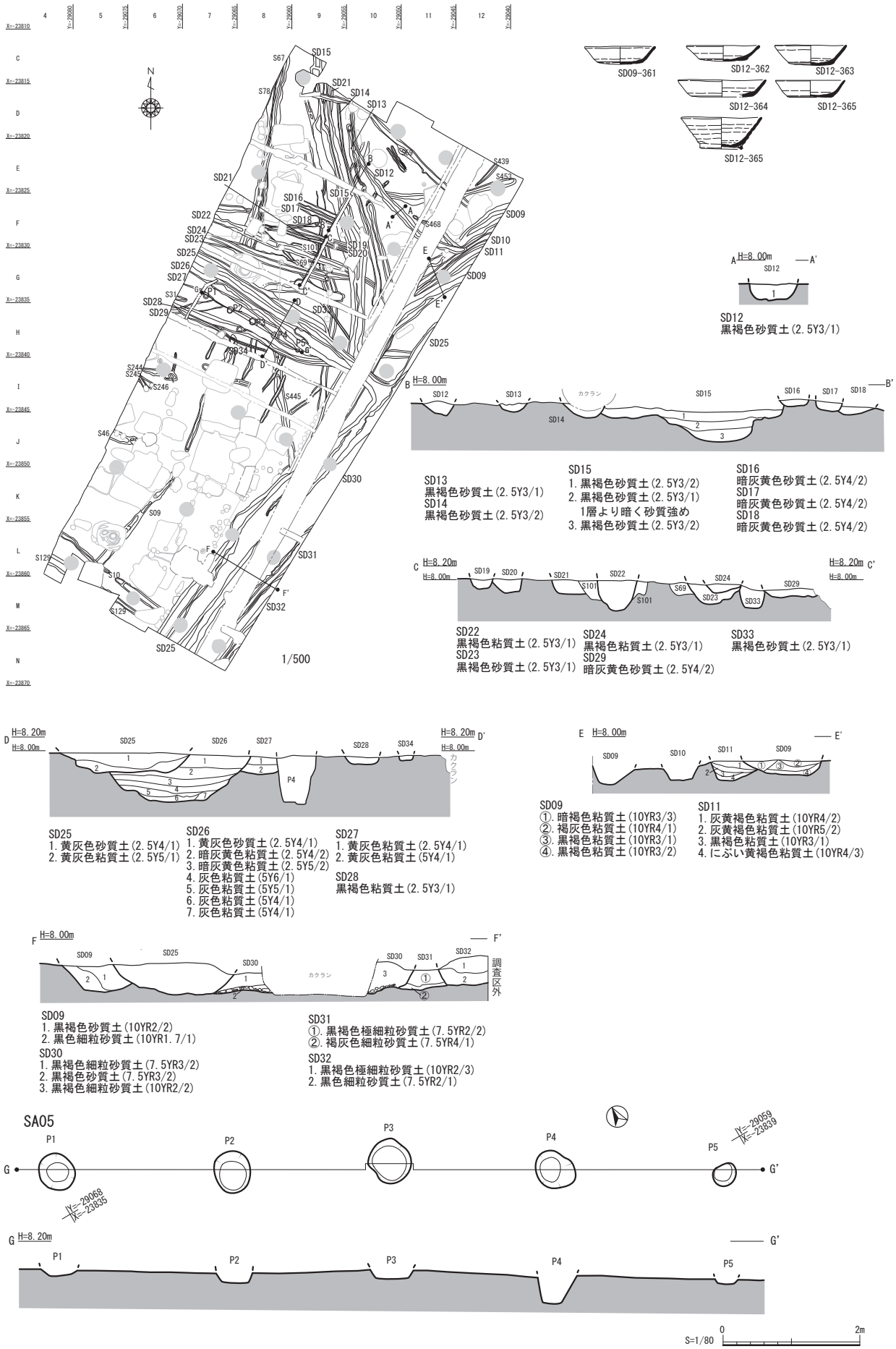
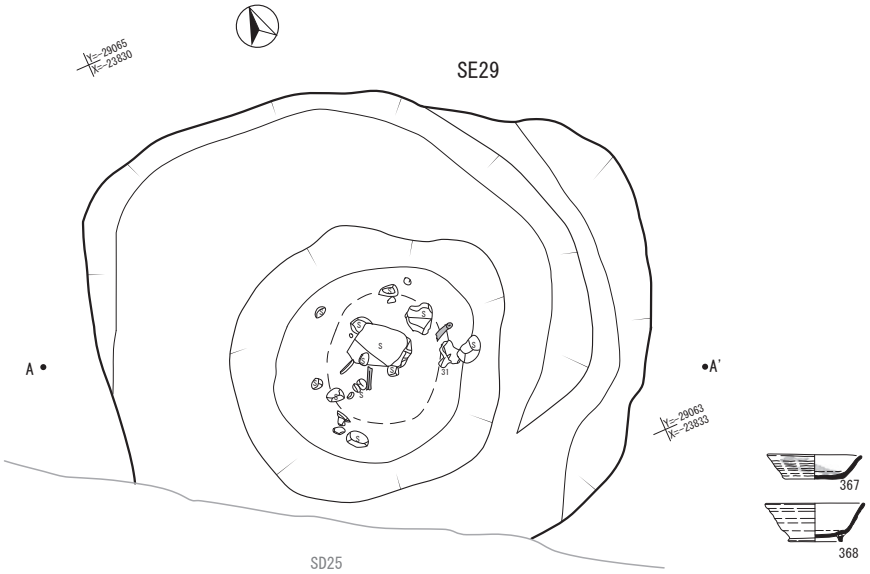
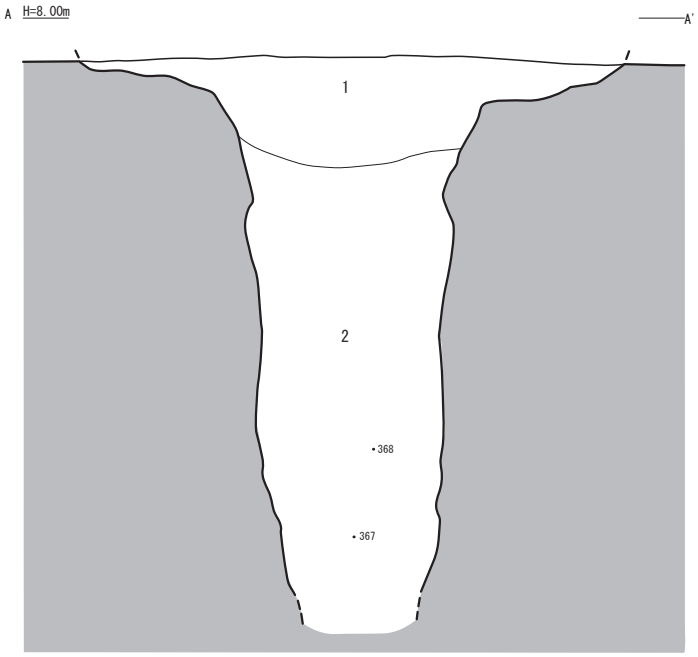


Fig. 84　溝 SD09 ～ SD34 遺構配置図・柵列 SA05 実測図





1. 黄灰色砂質土(2.5Y4/1)鉄分の沈着多い
2. オリーブ黒(5Y3/1)油のしみ込みが強い

S=1/40 0 1m

Fig. 85　井戸 SE29 実測図

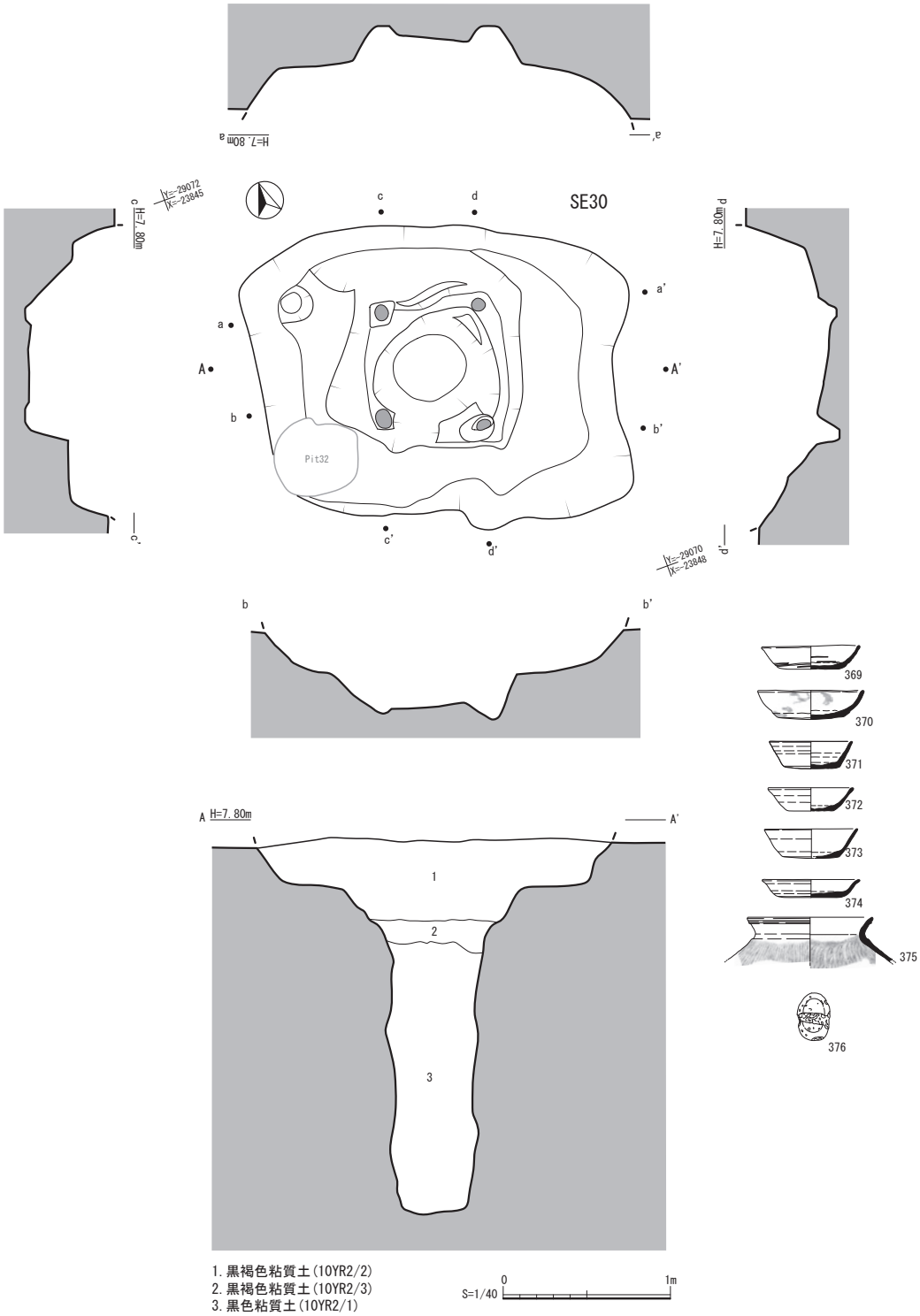


Fig. 86　井戸 SE30 実測図

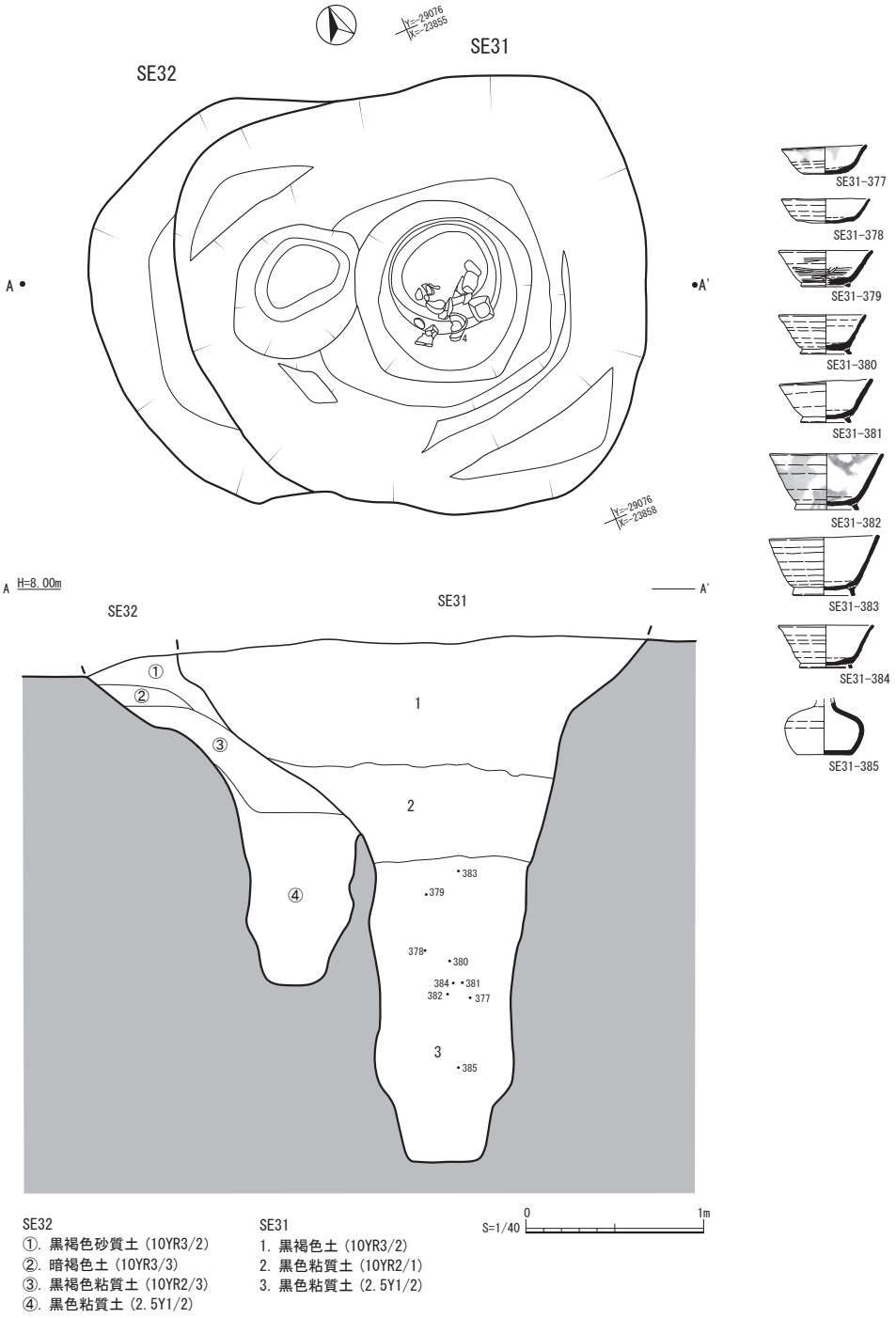
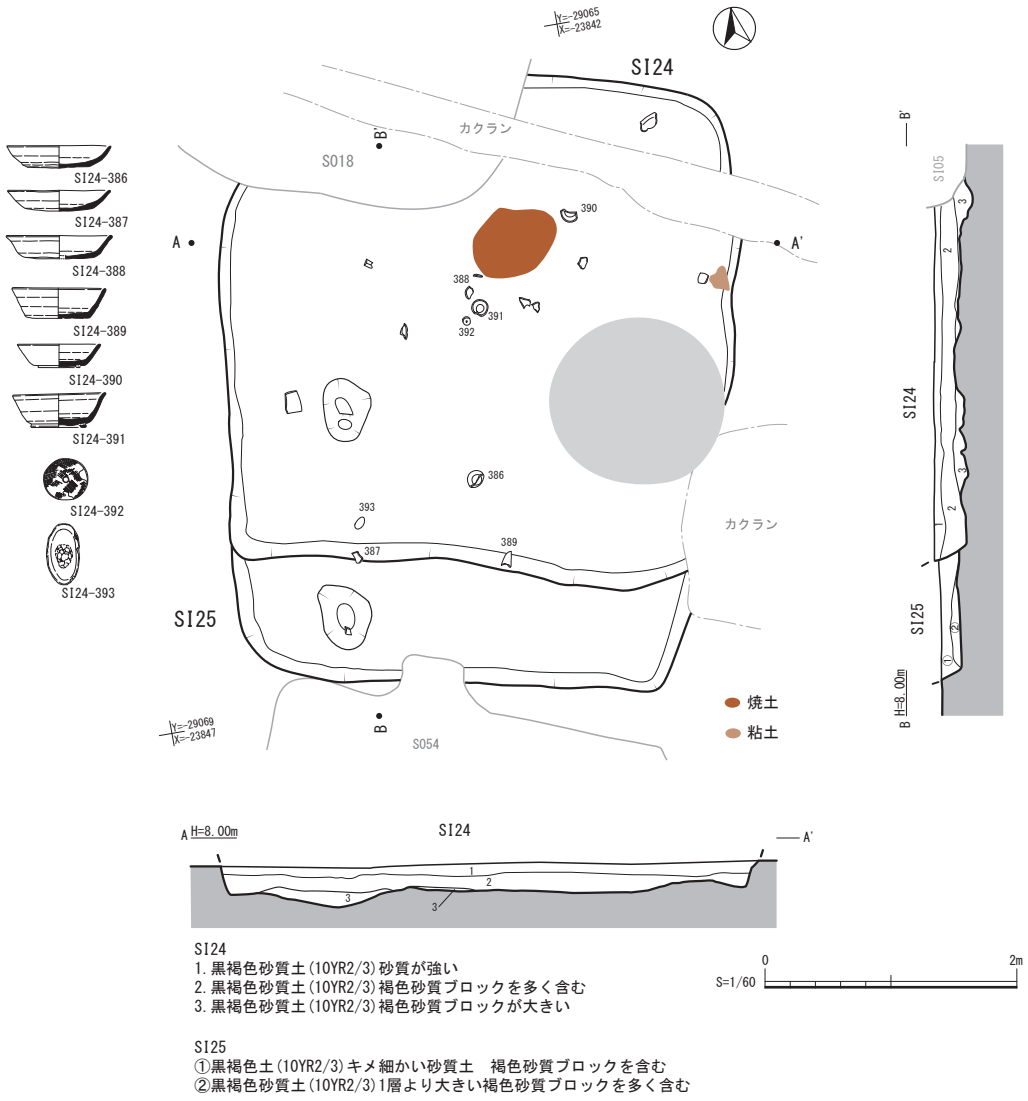


Fig.87　井戸 SE31・SE32 実測図

竪穴建物 SI24・SI25（Fig.88）２基の竪穴建物が重複し、検出した遺構。平面から観察する限り遺構の80％程度が切り合う。

SI24　正方形の形状を残す竪穴建物遺構。遺構は隅丸方形で一部に直角に曲がる角も有する。遺構の北辺、東辺に撹乱が入り作り付けカマド煙道部等を確認し難いが、東辺の中央より北に寄った壁際で粘土を確認するとともに上端ラインの外側への張り出しを見ることができることからこの部分が作り付けカマドの痕跡と考え、やや北に寄った遺構中央に残る焼土は屋内炉である可能性がある。焼土周辺部からは土師器をはじめ須恵器杯片が多数出土しており生活の中心とした場と想定する。柱穴は南西部に１基確認したがその他の柱穴は検出していない。遺構埋土の土層は３層残り、２層下面が生活面であったとみられる。埋土中からは他に石製紡錘車、石製錘が併せて出土している。

SI25　平面の約 20％程度しか残らない。遺構内には柱穴を１基検出しているが、その他の柱穴及び作り付けカマド等は確認できていない。 遺構埋土の土層は２層確認しているが、埋土中の出土遺物はない。



SI24
1. 黒褐色砂質土(10YR2/3)砂質が強い
2. 黒褐色砂質土(10YR2/3)褐色砂質ブロックを多く含む
3. 黒褐色砂質土(10YR2/3)褐色砂質ブロックが大きい

SI25
①黒褐色土(10YR2/3)キメ細かい砂質土　褐色砂質ブロックを含む
②黒褐色砂質土(10YR2/3)1層より大きい褐色砂質ブロックを多く含む

Fig.88　竪穴建物 SI24・SI25 実測図

竪穴建物 SI26（Fig. 89）調査区ほぼ中央部付近で検出した遺構。一辺約２ｍの不定形な方形をなす。遺構床面からは柱穴状の遺構を１基と小柱穴を１基検出しているが全容を判断できるだけの遺構は確認できていない。また、遺構内からは作り付けカマド等の痕跡は見受けらない。土層は２層を確認しているが、２層目の下端は凹凸があることから２層上面が生活面若しくは使用面であった可能性がある。しかし、２層上面で硬化面等は確認できていない。埋土中からは土師器高台付杯が出土している。

竪穴建物 SI27・SI28・SI29・SI30・SI31（Fig. 90）調査区ほぼ中央で検出した遺構群。５基の竪穴建物が切り合う。遺構の切り合い順は新しいものから、SI27 → SI29、SI31 → SI30、SI28 の順を確認している。

SI27　一辺が約３ｍの遺構。遺構平面は方形で、北辺中央部に作り付けカマド煙道を大きく張り出す。焼土等の広がりは確認できたが粘土は、未検出である。遺構内からは柱穴や床面を示す硬化面などは検出できていない。埋土は単層で貼床は確認していない。

SI28　SI30 と同じく SI27、SI29 と重複している遺構。遺構南辺は切り合いにより消滅している。また、北辺の中央を撹乱により切られているため作り付けカマド等の付帯設備としての遺構は確認できていない。

SI29　SI27 とほぼ８割を重複する遺構。方形竪穴であろうが、壁際に柱穴及びステップを有するなど不正形な線を示す。平面規模は SI27 とほぼ同じ規模と想定される。作り付けカマド及び柱穴は確認できていない。

SI30　SI27、SI29 及び SI31 と重複し検出した遺構。遺構北辺は SI27、SI29 により切られ消滅している。残る遺構からは柱穴を１基検出しているのみでその他、本遺構に伴うものは確認できていない。

SI31　SI30 の南西部隅を切る状態で検出した遺構。北東隅を鉄道基礎杭により削平されている。平面形はやや不正形ながら方形の竪穴状遺構を残す。遺構内からは柱穴を１基検出しているが、その他は未検出である。遺構西側辺は調査区外に延び未調査である。

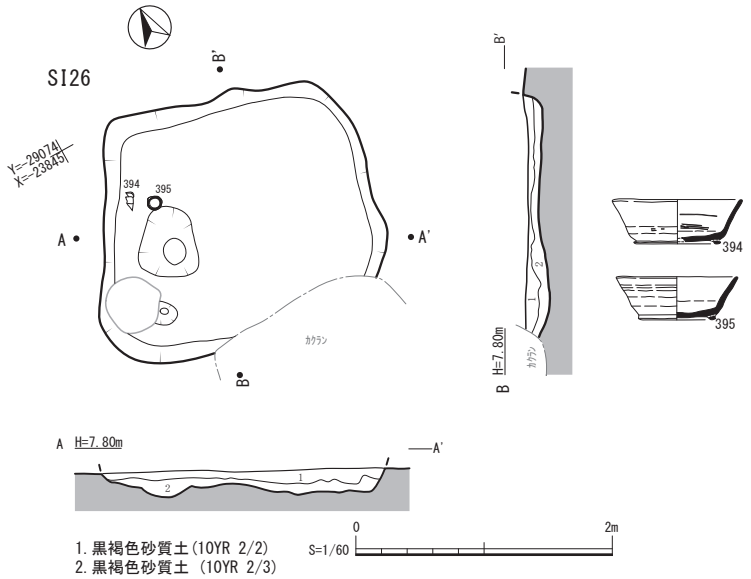


Fig. 89　竪穴建物 SI26 実測図

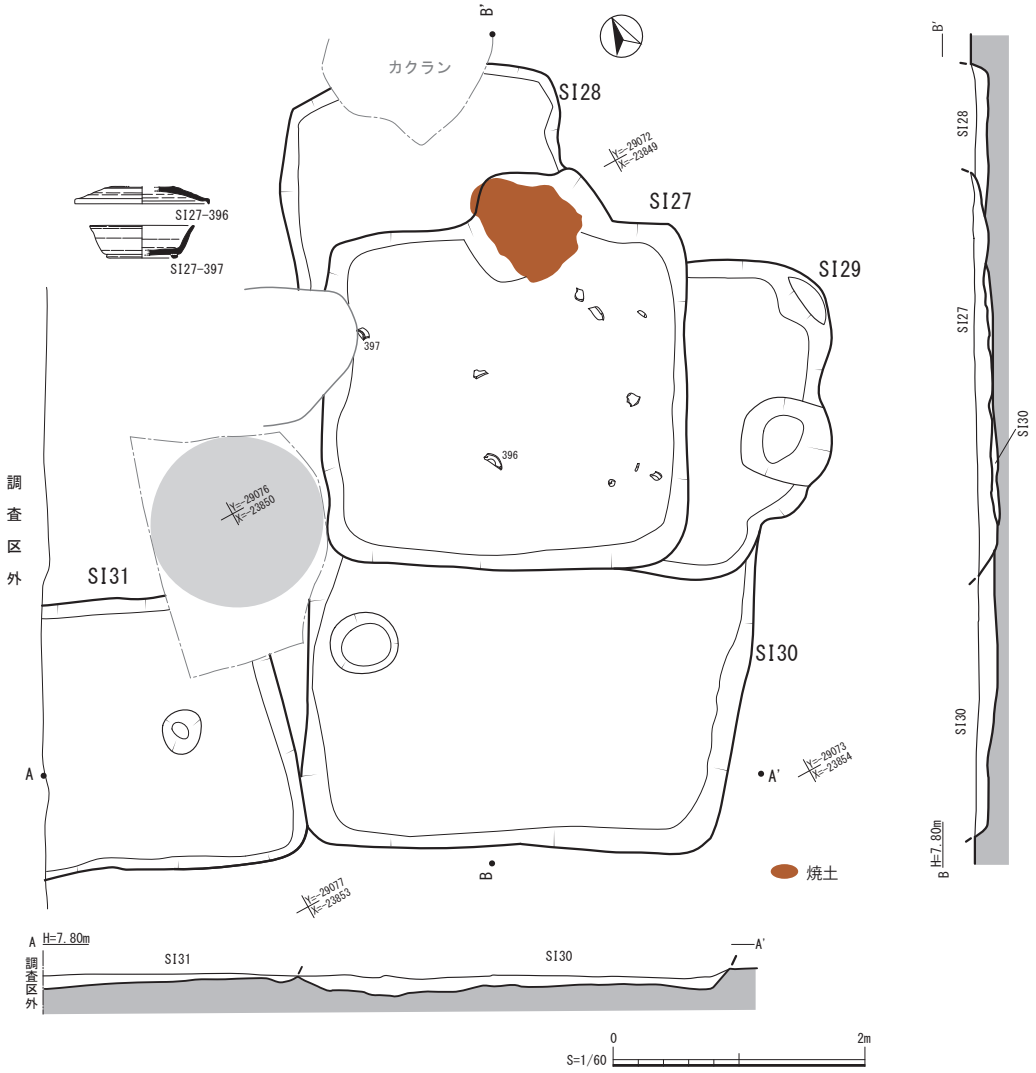


Fig. 90　竪穴建物 SI27 ～ SI31 遺構配置図

土坑 SK12（Fig.91）調査区北側に位置し、先行して報告している古代の溝状遺構群の上から掘り込んでいる遺構。平面は隅丸方形を呈するが、南西部隅において不定形ながら楕円形状に更に一段下がる。
上段の方形遺構は上部が削平されているが垂直に短く立ち上がる。埋土は上下２層からなり、遺物は遺構床直上に安定した状態で移動式竈片、他が出土している。遺物は小片が多く、置かれたものではなく投げ込まれたもので、廃棄土坑の可能性が高い。

土坑 SK13（Fig.92）古代の溝が多数切り合う地区で検出した遺構。楕円形を呈する不定形な掘方を有し、下端で柱穴状の掘り方を残す。柱穴状の掘り方は確認状態では浅いが、埋土上から本来、掘り込まれていたもので別遺構としてとらえるのならば柱穴としては周囲に残る遺構群と同じ規模の掘り方を有している。遺構断面が残されていないため詳細は不明。埋土中からは９世紀代の土師器杯及び高台付杯が出土している。調査時の所見では墓の可能性があると記述があるが、これまでの本遺跡群発掘調査の事例から墓であれば直線状の掘り方を有しているものが主であり、不定形の掘り方を有するものは見られないことから本報告では土坑とする。

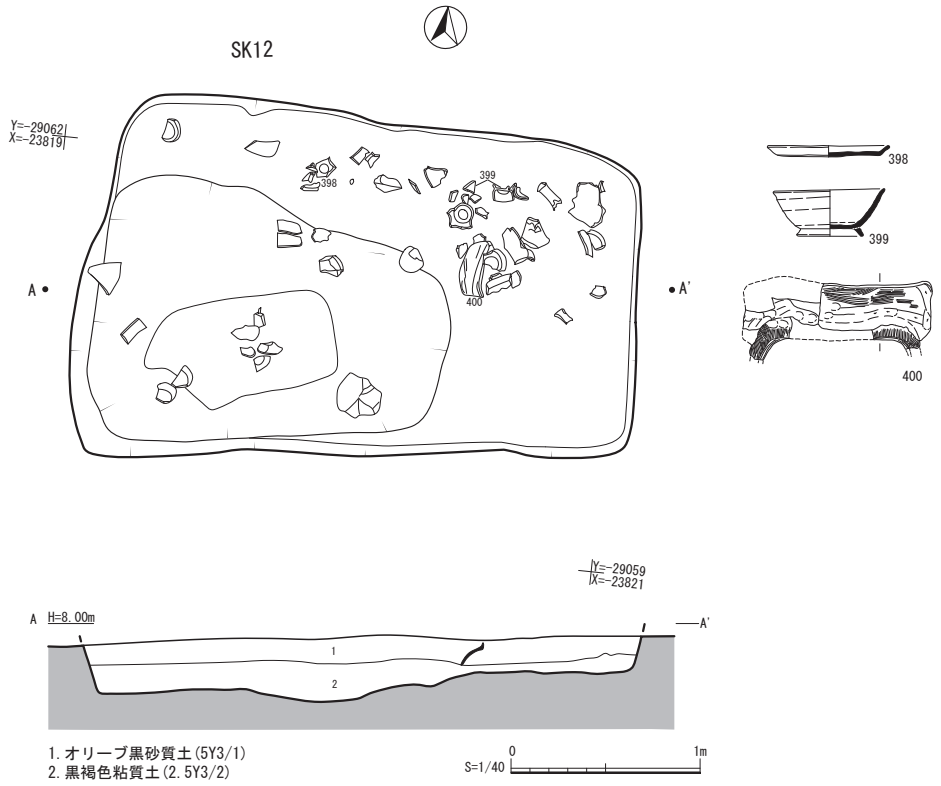


Fig.91　土坑 SK12 実測図

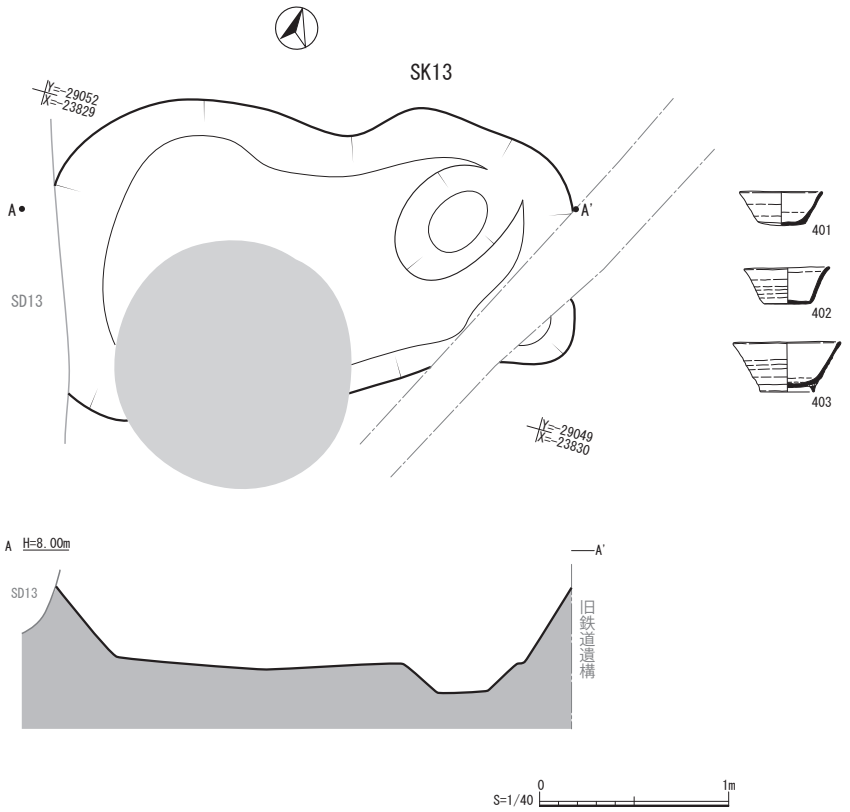


Fig.92　土坑 SK13 実測図

土坑 SK14（Fig.93）調査区南部に位置し竪穴建物 SI28 の上層より掘り込む遺構。平面形は長楕円形を呈し上端の北側が大きく削平を受ける。遺構下端は西側がわずかに一段落ちる。土層は単層で遺物は下端に近いところから主に出土している。墓の可能性も検討したが、不定形の楕円形であること、出土遺物が日常什器であることから廃棄土坑の一つであると判断した。

土坑 SK15（Fig.94）竪穴建物群を検出している調査区中央から南にかけて検出した遺構。遺構北側の上端が大きく削平され遺構深度がある南側のみ残る。遺構は断面を設定した位置でいえば、東から西に段を有しながら下がり、西側の下端では水平な掘り方を見せる。

遺構の性格はこれまで報告してきた土坑と同じく出土遺物が日常什器中心であること、下端が一定しないことなどから墓ではなく、廃棄土坑と判断した。

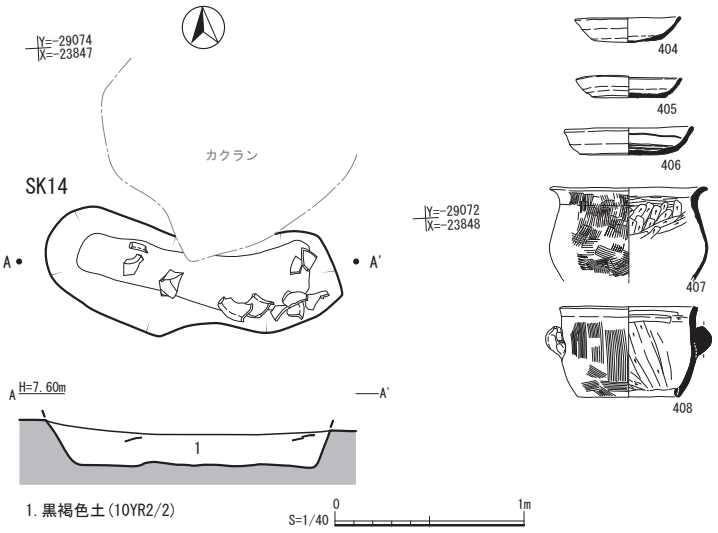


Fig. 93　土坑 SK14 実測図

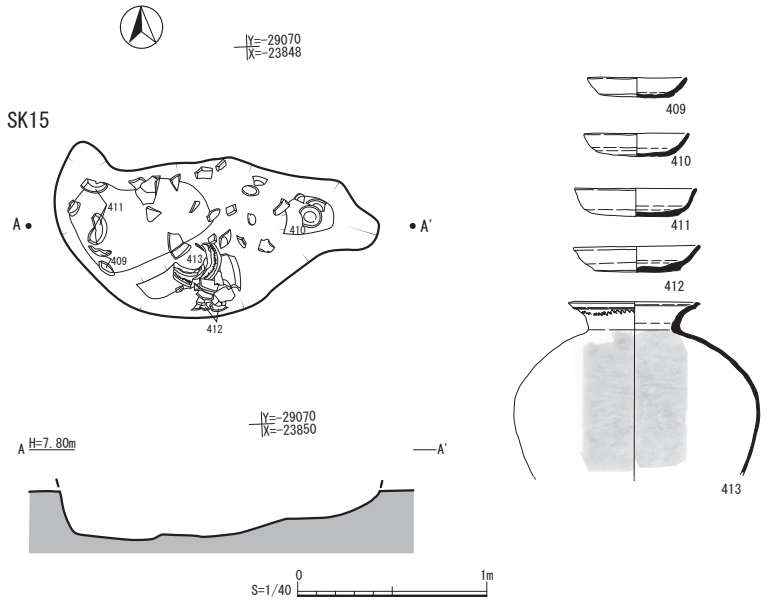


Fig. 94　土坑 SK15 実測図

墓 ST05（Fig.95）調査区の北端、溝状遺構が多数掘り込まれている地区で検出した遺構。当初は溝として認識されていたが、調査の過程で墓と確認されている。遺構は長方形を呈し、南北に一段高くなるステップを有する。北側の段上からは土師器皿が１点出土し、中央部の一段下がった部分からは供献土器とみられる土師器皿と人骨の一部が出土している。遺構下端で木棺を用いた痕跡が検出されていないことから土坑墓の可能性が高い。

墓 ST06・ST07（Fig.96）ST05 と同じ地区で検出した遺構。２基の墓が切り合い、それぞれから人骨が出土している。

ST06　南北に主軸を置く長方形の遺構。土層は単層で木棺痕跡等が見られないことから調査時には土坑墓と判断している。出土している骨は少量であるが調査分析の結果、人骨との報告がなされている。出土した土器は小片であることから供献された土器であるとは考えにくい。

ST07　ST06 の北部に位置し主軸をほぼ 90°東西に振り、遺構の南西隅で切り合う遺構。平面形は西側で長方形状に隅を持つが、東側ではやや小口がすぼまり不定形の方形を呈する。遺構深度は ST06 同様に浅く土層断面は単層を示し、木棺痕跡等は確認していない。埋土からは人のものとみられる頭部の一部が出土している。埋土中からは明確な供献土器は出土しておらず、土師器皿小片が出土しており、それも乱れた状態であるため供献土器とは考えにくい。

いずれにせよ、上記２遺構についてはここでは調査時の報告を尊重し墓として報告しているが、人骨及び遺物の出土状態から遺構の性格は、廃棄時に人骨の一部が混入した廃棄土坑の可能性が高い。

墓 ST08（Fig. 97）墓 ST05 と同じ地区で検出された遺構。本遺構は東西に主軸を置き、西側で供献土器とみられる土師器皿（片）が出土している。遺構は東西に直線状に掘られ両端は丸く収める。ST05 同様、両端部で一段のステップを持つ。土層は上下２層からなり木棺痕跡などは確認していない。人骨は出土していないが、ST05 と類似した遺構構成のため調査時点で墓と判断している。

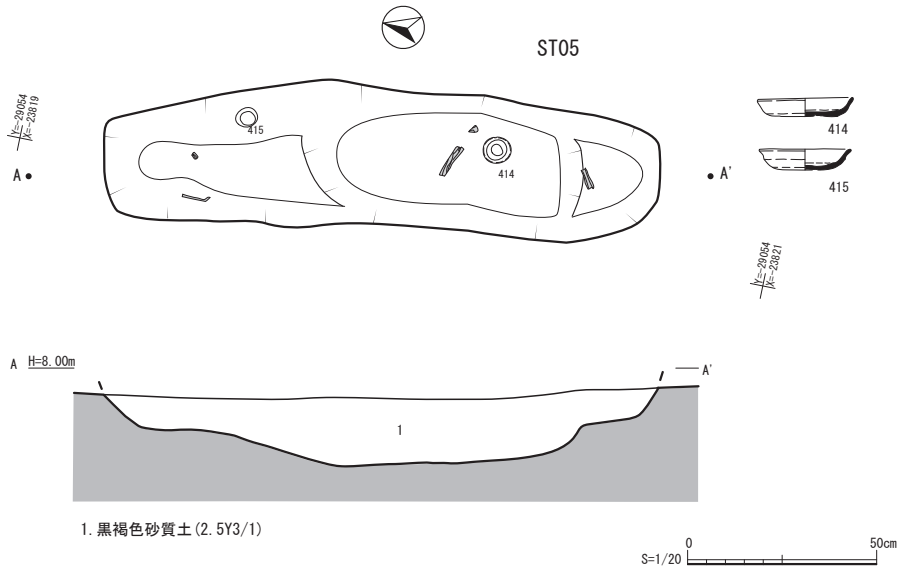


Fig. 95　墓 ST05 実測図

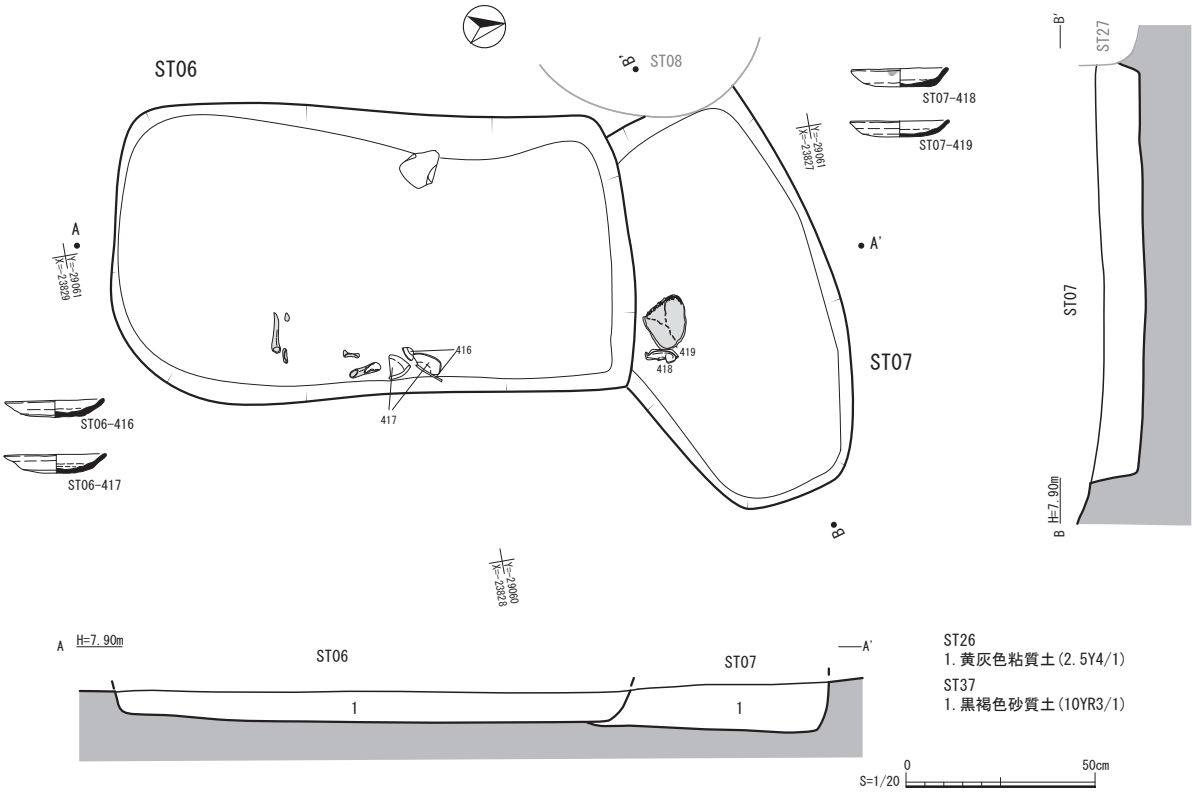


Fig.96　墓 ST06・ST07 実測図

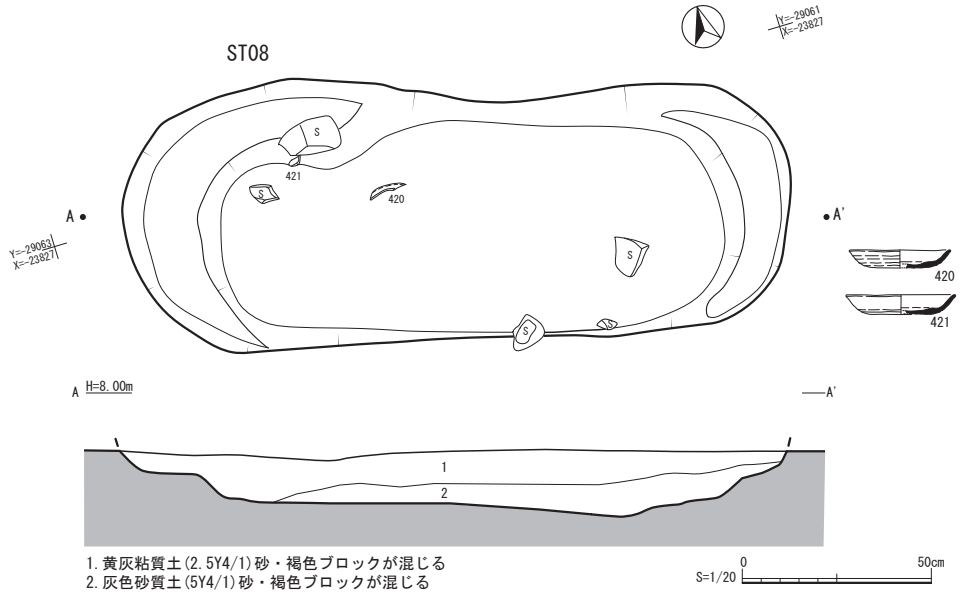


Fig.97　墓 ST08 実測図

墓 ST09（Fig. 98）墓の一群と同じ地区で検出している遺構。本遺構では人の埋葬を確認できる骨の出土、明確な供献土器の出土などを確認している。遺構は主軸をほぼ南北におき、北に頭部をおく。土層が作成されていないことから木棺の有無は確認できないが、骨が土坑際まで広がっていることから木棺墓の可能性は低いと考えられる。遺物は人骨頭部の脇から、青磁椀及び白磁合子が出土し供献された遺物であるとみられる。

墓 ST10（Fig.99）調査区のほぼ中央部、掘立柱建物 SB19 と重複し検出した遺構。平面形は隅丸方形を呈し南小口側では隅丸方形を明瞭に残し、北側ではやや狭い小口を残す。土層断面は作成されておらず木棺等の有無の詳細は不明だが、遺構下端付近で検出した人骨の出土状態から土坑墓であることが確認できる。人骨頭部は北に配置され、南側に大腿骨をはじめとする骨が屈曲した状態で良好に残る。頭部側が床面からやや浮き、傾斜を持つため遺構掘削後、床面は一部整地された可能性もある。頭部横には供献されたとみられる土師器皿が置かれた状態で出土している。

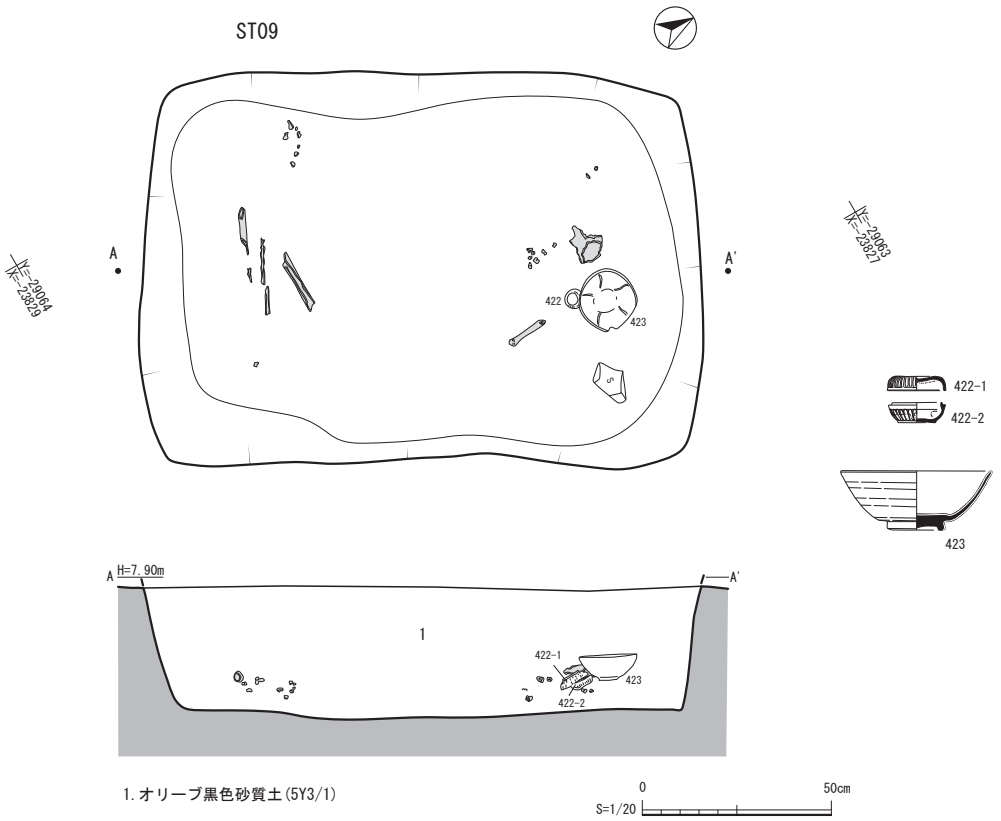


Fig. 98　墓 ST09 実測図

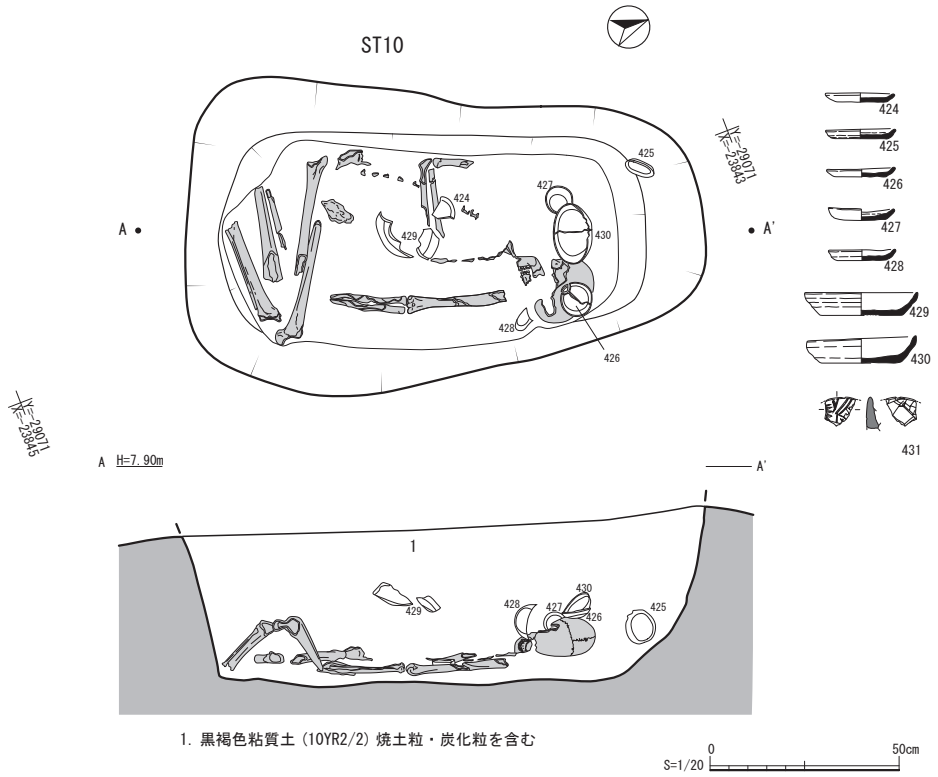


Fig.99　墓 ST10 実測図

二本木遺跡群（田崎地区）

５次１区

熊本市田崎の田崎陸橋北に位置し、春日地区に最も近い調査区。遺構内に５本の高架に伴う基礎杭が先行して設置されている。調査区内からは竪穴建物が２基、溝状遺構１基及び柱穴を検出している。柱穴は掘立柱建物を構成するものとは認められない。

竪穴建物 SI01・SI02（Fig.102）SI01・SI02 が重複し検出された遺構。SI01 は遺構形状等から土坑である可能性が高いが、調査時の判断を優先し竪穴建物として報告する。

竪穴建物 SI01　東西に主軸を有し、SI02 に直行し検出している遺構。長辺で２ｍを測り、短辺側で１ｍを測る。遺構深度は浅く土層は、単層を呈する。遺構からは土師器杯、高台付杯及び高台付鉢及び須恵器の摘み付蓋が出土している。

竪穴建物 SI02　主軸を南北に有し、北辺中央に作り付けカマドを有する。カマドの煙道部は短く北に延び端部は丸く収まる。断面を見る限り燃焼部が自然崩壊による面的な落ちが見られないため竪穴を廃絶する際のカマド潰し行為が行われたことが窺える。遺構主柱穴の全ては、確認されていない。出土遺物は土師器杯が１点出土しているが出土地点は不明である。

溝 SD01（Fig.101）１区西側に位置し調査区を北東 - 南西に向かい延びる遺構。途中、先行して設置された高架基礎杭により一部を切られている。検出した遺構は、ほぼ直線で断面は縦長の逆台形を呈する。埋土は単層で埋土中からは内器面磨きを有する黒色土器 A 類が出土している。

５次２区

１区同様に田崎陸橋北側に位置する。調査区内には１区同様５本の杭が先行して施工される。主な遺構は竪穴建物、井戸、土坑、土坑墓がある。本調査区でも柱穴を多数検出しているが、調査面積が狭小であるため掘立柱建物として認識されたものはない。

井戸 SE01（Fig.104）円形掘り方を有し、約１ｍの土坑状の掘り方を呈する。土坑状の中央に垂直な竪穴を穿つ。土坑状の掘り方には途中、狭い段を有するが掘削時の足場として利用された段であることも想定される。竪穴部は深く２ｍを超え、これ以上は危険であると判断し調査を中断した。土層断面から、井戸竪穴が土坑状掘り方の断面上面まで貫いていることから、井戸枠の存在を窺う痕跡であると考えられる。埋土から須恵器・土師器の什器類と合わせて、古代の丸瓦及び平瓦が出土している。

竪穴建物 SI03（Fig.105）ほぼ南北に主軸を有する遺構。遺構の約 1/2 が調査区外に延び、全体を把握するまでには至っていない。北辺の西に寄った部分に作り付けカマドを有し、外に煙道部を張り出す。燃焼部等は明確に残らないことから竪穴建物を廃絶する際のカマド潰しの行為があったものと考えられる。主柱穴等、相当する柱穴を検出しているがやや浅い感がある。遺構内からは移動式カマド及び土師器杯が出土している。

土坑 SK01（Fig.106）直径 60cm の不定形な形状をしている遺構。埋土は上下２層に分層でき、１層中より土師器杯及び須恵器高台付杯が良好な一括資料として出土している。遺構の性格は埋納遺構か廃棄遺構かは判断ができないが、まとまった時代の資料としての価値は高い。

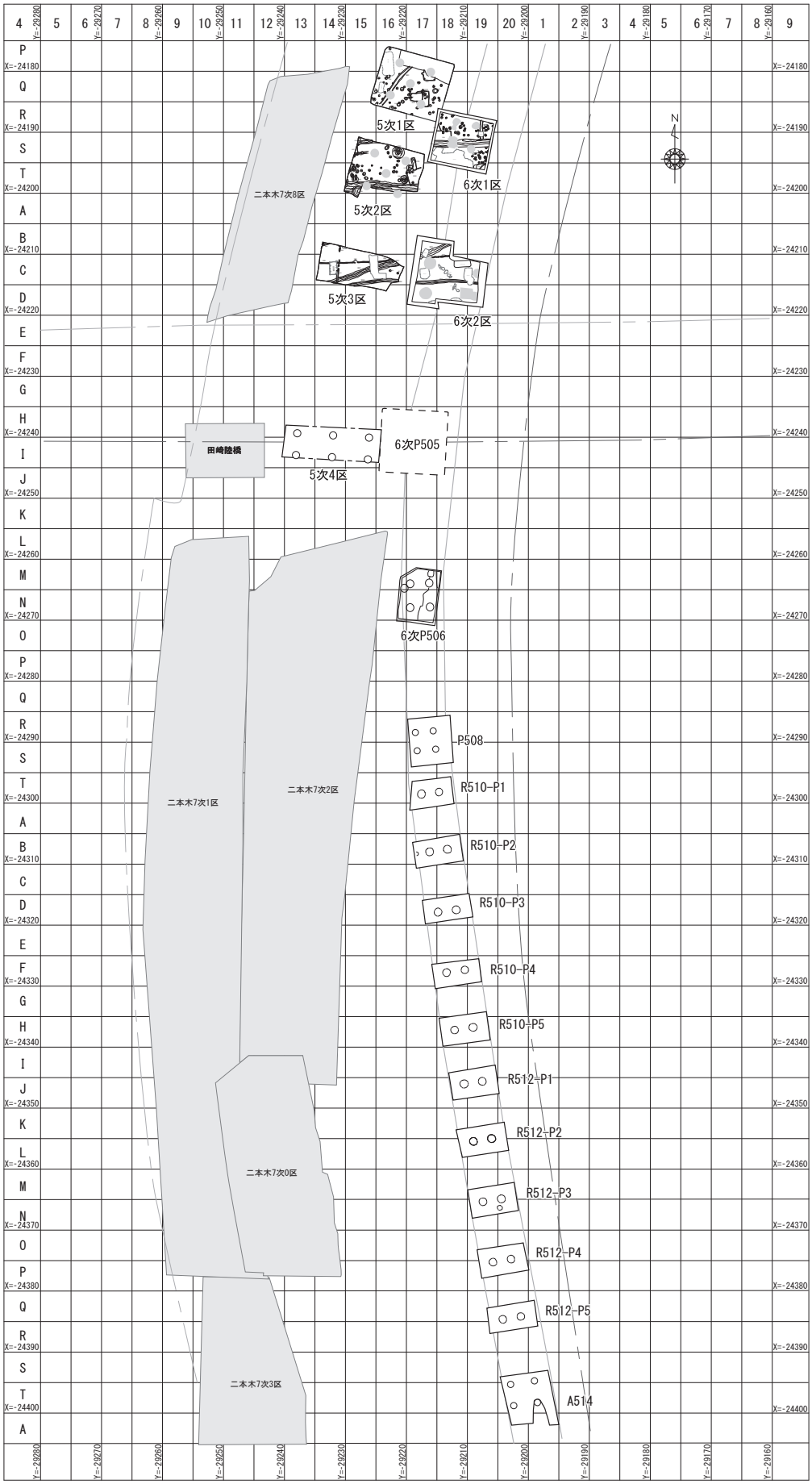


Fig.100　二本木遺跡群 田崎地区遺構配置図（S=1/1000）

Fig.101　　5次1区遺構配置図

墓ST01（Fig.107）ほぼ南北に主軸を有し、長辺2.1 mを測る。北側に1段ステップを有し、そのステップの傾斜に頭部を置く。埋葬の形態は伸展葬で、頭部顔面は削平され残りが悪いが体部は太い骨を中心に全身残る。人骨の詳細は附編の原稿に譲る。北側ステップ上には土師器杯が置かれ、胸部横には内外面に磨きを有する椀が置かれている。出土状態から胸部上に置かれていた可能性がある。遺構掘り方は長方形を呈し、下端は狭く平坦面をなす。

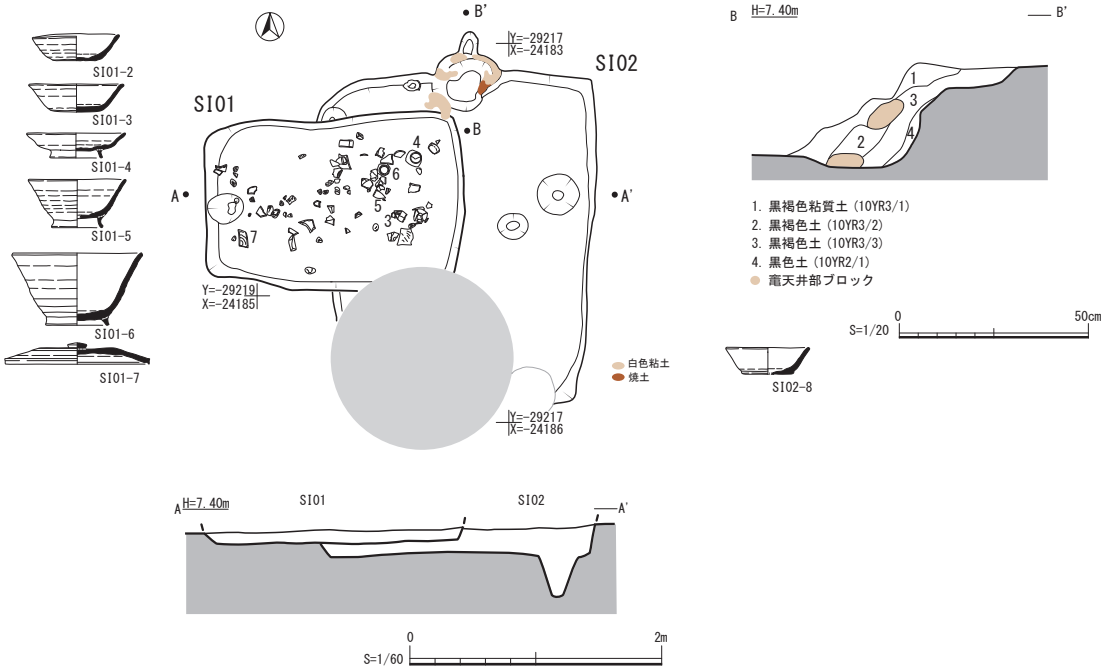


Fig. 102　　竪穴建物 SI01・SI02 実測図

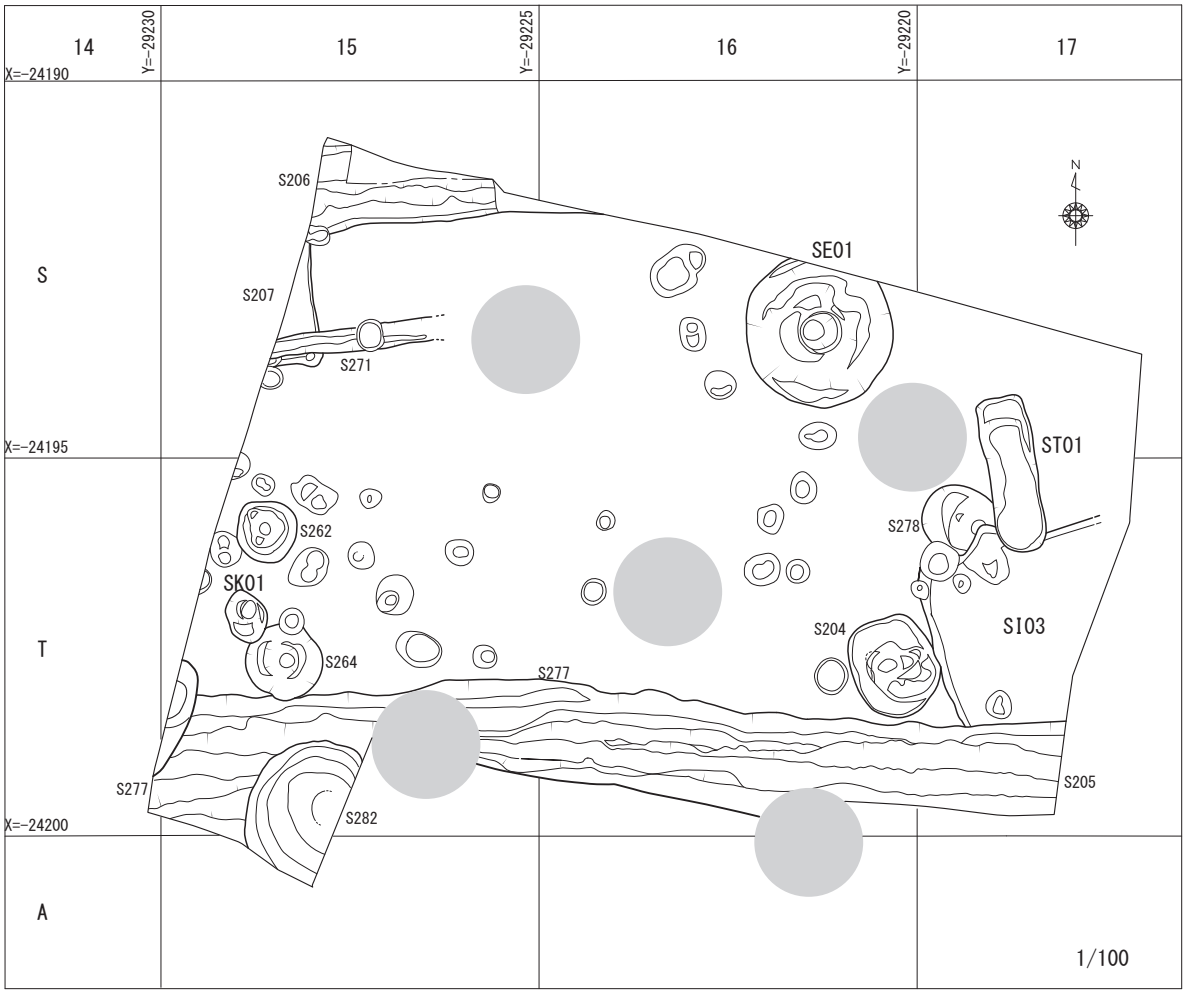


Fig. 103　　5 次 2 区遺構配置図

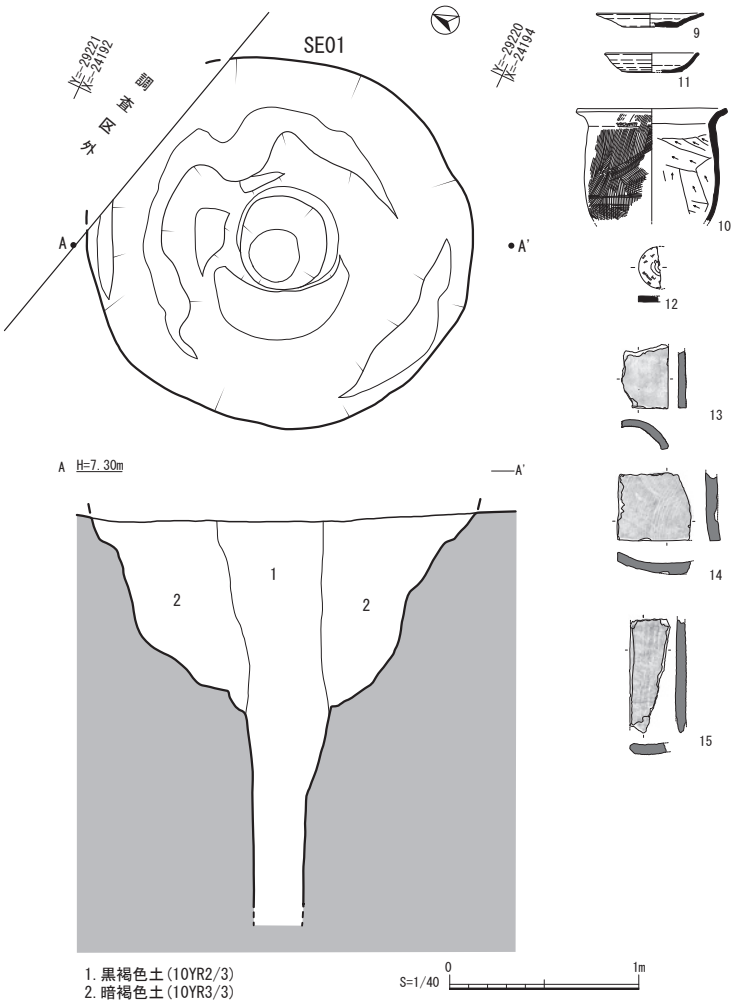


Fig. 104　　井戸 SE01 実測図

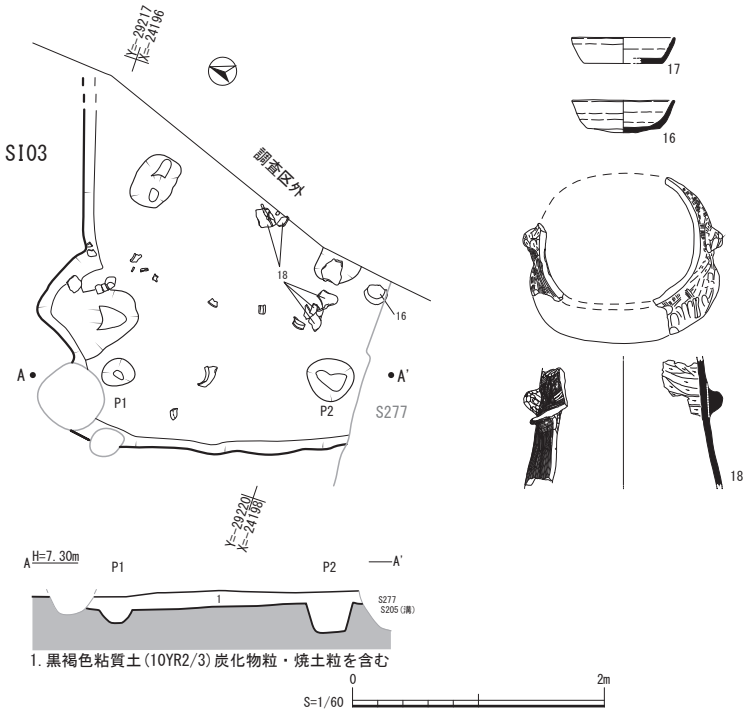


Fig. 105　　竪穴建物 SI03 実測図

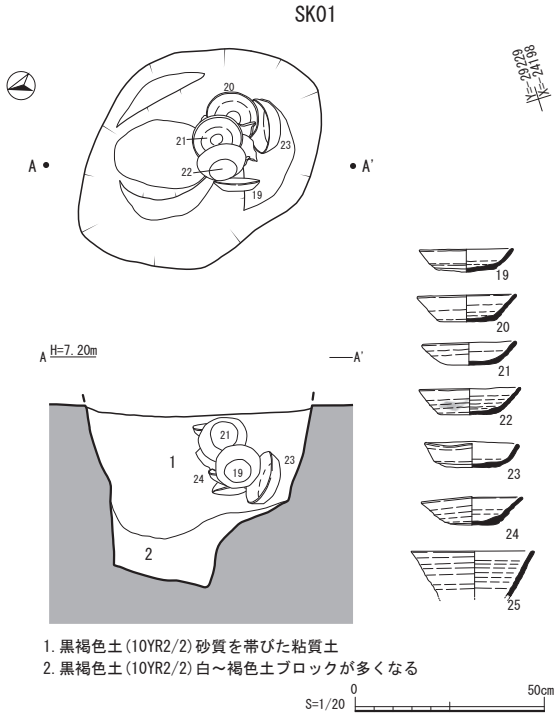


Fig. 106　　土坑 SK01 実測図

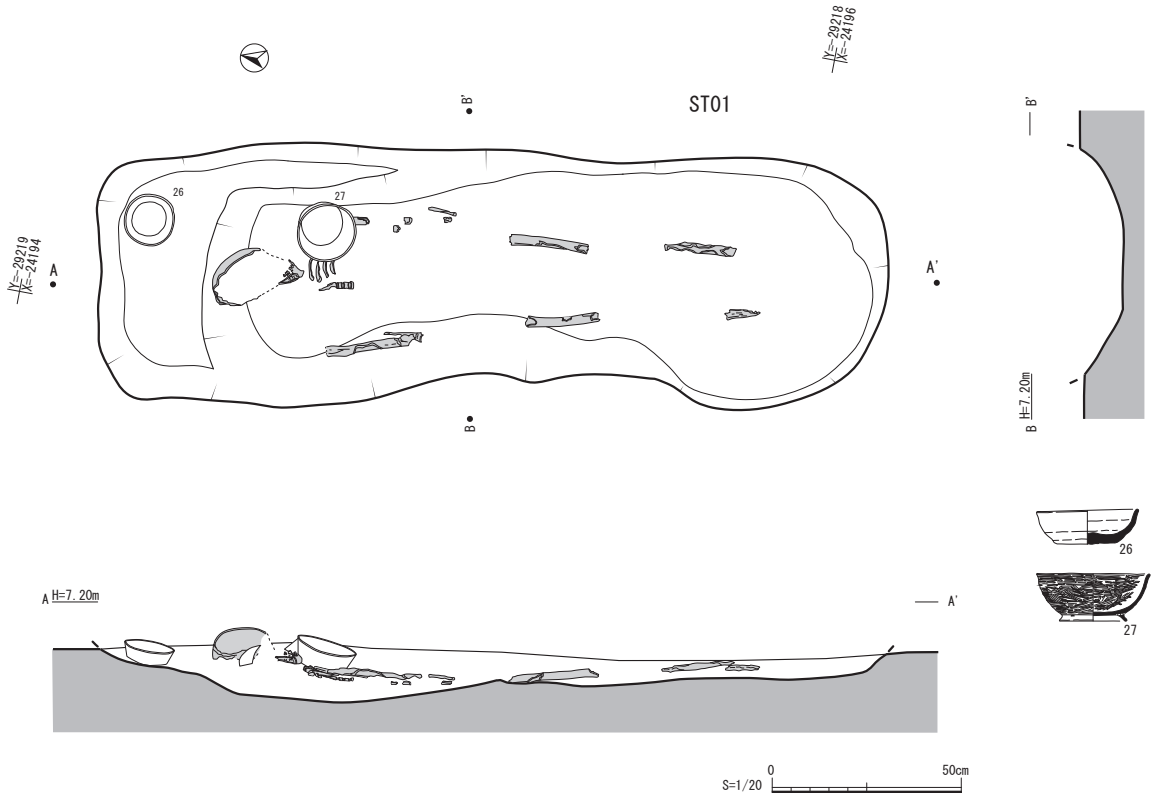
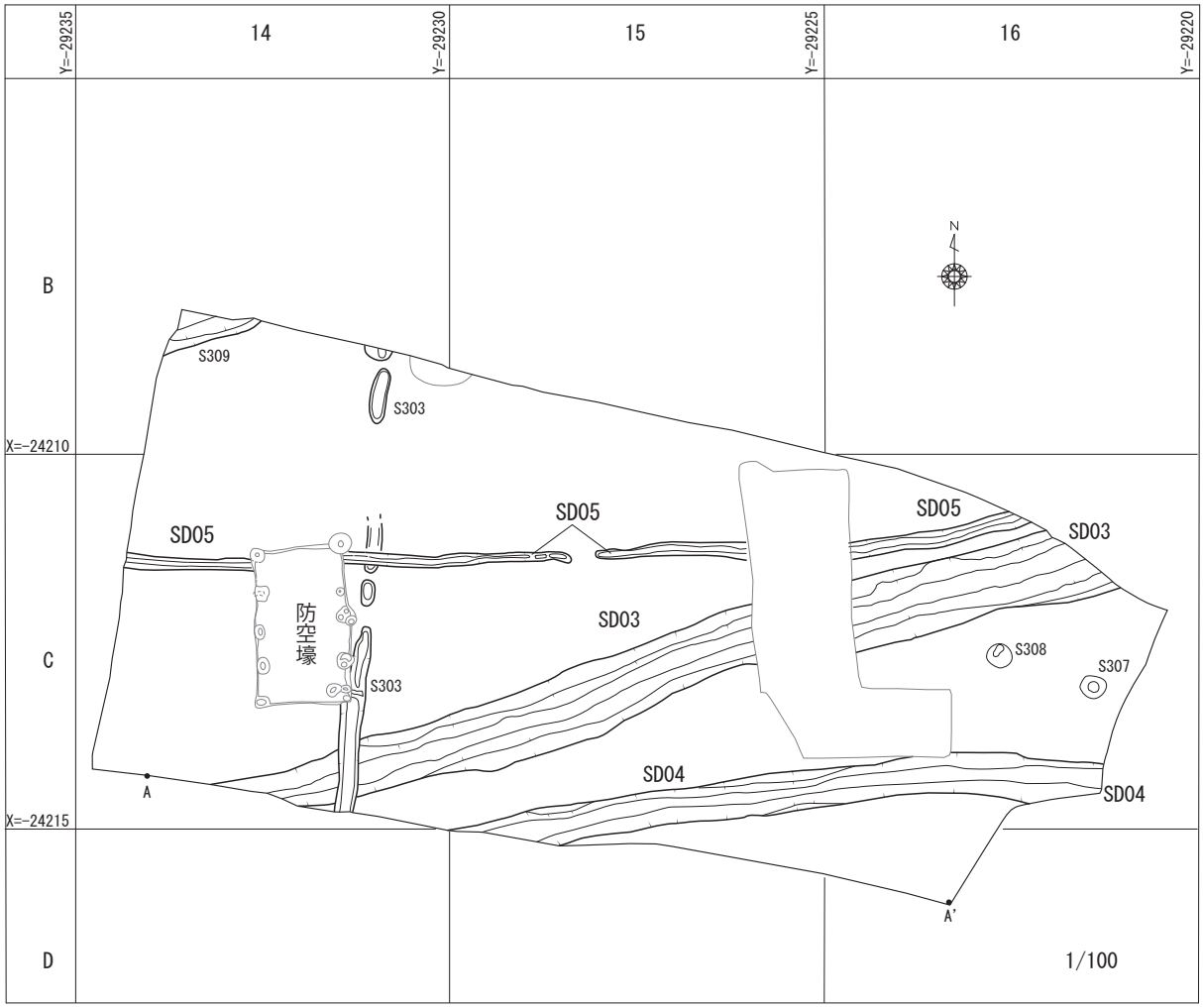
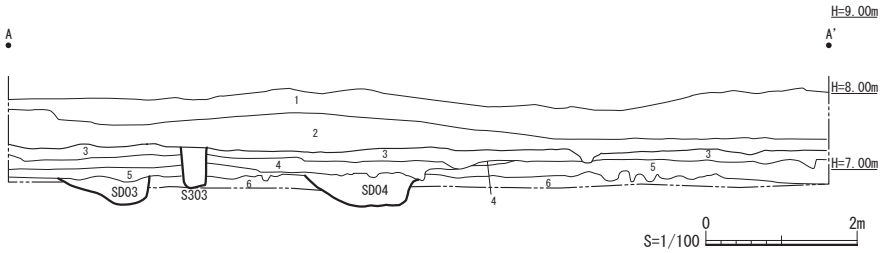


Fig. 107　　墓 ST01 実測図

５次３区

本調査区は田崎陸橋北に位置し６次２区の調査区に隣接する。調査区内からは太平洋戦争中の防空壕が検出されており、近世以降に都市化されていたことを窺わせる。その他、古代の溝状遺構のみ検出している。





S303
黒色粘質(10YR2/1)

SD03
黒褐色粘質土(10YR2/2)

SD04
黒褐色土(10YR2/3)シルトと砂質土の混合土

1. 暗オリーブ褐色砂質土(2.5Y3/3)
2. 暗オリーブ褐色砂質土(2.5Y3/3)しまり強い
3. 黒褐色粘質土(10YR2/3)砂質を帯びた粘質土
4. 黒褐色粘質土(10YR2/3)炭化粒・焼土粒が混じる
5. 黒褐色土(10YR2/3)やや粘質　炭化粒・焼土粒が混じる
6. 黒褐色土(10YR2/2)やや粘質

Fig.108　　５次３区遺構配置図

溝 SD03（Fig.108）調査区のほぼ中央を東西に横切り検出した遺構。東側では SD05 と重複する。調査区南壁の土層で５層（黒褐色土）下から掘り込まれている事を確認できる。SD04 付近では５層が無いが、おそらくは同一層から掘り込まれた遺構であると想定する。隣接する６次２区で検出している溝へと延びる。遺構の性格等は不明。

溝 SD04（Fig.108）調査区南端に切り合いを有せず検出し、調査した遺構。調査区南側の断面（A-A'）に係る。調査区土層４層（黒褐色粘質土）下層から掘り込まれる。隣接する６次２区で検出している溝へと延びる。遺構の性格等は不明。

６次１区

隣接する５次１区と５次２区の中間に位置する。遺構中央に溝 SD02 が調査区を東西に横断し、西壁付近で検出している竪穴建物と重複している。その他、土坑 S001 などがあるが調査の結果から情報量が少ないため平面図にのみ記載することにした。併せて柱穴も多数検出しているが掘立柱建物を構成するものではないため記載していない。

竪穴建物 SI04・SI05・溝 SD02（Fig.110）３基の遺構が重複している。いずれも本調査区内で完結するものではないが、遺物が出土していたり、他の調査区との連続性があったりするため一部を掲載している。

溝 SD02　調査区を横断し検出長９ｍを測る。隣接する５次２区調査区で検出している S205 とは直結はしないが位置関係からすると平行関係にある溝であろう。

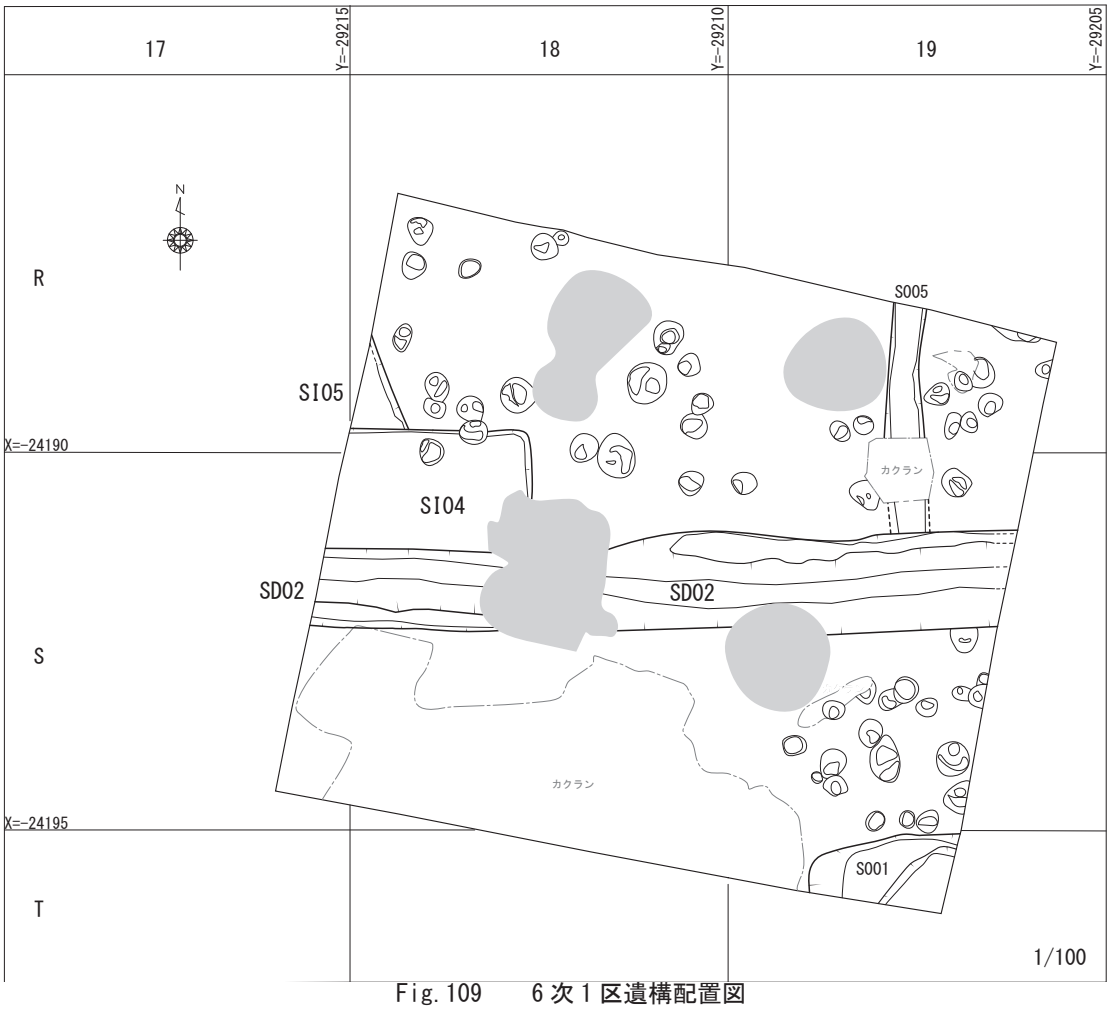


Fig. 109　　６次１区遺構配置図

竪穴建物 SI04　方形の竪穴で上層から溝 SD02 と重複する遺構。竪穴は直角に近い隅を有し、床面には柱穴も有するが主柱穴を構成する位置にはない。硬化面や作り付けカマド等はなく竪穴のみの検出である。埋土中からは土師器杯及び須恵器の輪状摘み付きの蓋が出土している。

竪穴建物 SI05　遺構の大半を SI04 と重複し更に、調査区外に出るため遺構の残存度は低い。春日地区の竪穴建物の切り合いが当該地まで広がっていることが見て取れる。建て替えに伴い強い土地規制があったものと想定される。

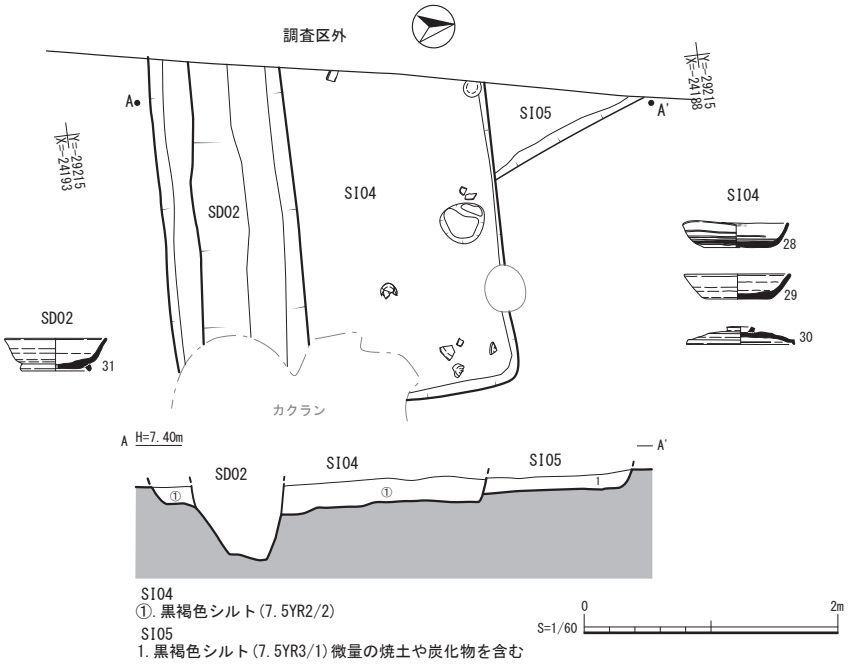


Fig. 110　　溝 SD02・竪穴建物 SI04・SI05 実測図

６次２区

田崎陸橋北側に位置する調査区。調査区内には高架橋基礎杭が４本先行して施工されている。
先にも記したが、本調査区で検出している溝 SD03 と溝 SD04 は、それぞれが５次３区の溝 SD03 と溝 SD04 の延長上に位置する同一遺構と判断している。

溝 SD05（Fig.111）調査区北側には小規模ではあるが溝 SD05 を検出している。本遺構は隣接する５次３区からも検出されおり、SD04 と並行し本遺跡群の中を区画している遺構とみられる。当該調査区では直線状のみで検出しているが、５次３区では途中切れ目が認められる。

５次４区 P300・６次 P505（Fig.112）

田崎陸橋下に位置し、県道付け替えに伴い表土剥ぎを行い遺構の有無を確認している。正確には遺構があった部分のみ発掘調査を行い、その他は工事立ち合いで対応している。調査区からは遺構・遺物は検出されておらず遺構上端を測量したのち、慎重工事の取り扱いとなった。

P506（Fig.112）**・P508・R510- P1・R510- P2・R510- P3・R510- P4・R510 -P5・R512- P1・R512-P2・R512-P3・R512- P4・R512- P5・A514**（Fig.113）橋脚が設置される範囲のみ表土を剥ぎ遺構検出している。遺構密度は田崎陸橋北側と比べ低く、南北、東西に延びる時期不明の溝を検出している。調査区は矢板で仕切られており、それぞれの範囲で調査を実施したが、面積が狭小なことから明確な遺構の把握にまでは至っていない。
本稿では調査区ごとの橋脚配置図中に遺構上端を示すと共に、土層を記載し近隣調査時の参考としている。

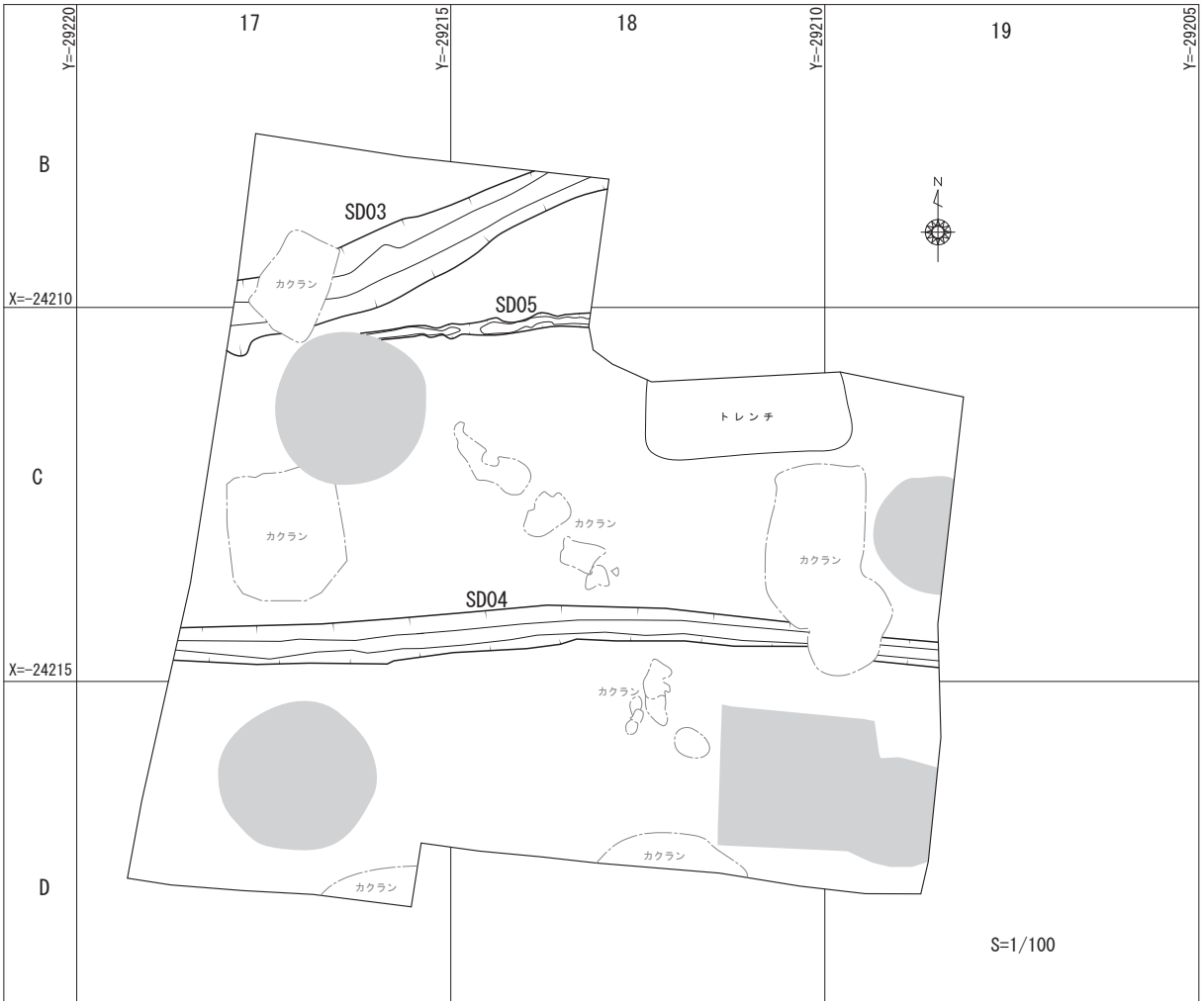
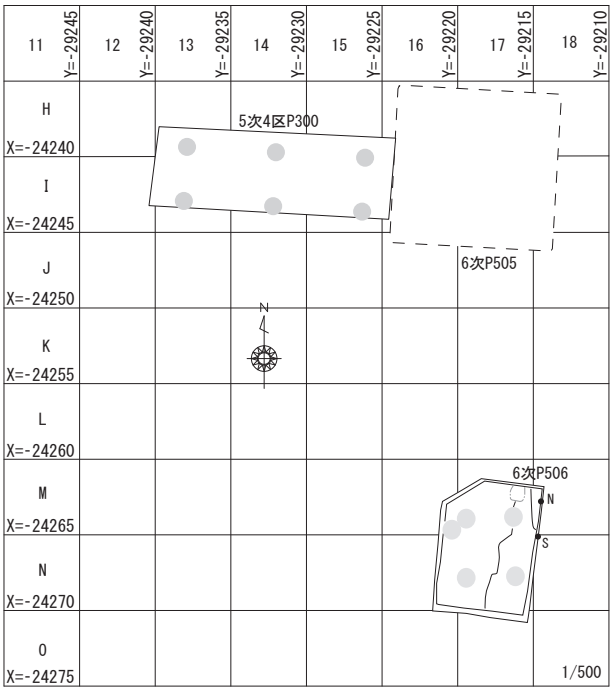
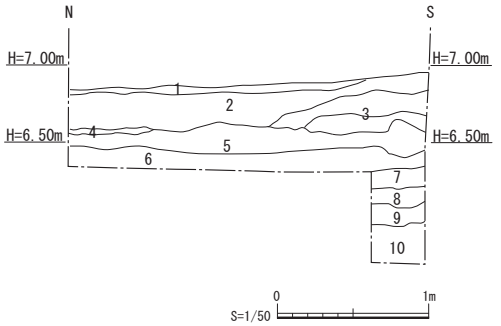


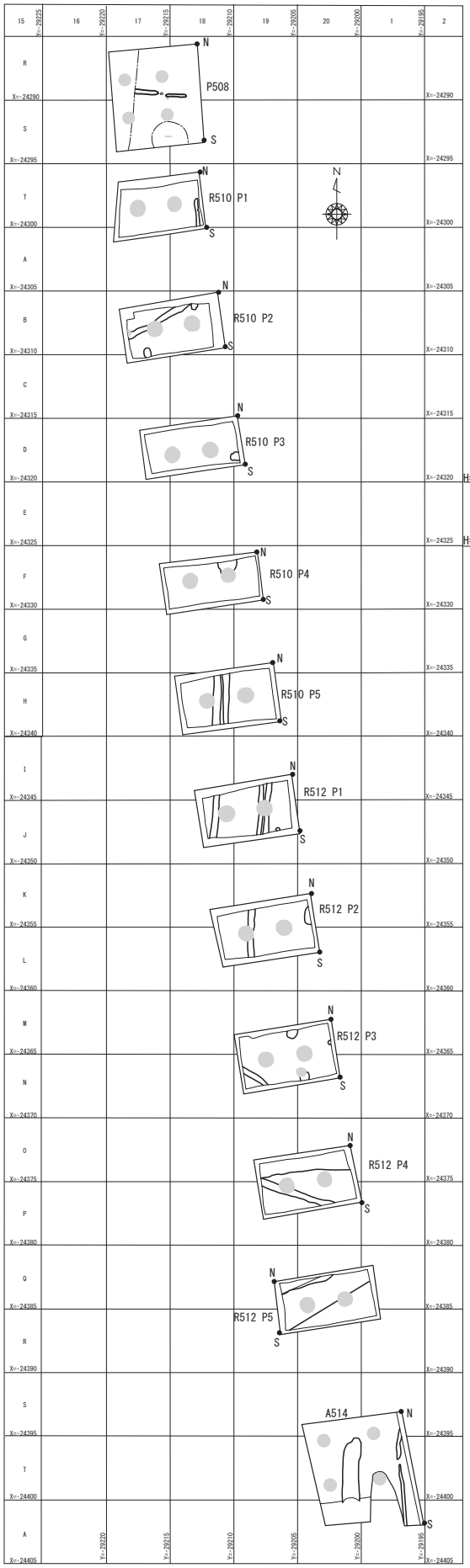
Fig.111　　6次2区遺構配置図

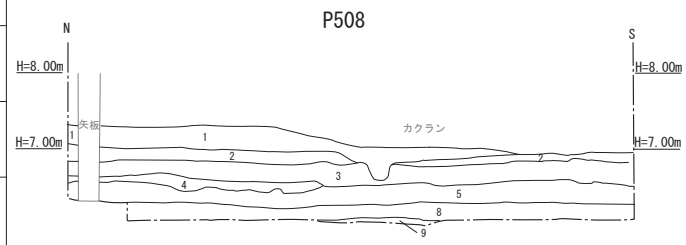


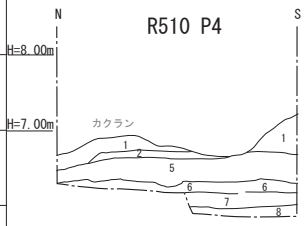


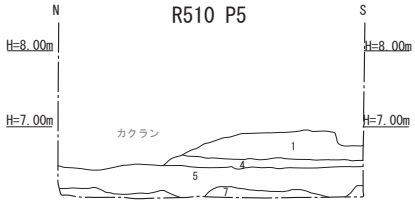
1. 暗褐色粘質土(10YR3/3)灰色のシルト質
2. 黒褐色砂質土(10YR2/2)砂主体　所々に粘土・酸化鉄が入る
3. 黒褐色砂質土(10YR3/1)青砂多く粘性弱い
4. 黒褐色粘質土(10YR3/1)青色の砂主体
5. 黒褐色土(10YR3/2)やや粘性　酸化鉄の縦筋多い
6. 暗褐色土(10YR3/3)粘性
7. 黒褐色土(10YR2/2)赤褐色の酸化鉄が入る
8. 暗褐色粘質土(10YR3/3)粘土
9. 灰黄褐色土(10YR4/2)粘性
10. 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)硬化層

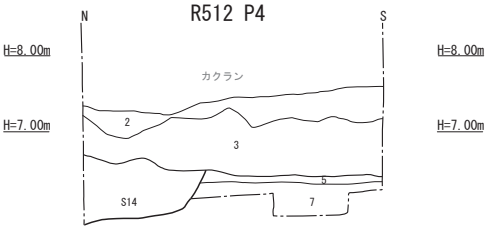
Fig.112　　5次4区P300・6次P505・6次P506遺構配置図

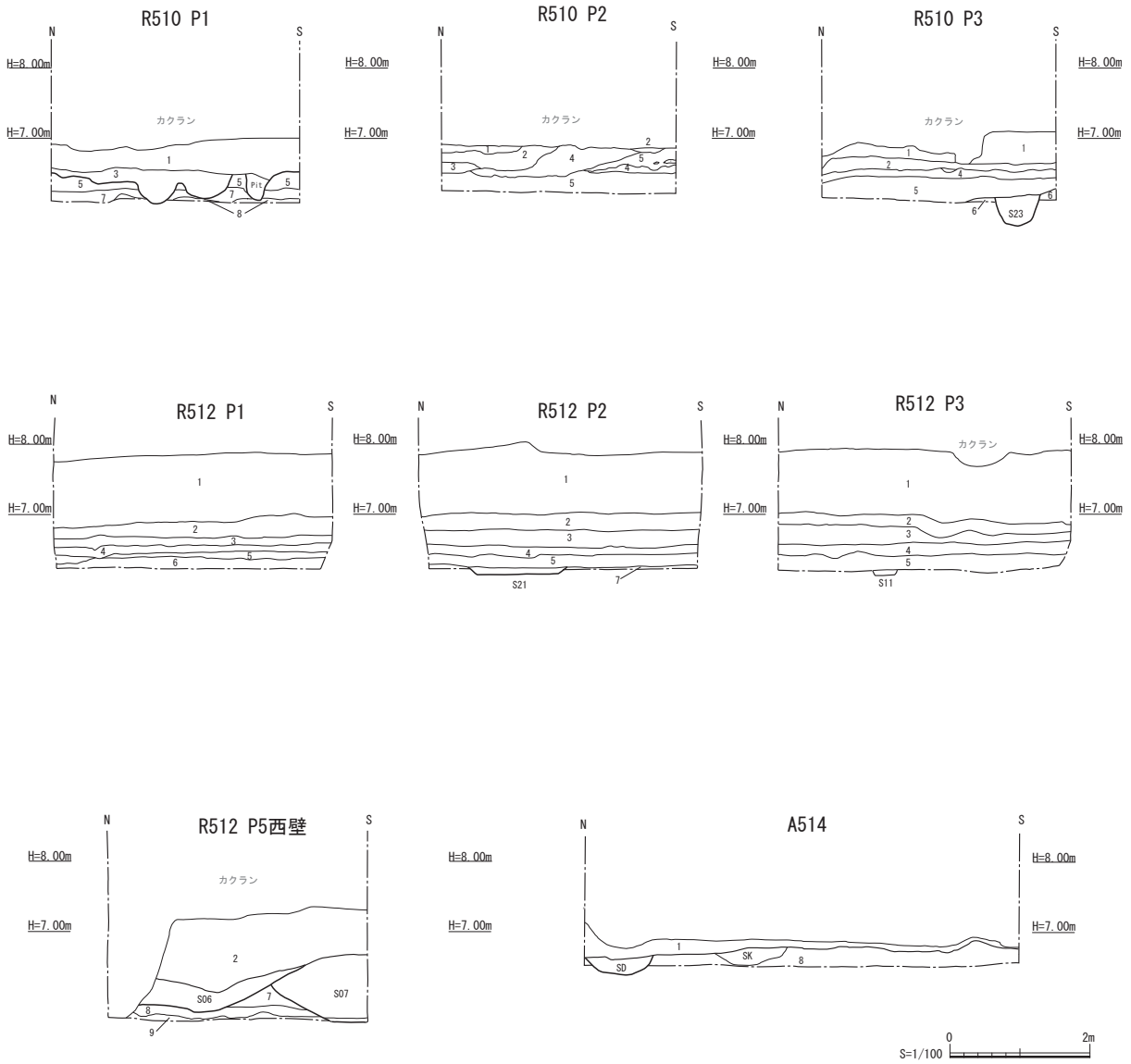

P508
R510 P1
R510 P2
R510 P3
R510 P4
R510 P5
R512 P1
R512 P2
R512 P3
R512 P4
R512 P5
A514
S=1/500


P508
H=8.00m
H=7.00m
カクラン
矢板


R510 P4
H=8.00m
H=7.00m
カクラン


R510 P5
H=8.00m
H=7.00m
カクラン


R512 P4
H=8.00m
H=7.00m
カクラン
S14



1. 暗褐色砂質土（10YR3/4）粘性弱い　黄褐色土粒ブロック少量混じる
2. 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒ブロックが多くみられ赤褐色錆も多少混じる
3. 黒褐色粘質土（10YR3/2）粘性やや強い　黄褐色が混じり砂粒・赤褐色錆が多量入る
4. 極暗褐色粘性（7.5YR2/3）粘性強い　赤褐色土粒多く混じる
5. 暗褐色粘質土（7.5YR3/3）粘性強い　赤褐色の縦筋が入る　遺構検出面
6. 褐色粘質土（10YR4/4）粘性やや強い
7. 褐色粘質土（7.5YR4/6）粘性やや強い　赤褐色粒多く混じる
8. 褐色砂質土（10YR4/4）粘性弱い　赤錆・マンガンの沈着が多い
9. 暗褐色砂質土（10YR3/4）粘性弱い　硬化層

Fig.113　P508・R510　P1～5・R512　P1～5・A514遺構配置図

二本木遺跡群 田崎地区　上空より

第４章　自然科学分析報告

二本木遺跡群（春日地区）・（田崎地区）出土の古代・中世の人骨
はじめに
資料
所見
　Ⅰ. 人骨の埋葬姿勢と形質
　Ⅱ. 考察
要約

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

二本木遺跡群春日地区第 11・13・17 次・田崎地区出土の古代・中世人骨

松下孝幸・松下真美

【キーワード】：熊本県、古代人骨、中世人骨、土坑墓、長頭型、仰臥伸展葬、側臥、男性骨
太い大腿骨、保存不良

はじめに

熊本市西区春日３丁目に所在する二本木遺跡群第 11・13・17 次の発掘調査が、ＪＲの高架事業に伴って 2009 ～ 2016（平成 21 ～ 28）年度におこなわれた。11 次 1 区の埋葬遺構からは人骨が 5 体出土した。2 体は古代に、もう 2 体は中世に属する人骨と推測され残りの 1 体は保存状態が著しく悪く骨種同定はできなかった。3 区の埋葬遺構からは古代に属する人骨が 1 体出土した。13 次 4 区の埋葬遺構からは古代に属する人骨が 2 体出土した。17 次 1 区は 1 基の土坑墓から中世人骨が検出された。

新幹線工事と熊本駅周辺整備事業に伴う発掘調査によって、二本木遺跡群から古代と中世に属する古人骨の出土例が増加している。2003 年（平成 15 年）に熊本市教育委員会が調査をおこなった二本木遺跡群の第 18 次調査区から古代に属する人骨が 1 体出土した（松下、2005）。この人骨は溝から出土した四肢骨の骨片にすぎなかった。2006 年（平成 18 年）におこなわれた第 28 次調査においても古代末の人骨が 2 体出土したが、これは大腿骨片と歯のみであった（松下・他、2008a）。熊本県教育委員会が 2005 年（平成 17 年）度と 2006 年（平成 18 年）度に実施した二本木遺跡群（合同庁舎跡）の調査でも 12 世紀初頭の人骨が 1 体出土しており、2008 年（平成 20 年）度の合同庁舎跡における発掘調査では 10 世紀後半の人骨が出土した。また、2008 年度の二本木遺跡群（さつま荘跡）における発掘調査でも 10 世紀代の人骨が検出されているが、この人骨は古代人骨としては珍しく保存状態が良好で、特筆すべきは、この男性被葬者の推定身長が 164.97cm（Pearson 式）の高身長であること、大腿骨には縄文前期人なみの柱状性（骨体中央断面示数 125.93〔右〕、145.83〔左〕）が認められたことである。古代人骨の保存状態は一般的に悪いものが多く、形質所見を明らかにすることができるものはきわめて少ないので、このような特徴が古代人の時代的特徴であるのかはまだ明確ではない。

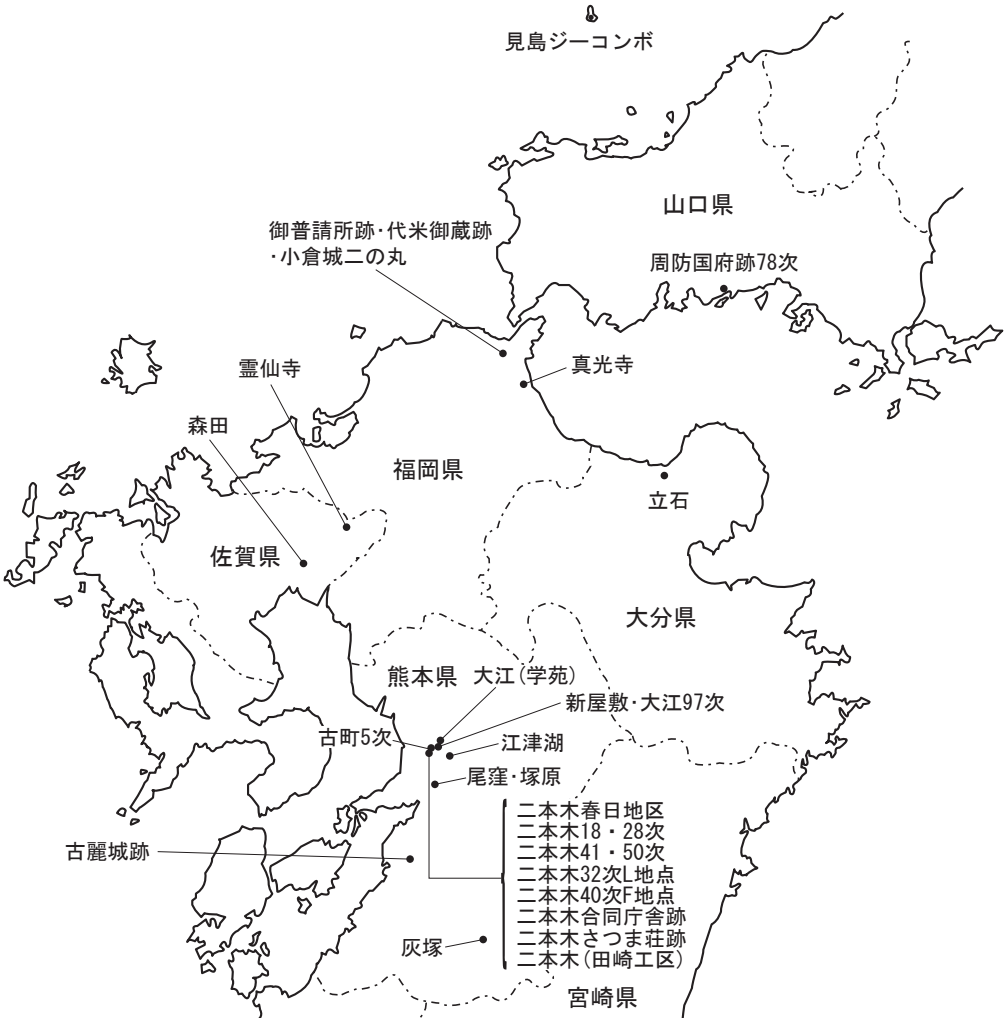
2009 年（平成 21 年）度におこなわれた新屋敷遺跡からも 8 世紀から 9 世紀にかけての人骨が 1 体出土している。この古代人骨は、超短頭型で、大腿骨には強い柱状性が、脛骨には扁平性が認められ、高身長であるという注目すべき特徴が認められた。

2008 年（平成 20 年）度におこなわれた二本木遺跡群第 40 次調査区 F 地点からは、頭を甕に入れ、おそらくは両足も左右別々に甕に入れていたものと推測される、10 世紀末～ 11 世紀に属する人骨が出土している。また、同じ年に二本木遺跡群第 41 次調査区からは 11 世紀頃の古代末に属する人骨が 1 体出土している。この人骨は長頭型であり、低顔で、歯槽性突顎を示す男性骨であった。

2009 年（平成 21 年）度に発掘調査がおこなわれた二本木遺跡群第 50 次調査区からも 2 体の古代人骨が出土している。

その他に、2005 年（平成 17 年）度には、大江遺跡群第 97 次調査区から 9 世紀後半の男性人骨（松下、2007b）が、古町遺跡第 5 次調査区では 10 世紀初頭に属する男性人骨が多くの副葬品（土師器など）を伴って出土したが、ともに保存状態は著しく悪いものであった（2007a）。また、大江（学苑）遺跡群（松下、2006）と江津湖遺跡群では平安時代の火葬骨が出土している。

中世人骨の出土例としては、熊本市の二本木遺跡群第 8 次調査区、第 13 次調査区（松下、2007a）、第 14 次調査区、第 17 次調査区、第 26 次調査区（松下、2007b）、第 27 次調査区（松下、2007c）、第 28 次調査区（松下・他、2008a）、第 31 次調査区、第 32 次調査区 R 地点（松下・他、2013b）、第 40 次調査区 E



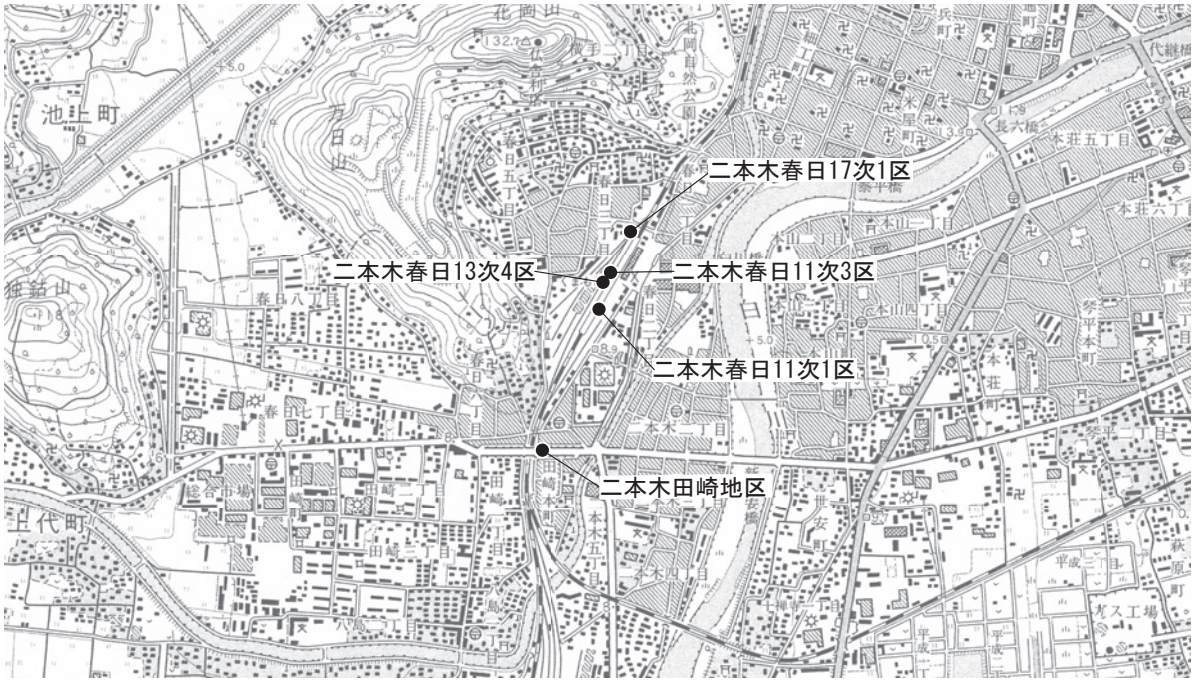


図１．遺跡の位置(1/25,000)

(Fig.1 Location of the area of the Kasuga at the Nihongi sites, Kumamoto City, Kumamoto Prefecture)

地点（松下・他、2012a）、第 40 次調査区 F 地点（松下・他、2010）、第 48 次調査区、第 53 次調査区、第 56 次調査区（松下・他、2013a）、第 68 次調査区（松下、2014）および熊本県教育委員会が調査した二本木遺跡群（市電敷地）（松下・他、2012b）、二本木遺跡群（さつま荘跡）（松下・他、2012）、二本木遺跡群春日地区第 11 次調査区、二本木遺跡群合同庁舎区の他に、熊本市内の大江遺跡群第 111 次調査区（松下、2009）、神水遺跡第 41 次調査区（松下・他、2008b）、上高橋遺跡、南新宮遺跡、花岡山・万日山遺跡群、松山遺跡（旧植木町）、渡鹿遺跡群第 7 次調査区、桑鶴遺跡第 2 次調査区、尾窪中世墳墓群（旧城南町）（内藤、1973）、塚原中世墳墓（旧城南町）（内藤、1975）の例がある。

その他、熊本県内では玉名市の玉名平野条里跡、大津町の中島宝満鶴（ほうまんづる）・岩坂葉柳（いわさかはやなぎ）遺跡（松下・他、2013c）、芦北町の花岡古町遺跡（松下・他、2013a）と花岡木崎遺跡（松下・他、2013b）、荒尾市浄業寺（永井、1965）、宇土市緑川（故松野・他、1970）、荒尾市杉谷遺跡（内藤・他、1978）、八代市興善寺町馬場遺跡（松下、1980）、あさぎり町（旧深田村）灰塚遺跡（松下、2001）、合志市（旧西合志町）船入遺跡（松下、2004）などの例もある。

尾窪から出土した中世人骨は比較的保存状態も良好で、神奈川県鎌倉市の材木座遺跡でみられた中世人骨の特徴である、長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎がみられることがわかり、長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎は関東地方だけにみられる地域的特徴（地域差）ではなく、汎日本的な中世人の時代的特徴（時代差）であることを示した貴重な例である。

2006（平成 18）年に花岡古町遺跡から出土した中世人は中世としては非常に珍しい坐位の姿勢で埋葬されていた。2005（平成 17）年におこなわれた花岡木崎遺跡の発掘調査では 5 体の中世人骨が出土したが、男性は高・狭顔、高身長という注目すべき所見が得られている。

本遺跡から検出された人骨はもろく、保存状態は悪かったが、四肢長骨を取り上げることができ、計測も可能であった。人骨の観察や計測をおこない、興味ある所見を得たので、その結果を報告しておきたい。

資　料

17 次 1 区の埋葬遺構からは 1 基検出され、1 体の人骨が出土した（表 1）。埋葬遺構は土坑墓（ST01）で、埋葬姿勢は右を下にした側臥屈葬である。頭位は北であった。墓坑は方形である。副葬品は認められなかった。

この 1 体の人骨は後述している所見から熟年の男性骨と推測される（表 2）。また、本人骨は考古学的所見および埋葬姿勢が側臥であることや人骨所見などから、中世に属する人骨の可能性が強い。なお、表 3 に年齢区分を示した。

11 次 3 区の埋葬遺構（ST02）からは 1 体の人骨が出土した。人骨の保存状態は悪い。1 体は成人骨で、男性骨。

考古学的所見より、この人骨は 12 世紀前半（中世）に属する人骨と推測されている。

13 次 4 区からは 2 基の埋葬遺構が検出され、2 体の人骨が出土した。人骨の保存状態は悪い。2 体とも成人骨で、いずれも男性骨である（表 1 、 2）。なお、年齢は 1 体しか推測できなかった。

考古学的所見より、ST03 人骨は 10 世紀末（平安）に、ST04 人骨は 11 世紀（平安）に属する人骨と推測されている。

11 次 1 区からは 5 基の埋葬遺構が検出されたが、1 体は性別・年齢は不明で、残り 4 体は成人骨。性別が判別できたのは中世人骨の 2 体のみで、男性骨と女性骨がそれぞれ 1 体ずつである。（ST10）の保存状態は比較的良好であったが、ほかの 4 体は悪く、残存量も少ない。

考古学的所見より、2 体は 10 世紀代の古代に、残り 2 体は 12 世紀代の中世に属する人骨と推測されている。

計測方法は、Martin-Saller（1957）によったが、脛骨の横径はオリビエの方法（前縁がノギスの両針の中央になるようにして計測）で計測し、鼻根部については鈴木（1963）と松下ら（1983）の方法で計測した。

人骨の整理・復元・計測値の計算などは、磯部美恵子、松下玲子、中野江里子が担当した。

所　見

表 1　資料数（Table1.　Number of materials）

	成　人			合計
	男性	女性	不明	
古代人骨	2	0	2	4
中世人骨	3	1	0	4
			1	1

表 2　出土人骨一覧（Table2.　List of skeletons）

人骨番号	性別	年齢	備考（時代・埋葬姿勢、頭位）
ST01(17 次 1 区)	男性	熟年	中世、側臥（右を下）、北頭位
ST02(11 次 3 区)	男性	不明	12 世紀前半（中世）、仰臥伸展葬、北頭位
ST03(13 次 4 区)	男性	不明	10 世紀末（平安）、仰臥展葬、東頭位
ST04(13 次 4 区)	男性	熟年	11 世紀（平安）、仰臥、北頭位
ST06(11 次 1 区)	不明	不明	10 世紀代（古代）、仰臥、北頭位
ST07(11 次 1 区)	不明	不明	10 世紀（古代）、不明、東頭位
ST09(11 次 1 区)	女性	不明	12 世紀後半（中世）、不明、東頭位
ST010(11 次 1 区)	男性	熟年	12 世紀後半（中世）、仰臥、北頭位
ST05(11 次 1 区)	不明	不明	不明、頭蓋片、四肢骨片

表　3　年齢区分（Table3.　Division　of age）

年齢区分		年齢	
未成人	乳児	1 際未満	
	幼児	1 歳～ 5 歳	（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児	6 歳～ 15 歳	（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	青年	16 歳～ 20 歳	（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人	壮年	21 歳～ 39 歳	（40 歳未満）
	熟年	40 歳～ 59 歳	（60 歳未満）
	老年	60 歳以上	

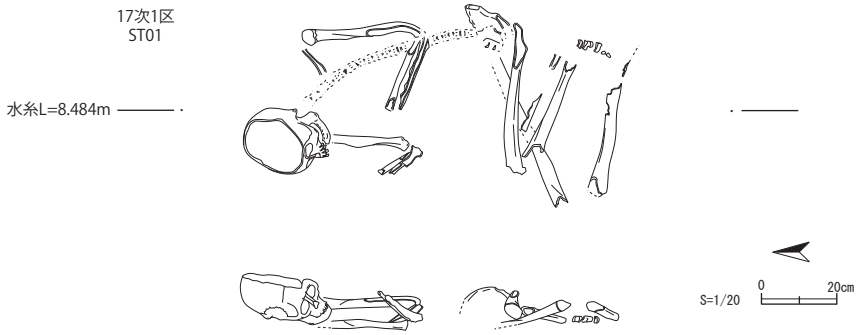
注）成年という用語については土井ヶ浜遺跡第 14 次調査報告書（1996）を参照されたい

ST01 人骨（男性・熟年）

A　埋葬姿勢

ほぼ全身の骨を確認することができたが、椎骨と肋骨は痕跡的で骨粉状態であった。残存していたのは椎骨と肋骨の他に、頭蓋、下顎骨、左側の鎖骨と肩甲骨、両側の上腕骨と前腕の骨、左側の寛骨、左右の大腿骨、脛骨、腓骨および足の骨である。足の骨の保存状態は著しく悪く、骨粉状態である。頭蓋は顔面を前に向けて、やや右側に倒れていた。右側肘関節は鋭角に曲げ、前腕を立てた状態にしていた。左側肘関節は 90 度に曲げられていた。左右の寛骨は重なっている。上半身は仰臥であるが、骨盤が側臥状態なので、埋葬姿勢は側臥である。左右の膝関節は鋭角に曲げられ、右側に倒れていた。上半身は仰臥状態であるが、脊柱が土坑の東側に寄っており、上半身もやや右側を下にして傾斜が認められる。

埋葬姿勢は、骨盤の状態で判断するので、本例は上半身はほぼ仰臥状態であるが、骨盤が側臥であるので、埋葬姿勢は側臥である。



B　人骨の形質

1．頭蓋

（1）脳頭蓋

左側半分を斜めに削平されているが、顔面頭蓋は残っていた。脳頭壁は薄く、保存状態は悪い。外後頭隆起の発達は良好で、乳様突起も大きい。外耳道骨腫は両側とも認められない。縫合は、冠状縫合の右側端とラムダ縫合のみが観察できた。両者とも外板は明瞭に観察できる。頭蓋壁はかなり脆いが、頭蓋内に充填している土によってかろうして形が保たれている状態なので、この泥を取り除くことができない。従って内板の様態を観察することができないが、外板の様態から、内板が開離しているとは考えにくい。おそらく内板は癒合しているものと思われる。

脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が 190mm で、その他の計測はできないが、観察によれば頭型は長頭型である。

（2）顔面頭蓋

顔面頭蓋の保存状態もよくない。眉上弓の隆起は強い。鼻根部は狭く、顔の幅径も狭い。

顔面頭蓋の計測値は、頬骨弓幅が 124mm、顔高は 108mm、上顔高は 67mm で、顔示数は（87.10）（K）、上顔示数は（54.03）（K）となり、狭顔傾向が認められる。本例は、顔面の高径の絶対値はそれほど大きくないが、それ以上に幅径が小さいので、顔のプロポーションは、高・狭顔を示すことになる。

眼窩幅は 35mm（右）、30mm（左）、鼻幅は 23mm、鼻高は 48mm で、鼻示数は 47.92 となり、中鼻（mesorrhin）に属している。

鼻根部と側面角の計測はできないが、観察によれば、鼻根部は狭く扁平で、歯槽性突顎が認められる。

下顎枝は著しく幅広く、下顎角も外反しており、咬筋粗面の発達も良好である。

2．歯

上下両顎の一部には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

下顎骨は顎関節で関節した状態で検出されたが、この状態は頭蓋内と下顎骨の内側の土によってかろうじて維持されている。上顎の前歯は下顎の前歯の前を覆った状態で、下顎歯の観察ができないが、土を取り除

❽ ❼ ❻ ❺ 4 3 2 1	1 2 3 4 ❺ ❻ ❼ ❽
❽ ❼ ❻ ／ ／ ／ ／ ／	／ ／ ／ ／ ／ ❻ ❼ ❽

［●：歯槽開存、／：不明］

［1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三臼歯］

くと顔面頭蓋が崩壊する恐れがあるので、土を除去することができない。従って下顎の前歯群の様態は不明としておきたい。また、歯の咬耗度も不明である。歯槽性突顎が強く、歯の咬合形式は鋏状咬合である。

3.四肢骨

(1) 上肢骨

上肢骨は、左側の鎖骨と肩甲骨、両側の上腕骨と前腕の骨が残存していたが、骨質は脆く、検出状態を維持して取り上げることはほとんどできなかった。

①上腕骨

上腕骨体は太く、三角筋粗面の発達も良好である。右側の計測ができた。中央最大径が 26mm（右）、中央最小径は 20mm（右）で、骨体断面示数は 76.92（右）となり、骨体の扁平性は強くない。骨体最小周は 71mm（右）、中央周は 76mm（右）で、骨体はかなり大きい。

②橈骨

橈骨体も大きく、骨間縁も鋭く突出している。

(2) 下肢骨

左側の寛骨、左右の大腿骨、脛骨、腓骨および足の骨が残存していたが、足の骨は骨粉状態であった。

①寛骨

残存状態はよくないが、大坐骨切痕の角度が観察できた。この角度は小さい。

②大腿骨

左右の骨体を取り上げることができた。その径はかなり大きく、粗線の発達も良好である。

計測値は、骨体中央矢状径が 33mm（右）、35mm（左）、横径は 27mm（右）、26mm（左）で、骨体中央断面示数は 122.22（右）、134.62（左）となり、骨体両側面は後方へ著しく伸展し、柱状を呈しており、その程度は縄文早期人なみである。骨体中央周は 97mm（左右）で、骨体は著しく太い。

③脛骨

脛骨も両側の骨体を取り上げることができた。径はかなり大きく、ヒラメ筋線も発達している。

骨体の断面形は両側ともヘリチカのⅢ型（ほぼ三角形で、外側面が著しく凹彎（くぼむ）する）を呈している。

計測値は、中央最大径が 30mm（右）、29mm（左）、中央横径は 23mm（右）、24mm（左）で、中央断面示数は 76.67（右）、82.76（左）となり、骨体には扁平性は認められない。骨体周は 84mm（右）、84mm（左）で、骨体は太い。

4．性別・年齢

眉上弓の隆起が強く、寛骨の大坐骨切痕の角度が小さく、四肢骨が大きいことから、性別を男性と推定した。年齢は冠状縫合一部とラムダ縫合の外板が開離しており、内板は癒合していると推測されることから、熟年と推測しておきたい。

考　察

計測ができた顔面頭蓋、上腕骨、大腿骨、脛骨について二本木遺跡群の他の地点から出土した人骨などとの比較検討をおこなってみた。

1．顔面頭蓋

表 4 は顔面頭蓋の比較表である。頬骨弓幅の推定値は（124）mm で、表 4 では最小値となり、顔の幅径は小さい。顔高の推定値は（108）mm で、表 4 では最小値となるが、顔示数（K）は（87.10）となり、長崎県近代人（93.80）や花岡木崎 S-12（91.91）よりは小さく、由比ヶ浜南（85.53）よりもわずかに大きく、吉母浜（86.4）と大差ない。上顔高は 67mm で、尾窪（63.57mm）に次いで小さいが、上顔示数は（54.03）となり、花岡木崎に S-12（55.15）に次いで大きく、顔面には狭顔傾向が認められる。幅が狭い傾向は眼窩や鼻部にも認められる。

2．上腕骨

表 5 は上腕骨の比較表である。骨体中央周の計測値で骨体の大きさをみてみると、本例は 76mm で、表 5 では最大値を示し、骨体は太い。骨体断面示数は 76.92 となり、二本木・市電敷地、由比ヶ浜南に次いで大きく、骨体の扁平性は強いものではない。すなわち、本上腕骨は、骨体は熊本県内の中世人、山口県の吉母浜中世人、鎌倉の由比ヶ浜南中世人よりも大きく、扁平性はこれらよりも弱い上腕骨である。

3．大腿骨

表 6 は大腿骨の比較表である。本大腿骨の骨体中央周は 97mm もあり、骨体はかなり太く、表 6 では最

大値を示している。また、骨体中央断面示数は 134.62 と、著しく大きな示数値となり、この値も表 6 では最大値となる。すなわち、本大腿骨は、骨体がかなり太く、縄文早期人並みの柱状大腿骨で、下肢筋を成長期からかなり酷使していた様子がうかがえる。

４．脛骨

表 7 は脛骨の比較表である。骨体周は 84mm で、花岡木崎（89mm）に次いで大きく、脛骨体も大きい。中央断面示数は 82.76 となり、表 7 では最大値となり、骨体には扁平性は認められない。

ST02 人骨（男性・年齢不明）

A　埋葬姿勢

埋葬遺構は土壙墓。墓坑は長い。埋葬姿勢は仰臥。頭位は北。残存していたのは頭蓋、左右の大腿骨、脛骨である。上肢骨が残存していなかったので、肘関節の様態不明であるが、膝関節は両側とも伸展状態であった。

最初に検出されたのは、頭蓋、遊離歯冠 1 点と保存状態の悪い左側大腿骨および右側脛骨であったが、大腿骨と脛骨を取り上げ、さらに埋土を掘り下げていくと上層にあったものよりも比較的骨質がしっかりとした大腿骨と脛骨を検出することができた。下層から検出された左側大腿骨は前面を破砕されており、上層にあった左側大腿骨の一部はこの全面部分と思われ、下肢骨は撹乱を受けていたようである。さらに頭蓋の右側部分で、下層から歯がまとまって検出されたことから、頭蓋も顔面部分が撹乱を受けたようであるが、その際、頭蓋左側にあった高麗青磁 1 点と土師器 4 枚は撹乱から免れている。

B　人骨の形質

頭蓋の保存状態はかなり悪い。脳頭蓋の骨片もしくは骨粉状態である。骨質は脆く、さわると崩壊してしまう。頭型は観察によっても推測もできない。

大腿骨と脛骨が残存していたが、ともに保存状態はよくない。左側大腿骨の保存状態が一番よかったが、計測はできない。観察にしたところ骨体の径は大きい。粗線の様態も不明である。脛骨も取り上げが困難であったが、観察したところでは径はやや大きいようである。

歯冠片が残存していたが、破砕してしまうほど保存状態は悪い。歯種を同定することができたのは上顎の左右の第三大臼歯のみである。歯の咬耗は弱く、咬耗度は Broca の 1 度（咬耗がエナメル質のみ）である。

大腿骨体と脛骨体の径がやや大きいことから、性別を男性と推定した。年齢は不明である

ST03（男性・年齢不明）

８世紀から９世紀に作られた住居跡の上層から土壙墓が検出された。人骨は 1 体。保存不良。埋葬遺構は土壙墓で、その径はやや大きい。埋葬姿勢は仰臥伸展。頭位は東。残存していたのは頭蓋、右側の鎖骨、左側の上腕骨体、左側の大腿骨体および左側の脛骨体の一部である。鎖骨は骨粉状態で残存していたにすぎない。頭蓋は頭蓋底と右側側頭骨の岩様部が残っていた。上腕骨は骨体が、大腿骨も骨体が残存していた。前者の径はやや大きい。大腿骨体は保存状態が悪く、前面がかろうじて残存していたに過ぎないので、その特徴は不明である。大腿骨と脛骨の位置から推測して、左側の膝関節は伸展状態だったと推測されるが、肘関節の様態は不明である。上腕骨体の径が大きいことから、男性と推測したが、年齢は不明である。

後頭骨に接して供献土器が 1 点検出された。この土器から人骨の所属時期は 10 世紀末頃と推測されている。

ST04（男性・熟年）

A　埋葬姿勢

井戸の上面から頭蓋と上腕骨が検出された。しかし、その後の人骨の検出過程で、大腿骨と脛骨が頭蓋の南側で、頭蓋よりも高い位置から検出されていることがわかった。下肢骨の位置と頭蓋などの上半身との位置を図面で照合してみると、両者は 1 体分と考えても差し支えない状況であった。すなわち、頭蓋などは井戸そのものから検出されたのではなく、井戸が廃棄されたのち、井戸の上面に墓が作られ、その後井戸の部分の埋土が徐々に沈下したことによって、その上に載っていた頭蓋などの上半身があたかも井戸の中から出土したような状態になったことが判明した。

埋葬遺構は土壙墓。埋葬姿勢は仰臥。膝関節はおそらく伸展状態だったと思われる。頭位は北。人骨の遺存状態はかなり悪い。

B　人骨の形質

残存していたのは頭蓋、下顎骨、右側の上腕骨体、左側の大腿骨および脛骨であるが、そのほかに骨粉状態の頸椎群を確認することができた。頭蓋はわずかに左に傾斜していた。顔面は欠損している。頭蓋の径は大きそうである。ラムダ縫合の右側部が観察できたが、外板には癒合が認められる。下顎骨は右側が残存していた。下顎枝は広い。下顎骨と上顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

咬耗度は Broca の 1（咬耗がエナメル質のみ）～２度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。歯の咬合形式は不明である。

／７６５４／２／	／／３／／／／／
８７６５４３／／	／２／４／／／／

［／：不明、番号は歯種］

[1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三臼歯]

上腕骨体と大腿骨体の径はやや大きい。大腿骨は粗線の発達も良好で、骨体両側面は後方へ突出しており、柱状形成がみられる。

四肢骨の径が大きいことから、性別を男性と推定した。年齢は観察できたラムダ縫合右側部の外板に癒合が認められることから熟年と思われる。

なお、頭蓋の下から２点の土師器と１点の黒色土器が出土した。いずれも完形である。この土器から本人骨は 11 世紀に属する人骨と推測されている。

ST05 人骨（性別・年齢不明）

約３cm × 4 cm 大の脳頭蓋の一部が残存していた。骨壁はやや薄い。その他に３ヶ所から人骨片が検出されたが、保存状態が著しく悪く、いずれも骨種の同定はできない。性別・年齢は不明である。

ST06 人骨（男性・年齢不明）

A　埋葬姿勢

埋葬遺構は土壙墓。残存していたのは、左側の大腿骨と脛骨、腓骨のみで、いずれも骨体である。左側の膝関節を約 80 度に曲げ、立った状態で、わずかに左側に倒れていた。埋葬姿勢は仰臥で、頭位は北で、墓坑の長軸は南北方向。墓坑の長さはやや長いのにもかかわらず、膝関節は曲げて立てた状態（立膝）であった。

B　人骨の形質

残存していたのは、左側の膝の部分で、大腿骨体、脛骨体、腓骨体のそれぞれ一部である。保存状態が悪く、特徴を把握できないが、大腿骨体の径はやや大きい。このことから、性別を男性と推定したが、年齢は不明である。

ST07 人骨（性別・年齢不明）

A　埋葬姿勢

埋葬遺構は土壙墓。残存していたのは頭蓋のみである。頭蓋は頭蓋冠が、頂部を下にした状態で検出された。撹乱を受けたものと思われる。埋葬姿勢および性別・年齢は不明である。頭位は東で、墓坑の長軸は東西方向である。

B　人骨の形質

残存していたのは頭蓋のみである。頭蓋骨壁はやや薄い。埋葬姿勢および性別・年齢は不明である。

ST09 人骨（女性・年齢不明）

A　埋葬姿勢

埋葬遺構は土壙墓。墓坑の平面プランは長径約 144cm、幅径約 100cm の方形で、墓坑は大きく広い。残存していたのは頭蓋、左側上腕骨、左側の大腿骨、脛骨、腓骨のみである。頭蓋の保存状態はかなり悪く、どこの部分が残存しているのか明確にできない。歯が残存していたが、上顎歯と下顎歯とが散乱状態で検出されており、頭蓋付近は撹乱を受けているようである。左側の大腿骨、脛骨および腓骨は強屈状態で右側に倒れていた。埋葬姿勢は明確ではないが、おそらく仰臥だったと思われる。頭位は北。肘関節の状態は不明である。なお、本例には青磁碗と合子（ごうす）がそれぞれ１個ずつ頭蓋の左側に副葬されていた。

B　人骨の形質

残存していたのは頭蓋、左側上腕骨、左側の大腿骨、脛骨、腓骨のみである。保存状態は著しく悪く、上腕骨は骨粉状態で、他の骨もほとんど取り上げることができなかったが、現場で観察したところ大腿骨と脛骨の径は小さい。

遊離歯が残存していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

咬耗度は Broca の 1 度（咬耗がエナメル質のみ）で、咬耗は弱い。

大腿骨と脛骨の径が小さいことから、性別を女性と推定したが、年齢は不明である。

／／／５４／／／	／２３４／６７／
／７６５４３２／	／／／／／６／／

［／：不明、番号は歯種］

［1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三臼歯］

ST10 人骨（男性・老年）

A　埋葬姿勢

埋葬遺構は土壙墓。残存していたのは、頭蓋、左側鎖骨、左右の上腕骨と前腕の骨、左右の寛骨、左右の大腿骨、脛骨および腓骨、椎骨の一部（椎弓）、肋骨の一部で、ほぼ全身の骨を確認することができた。しかし、骨はかなり脆弱化しており、検出状況を保ったまま取り上げることは困難であった。

埋葬姿勢は仰臥。頭位は北。肘関節は、右側は 90 度に曲げていたが、左側は伸展状態。両側の下肢骨は膝関節を強く曲げ（右側は約 30 度に、左側は約 40 度に屈曲）て、左側に倒れていたが、両脚は完全に倒れてしまってはおらず、床とは約 40 度の傾斜で、傾いた状態であった。腰は墓坑の右側に寄っており、頭蓋は墓坑の中央ではなく、北東側に寄って、左を下にした状態で検出された。すなわち体軸は墓坑の中央にあるのではなく、墓坑内で南西から北東へ向かって彎曲している。従って骨盤はわずかに左側へ捻転している。

頭蓋の上に土師皿 1 枚が載っていた。また、頭蓋の右側からは大きな土師皿が 1 枚、南へ傾斜し、ななめになった状態で検出された。

B　人骨の形質

ほぼ全身の骨を確認することができたが、骨はかなり脆弱化しており、取り上げの困難な骨が多かった。

1．頭蓋

(1) 脳頭蓋

頭蓋腔内に泥が充満してかろうじて形を保っている。顔面頭蓋を欠失している。外後頭隆起はやや膨隆しており、乳様突起はやや小さい。右側の外耳道が観察できたが、骨腫は存在しない。縫合は、右側のラムダ縫合の外板が確認できる程度で他の縫合の外板は癒合している。

脳頭蓋の計測は、頭蓋最大長と頭蓋最大幅の計測ができた。頭蓋最大長が 187mm、頭蓋最大幅は 131mm で、頭蓋長幅示数は 70.05 となり、頭型は長頭型（dolichokran）である。下顎骨も残存しているが、保存状態はかなり悪い。径は大きく、とくに高径が高い。

(2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋は計測も観察もできない。

2．歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

第一大臼歯の咬耗度は Broca の 2 度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）であるが、その他は 1 度（咬耗がエナメル質のみ）である。また、歯の咬合形式は不明である。

❽❼❻❺４３２１	１２３４❺❻❼❽
❽❼❻／／／／／	／／／／／❻❼❽

［●：歯槽開存、／：不明］

［1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三臼歯］

3．四肢骨

(1) 上肢骨

①上腕骨

左右の骨体を取り上げることができた。計測はできないが、径は大きく、骨体はかなり扁平である。
(2) 下肢骨
①大腿骨
左右とも骨体を取り上げることができた。骨体はあまり大きいものではなく、また、粗線の発達もよくないが、骨体上部は扁平である。
計測値は、骨体中央矢状径が 25mm（右）、25mm（左）、横径は 26mm（右）、25mm（左）で、骨体中央断面示数は 96.15（右）、100.00（左）となり、粗線や骨体両側面の後方への発達はよくない。骨体中央周は 80mm（右）、79mm（左）で、骨体はやや細い。また、骨体上横径は 33mm（右）、30mm（左）、骨体上矢状径は 22mm（右）、21mm（左）で、上骨体断面示数は 66.67（右）、70.00（左）となり、骨体上部は両側ともかなり扁平である。
②脛骨
右側骨体の計測ができた。骨体はやや大きく、前縁はシャープで、ヒラメ筋線は突出している。骨体の断面形はヘリチカのⅡ型を呈している。
計測値は、中央最大径が 28mm（右）、中央横径は 18mm（右）、で、中央断面示数は 64.29（右）となり、骨体は扁平である。骨体周は 74mm（右）で、骨体はやや細い。
③腓骨
両側の骨体が残存していた。径はあまり大きくない。
4．性別・年齢
下顎骨、上腕骨の径がかなり大きいことから、性別を男性と推定した。年齢は、三主縫合の外板がほとんど癒合しているが、ラムダ縫合にはまだ開離している部分が認められることから熟年と思われる。

考　察

計測ができた男性の脳頭蓋と大腿骨、脛骨について周辺の人骨と比較検討してみた
1．脳頭蓋
表 4 は男性の脳頭蓋の比較表である。本中世人の頭蓋長幅示数は 70.05 となり、頭型は長頭型であるが、示数値は過長頭型に近い値である。頭蓋長幅示数は表 4 では小倉城（代米御蔵跡）に次いで小さく、長頭性が強いことがわかる。

2．大腿骨
表 5 は男性大腿骨の比較表である。骨体中央周は 80mm で、塚原 1 号と同値で、表 5 では最小値である。骨体中央断面示数は 96.15 で、塚原 20 号とほとんど大差なく、表 5 では最小値を示しており、粗線や骨体両側面の後方への発達が悪いことがうかがえる。上骨体断面示数は 66.67 で、表 5 では最小値で、骨体上部は著しく扁平である。

3．脛骨
表 6 は男性脛骨の比較表である。骨体周は 74mm で、表 6 では最小値となり、塚原 1 号にかなり近い値である。中央断面示数は 64.29 となり、二本木合同庁舎跡 2 区 S-004 にほぼ一致し、表 6 では最小値となり、中世人としては骨体が扁平である。

要　約

17 次 1 区の発掘調査では、1 基の土坑墓（ST01）から人骨が検出されほぼ全身の骨が残存していた。骨質はもろく、保存状態は悪かったが、四肢骨は原形を保った状態で取り上げることができた。人類学的観察と計測をおこない、以下の結果を得た、
1．1 基の土坑墓（ST01）から、1 体の熟年男性骨が検出された。ほぼ全身の骨が残存していたが、保存状態は悪く、椎骨、肋骨や扁平骨は骨粉状態で、取り上げることは困難であった。
2．埋葬遺構は土坑墓で、埋葬姿勢は右を下にした側臥である。上半身は完全には側臥にはなっていないが、両側の寛骨は重なっており、骨盤は側臥状態であることから、埋葬姿勢は側臥である。右側肘関節は鋭角に、左側肘関節は 90 度に曲げられており、左右の膝関節も鋭角に屈曲した状態で、下肢骨は右側に倒れていた。
3．本人骨は副葬品を伴っていないので、所属時期は明確ではないが、埋葬姿勢が側臥であること、頭型が

長頭型であること、鼻根部が扁平であること、歯槽性突顎が観察されることから、中世人骨の可能性が強い。
4．脳頭蓋は斜めに削平されているので、計測はできないが、観察したところ、頭型は長頭型である。
5．顔面頭蓋の計測値は、頬骨弓幅が（124）mm、顔高は（108）mm、上顔高は 67mm で、顔示数は（87.10）（K）、上顔示数は（54.03）（K）となり、狭顔傾向が認められる。鼻根部は扁平で、歯槽性突顎も強い。下顎枝はかなり幅広く、下顎角は外反し、咬筋粗面の発達もきわめて良好である。
6．上腕骨の中央周は 76mm（右）で、骨体はかなり太く、三角筋粗面の発達も良好である。大腿骨の骨体中央周は 97mm（左右）で、骨体は著しく太く、骨体中央断面示数は 122.22（右）、134.62（左）となり、骨体両側面は後方へ著しく伸展し、柱状を呈しており、その程度は縄文早期人なみである。脛骨の骨体周は 84mm（右）、84mm（左）で骨体は太いが、中央断面示数は 76.67（右）、82.76（左）となり、骨体には扁平性は認められない。
7．本例は、頭型は長頭型、鼻根は扁平で、歯槽性突顎も観察されるなど中世人的特徴が強い。顔面は小さく、狭顔傾向がみられるが、下顎角は外反しており咀嚼筋の発達はきわめて良好であったことがうかがえる。上腕骨、大腿骨、脛骨はともに太くて屈強であるが、このような特徴を示す中世人はきわめて稀である。花岡木崎 S-12 と二本木遺跡群 53 次 7 号土坑墓人骨も大腿骨は太いが、後者には柱状性はまったく認められない。本被葬者は、埋葬してはもらえるが、副葬品はもてない程度の社会的地位を確保していた人物で、成長期には上肢筋と下肢筋を日常的に酷使する生活を送っていたものと推測される。

11 次 3 区（ST02）
1．今回の発掘調査で出土した人骨は古代（12 世紀前半）に属する人骨である。
2．ST02 は埋葬状態や人骨の形質を知ることができ、埋葬遺構は土壙墓で、埋葬姿勢は仰臥伸展葬である。
4．この被葬者は、大腿骨と脛骨の径がやや大きかったが、粗線やヒラメ筋線の様態などは不明である

13 次 4 区の埋葬遺構から古代に属する人骨が 2 体出土した。人骨の保存状態は著しく悪かったが、人類学的観察をおこない、以下の所見を得た。
1．今回の発掘調査で出土した 2 体の人骨は古代（10 世紀末～ 11 世紀）に属する人骨である。
2．2 体の保存状態は悪いものであったが、2 体とも成人骨で、性別は 2 体とも男性と思われる。
3．埋葬状態は 2 体とも仰臥であった。1 体（ST03）は伸展状態（膝関節）で、もう 1 体（ST04）もおそらく伸展（膝関節）していたものと思われる。
4．形質的所見が得られたのは 2 体とも四肢骨のみであるが、上腕骨と大腿骨の径は大きく、大腿骨には柱状性が認められた。

11 次 1 区の発掘調査が、2009 年度（平成 21 年度）におこなわれ、古代と中世に属する人骨が出土した。古代人骨の保存状態は著しく悪かったが、中世人骨については 1 体の計測ができた。人類学的観察や計測をおこない、以下の所見を得た。
1. 今回の発掘調査で出土した人骨は古代（10 世紀代）と中世（12 世紀後半）に属する人骨がそれぞれ 2 体ずつ、時代不明の人骨が 1 体の合計 5 体である。保存状態が悪く、性別を推測することができたのは中世人骨のみで、これは男女各 1 体ずつであった。
2．古代に属する人骨のうち 1 体は仰臥で、立て膝をしていた。もう 1 体の埋葬姿勢は不明である。中世人は 2 体とも仰臥で、膝関節はともに強屈していた。
3．古代人骨の保存状態は著しく悪く、頭型、顔面の形態、四肢骨の特徴を明らかにすることができなかった。
4．中世人 1 体（男性）についてはほぼ全身の骨が残っていたが、骨質は脆く、大部分の骨は取り上げることができなかった。脳頭蓋、大腿骨、脛骨は一部計測ができた。顔面の特徴は明らかにできなかったが、頭型は過長頭に近い長頭型であった。上腕骨は太いが、大腿骨は細く、粗線や骨体両側面の後方への発達は悪く、骨体上部は著しく扁平であった。また、脛骨もやや細いが、骨体は扁平であった。
5．二本木遺跡群からはこれまでに古代人骨や中世人骨が出土しているが、保存状態が悪く、形質的な特徴をなかなか把握することができない。今回の調査でも古代人の形質的特徴を知ることはできなかった。中世人については 1 体の男性骨の計測が可能であったので、特徴の一部を明らかにすることができた。本中世人は長頭型で、上腕骨は太いが、下肢骨はやや細く、上腕骨と脛骨は扁平であるという特徴が認められた。日常的に下肢筋よりも上肢筋をよく使う生活スタイルが推測される中世人であった。

表４　顔面頭蓋(男性、mm、度)(Table 4. Comparison of male facial measurements and indices)

		二本木17次1区	花岡木崎	尾　窪		吉母浜		由比ヶ浜南		長崎県	
		中世人	中世人	中世人		中世人		中世人		近代人	
		熊本県	熊本県	熊本県		山口県		神奈川県		長崎県	
		熊本市	芦北町	城南町		下関市		鎌倉市			
			(松下・他)	(内藤)		(中橋・他)		(松下)		(松下)	
		ST01	S-12	n	M	n	M	n	M	n	M
43.	上顔幅	101	111	4	103.00	18	104.4	70	105.76	37	103.41
45.	頬骨弓幅	(124)	〔136〕		-	18	135.2	35	137.74	37	134.35
46.	中顔幅	-	108	2	100.00	19	100.3	53	104.19	36	97.50
47.	顔高	(108)	125	6	113.33	11	117.3	31	118.00	19	125.53
48.	上顔高	67	(75)	7	63.57	15	69.9	53	67.28	35	69.91
47/45	顔示数（K）	(87.10)	〔91.91〕		-	11	86.4	17	85.53	19	93.80
48/45	上顔示数（K）	(54.03)	〔55.15〕		-	16	51.7	29	48.52	35	52.10
51.	眼窩幅（右）	35	48	6	40.67	18	42.8	55	44.00	37	43.16
51.	眼窩幅(左)	(30)	46		-	18	42.0	57	43.37	37	43.05
52.	眼窩高（右）	-	36	6	32.50	18	34.1	62	33.52	37	34.32
52.	眼窩高(左)	-	36		-	18	34.4	58	33.31	37	34.38
52/51	眼窩示数(右)	-	75.00	6	79.90	18	79.9	51	76.62	37	79.69
52/51	眼窩示数(左)	-	78.26		-	18	82.1	51	77.30	37	79.92
54.	鼻幅	23	28	6	26.50	17	26.0	52	26.12	37	25.08
55.	鼻高	48	56	7	49.00	16	51.4	58	52.07	37	52.78
54/55	鼻示数	47.92	50.00	6	54.04	16	50.4	50	50.87	37	47.67

表５　上腕骨計測値(男性、右、mm)(Table 5. Comparison of measurements snd indices of male right humeri)

		二本木17次1区	花岡木崎		二本木・市電敷地	大江111次	吉母浜		由比ヶ浜南		西北九州	
		中世人	中世人		中世人	中世人	中世人		中世人		現代人	
		熊本県	熊本県		熊本県	熊本県	山口県		神奈川県			
		熊本市	芦北町		熊本市	熊本市	豊浦町		鎌倉市			
			(松下・他)		(松下・他)	(松下・他)	(中橋・他)		(松下)		(八木)	
		ST01	S-12		S-004	1号	n	M	n	M	n	M
5.	中央最大経	26	22	(左)	22	21	20	22.9	41	22.22	72	23.56
6.	中央最小径	20	16	(左)	18	15	20	17.3	41	17.10	72	17.68
7.	骨体最小周	71	61	(左)	64	-	20	62.6	39	62.15	72	65.53
7(a).	中央周	76	65	(左)	68	62	20	66.4	42	66.00	72	68.78
6/5	骨体断面示数	76.92	72.73	(左)	81.82	71.43	20	75.6 (左)	41	77.04	72	75.06

表６　大腿骨計測値(男性、右、mm) (Table 6. Comparison of measurements and indices of male right femora)

		二本木17次1区		花岡木崎			二本木		二本木17次	二本木53次	西北九州	
							市電敷地					
		中世人		中世人			中世人		中世人	中世人	現代人	
		熊本県		熊本県			熊本県		熊本県	熊本県		
		熊本市		芦北町			熊本市		熊本市	熊本市		
				(松下)			(松下・他)		(松下・他)	(松下・他)	(栄田)	
		ST01		S-12	S-19		S-004		ST004	7号土坑墓	n	M
6.	骨体中央矢状径	35	(左)	32	25	(左)	30	(左)	26	25	52	27.79
7.	骨体中央横径	26	(左)	28	27	(左)	25	(左)	29	32	52	25.81
8.	骨体中央周	97	(左)	95	83	(左)	89	(左)	85	92	52	83.46
6/7	骨体中央断面示数	134.62	(左)	114.29	92.59	(左)	120.00	(左)	89.66	78.13	52	108.04

表７　脛骨(男性、右、mm) (Table 7. Comparison of measurements and indices of male right tibiae)

	二本木春日	二本木	二本木	二本木	大江	花岡木崎	吉母浜		由比ヶ浜南		西北九州	
	17次1区	**春日11次**	市電敷地	56次	111次							
	中世人	中世人	中世人	中世人	中世人	中世人	中世人		中世人		現代人	
	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	山口県		神奈川県			
	熊本市	熊本市	熊本市	熊本市	熊本市	芦北町	下関市		鎌倉市			
		(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下)	(中橋・他)		(松下)		(久松)	
	ST01	**ST10**	S-004	１号	１号	S-12	n	M	n	M	n	M
8.　中央最大径	29　(左)	28	31	30　(左)	30	32	20	29.4	73	29.26	72	28.52
9.　中央横径	24　(左)	18	20	21　(左)	23	24	20	21.5	73	21.05	72	21.55
10.　骨体周	84　(左)	74	81	80　(左)	83	89	20	80.2	73	79.63	72	80.45
10ｂ最小周	－	－	－	－	75	79 (左)	20	74.2	68	72.88	72	71.64
9/8　中央断面示数	82.76 (左)	64.29	64.52	70.00 (左)	76.67	75.00	20	73.3	73	72.12	72	75.76

表８　頭蓋 (mm) (Calvaria)

		二本木17次1区
		ST01
		男
1.	頭蓋最大長	190
8.	頭蓋最大幅	－
17.	バジオン・ブレグマ高	－
8/1	頭蓋長幅示数	－
17/1	頭蓋長高示数	－
17/8	頭蓋幅高示数	－
23.	頭蓋水平周	－
24.	横弧長	－
25.	正中矢状弧長	－
43.	上顔幅	101
45.	頬骨弓幅	(124)
46.	中顔幅	－
47.	顔高	(108)
48.	上顔高	67
47/45	顔示数(K)	(87.10)
48/45	上顔示数(K)	(54.03)
47/46	顔示数(V)	－
48/46	上顔示数(V)	－
40+45+47/3	顔面モズルス	－
50.	前眼窩間幅	－
44.	両眼窩幅	－
50/44	眼窩間示数	－
51.	眼窩幅(右)	35
	(左)	(30)
52.	眼窩高(右)	－
	(左)	－
52/51	眼窩示数(右)	－
	(左)	－
54.	鼻幅	23
55.	鼻高	48
54/55	鼻示数	47.92

表９　下顎骨 (mm、度) (Mandibula)

		二本木17次1区
		ST01
		男
65.	下顎関節突起幅	－
65(1).	下顎筋突起幅	－
66.	下顎角幅	－
67.	前下顎幅	46
68.	下顎長	－
68(1).	下顎長	－
69.	オトガイ高	－
69(1).	下顎体高(右)	33
	(左)	－
69(2).	下顎体高(右)	－
	(左)	28
70.	枝高(右)	－
	(左)	－
70(1).	前枝高(右)	－
	(左)	－
70(2).	最小枝高(右)	(52)
	(左)	－
70(3).	下顎切痕高(右)	－
	(左)	－
71(1).	下顎切痕幅(右)	－
	(左)	－
71.	枝幅(右)	39
	(左)	40
71ａ.	最小枝幅(右)	39
	(左)	40
79.	下顎枝角(右)	－
	(左)	－
71ａ/70(2)	下顎枝示数(右)	75.00
	(左)	－

表10　上腕骨（mm）（Humerus）

		二本木17次1区 ST01 男
5.	中央最大径(右)	26
	(左)	−
6.	中央最小径(右)	20
	(左)	−
7.	骨体最小周(右)	71
	(左)	−
7（a）	中央周(右)	76
	(左)	−
6/5	骨体断面示数(右)	76.92
	(左)	

表11　橈骨(mm)（Radius）

		二本木17次1区 ST01 男
3.	最小周(右)	−
	(左)	−
4.	骨体横径(右)	18
	(左)	−
4a.	骨体中央横径(右)	17
	(左)	−
5.	骨体矢状径(右)	12
	(左)	−
5a.	骨体中央矢状径(右)	12
	(左)	−
5(5).	骨体中央周(右)	47
	(左)	−
5/4	骨体断面示数(右)	66.67
	(左)	−
5a/4a	中央断面示数(右)	70.59
	(左)	−

表12　大腿骨(mm)（Femur）

		二本木17次1区 ST01 男
6.	骨体中央矢状径(右)	(33)
	(左)	35
7.	骨体中央横径(右)	27
	(左)	26
8.	骨体中央周(右)	97
	(左)	97
9.	骨体上横径(右)	−
	(左)	−
10.	骨体上矢状径(右)	−
	(左)	−
6/7	骨体中央断面示数(右)	122.22
	(左)	134.62
10/9	上骨体断面示数(右)	−
	(左)	−

表13　脛骨(mm)（Tibia）

		二本木17次1区 ST01 男
8.	中央最大径(右)	30
	(左)	29
8a.	栄養孔位最大径(右)	−
	(左)	35
9.	中央横径(右)	23
	(左)	24
9a.	栄養孔位横径(右)	−
	(左)	24
10.	骨体周(右)	84
	(左)	84
10a.	栄養孔位周(右)	−
	(左)	95
10b.	最小周(右)	−
	(左)	−
9/8.	中央断面示数(右)	76.67
	(左)	82.76
9a/8a	栄養孔位断面示数(右)	−
	(左)	68.57
10b/1	長厚示数(右)	−
	(左)	−

表14　脳頭蓋計測値(男性、mm)(Table 14. Comparison of male calvarial measurements and indices)

		二本木・春日11次	尾　窪		小倉城	吉母浜		立　石		由比ヶ浜南		鎌倉材木座	
		中世人	中世人		中世人	中世人		中世人		中世人		中世人	
		熊本県	熊本県		福岡県	山口県		大分県		神奈川県		神奈川県	
		熊本市	城南町		北九州市	下関市		宇佐市		鎌倉市		鎌倉市	
		(松下・他)	(内藤)		(松下)	(中橋・他)		(内藤)		(松下)		(鈴木・他)	
		ST10	n	M	3号	n	M	n	M	n	M	n	M
1.	頭蓋最大長	187	6	184.33	196	16	181.8	1	184	79	184.43	170	184.2
8.	頭蓋最大幅	131	1	138	136	17	136.2	1	137	85	138.28	164	136.5
17.	バジオン・ブレグマ高	-	4	136.50	132	17	139.4	1	141	61	138.11	96	137.2
8/1	頭蓋長幅示数	70.05	1	77.09	69.39	16	74.9	1	74.46	79	75.05	164	74.2
17/1	頭蓋長高示数	-	4	74.80	67.35	16	76.8	1	76.63	58	74.59	94	75.0
17/8	頭蓋幅高示数	-	1	99.28	97.06	17	102.5	1	102.92	61	99.78	93	99.8
1+8+17/3	頭蓋モズルス	-	1	151.33	154.67		-	1	154	59	153.40		-
23.	頭蓋水平周	-	2	513.00	542	16	517.2	1	515	71	524.80	151	516.9
24.	横弧長	-	1	310.00	306	17	313.8	1	320	81	310.83	127	309.4
25.	正中矢状弧長	-	5	384.40	382	17	377.5	1	371	62	379.56	111	373.7

小倉城：小倉城代米御蔵

表15　大腿骨計測値(男性、右、mm)(Table 15. Comparison of measurements and indices of male right femora)

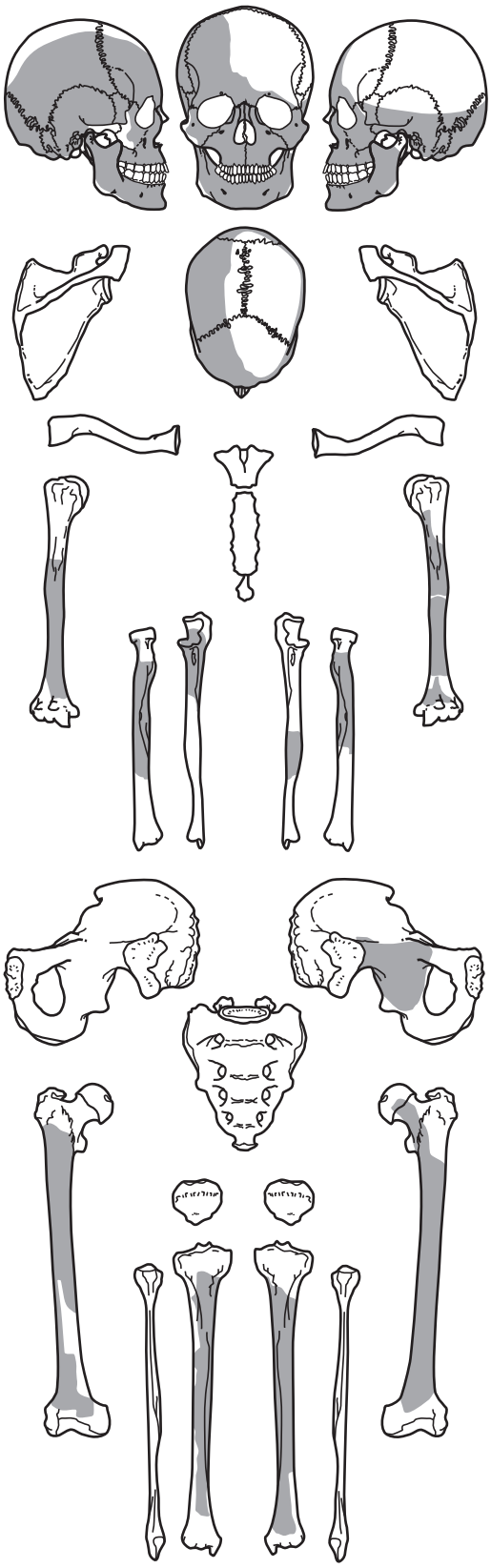
		二本木・春日11次	二本木(合同庁舎)		塚　原			小倉城代米御蔵跡		吉母浜		由比ヶ浜南		鎌倉材木座	
		中世人	中世人		中世人			中世人		中世人		中世人		中世人	
		熊本県	熊本県		熊本県			福岡県		山口県		神奈川県		神奈川県	
		熊本市	熊本市		城南町			北九州市		下関市		鎌倉市			
		(松下・他)	(松下・他)		(内藤)			(松下)		(中橋・他)		(松下)		(香原)	
		ST10	SK-064-FE-1		1号	20号	45号	n	M	n	M	n	M	n	M
6.	骨体中央矢状径	25	28	(左)	25.5	27	27	3	27.00	19	27.7	81	27.32	65	27.27
7.	骨体中央横径	26	25	(左)	25	28	27.5	3	25.67	19	27.5	81	26.27	65	26.50
8.	骨体中央周	80	85	(左)	80	90	85	3	82.67	19	87.5	81	84.90	64	84.50
9.	骨体上横径	33	30	(左)	-	-	-	3	29.00	19	32.1	80	31.01	57	31.31
10.	骨体上矢状径	22	23	(左)	-	-	-	3	23.33	19	24.6	80	23.95	57	24.20
6/7	骨体中央断面示数	96.15	112.00	(左)	102.0	96.43	98.18	3	105.69	19	100.6	81	104.49	65	104.94
10/9	上骨体断面示数	66.67	76.67	(左)	-	-	-	3	80.64	19	76.5	79	77.68	57	77.86

表16　大腿骨(mm)(Femur)

		二本木春日11次 ST10 男性
6.	骨体中央矢状径(右)	25
	(左)	25
7.	骨体中央横径(右)	26
	(左)	25
8.	骨体中央周(右)	80
	(左)	79
9.	骨体上横径(右)	33
	(左)	30
10.	骨体上矢状径(右)	22
	(左)	21
6/7	骨体中央断面示数(右)	96.15
	(左)	100.00
10/9	上骨体断面示数(右)	66.67
	(左)	70.00

表17　脛骨(mm)(Tibia)

		二本木春日11次 ST10 男性 右
8.	中央最大径	28
8a.	栄養孔位最大径	-
9.	中央横径	18
9a.	栄養孔位横径	-
10.	骨体周	74
10a.	栄養孔位周	-
10b.	最小周	-
9/8.	中央断面示数	64.29
9a/8a	栄養孔位断面示数	-
10b/1	長厚示数	-



二本木春日17次1区 ST01人骨(男性・熟年)

人骨の残存図(アミかけ部分)
(Fig. 2 Regions of preservasion of the skeleton. Shaded areas are preserved.)

頭蓋上面 (Superior view of the skull)

頭蓋正面 (Frontal view of the skull)

頭蓋側面 (Lateral view of the skull)
二本木 17 次 1 区 ST01 人骨 (男性・熟年)
(The skeleton ST01 from the 17-1 area of the Nihongi sites, mausra male)

下肢骨（Bone of the lower limb）

上肢骨（Bone of the upper limb）

二本木 17 次 1 区 ST01 人骨（男性・熟年）

(The skeleton ST01 from the 17-1 area of the Nihongi sites, mausra male)

下肢骨 (Bones of lower limb)

二本木春日 11 次 1 区 ST10（男性・熟年）

(The skeleton No.1 The kasuga at the Nihongi sites, mature male)

田崎５次２区の出土の古代人骨

【キーワード】：熊本県、古代人骨、平安時代、女性、保存不良

はじめに

熊本市西区田崎一丁目に所在する二本木遺跡群（田崎地区）の発掘調査がＪＲ在来線敷設工事に伴っておこなわれ、2012（平成 24）年度の発掘調査で、１基の遺構から人骨１体が出土した。この人骨は後述しているとおり、古代（10 世紀・平安時代）に属する人骨であるが、古代人骨の出土は全国的に少なく、本例は貴重な資料である。

熊本県教育委員会が実施した、2005（平成 17）年度と 2006（平成 18）年度の二本木遺跡群春日地区第６次調査では合計 11 体の古代人骨が出土しており、その中の２個の頭蓋は井戸跡から検出されている。

資料および所見

今回の発掘調査で検出された人骨は１基の遺構（ST01）から出土した１体の人骨のみである。本人骨は、副葬品の考古学的所見から、10 世紀代の古代（平安時代）に属する人骨と推測されている。

表 18　出土人骨一覧（Table18.　List of skeletons）

人骨番号	性別	年齢	備考（時代・埋葬姿勢、頭位）
ST01	女性	不明	田崎５次２区　10 世紀、仰臥、北東頭位

なお、本例は年齢を推測することができなかったが、参考までに年齢区分を表２に示した。

ST01 人骨（女性・年齢不明）

埋葬施設は土壙墓。頭位は北東。埋葬姿勢は仰臥。残存していたのは、頭蓋、両側の上腕骨と右側橈骨近位端、左側の尺骨と橈骨の一部、左右の大腿骨と脛骨、胸椎体と左側肋骨である。右側肘関節は伸展状態。左側肘関節部分は残存していないが、残存していた尺骨の位置から、左側肘関節も伸展状態だったと推測される。膝関節は、左右とも伸展状態であった。保存状態はかなり悪く、前碗の骨や胸椎体と左側肋骨はほとんど骨粉状態であった。

頭蓋は潰れており、保存状態は悪く、残存していたのは脳頭蓋と顔面頭蓋の一部および下顎骨のみであったが、残存部分から推測すれば頭蓋の径はやや小さい。下顎骨は左側のみが残存していた。計測はできないが、径はやや小さく、下顎切痕は浅い。

左側の上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／／／／／／／／	１２３４５６７／
／／／／／／／／	１２３４５６７／

〔●：歯槽閉鎖　○：歯槽開存　／：不明　▽：先天性欠損、番号は歯種〕

〔1：中切歯、２：側切歯、３：犬歯、４：第一小臼歯、５：第二小臼歯、６：第一大臼歯、７：第二大臼歯、８：第三大臼歯〕

咬耗度は Broca の１度（咬耗がエナメル質のみ）で、咬耗は弱い。

右側上腕骨は骨体が潰れた状態で遺存していたので、骨体の大きさなどは不明である。左側上腕骨は土師器の椀の下から検出された。骨体のみが残存していたが、比較的保存状態は良好で、その径はやや小さい。右側橈骨遠位端と左側橈骨の骨体の一部および左側尺骨体はいずれも保存状態が著しく悪く、その特徴を把握することができない。大腿骨体は左右の骨体が残存していたが、骨体の径はかなり小さく、粗線の発達もみられない。脛骨も両側の骨体が残存していたが、保存状態が著しく悪く、大きさや形態などは不明である。また、胸椎体と左側肋骨はほとんど骨粉状態であった。

性別は、大腿骨の径が小さいことから、女性と推測したが、年齢は不明である。

なお、本例には土師器の椀が２個（完形）副葬されていた。

要　約

熊本市西区田崎一丁目に所在する二本木遺跡群（田崎地区）の発掘調査で、１体の古代（平安時代）人骨が出土した。人骨の保存状態はあまりよくはなかったが、人類学的観察と計測をおこない、以下の結果を得た。

1．出土した人骨は１体で、埋葬遺構は土壙墓である。

2．本人骨は年齢不明の女性骨で、10 世紀頃の古代（平安時代）に属する人骨と推測されている。なお、完形の土師器椀が２点副葬されていた。

3．埋葬姿勢は、頭位を北東にした仰臥で、両肘は伸展状態であった。また、両側の膝関節も伸展状態であった。

下肢骨（Bone of the lower limb）

二本木遺跡群（田崎地区）ST01（女性・年齢不明）

(The skeleton ST01 from Tasaki area, the Nihongi site, female unknown age)

4．頭蓋の保存状態は著しく悪く頭型や顔面の特徴は不明である。上肢骨と脛骨の保存状態も著しく悪く、その特徴は明らかにできなかったが、大腿骨体の径はかなり小さく、粗線の発達もみられなかった。

謝辞
≪擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本県教育委員会文化課の皆様に感謝致します。≫

≪参考文献≫

1．栄田和行、1967：西北九州人大腿骨の人類学的研究。長崎医学会雑誌 42：313-324.
2．久松巌、1969：西北九州人脛骨の人類学的研究。長崎医学会雑誌 44：718-728.
3．Martin-Saller，1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag，Stuttugart：429-597.
4．松下孝幸、1980：熊本県興善寺馬場遺跡出土の中世人骨。興善寺Ⅰ（熊本県文化財調査報告第 45 集）：145-159.
5．松下孝幸・他、1983：山口県萩市見島ジーコンボ古墳群出土の平安時代人骨。見島ジーコンボ 古墳群〔山口県埋蔵文化財調査報告 73〕：32-36
6．松下孝幸、1985：山口県見島ジーコンボ古墳群出土に人骨 - 山口大学埋蔵文化財資料館所蔵の資料 - 山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ：83-90
7．松下孝幸、2001：熊本県深田村灰塚遺跡出土の中世人骨。灰塚遺跡（Ⅱ）（熊本県文化財調査報告第 197 集）：239-245.
8．松下孝幸、2002：神奈川県鎌倉市由比ヶ南遺跡出土の中世人骨。神奈川県・鎌倉市由比ヶ南遺跡〈第３分冊・分析編Ⅱ〉：1-99.
9．松下孝幸、2004：熊本県西合志町船入遺跡出土の中世人骨。船入遺跡　一般国道３号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財の調査（熊本県文化財発掘調査報告第 217 集）：91-97.
10．松下孝幸、2005：熊本市二本木遺跡群第 18 次調査出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群Ⅰ - 第 18 次調査区発掘調査報告書 -：41-46
11．松下孝幸、2006：熊本市大江（学苑）遺跡群出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群Ⅱ（熊本県文化財調査報告第 231 集）：80-84
12．松下孝幸、2007a：熊本市古町遺跡第 5 次調査区出土の平安時代人骨。熊本市埋蔵文化財調査年報第 9 号：148-152
13．松下孝幸、2007 b：熊本市大江遺跡群第 97 次調査区出土の平安時代人骨。大江遺跡群Ⅵ（第 97 次・ 第 106 次調査区発掘報告書）：114-117
14．松下孝幸、2006、長崎県近・現代人頭蓋計測値。土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム研究紀要第 1 号：21-24.
15．松下孝幸、2007a：熊本市二本木遺跡群第13次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅱ（二本木遺跡群第13次調査区発掘調査報告書）：381-393.
16．松下孝幸、2007b：熊本市二本木遺跡群第26次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅲ（二本木遺跡群第26次調査区発掘調査報告書）：126-129.
17．松下孝幸、2007c：熊本市二本木遺跡群第27次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅳ（二本木遺跡群第27次調査区発掘調査報告書）：79-84.
18．松下孝幸・他、2008a：熊本市二本木遺跡群第 28 次調査区出土の古代・中世以降人骨。二本木遺跡群Ⅴ第 28 次調査区（E~I･K･L･P 地点）発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業に伴う発掘調査報告（２）〕：178-183.
19．松下孝幸・他、2008b：熊本市神水遺跡群第41次調査区出土の中世人骨（歯）。神水遺跡Ⅹ（第41次調査　区発掘調査報告書）（都市計画道路船場・神水線建設に伴う埋蔵文化財調査報告９）：103-105.
20．松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群第 41 次調査区出土の古代人骨。
21．松下孝幸・他、熊本市新屋敷遺跡出土の古代人骨。
22．松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群春日地区第 11 次 3 区出土の古代人骨。
23．松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群春日地区第 50 次調査区出土の古代人骨。
24．松下孝幸・他、2009：熊本市大江遺跡群第 111 次調査区出土の中世人骨。熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集－平成 20 年度－：117-124.
25．松下孝幸・他、2010：熊本市二本木遺跡群第 40 次調査区Ｆ地点出土の古代・中世人骨。

二本木遺跡群Ⅵ（熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告５）：197-201.
26. 松下孝幸・他、2012：熊本市二本木遺跡群（さつま荘跡）出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群６（春日地区第９・10 次調査）（熊本県文化財調査報告第 274 集）：424-435.
27. 松下孝幸・他、2013a：熊本県芦北町花岡古町遺跡出土の中世人骨。花岡古町遺跡（芦北町文化財調査報告書第４集）：184-105.
28. 松下孝幸・他、2013b：熊本県芦北町花岡木崎遺跡出土の中世人骨。花岡木崎遺跡（芦北町文化財調査報告書第３集）：191-222.
29. 松下孝幸・他、2013c：熊本県大津町中島宝満鶴・岩坂葉柳遺跡出土の弥生・中世人骨。中島西鶴遺跡・中島宝満鶴遺跡・岩坂葉柳遺跡・岩坂樋ノ口遺跡（迫井手地区経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財調査）（大津町文化財報告第 10 集）:291-297.
30. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群春日地区第 11 次調査区出土の古代・中世人骨。（投稿中）
31. 松下孝幸・他、熊本市渡鹿遺跡群第７次調査区出土の中世人骨。（投稿中）
32. 松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群（合同庁舎）出土の古代・中世人骨。（投稿中）
33. 松下真実・他、2012a：熊本市二本木遺跡群第 40 次調査区Ｅ地点出土の中世人骨。二本木遺跡群 18（熊本市の文化財第 18 集）：91-96.
34. 松下真実・他、2012b：熊本市二本木遺跡群（市電敷地）出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群６（春日地区第９・10 次調査）（熊本県文化財調査報告第 274 集）：411-423.
35. 松下真実・他、2013a：熊本市二本木遺跡群第 56 次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群 20（熊本市の文化財第 26 集）：109-114.
36. 松下真実・他、2013b：熊本市二本木遺跡群第 32 次調査区Ｒ地点出土の中世人骨。二本木遺跡群 21（熊本市の文化財第 27 集）：225-228.
37. 松下真実、2014：熊本県熊本市二本木遺跡群第 68 次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群 24（熊本市の文化財第 38 集）：96-102.
38. 松下真実・他、熊本市二本木遺跡群第 17 次調査区出土の中世人骨
39. 松下真実・他、熊本市二本木遺跡群第 53 次調査区出土の中世人骨
40. 故松野茂・他、1970：熊本県宇土市緑川の中世時代早期の遺跡出土の頭骨について。熊本医学会雑誌、44：999-1016.
41. 永井昌文、1965：荒尾市淨業寺中世人骨について。淨業寺と小代氏（荒尾市文化財報告第１集）：51-53.
22. 内藤芳篤、1973：人骨。尾窪－熊本県下益城郡城南町尾窪中世墳墓群の調査（熊本県文化財調査報告 12）：62-78.
33. 内藤芳篤、1975：塚原中世墳墓・丸尾５号墳出土の人骨について。塚原（熊本県文化財調査報告第 16 集）：317-322.
34. 内藤芳篤・他、1978：杉谷遺跡出土の中世人骨。大園山・杉谷遺跡（熊本県荒尾市文化財調査報告第３集）：116-122.
35. 中橋孝博・他、1985：人骨（山口県下関市吉母浜遺跡出土人骨）。吉母浜遺跡：154-225.
36. 八木　治、1970：西北九州人上腕骨の人類学的研究。長崎医学会雑誌 45：22-33.

＊ Masami　MATSUSHITA、＊＊ Takayuki　MATSUSHITA
The Organization of Anthropological Research〔特定非営利活動法人・人類学研究機構〕

牧崎遺跡

1. 牧崎遺跡概要

牧崎遺跡は、熊本県・熊本市の遺跡地図に登録されており、弥生時代から近世の包蔵地として広く周知されている遺跡である。

この調査地は近代に鉄道が敷設されて以来、沿線開発により土地の改変が著しい地域に該当しており、今回の調査でもそれを裏付ける結果となっている。

調査区	座標点	日本測地系		世界測地系	
		X 座標	Y 座標	X 座標	Y 座標
牧崎	1 区	-20865	-28038	-20492.7430	-28259.0160
	2 区	-20930	-28062	-20557.7438	-28283.0166
	3 区	-20965	-28075	-20592.7444	-28296.0172

Tab. 4　　牧崎遺跡調査区内基準点測量成果

2. 牧崎遺跡日誌抄

調査期間　平成 16 年（2004 年）10 月 12 日
～平成 17 年（2005 年）3 月 4 日
調査担当　高山直也・河原京子・増田直人

【2 区】
10.12　表土剥ぎの後、土嚢作り。
10.13　調査区北側 5㎝掘削、調査区北壁土層精査。
10.14　北側掘削を継続。
10.15　北側掘削、清掃後撹乱除去、近世遺構検出。
10.18　近世遺構掘削。
10.19　10.20　台風の為、作業中止。
10.21　北側部掘削及び遺構検出。
10.22　南側部分の清掃・北側土層断面実測。
10.25　調査区北半の掘削、南半の撹乱除去。
北壁土層断面実測。
10.26　雨天の為、作業中止。
10.27　掘削、北壁注記。
10.28　撹乱他掘削、調査区外周実測。
10.29　撹乱他掘削、調査区外周実測。
11.1　撹乱他掘削、清掃、石列撮影。
11.2　撹乱他掘削、清掃、遺構検出。
11.4　撹乱他掘削、2 区調査区上端実測。
11.5　撹乱他掘削、2 区実測。
11.8　撹乱他掘削、重機掘削、石列等実測、清掃
土層断面撮影。
11.9　撹乱他掘削、トレンチ内底部撮影。
11.10　撹乱掘削、調査区トレンチ設定後、掘削。
11.11　調査区トレンチ設定後掘削、清掃後溝の実測。
11.12　清掃、掘削、井戸実測。
11.15　4 層掘削、土層確認、トレンチ 1 ～ 6 実測、4 層下
層中の平面撮影。
11.16　掘削、2 区 3 層遺構実測。
11.17　4 層・5 層・7 層掘削、トレンチ 1、トレンチ 4
土層断面実測。
11.18　5 層、7 層掘削。
11.19　トレンチ北壁断面実測、トレンチ 1 土層断面撮影。
11.22　5 層の掘削。
11.24　5 層～ 7 層の掘削、北側土層断面撮影。
11.25　全面清掃、遺構実測、完掘状況撮影。
【3 区】
11.30　調査に着手、試掘杭内東壁・西壁実測。
12.1　試掘杭内実測。
12.2　表土剥準備のため除草作業。
12.3　表土剥ぎ。
12.7　表土剥ぎ、石組水路検出、石組水路撮影。
12.8　石組水路清掃、石組水路蓋開き状態撮影。
12.13　調査区外周、石組実測。
12.14　2 区終了、1 区矢板設置準備。
【1 区】
1.11　調査準備。
1.12　調査区清掃。
1.13　調査区清掃・撹乱検出。
1.14　調査区清掃、南側壁面土層、トレンチ設定。
1.17　調査区清掃、南側土層トレンチ設定。
1.18　表土剥ぎ後清掃・南側トレンチ調査。
1.17　表土剥ぎ後清掃、撹乱 1 除去。
1.20　水路撹乱の除去。
1.21　近代水路検出。
1.24　近代水路掘削。
1.25　近代水路、土坑 1 掘削。
1.26　1 号土坑、トレンチ 1、3 掘削。
1.27　撹乱 4 掘削。
1.28　水路石組露出、2 号土坑、1 号溝、柱穴 3 基掘削、調
査区南側遺構検出状況、1 号土坑、南側土層断面撮影。
1.31　石組水路掘削、1 号溝、2 号溝掘削。
2.1　石組水路露出作業。
2.2　石組水路露出作業、2 号溝、3 号土坑掘削。
2.3　石組水路掘削。
2.4　4 層掘削石組水路 2、3 号土坑 1、2 号溝検出状況撮影。
2.7　雨天の為、現場作業中止。
2.8　1 ～ 3 号土坑、1、2 号溝、石組水路実測。
2.9　4 層掘削、石組水路実測。
2.10　石組水路内部掘削、石組水路平面実測。
2.14　4 層掘削、撹乱掘削、3 区石組水路実測・調査。
2.15　外周及び杭入れ、調査区測量作業。
2.16　1 号～ 3 号土坑及び 1 号～ 2 号溝、柱穴 3 基撮影。
2.17　4 層掘削、遺構配置図作成。
2.18　4 層掘削。
2.21　5 層掘削、3 区水路石垣検出・水路実測。
2.22　5 層掘削、3 区石組水路実測。
2.23　1 区 5 層掘削　3 区石組水路実測。
2.24　雨天中止。
2.25　1 区 5 層掘削。
2.28　1 区 5 層掘削、3 区実測。
3.1　5 層掘削作業終了。
3.2　3 区撮影　1 区南壁上層断面撮影。
3.4　1 区・3 区全景撮影終了。

3. 牧崎遺跡遺構

１区 (Fig.115)

今回の事業地内で北側に位置する調査区。調査区内には近世近代の開発に伴う撹乱が多く入り、遺構残存度は悪い。基本土層からも当該地が粘土系の土を主体とした土壌から形成されているのが見て取れ、生活面が存在する可能性が低いことを示している。遺構は石組水路、溝及び土坑を検出している。

石組水路 SX01(Fig.115) 石組水路は調査区を斜めに横断し上部の蓋石などは残されていなかった。開放型の水路の可能性もあるが調査時の所見では確認されていない。
使用されている石材は溝石に安山岩系の切り石を用い、径 10㎝から 20㎝程度の円礫を裏込めで押さえている。設置当初は、溝状の掘り方に、切石を設置し裏込めを詰めていくという工法がとられたものと推定されるが、調査時には、そこまで確認されていない。出土遺物は古いもので近世の土瓶、茶碗等の破片が主体で周辺からの流れ込みと考えらえる。また、激しくローリングを受けた土器類も出土しているが器種等を確認するまでは至っていない。

溝 SD01(Fig.115) 調査区南端に位置し、黒褐色土を埋土にもつ遺構。遺構深度は浅く、下端は水平である。炭化物を粒状に含むことから流れ込みによる水性堆積と考えられる。溝 SD02 と上端が連続した状態で検出していることから一連の遺構とみられる。

溝 SD02(Fig.115) 溝 SD01 で同一遺構の可能性を示唆している。違いは遺構深度が深くなっているところだが、SD01 と同じ埋土が見られることからも別遺構としてみることは難しい。

土坑 SK01(Fig.115) 調査区中央に設置されているトレンチ３の南に位置し、撹乱により東側の遺構は下端も含め消滅している。遺構は長軸で約 1.2 mを測る。土層断面は残されているが報告する情報は少ない。本調査区の他の遺構と比較しても古い様相を呈するものではない。

土坑 SK02(Fig.115)SD01 の北に位置し東側を撹乱により消滅している。遺構平面は隅丸方形の角を有するが長軸側の形状はやや弧を描くことから溝である可能性もある。

溝 SK03(Fig.115)SD01 と重複し検出された遺構。南北に主軸を有し北側は SD01 と重複し消滅している。遺構断面は単層からなり、形状は下端が水平な逆台形を呈している。本調査区で検出しているほかの遺構と比べ埋土の土質が違う (にぶい黄褐色土) ことから他の遺構に先行するが、時代の確定までは至らない。

２区　先述した１区の南と約 24 m離れ、調査を実施した調査区。本調査区でも１区同様の遺物の様相をしており時代も同じである。調査区北側で石列を確認しているが本遺構のみで、詳細な調査が実施されておらず遺構性格を知ることができないことから本報告では全体図に位置を記載することに留めている。調査の段階でも意識されていない遺構であったことが窺える。
調査区中央部、トレンチ２で土層断面が作成されているが、安定した地盤を示しておらず、遺跡が形成されないような土地であったことを示している。

３区　本遺跡の中で南端に位置する調査区。遺構の主体は有蓋石組水路である。蓋石は切り石が用いられ、すべて規格性を持ち切り出された石材を使用している。また、水路側壁にも同様の石材が用いられており出土している遺物から近代と認められ、それも当該地が今回の事業で立ち退きになった時点まで使用されていた水路と捉え、本稿では限りなく現代の遺構であるとし、詳細な報告は省略する。

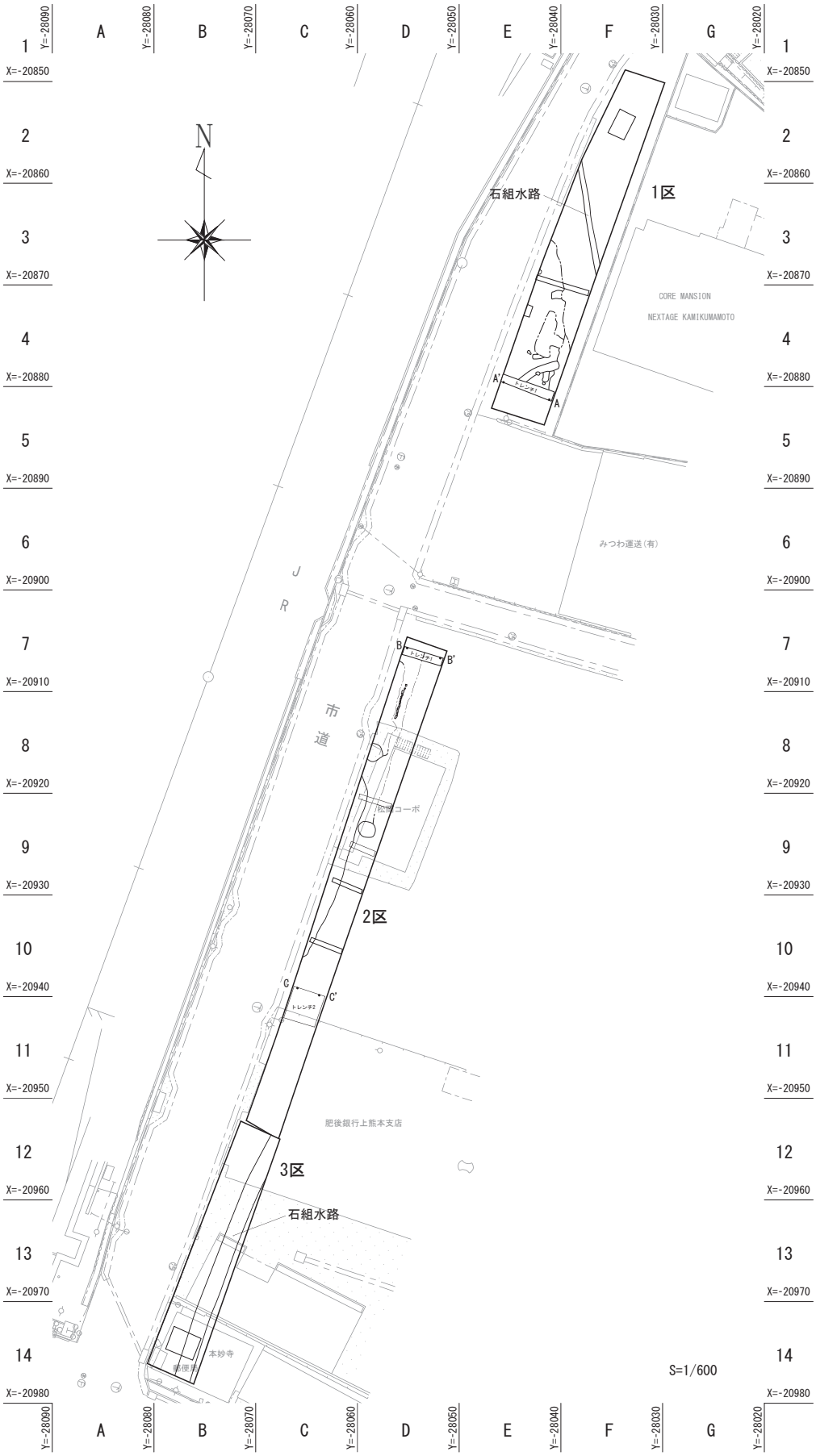
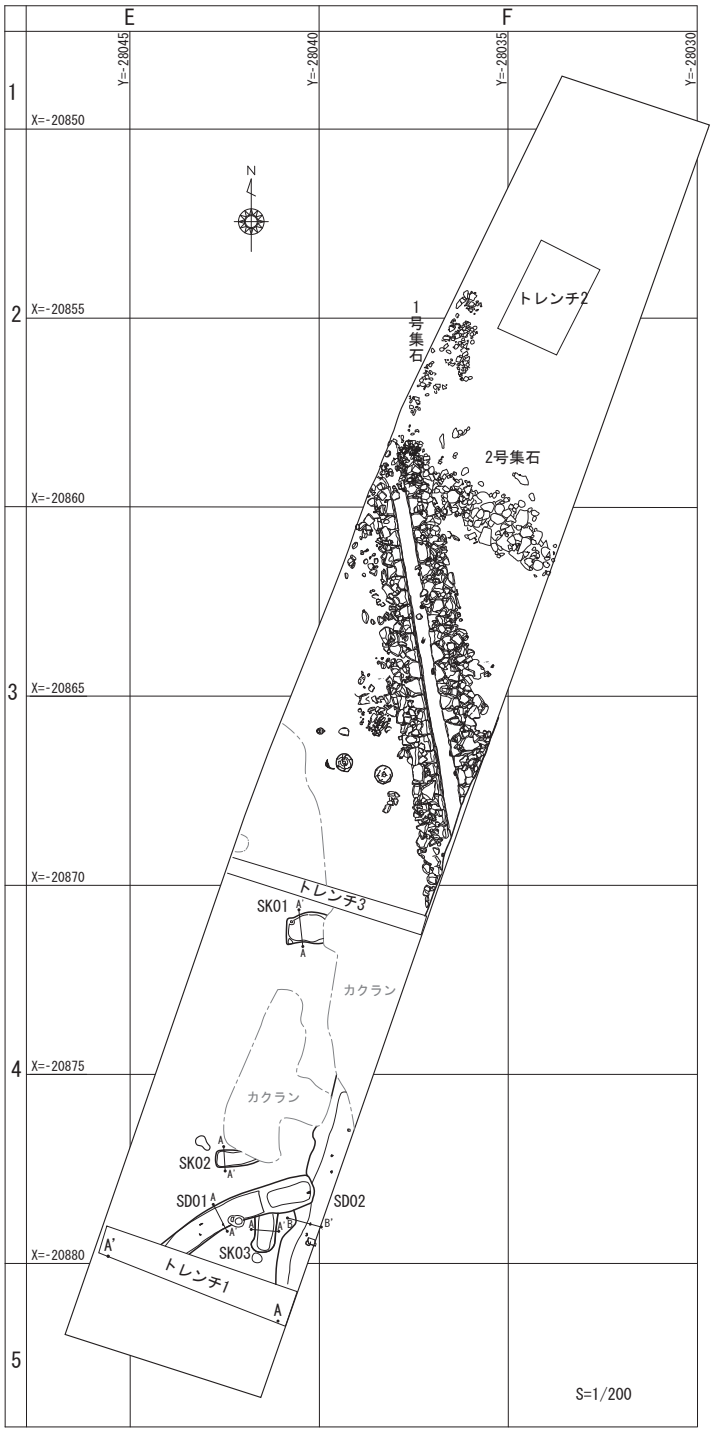
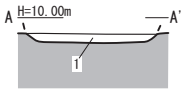


Fig. 114　　牧崎遺跡調査区全体図

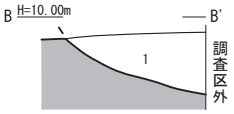


SD01



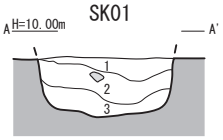
1. 黒褐色土(2.5Y3/2)炭化粒を含む

SD02



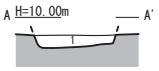
1. 黒褐色土(10YR3/1)やや粘性　炭が混じる
焼土粒を僅かに含む

SK01



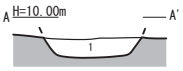
1. 灰褐色土(7.5YR4/2)やや粘性　炭化粒を含む
2. 黒褐色土(10YR2/1)粘性あり　炭ブロック・礫ブロックを含む
3. 黒色土(5Y2/1)粘性あり
黄褐色土ブロックがまだらに入り炭化粒を多く含む

SK02



1. 黒褐色土(7.5YR3/2)炭化粒・焼土粒を僅かに含む

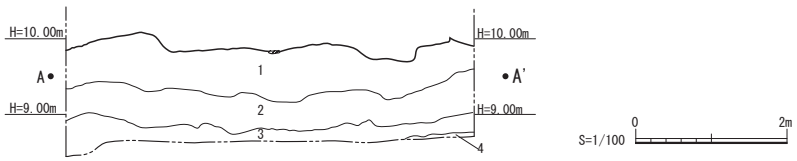
SK03



1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)やや粘性あり　炭化粒を含む

S=1/40　0　1m

トレンチ1



1. 暗褐色土(7.5YR3/3)5cm大の土がブロック状に硬化　焼土粒・炭化粒をわずかに含む
2. 黒褐色土(7.5YR2/2)1層より均一にしまる　焼土粒・炭化粒をやや多く含む
3. 褐灰色土(10YR4/1)粘土層　鉄分を多く含んだ明粘土がまだら状に入る
4. 褐灰色土(10YR4/1)粘土の中に砂が混じる　鉄分を含んだ極暗赤褐色土(2.5YR2/4)が混入

Fig.115　　1区遺構配置図

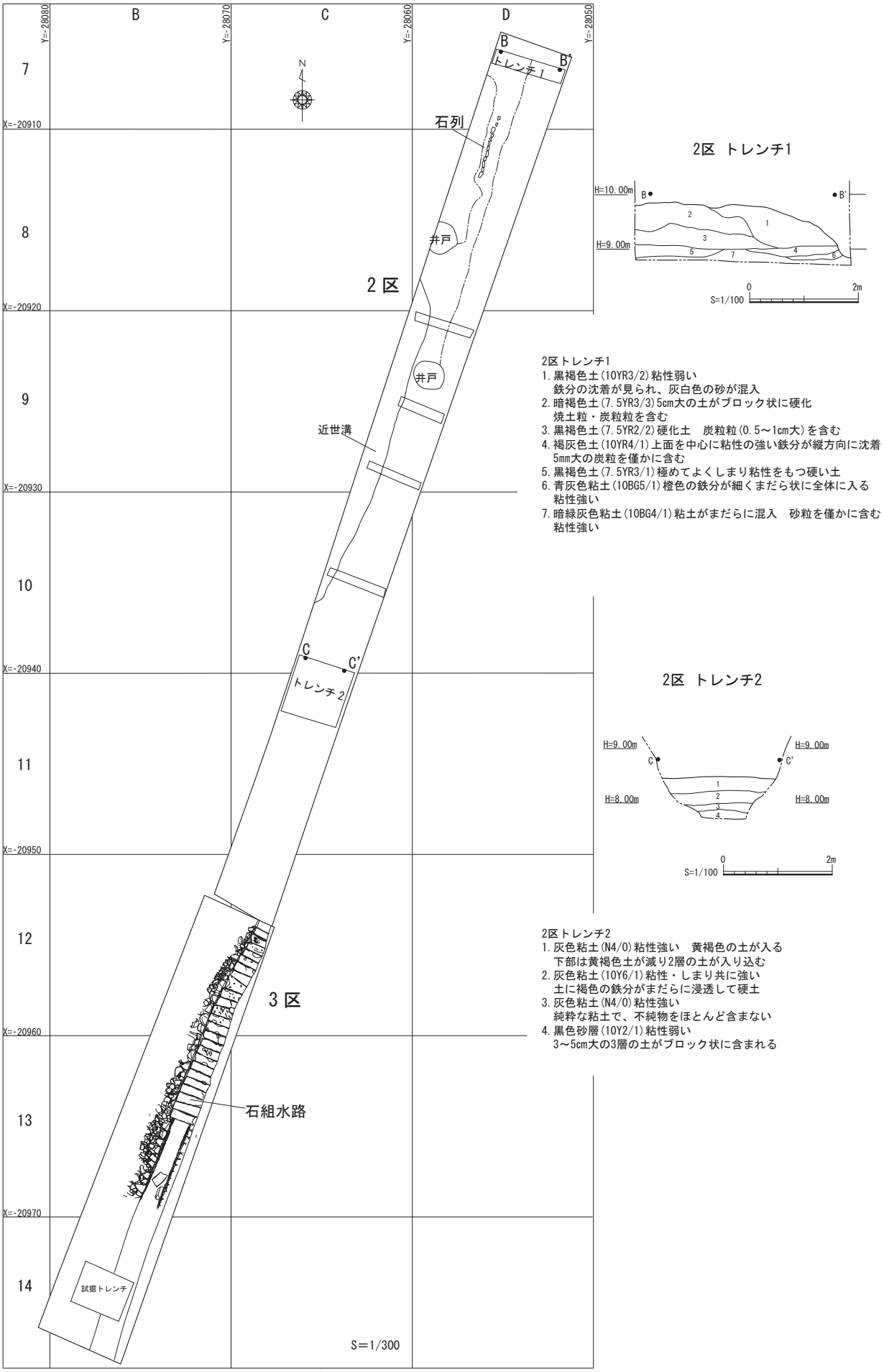


Fig.116　　2区・3区遺構配置図

まとめ

本項では、今回調査の対象となった３遺跡の発掘調査で明らかになった成果を遺跡ごとに記し、今後の成果に繋げたい。

１　二本木遺跡群（春日地区）

当該遺跡群はこれまでも熊本県・熊本市による公共事業並びに民間事業に伴う記録保存発掘調査により多くの調査を経てきた遺跡である。今回の発掘調査は県が実施してきた鉄道高架事業に伴うもので、調査の実施に際しては工事計画等により一括した範囲での発掘調査はできず、本報告で示している小区画の調査区での発掘調査となっている。

発掘調査の結果、いずれの調査区においても８世紀末～９世紀初頭に位置付けられる竪穴建物や、９世紀代に位置付ける掘立柱建物群を検出している。併せてこれらの遺構群を中心に井戸、土坑、溝、柵列などを検出しており出土遺物の多彩さとも相まって、官衙的要素を色濃く有する遺跡構成となっている。

（１）竪穴建物

各調査区で述べているが多くの竪穴建物が検出され一辺４ｍ×４ｍで隅丸方形を呈するもの、一辺が２ｍ×２ｍで隅がほぼ直角の方形の掘り方を有するものとの２つのタイプの竪穴建物が確認されている。遺構規模はこれまでの調査事例から８世紀代まで４ｍ四方の規模だった竪穴建物が９世紀初頭から中ごろにかけ、生活様式が竪穴建物から掘立柱建物に代わるなかで小型化する傾向が知られているが、今回の調査でもそれが裏付けられた。掘立柱建物の時期を調査では詳細に詰め切れてはいないが遺構の切り合いなどからも竪穴建物に続き掘立柱建物への移行を追うことは可能である。

今回当該遺跡群の整理を進めるなかでこの地域で検出された竪穴建物に付属する作り付けカマドについて、通常の調査で検出した場合とは違い遺構残存度が悪く、カマド自体が竪穴建物廃絶時に撤去されるなど「廃絶儀礼」として壊されたことが想定される。カマド本体の構造体はもとより、使用過程で生じる燃焼面及び掘り方まで含め撤去されており、カマドを窺わせる痕跡はわずかに竪穴建物の一辺に残る煙道部の張り出しのみであった。８世紀後半の集落研究を語る上で竪穴建物の廃絶行為を示す一つの事例として報告する。

また、同じ竪穴建物について幾つかの検出事例の中にはほぼ同一の土地で時期差を置かず、それも遺構の大半が重複する状態での建て替え事例が認められる。熊本市が実施した13次調査区を中心とする官衙地区の西側にあたり花岡山へと続く緩斜面を呈する本地域が居住域に想定される地域では、個人の土地利用の規制が特に強い地域であったことも考えられる。平坦地の少ない当該地域の中で官衙域としての土地利用の結果、地耐力の弱い中での建て替えもやむを得なかったことも考えられる。

（２）溝・区画溝等

官衙的遺構の要素を強く帯びた土地の利用を考えるうえで、当遺跡群で検出された数条に渡る溝状の遺構は大きな示唆を与える。通常の溝・区画溝ではないが６次、15次６区並びに16次３区で検出された溝状遺構からなる遺構はこれまでの溝とは違い、中心となる方形区画を四周に巡り参道を思わせる直線状の溝からなる。調査時点では３地区に分かれていることから同一の遺構とは認識されていなかったが整理段階で同一遺構と判断した。遺構が溝と方形区画からなると想定したが遺構名としてSX01と表記し１つの遺構として考察を加える。本報告でも記しているが方形区画は３度の掘り直しを経て最終検出に至っているが、それに続く直線の溝状遺構はほぼ踏襲されており方形区画に所在する遺構へと続く。溝状遺構埋土からは出土位置こそ確定はできないが土師杯等だけではなく、ヘラ書きを有する皿及び祭祀具の一つと考えられている土馬が出土していることから祭祀の場として想定することもできよう。

中央平坦部ではFig. 35に示す遺構群が検出されており、南側に小柱穴群、北側に溝状遺構とそれに並行する柱穴列、その間、撹乱で詳細は分からないが掘立柱建物と想定される柱穴群を検出している。遺構の性格を示すまで踏み込むには未だに情報が少ないが、当該遺構の西側に位置する熊本市28次調査区で村落内寺院と考えられる方形建物を検出していることを考えるとそれに類する宗教的な遺構である可能性も高い。

また、同じく方形区画として検出している遺構として溝SD08がある。内部平坦部から検出している竪穴建物は出土遺物に土師器と西壁に作り付けカマドを有することから８世紀後半とするが、方形区画（溝SD08）は９世紀の須恵器が出土していることから同時に存在していたとは考えにくいが、この方形区画の存在が何を示すのかは不明であることから、今後の同様の遺構の検出を待って結論を出したい遺構の一つである。

（３）遺構変遷

今回の調査結果を踏まえ①８世紀後半～９世紀初頭に位置付ける竪穴建物、②９世紀前半～ 10 世後半に位置付けられる掘立柱建物、③ 12 世紀～ 13 世紀に位置付ける溝状遺構群、及び④近代以降整備が続けられている旧熊本駅に伴う遺構を先行して調査している第６次調査での成果と合わせ図示した。

①古代Ⅰ（８世紀後半～９世紀初頭　Fig. 117）　ほぼ全域に渡り分布する竪穴建物であるが、当該地域では 11 次・16 次２区北辺を境に北部地域には広がらない。この北辺に位置する竪穴建物では２～３回程度の建て替えしか認められないが、13 次４区・16 次５区周辺では強い土地規制のもと近接して３度以上の建て替えを繰り返す地域に対比できる。

この中でも８世紀後半期と９世紀初頭期の２時期に竪穴建物を分けられるが、重複した建て替えを行っている竪穴建物は概ね８世紀後半期の遺構であると出土遺物等から判断される。この時期、当該遺跡における官衙的機能の強化から土地利用の規制等を示す一つの資料となりうる可能性が高い。

②古代Ⅱ（９世紀前半～ 10 世後半　Fig. 118）竪穴建物との重複は少なく分布していることから、９世紀初頭に竪穴建物が減少していくのと期を同じくして掘立柱建物へと移行していく過程が窺える。掘立柱建物の広がりに、官衙的要素を有する大型の掘立柱建物、若しくは総柱建物等の遺構は少なく、６次・11 次２区で検出している SB04（４間×５間）が今回の調査範囲の中では最も大きな規模を誇ると共に、南に向かい SB05（２間×３間）、SB06（２間×４間）、SB07（２間×３間）と直線状に位置することから一塊の掘立柱建物群と捉えることができる遺構であろう。６次調査で検出されている比較的小型で散発的に分布している掘立柱建物は、竪穴建物後の居住に供するための建物である可能性も考えられよう。

③中世（12 世紀～ 13 世紀　Fig. 119）溝を主体とし不明遺構 SX01、道路状遺構 SF01 を含む遺構群である。SX01 の北に位置する道路状遺構 SF01 は６次調査でも道路状遺構 SF01 として調査を行っており、11 次２区でも同様に下面に硬化面を確認している。この遺構は SX01 とも平行し、方形区画をなす一部の溝にも接続していることから中世（12 世紀以降）の遺構と判断する。しかし、SX01 の南側の溝からは９世紀に位置付ける土馬を含め時期を同じくする遺物が一括して出土していること、方形区画の３度に渡る掘り返しを考慮すると長期間の継続した利用があったことも考えなくてはならない。遺構の想定は本文中でも記しているが何らかの宗教的施設であることを考慮するともっと古い時期から継続して存在していたとも想定できよう。

④近代以降（旧熊本駅関連遺構）６次調査で実施場所からは熊本駅で蒸気機関車が運用されていた痕跡を残すものとして機関車庫跡が確認されている。機関車庫は九州新幹線建設に先立って取り壊されている。また、機関車庫主軸に斜交いする遺構として軌道車の引き込み線がある。それを踏まえ今回の調査区に当たっては斜交いする遺構はなく、機関車庫に並行する遺構が検出されていることから鹿児島本線に伴う遺構であることが確認される。その他、面的な広がりを持つものは後世の撹乱である可能性もあるが現時点では確認はとれない。旧熊本駅の姿を復元するためにもこの時期の遺構まで残すことはこの遺跡では必要なことであろう。

２　二本木遺跡群（田崎地区）

今回調査を行った範囲は二本木遺跡群春日地区と田崎地区（７次）の南東に位置し、春日地区の官衙的性格を有する古代の遺構群から低地に広がる弥生の集落遺跡へと移行する場所に当たる。

今回の調査の結果では春日地区で見られるような竪穴建物・掘立柱建物群は見られず、小規模で時期が不明な溝状遺構並びに土坑・柱穴が主で遺跡の性格付けができるような遺構は確認できていない。

３　牧崎遺跡

今回調査を実施した場所はＪＲ鹿児島本線に隣接し鉄道敷設以来、長期間にわたり都市化されてきた場所にあたる。調査区からは主に近代の什器類が出土しており、日頃から日常雑器が出土する環境下にあったことから、調査の過程で出土した遺物であったとしても記録保存の範疇で扱うものではないと判断した。よって、本報告では検出された排水溝遺構を図示し、都市化する牧崎地区の歴史の一端を示すに留めた。

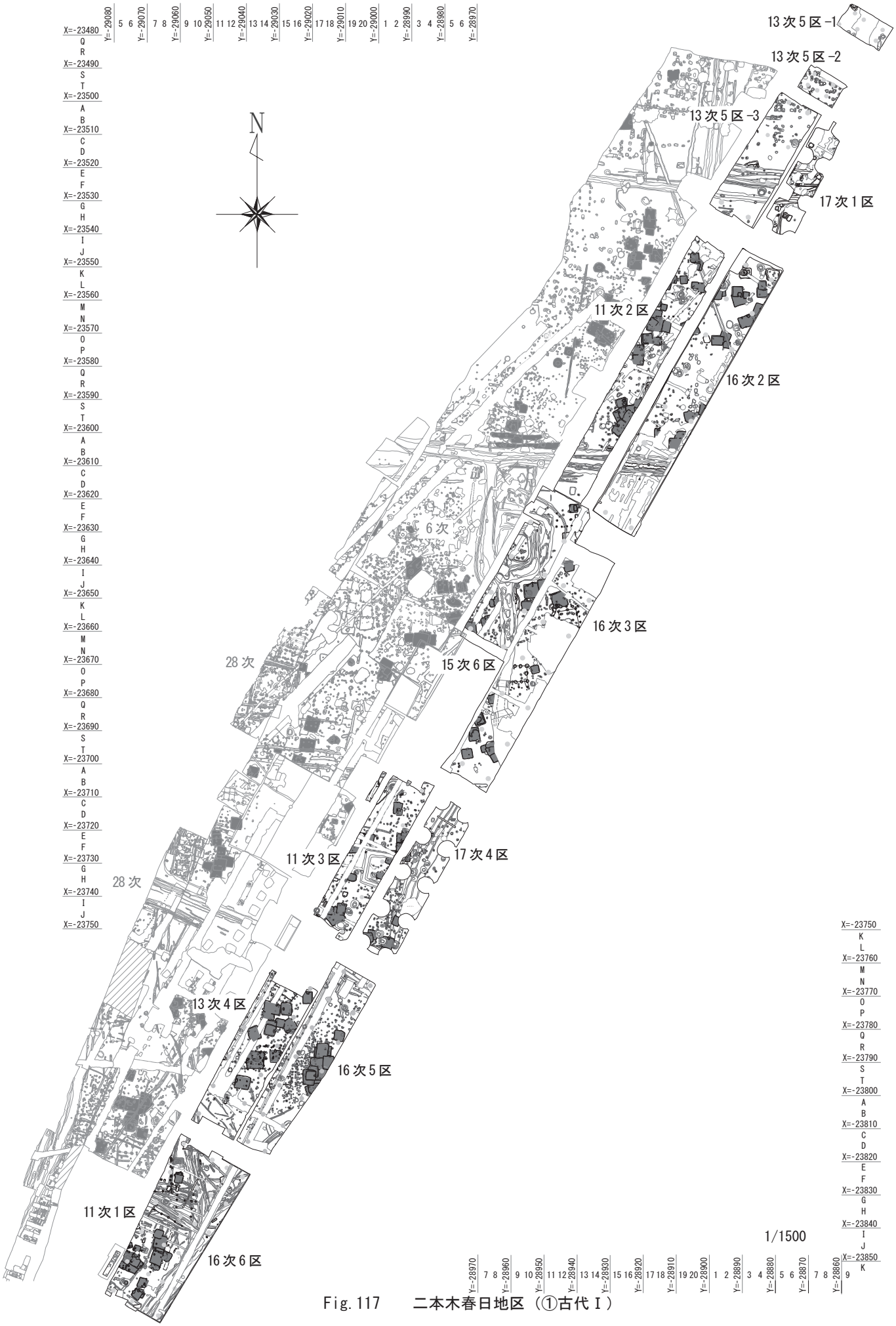


Fig. 117　　二本木春日地区（①古代Ⅰ）

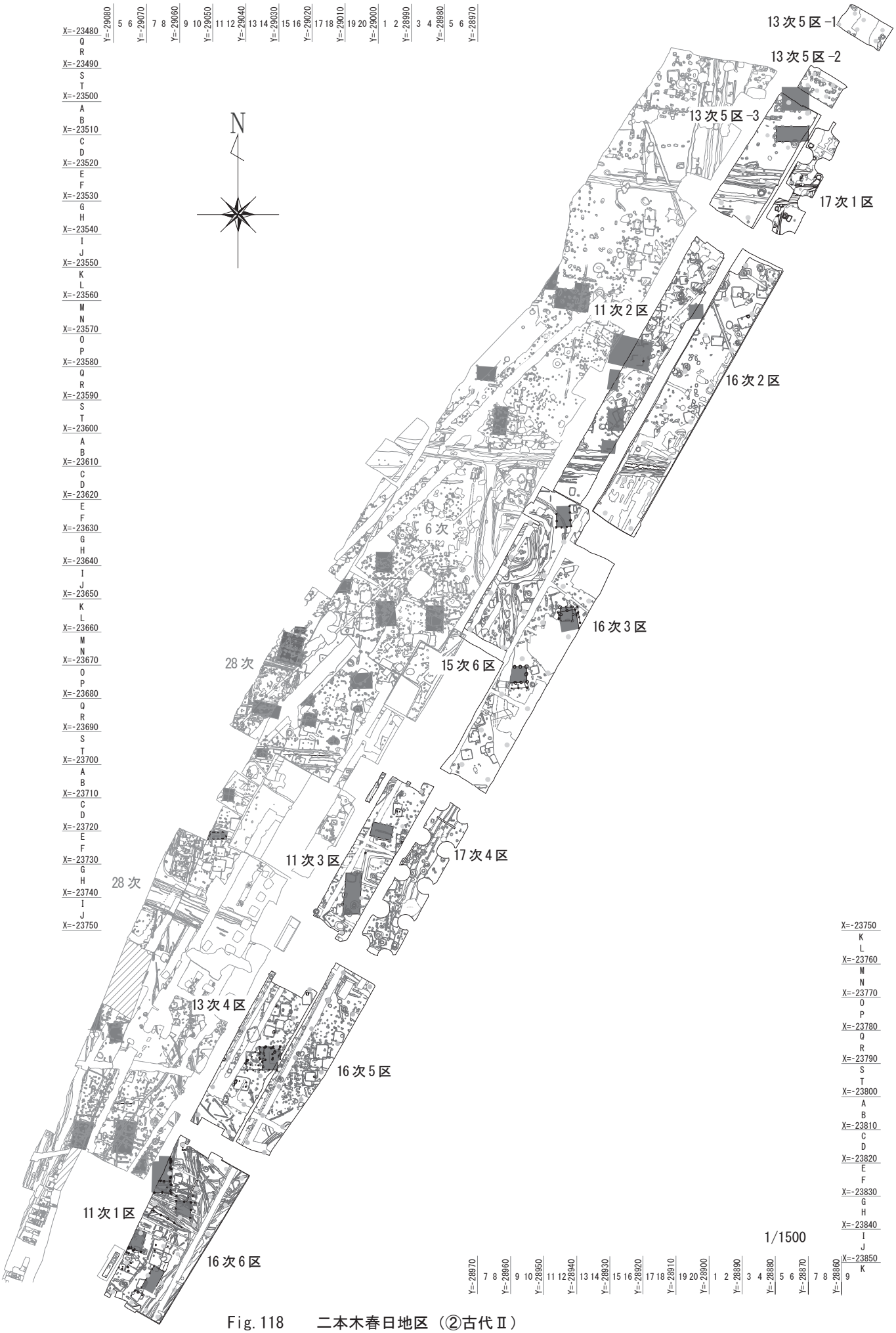


Fig.118　二本木春日地区（②古代Ⅱ）

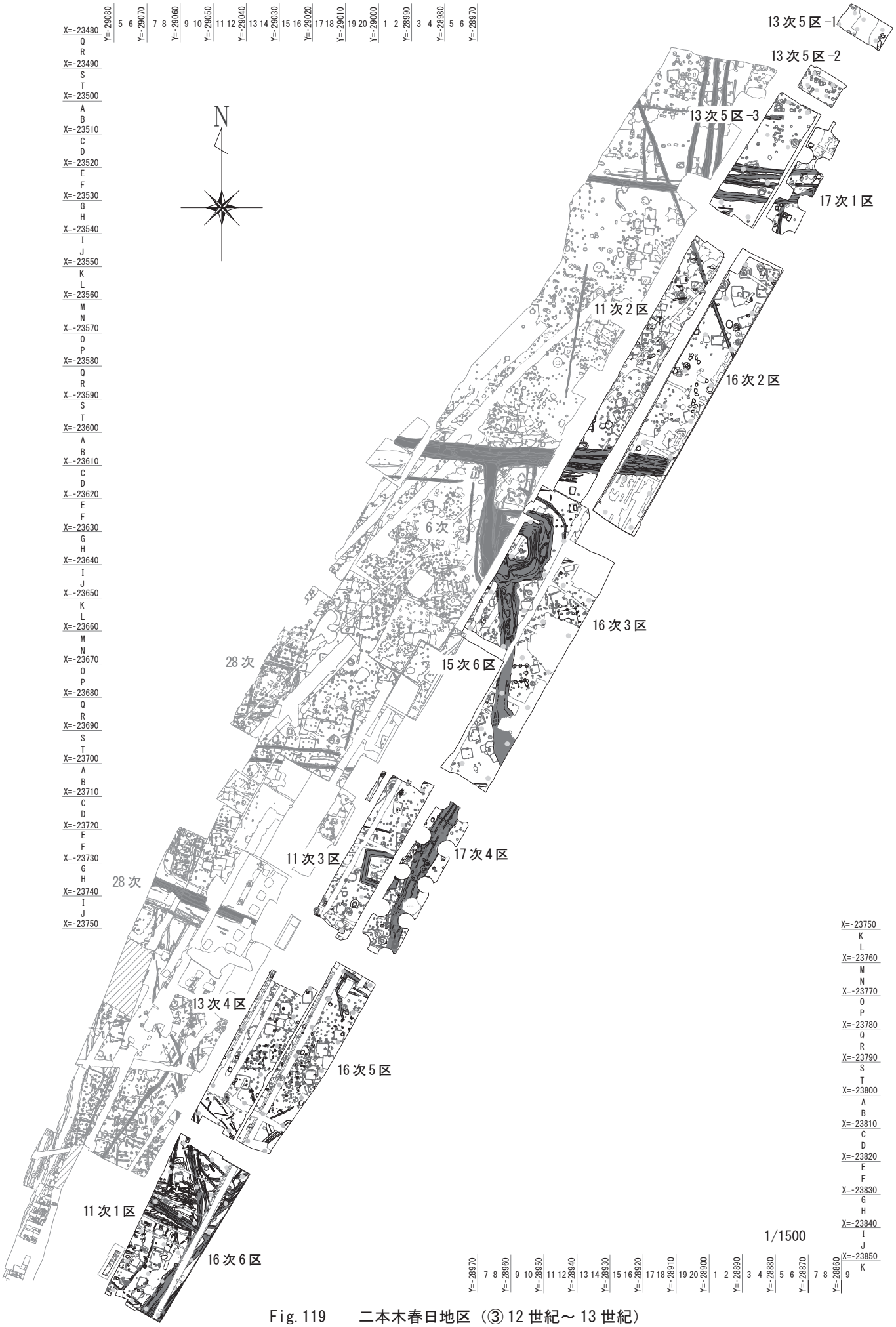


Fig. 119　二本木春日地区（③12世紀～13世紀）

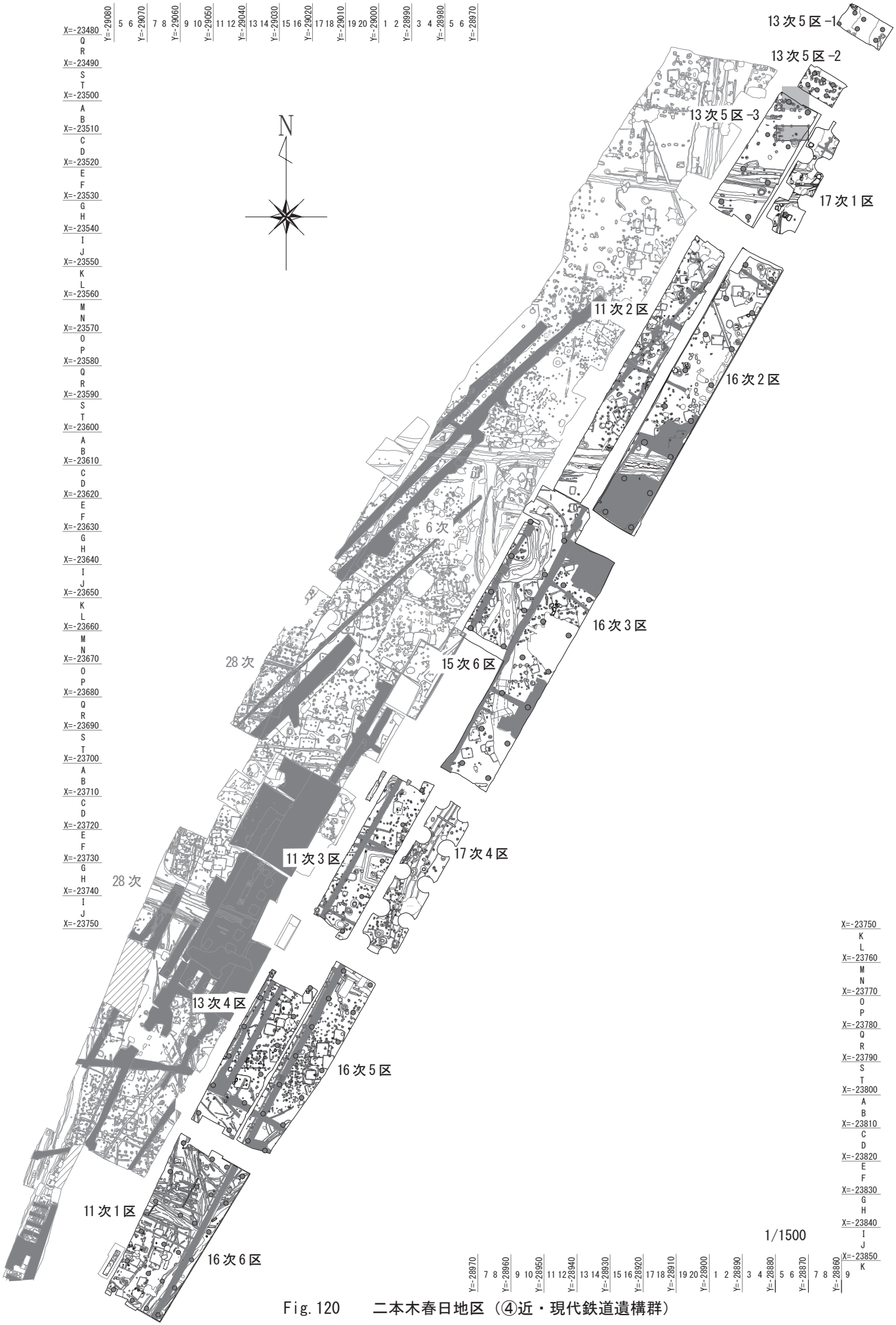


Fig. 120　　二本木春日地区（④近・現代鉄道遺構群）

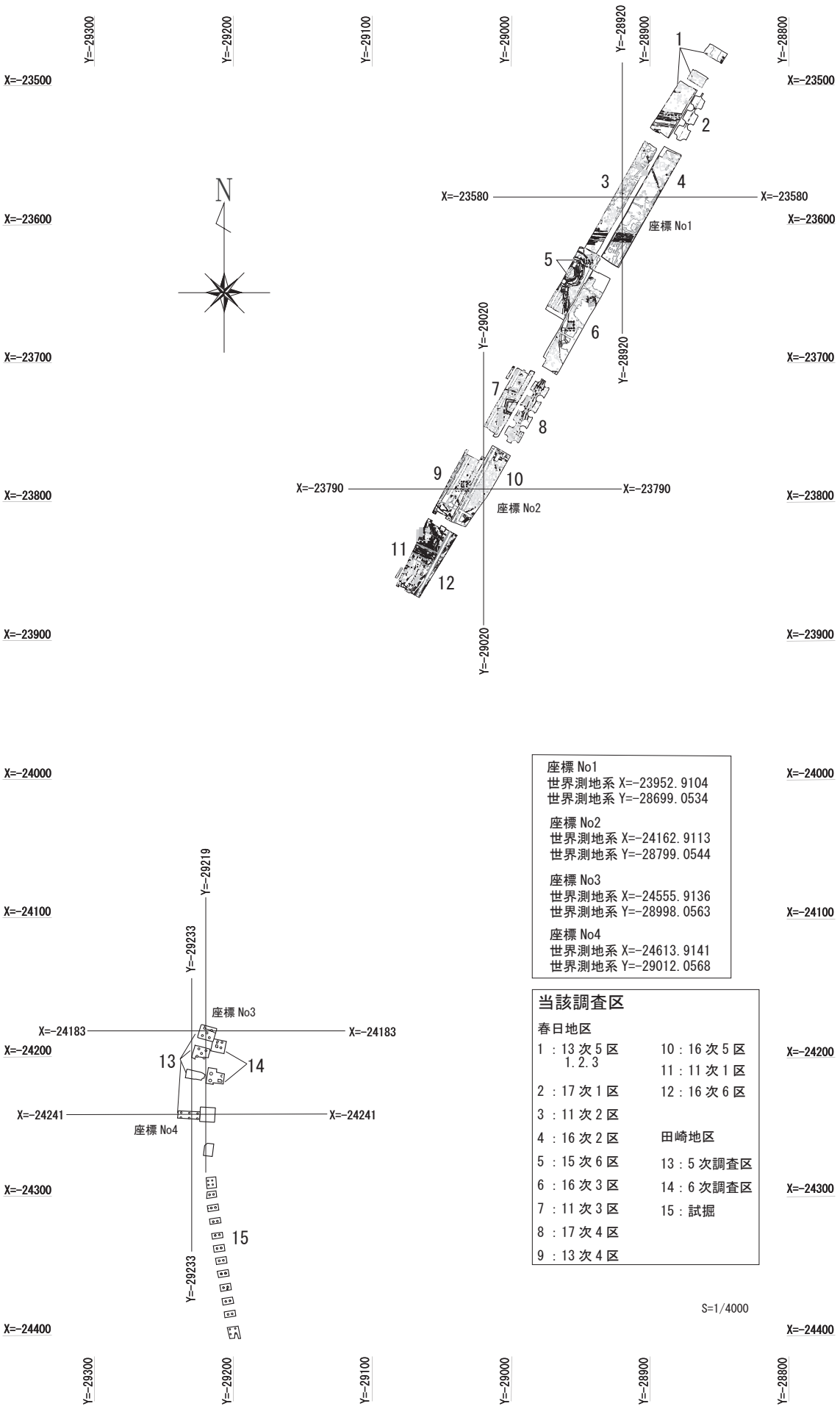


Fig. 121　　二本木春日・田崎　座標測地点

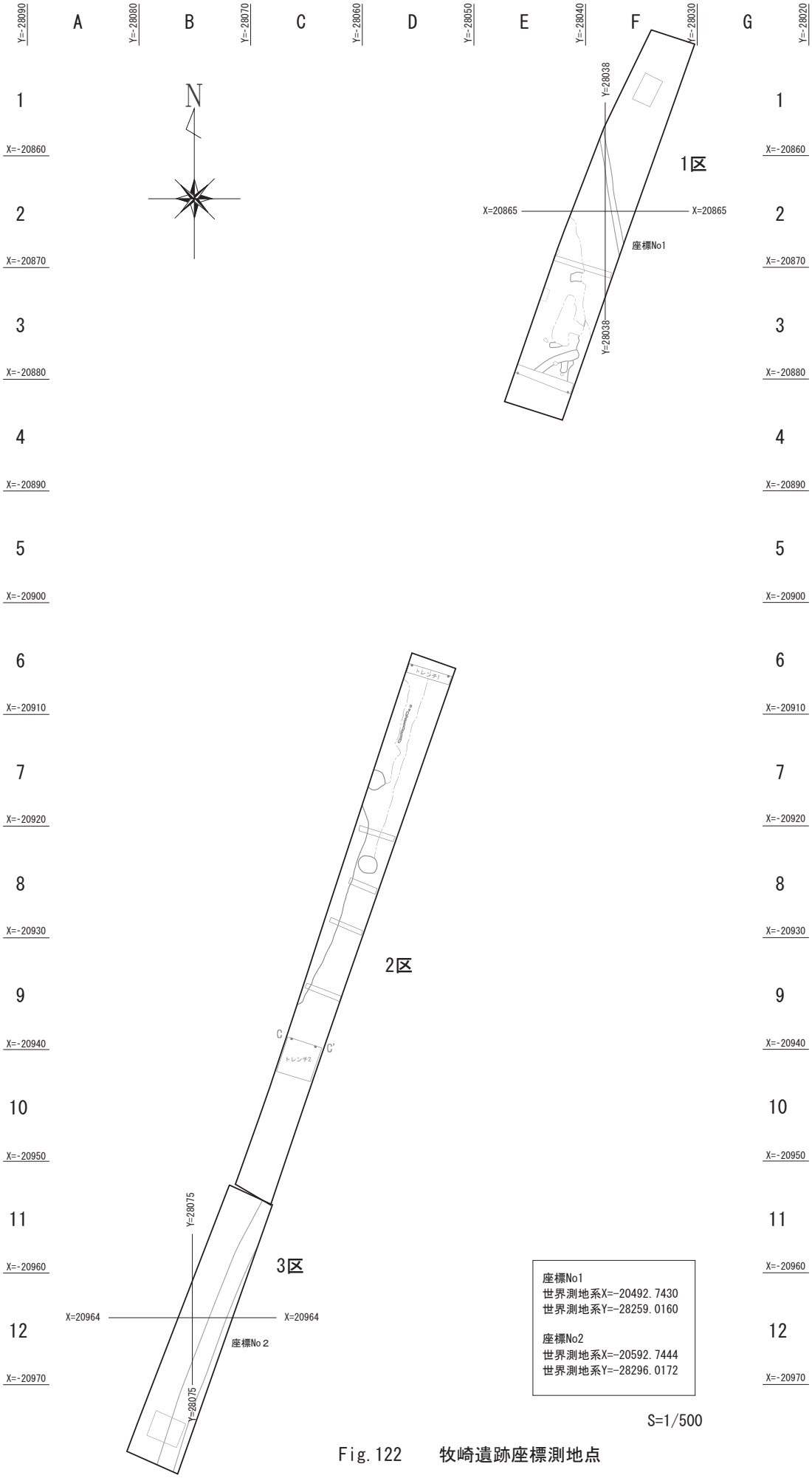


Fig.122　牧崎遺跡座標測地点

報告書抄録

ふりがな	にほんぎいせきぐん８（かすがちく）（たさきちく）・まきざきいせき
書名	二本木遺跡群８（春日地区）（田崎地区）・牧崎遺跡
副書名	JR 鹿児島本線・豊肥本線連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第 338 集
編著者名	長谷部善一・呑田哲也・稲葉貴子・松永望宏
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒 862-8609　熊本県熊本市中央区水前寺６丁目 18 番１号　℡ 096-333-2706
発行年月日	2020 年（令和２年）３月　31　日
資料の保管場所	熊本県文化財資料室　〒 861-4215　熊本市南区城南町沈目 1677　℡ 0964-28-4933

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
二本木遺跡群（にほんぎ）（春日地区）（かすがちく）	熊本市西区（くまもとしにしく）春日三丁目（かすがさんちょうめ）	43 熊本県 103 熊本市西区	265	No1 32° 47′01.03954″	No1 130° 41′37.03253″	H21.6.12～H29.2.28	8953.29 ㎡	鹿児島本線等連続立体交差事業
				No2 32° 46′54.21260″	No2 130° 41′33.21277″			
二本木遺跡群（にほんぎ）（田崎地区）（たさきちく）	熊本市西区（くまもとしにしく）田崎町本町（たさきまちほんまち）	43 熊本県 103 熊本市西区	265	No3 32° 46′41.43522″	No3 130° 41′25.60913″	H24.2.22～H25.10.18	1178 ㎡	鹿児島本線等連続立体交差事業
				No4 32° 46′39.55095″	No4 130° 41′25.07762″			
牧崎遺跡（まきざき）	熊本市西区（くまもとしにしく）花園一丁目（はなぞのいっちょうめ）	43 熊本県 103 熊本市西区	215	No1 32° 48′53.41219″	No1 130° 41′53.56450″	H16.10.12～H17.3.4	134.17 ㎡	鹿児島本線等連続立体交差事業
				No2 32° 48′50.16230″	No2 130° 41′52.15297″			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
二本木遺跡群（春日地区）	集落	古代 中世 近世	竪穴建物 掘立柱建物 溝 道路状遺構 土坑墓 井戸等	土師器　須恵器　陶器 磁器　瓦　石製品 鉄製品	二本木国府推定地（熊本市 13 次調査区）に隣接する集落域。8 世紀末から 9 世紀第 2 四半期の良好な一括資料が出土。
牧崎遺跡	溝	近世	石組水路 溝・土坑	近世陶磁器	近世集落に伴う排水溝

要　約	九州新幹線建設事業に伴い熊本市内の連続立体高架事業のうち、鹿児島本線 JR 熊本駅周辺整備事業に伴う発掘調査報告。発掘調査では、８世紀後半～９世紀初頭、９世紀前半～ 10 世紀後半、12 世紀～ 13 世紀及び近世熊本駅までの４期に渡る遺構を検出した。 当該遺跡は熊本市 13 次調査で検出された大型掘立柱建物群を中心とする遺構群が国府推定地とされており、これまでの調査から熊本駅周辺では竪穴建物、掘立柱建物など官衙周辺域の集落を含む遺跡であると考える。また、今回の調査で不明遺構 SX01 では長大な溝状遺構と方形区画が取り巻く平坦部が確認されており、溝状遺構からは土馬など祭祀用具が出土していることから祭祀遺構であると考える。

本書の仕様

●判型 /A4 判　●頁数 /303　●組版 /13 級小塚明朝　Adobe In DesignCS6（For Windows）

●製版 / 本誌のモノクロ及びカラーは全てスクリーン線数 220 で製版

●用紙 / 表紙（アートポスト紙四六判 220kg）巻頭カラー・写真図版（特アート SA 金藤四六判 135kg）
本文（上質紙 110kg）

●製本 / 糸かがり綴じ　●表紙加工 /PP（ポリプロピレン）貼り

2020 年３月 31 日　発行

熊本県文化財調査報告第 338 集

二本木遺跡群８（春日地区）（田崎地区）・牧崎遺跡

著作権所有　熊本市中央区水前寺６丁目 18 番１号

発　行　者　熊本県教育委員会

印　刷　者　熊本県熊本市西区二本木３丁目 12 番 37 号

コロニー印刷

発 行 者：熊本県教育委員会
所　　属：教育総務局文化課
発行年度：令和元年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第３３８集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：二本木遺跡群８（春日地区）（田崎地区）・牧崎遺跡　―本文編―
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺６丁目 18 番１号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦２０２１年３月３１日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/